



レプロダクティブ

生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会

Study Group on Reproductive Technology and Healthcare



報告書 Ⅱ

－渡航治療に関するアンケート調査－

日比野由利 編著

発行日 2012年6月

発行者

日比野由利

金沢大学医薬保健研究域医学系

環境生態医学・公衆衛生学

920-8640

金沢市宝町 13-1

Tel. 076-265-2218 Fax. 076-234-4233

hibino@staff.kanazawa-u.ac.jp

目次

目次	1
はじめに（日比野由利）	2
I. 海外渡航治療と第三者が関わる生殖技術に対する不妊当事者への調査 （島菌洋介・白井千晶・日比野由利）	4
1. 目的	4
2. 調査方法	5
3. 回答者の基本属性	6
4. 回答者の不妊治療経験	8
5. 第三者の関与する生殖補助医療について	16
6. 渡航治療について	27
7. 生殖補助医療のルールや仕組みに関する見解	36
8. 考察	41
9. 結論	43
自由記述	44
II. 海外渡航治療と第三者が関わる生殖技術に対する不妊患者への調査 （島菌洋介・日比野由利）	51
1. 目的	51
2. 方法	52
3. 回答者の基本属性および不妊治療歴	52
4. 第三者の関与する生殖補助技術の利用およびその可能性について	55
5. 海外での不妊治療や生殖技術の利用（渡航治療）について	75
6. 考察	87
7. 結論	89
自由記述	90
おわりに（島菌洋介）	205

はじめに

この報告書では、2種類のアンケート調査の集計結果を掲載した。それぞれのアンケートの実施時期や対象者、配布回収の方法や回収率の詳細は、各章に記載してあるのでそちらを参照していただきたい。いずれの調査も、内閣府最先端次世代研究開発支援プログラム「グローバル化による生殖技術の市場化と生殖ツーリズム：倫理的・法的・社会的問題」（補助事業者 日比野由利）によって行ったものである。

また、ひとつめの調査「海外渡航治療と第三者が関わる生殖技術に対する不妊当事者への調査」は、ウェブ上で行われた二つの調査から得られたデータを結合して分析したものである。この調査では、ウェブの閲覧者の中から、該当する対象者に回答を依頼するという方式をとった。回答時点で、不妊というアイデンティティを持っている人を対象としているため、不妊治療中の人と、中止している人、終了した人が含まれている。したがって、不妊当事者への調査といえる。

二つめの調査「海外渡航治療と第三者が関わる生殖技術に対する不妊治療患者への調査」は、医療機関を通して、不妊治療中の患者に対して実施したものである。回収数はこれらの調査の中で最も多く2千票を超えた。渡航治療の実態や意識を知ることが目的とした調査において、国内の不妊施設に通院する患者を回答者とするのは必ずしも適切ではないかもしれないが、国内では初めての調査であり、一定の意義はあったといえるだろう。不妊患者への調査結果の一部は、共同通信社より全国の新聞に配信された（「第三者関与の治療にニーズ 不妊患者への意識調査」）。

日本人がタイなどへ不妊治療を目的に渡航している実態が拡大しつつあることが昨今さかんに報じられており、国内での第三者生殖技術の実施の是非や制度設計をめぐる議論が不可避となっている。今後は、これら量的な調査だけでなく、渡航治療や第三者生殖医療に関わる国内外の当事者へのインタビュー調査も併せて実施してゆきたいと考えている。

最後になるが、これらの調査に協力していただいた回答者、医療機関、スタッフら関係者に深くお礼を申し上げたい。

日比野 由利

I. 海外渡航治療と第三者が関わる生殖技術 に対する不妊当事者への調査

島藺洋介・白井千晶・日比野由利

1. 目的

日本では晩婚化、晩産化にともない不妊に悩む人々が増加しており、不妊治療を受ける人々が増えている。また、体外受精といった生殖補助技術(Assisted reproductive technology)の利用も近年急速に普及している。しかし、諸外国では生殖補助医療に関する法規制がなされ、公平かつ明確なルールや仕組みに則った生殖補助医療の実施が望ましいことはつとに指摘されてきた中、我が国では生殖医療に関する法整備はすすんで来なかった。

第三者の関与する生殖補助医療(Third-party reproduction)は、優生思想を助長する危険性、生まれてくる子どもの福祉、身体の資源化・商品化など、様々な倫理的社会的・社会的問題を孕んでいる。しかし、その第三者の関与する生殖補助医療についても、法的拘束力を欠いた学会の会告やガイドラインによる自主規制に委ねられてきたのが現状である。

そうした中、近年、これまで既に行われてきた精子提供を伴う人工授精に加え、独自の審査基準を設けて卵子提供を伴う体外受精を実施する医療機関がでてきた。今後、晩婚化と晩産化にともなう不妊当事者の高齢化により卵子提供へのニーズが高まっていくことが予測され、卵子提供をともなう実施する医療機関がさらに増えていく可能性もある。一方で、近年アジアの新興国においても生殖医療ビジネスが急速に展開しはじめており、今後、これまで多額の費用がかかることから少数の患者によってのみ行われてきた海外での生殖補助医療サービスの利用が広がっていく可能性もある。こうした第三者の関与する生殖補助医療をめぐる国内外の動向によって、法規制を含めた生殖医療をめぐる公的ルールや仕組みの整備する必要性は増している。

生殖補助医療の法規制に現実性と妥当性をもたせるためにも、不妊当事者の第三者の関わる生殖補助医療や渡航治療の実態および当事者の意識や経験は顧慮されるべきだ

ろう。しかし、これまで、これらに関する経験的な知見はこれまで十分に蓄積されてきたとは言い難い。この報告では、アンケート調査結果に基づき、第三者の関わる生殖補助医療に対する不妊当事者の態度や見解について明らかになった点を報告し、調査結果が生殖補助医療の在り方をめぐる論議にどのような示唆を与えるのかについて論及する。

2. 調査方法

本調査では、web 上で実施された以下の 2 つの調査によって得られたデータを結合した。いずれの調査も金沢大学医学倫理委員会の承認を受けた上で実施されている。各々の調査の概要は以下のとおりである。

(1)ベビカム「海外渡航を伴う不妊治療と第三者が関わる生殖技術に関する不妊当事者の意識に関する調査」:2011年7月、ベビカムのウェブサイト「妊娠・出産・育児コミュニティ」(URL: <http://com.babycom.ne.jp/>)に約2週間アンケートを掲載した。不妊治療経験者(現在は治療中でない者を含む)を対象とし、web 経由によるデータ送信方式でアンケートを回収、期日までに88票の回答を得た。回収率は不明である。web アンケートは、IP アドレス等から個人の重複を判別できるようになっている。

(2) babycom「不妊当事者の意識に関する調査」:2011年8月5日~12月31日、web コミュニティ babycom(URL: <http://www.babycom.gr.jp/>)にて、アンケートを掲載した。不妊治療経験者(現在は治療中でない者を含む)を対象とし、web 経由によるデータ送信方式でアンケートを回収、期日までに98票の回答を得た。回収率は不明である。

回答数はベビカム、babycom 合わせて186票だった。無回答の質問がある場合はデータを送信できないようになっているため、本来なら無回答(欠損値)は生じるものではないが、アンケートデータ送信時に、サーバートラブル等何らかの原因により、回答者のデータの一部が失われているケースがあった。また、回答自体はなされているものの、内容が明らかに無効な回答もあった。これらのケースは集計から除外したため、質問項目によって回答数に若干のばらつきが生じている。各選択肢のパーセンテージの計算にあたっては、有効回答数のみを対象として欠損値は除外した。有効回答数は、各図表に(n=有効回答数)の形で付すこととする。

3. 回答者の基本属性

186名の回答者の基本属性は表1にまとめた。

表1 回答者の基本属性

性別 (n=186)	女性:100% 男性:0%
年齢 (n=186)	平均:38.1(±5.3)、範囲(24~57)
配偶者の有無 (n=186)	あり:98.9% なし:1.1%
初婚年齢 (n=183)	平均:29.9±4.8 歳(範囲:16~49)
離別・死別・再婚経験 (n=186)	あり:7.5% なし:92.5%
子どもの数 (n=186)	0人:49.5% 1人:38.2% 2人:10.8% 3人:0.5% 4人:1.0%
養子・里子・継子 (n=186)	なし:99.5%、あり:0.5%
最終学歴(退学含む)(n=186)	中学校・高等学校:17.2% 短大・高専:33.9% 大学・大学院:48.9%
就労状況 (n=186)	有職:48.9% 無職:51.1%
世帯の収入(n=186)	~300万円未満:7.5% 300万円以上~500万円未満:26.3% 500万円以上~700万円未満:23.7% 700万円以上~1,000万円未満:25.8% 1,000万円以上~2,000万円未満:13.4% 2,000万円以上:3.2%
不妊治療の状況 (n=186)	不妊治療中:36.8% 妊娠中:10.8% 休止中:5.4% 出産して終止・休止:36.8% 出産せずに終止:10.3%
妊娠回数(化学的妊娠含む) (n=186)	なし:17.7% 1回:34.4% 2回:23.1% 3回:16.1% 4回以上:8.6% 回 以上:3.2%
流産・異常妊娠処置 (n=186)	なし:51.1% 1回:30.6% 2回:13.4% 3回:3.2% 4回:1.6%
死産経験 (n=186)	なし:96.8%、あり3.2%
人工妊娠中絶回数 (n=186)	なし:87.6% 1回:16.8%、2回0.5%、7回:0.5%、11回:0.5%

回答者の性別はすべて女性であり、男性からの回答はなかった(表 1)。184 人の回答者には配偶者がおり、現在配偶者を持たないものは 2 人のみだった。また、配偶者との離別・死別・再婚経験のある回答者が全体の 10%弱いた。

回答者の年齢層では、35～39 歳が最も多く、ついで 40～44 歳が多かった(表 3)。全体として、回答者の年齢層が高いのは、回答者に不妊治療を終えた者が含まれていることが要因のひとつである。しかし、晩婚化・晩産化にともなう不妊治療当事者の高齢化というトレンドを反映しているという側面もある。回答者の初婚年齢は、25～29 歳が最も多く、ついで 30～34 歳となっており、35 歳以上の層も 2 割近くいた。

有職者と無職者の比率はほぼ半々であった(表 4)。最終学歴については、約半数が大学・大学院までの学歴を有していた(表 5)。世帯年収については、300-500 万円、500-700 万円、700-1000 万円の 3 層がほぼ同率であり、1000 万円を越える層も約 16%いた(表 8)。不妊治療の継続は多額の費用がかかり、とくに体外受精を継続して行くとすると、不妊患者の経済的負担は大きい。体外受精には保険が適用されておらず、1 回 30～40 万円程度の出費が必要となる。年度毎 2 回まで、通年 5 年まで 15 万円の助成金を受けられる(夫婦の所得が 730 万円未満の場合)。高所得者層が多く含まれるのは、不妊治療を継続していくためには、ある程度の収入が必要であることと関係しているものと考えられる。

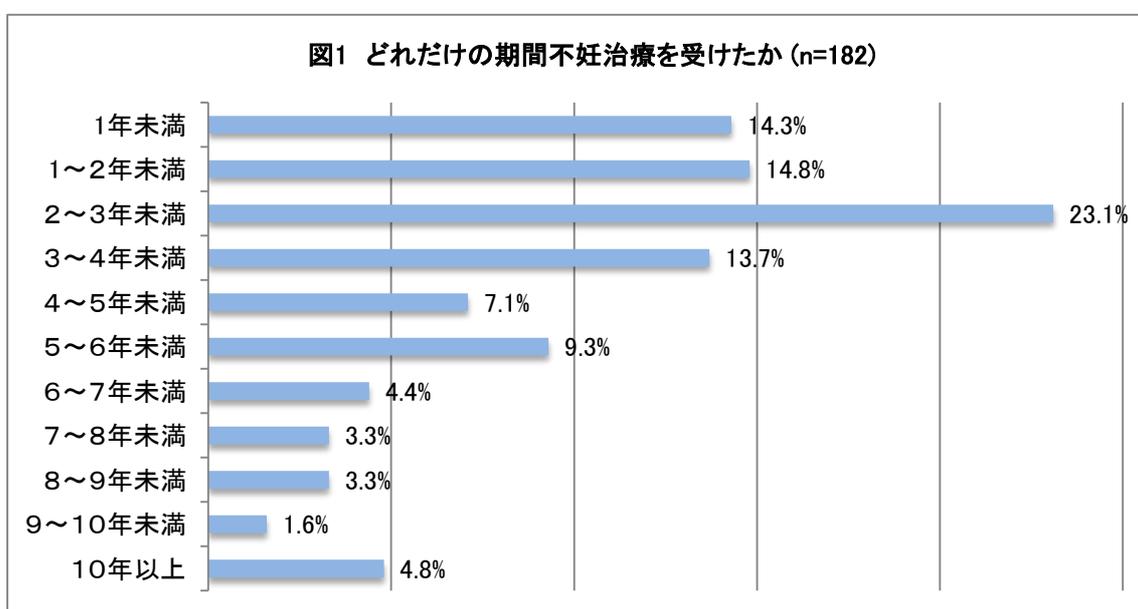
妊娠回数については、妊娠に至ったことのある人が 80%を超えていた。ただし、化学的妊娠も含むデータのため、全てが出産に結び付いているわけではない。また、不妊治療開始前か開始以降かは不明であるが、回答者の約半数が、流産や異常妊娠処置を経験していた。妊娠中絶の経験があると回答した人も約 13%いた。また、回答者の約半数には既に子どもがいた。こうした人々のなかには、不妊治療を終えた人とともに、第二子を出産するために不妊治療を受けている者も含まれていると考えられる。

なお、ベビカムと babycom の回答者では、いくつかの基本属性について顕著な違いがあった。所得にかんしては、ベビカム回答者では 300-500 万円、babycom 回答者では 700-1000 万円と答えた層が最も多く、平均世帯年収は、babycom 回答者の方が有意に高かった($p=0.002$)。また、ベビカム回答者 88 名のうち全体の 67%にあたる 59 名が子を持っているのに対し、babycom 回答者は 98 名のうち子を持つものは全体の 38.8%にとどまり、統計的に有意な差があった($p<0.001$)。

4. 回答者の不妊治療経験

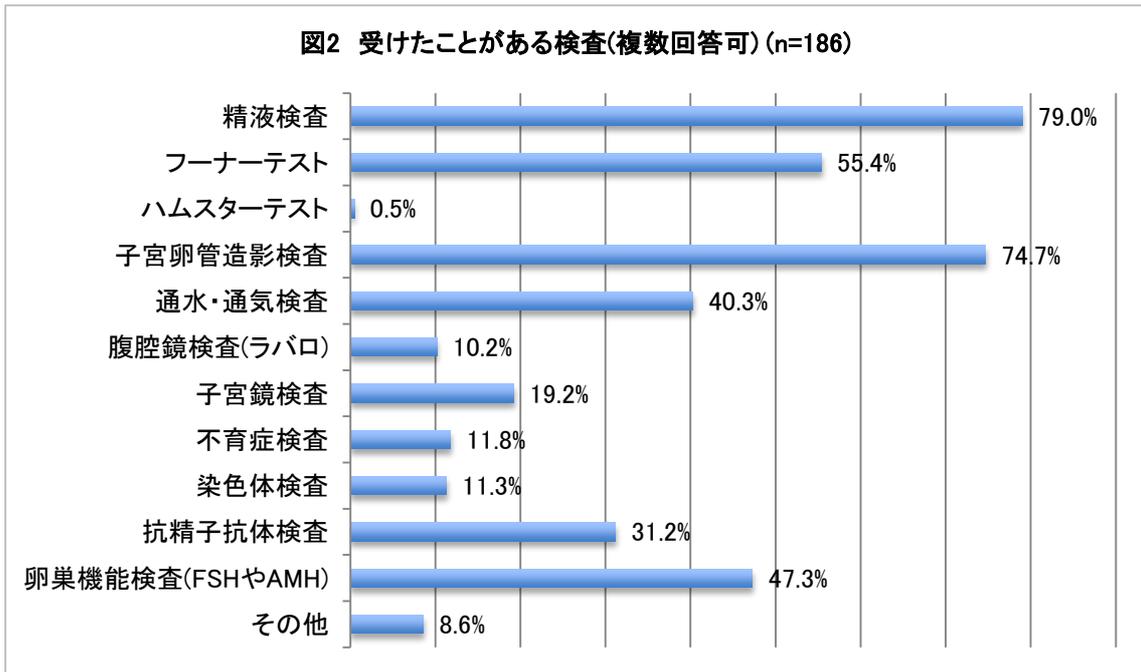
(a) 不妊治療期間

回答者に不妊治療を受けた期間について聞いた。「2～3年未満」と回答した人が23.1%で最も多かった。それ以外では、「1年未満」(14.3%)、「1～2年未満」(14.8%)と回答した人が多く、「3から4年未満」という回答が13.7%、「4～5年未満」という回答が7.5%、「5～6年未満」という回答が9.3%だった。10年以上の治療歴を持つ者(最長は17年)も4.8%おり、非常に長期に渡って治療を受ける人もいた。全体的にみると「治療歴3年未満」と「3年以上治療している」人の数が半数ずつであった(図1)。

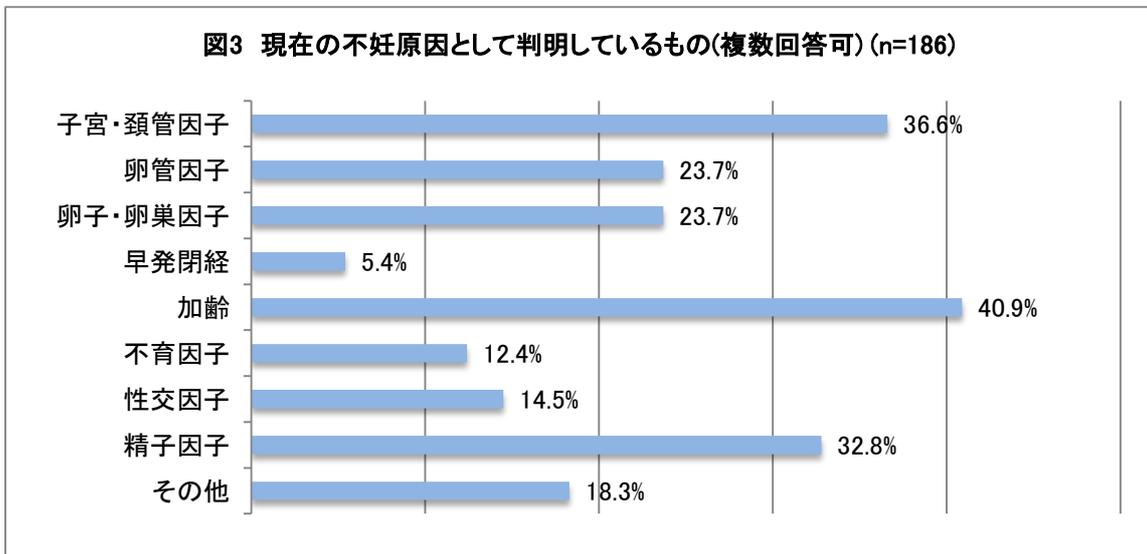


(b) 不妊原因

受けたことがある検査については、男性側の不妊要因を解明する「精液検査」(79.0%)にたいする回答が一番多く、「子宮卵管造影検査」(74.7%)という回答がそれに次いで多かった。また、およそ半数が「フーナーテスト」(55.4%)および「卵巣機能検査(FSH やAMH)」(47.3%)を経験したと回答した(図2)。



また、これら検査の結果判明した不妊原因(詳細は表 16 を参照)について尋ねた。「加齢」(40.9%)、「子宮・頸管因子」(36.6%)という女性側の要因に次いで、「精子因子」(32.8%)が3番目に挙げられた(図 3)。どれが主原因だと思うかという質問についても順位は同様であったが、回答はより加齢に集中する傾向があった(図 4)。



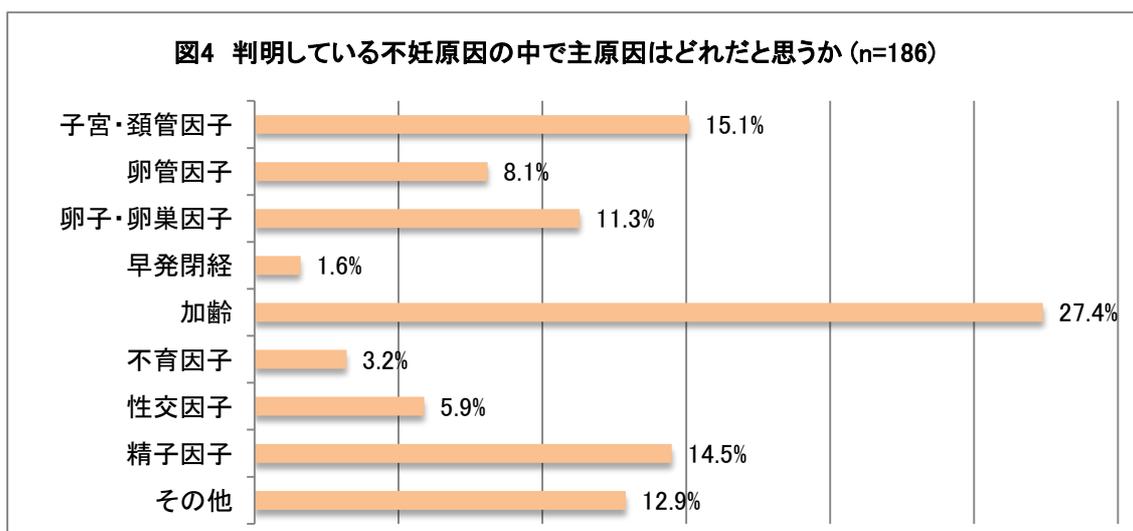


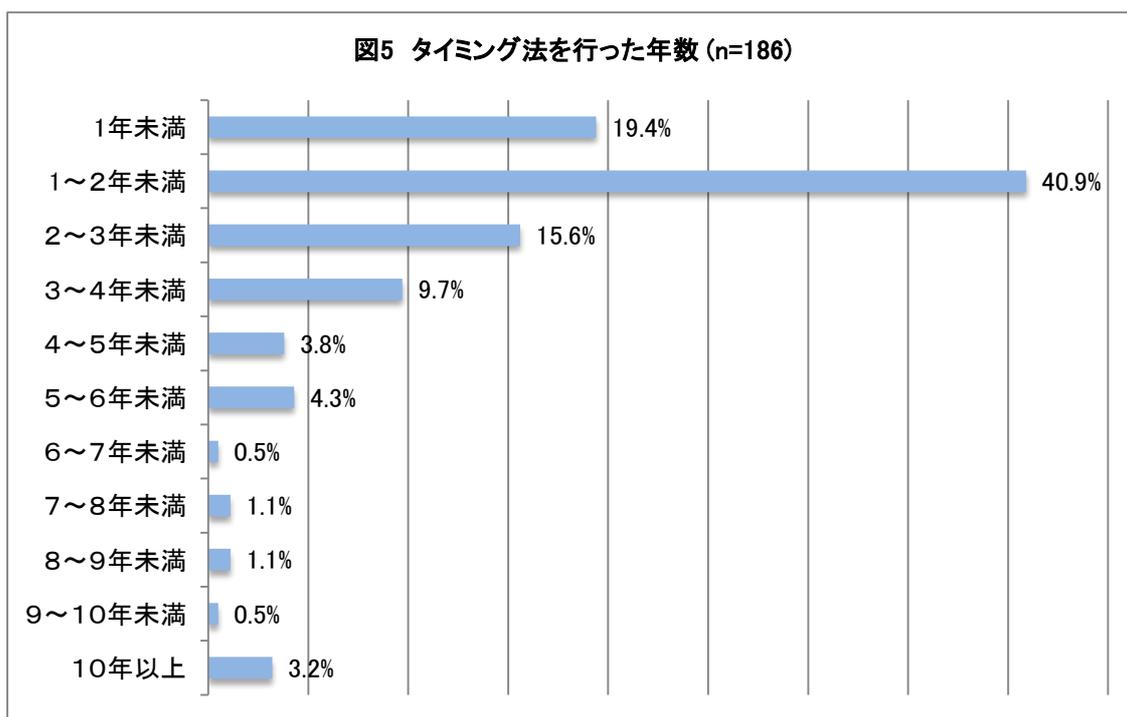
表 2 不妊原因分類の詳細

子宮・頸管因子	子宮内膜症、黄体機能不全、子宮腺筋症、子宮筋腫、頸管粘液、抗精子抗体等
卵管因子	卵管閉塞・狭窄・癒着、キャッチアップ障害、クラミジア感染等
卵子・卵巣因子	排卵障害、多嚢胞性卵巣症候群・PCOS
早発閉経	早発閉経
加齢	卵子・卵巣因子
不育因子	高プロラクチン血症、不育症、染色体異常等
性交因子	セックスストレス、ED、性交痛等
精子因子	乏精子症、無精子症、運動障害、精子の奇形等

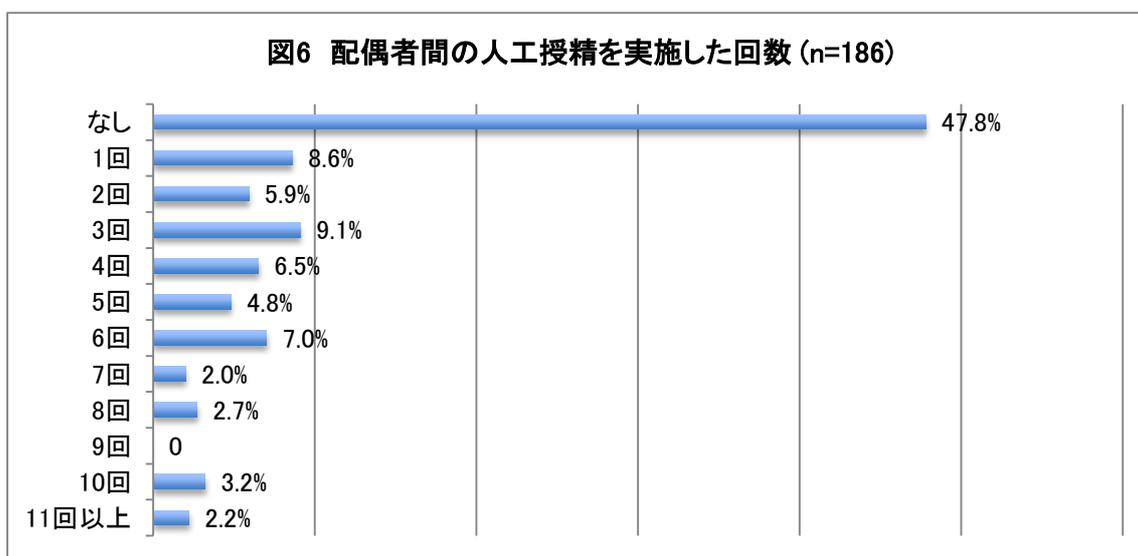
(d) 経験した不妊治療

具体的にどのような不妊治療をどの程度行ったのかについて聞いた。主な不妊治療についての回答者の経験は以下のようなようだった。

タイミング法: 約8割以上の回答者が一年以上のタイミング法による不妊治療を経験していた。行った年数は「約1年」が40.9%と一番多く、「0～1年未満」(19.4%)、「約2年」(15.6%)、「約3年」(9.7%)と続いた(図6)。

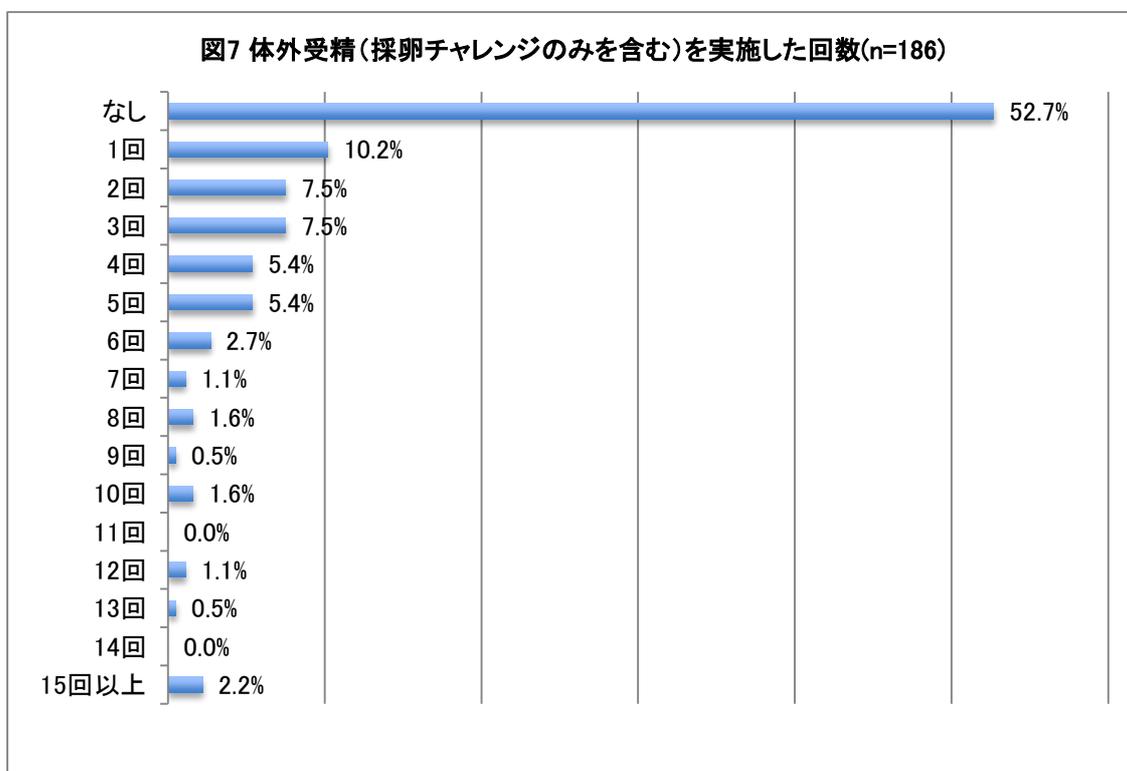


配偶者間の人工授精：配偶者間の人工授精(AIH)を実施した経験をもつ者は 52.2%と回答者全体のほぼ半数だった。回数についての回答では1～3回が44名(23.7%)、4～6回が34名(18.3%)、7回以上の者が19名(10.2%)で、11回以上と回答した人は、4名のみだった。そのうち、1名が30回以上と回答した(図7)。



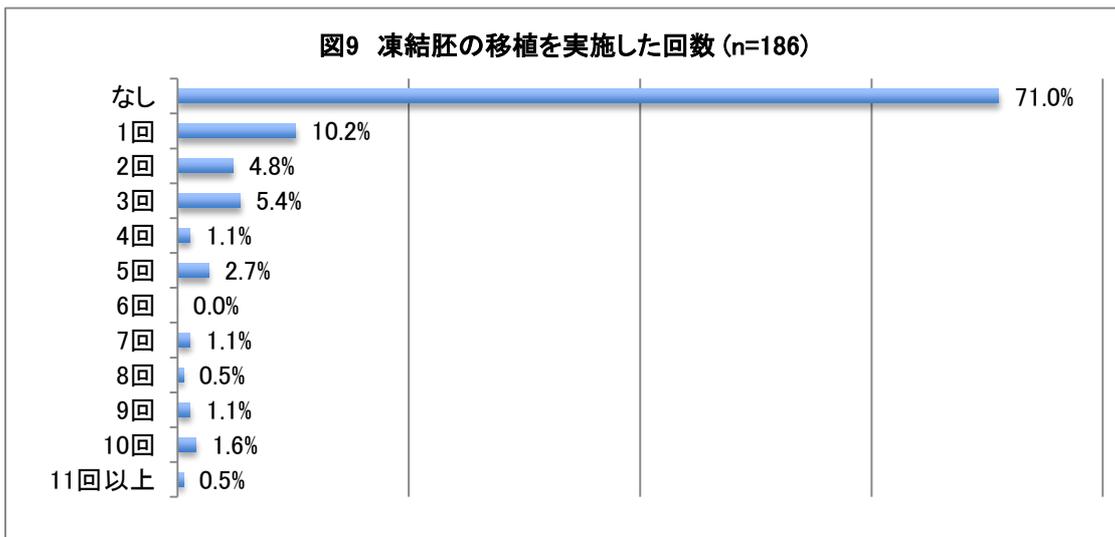
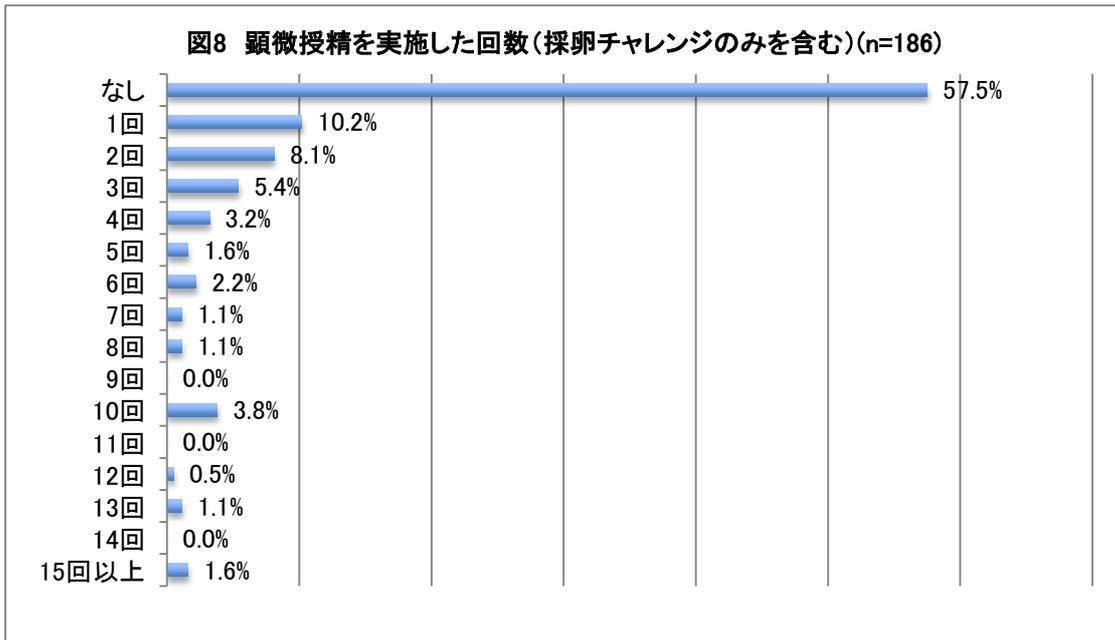
配偶者間の体外受精(IVF)：配偶者間のIVFについても47.8%と、人工授精と同様にほぼ半数の回答者が経験していた。経験回数は1回と答えた人が19名(10.2%)と最も多く、1～3回までが47名(25.3%)、4～6回が25名(13.4%)で、7回以上が16名(8.6%)であった。人工授精と同様に、体外受精は5～6回までの経験者が大半を占め、それ以

上は少数であった。ただし、人工授精よりも体外受精のほうが、長期にわたって継続的に実施する人の数が若干多かった（図 8）。



顕微授精(ICSI)および凍結受精卵を融解して移植 (ET)

また、顕微授精(ICSI)は実施したのは 42.5%で、AIH を経験した者の大半が実施していた(図 8)。しかし、凍結受精卵を融解して移植 (ET のみ) を実施したのは、29.9%にとどまった (図 9)。



その他：精巣精子回収術（TESE・MESA・TESA・PESA等）を実施した回答者は9人、4.8%と少数であった。うち、1回が2人、2回が3人、3回が1人、8回が1人、10回が2人だった。

第三者の関与をともなう生殖補助医療：第三者の関与をともなう生殖補助技術を利用した経験をもつ回答者の数は極めて少数だった。精子提供を伴う人工授精を経験した回答者はいなかった。卵子提供を伴う体外受精の経験がある回答者が5名だった（1回が2人、2回が2人、7回が1人）。また、代理出産を依頼したことがあると答えた回答者が1人いた（表3）。

表 3 第三者の関与する生殖補助医療に関する経験

精子提供を伴う人工授精(AID)を実施した回数 (n=186)	なし:100%
	あり:0%
卵子提供を伴う体外受精を実施した回数 (n=186)	なし:97.3%
	1回:1.1%
	2回:1.1%
	7回:0.5%
代理出産の依頼 (n=186)	なし:99.5%
	あり:0.5%

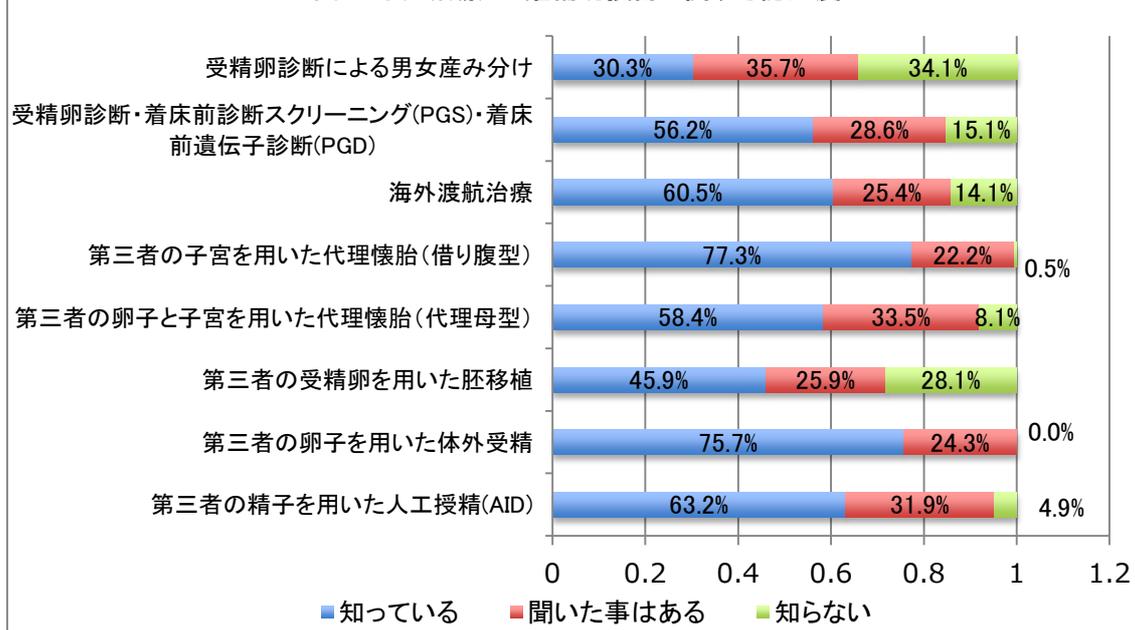
(e) 不妊治療に関する知識

「第三者の精子をもちいた人工授精」、「第三者の卵子を用いた体外受精」、「代理出産」、「受精卵診断・着床前診断スクリーニング (PGS) ・着床前遺伝子診断 (PGD)」、「受精卵診断による男女産み分け」「渡航治療」の項目についての知識や認知度について尋ねた。

精子提供（「第三者の精子を用いた人工授精」）、卵子提供（「第三者の卵子を用いた体外受精」）の認知度は高く、また代理出産についても、代理母型、借り腹型のいずれの形態についても広く認知されていた。これらの選択肢について「知らない」と答えた回答者はごく少数にとどまった。なお、受精卵提供（第三者の受精卵（胚）を用いた胚移植）で、「知らない」と答えた回答者の比率が高かった点が注目される。これは、日本では受精卵提供は実施されていないことと関係があると推測される。s

また、出生児の選別に関わる技術としては、「受精卵診断・着床前診断スクリーニング (PGS) ・着床前遺伝子診断 (PGD)」については、56.2%の回答者が「知っている」とし、28.6%の回答者が「聞いたことがある」と回答した。「知らない」は15.1%にとどまった。これに対し、受精卵診断による男女産み分けでは、「知っている」と回答した者は30.3%にとどまり、「聞いたことがある」35.7%を下回った。さらに、「知らない」と回答した人も34.1%にのぼった。流産や遺伝疾患の危険性など、出生児の生命や安全に関わる技術に比べて、男女産み分けについては、日本の不妊カップルの認知度や関心は高くないものと考えられる（図 11）。

図11 不妊治療・生殖補助技術に関する認知度



また、高年齢での卵子提供による出産についてのリスク認識について聞いたところ、「出血多量、子宮全摘等のリスクが高くなることがある」、「流産・死産（胎内死亡等）のリスクが高くなったり、早産により児の予後不良のリスクが高くなることもある」はともに7割以上の回答者がその事実を知っていると回答した。一方、「国内で、妊娠管理（妊婦健診等）、分娩を受け入れてくれる施設が見つからないことがある」は、それを知っている者が約6割にとどまった。卵子提供にもとづく高齢出産にかんしては、医学的リスクは認識していても、社会的リスクについては認識していない人々がいることが明らかになった（表4）。

表4 以下のリスクについて知っていたか (n=186)

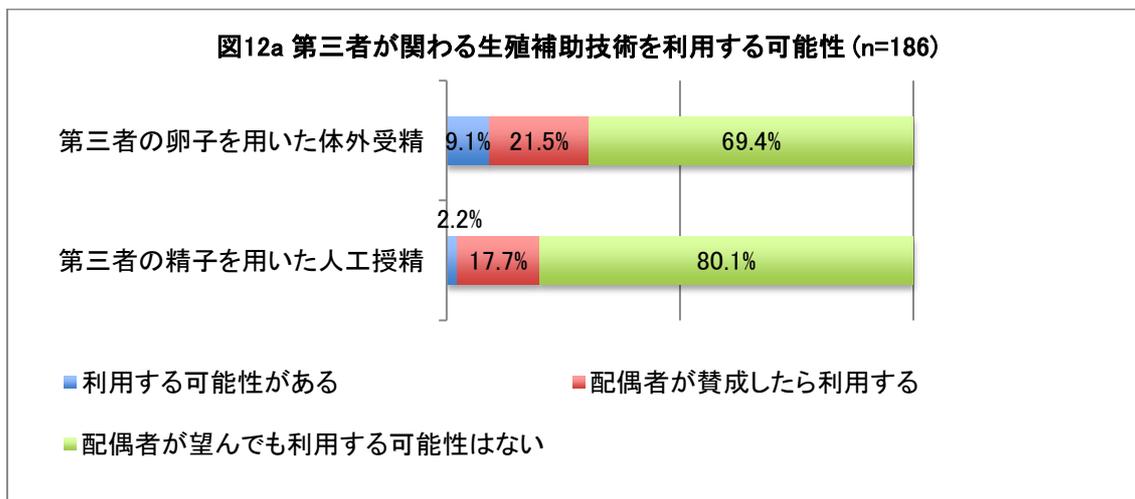
	知っていた	知らなかった
高年齢で卵子提供を受けた場合、出血多量、子宮全摘等のリスクが高くなることもある	133 (71.5%)	53 (28.5%)
高年齢で卵子提供を受けた場合、流産・死産(胎内死亡等)のリスクが高くなったり、早産により児の予後不良のリスクが高くなることもある	143 (76.9%)	43 (23.1%)
高年齢で卵子提供を受けた場合、国内で、妊娠管理(妊婦健診等)、分娩を受け入れてくれる施設が見つからないことがある	115 (61.8%)	71 (38.2%)

5. 第三者の関与する生殖補助医療について

主に卵子提供と代理出産を念頭に第三者の関与する生殖補助医療に関する意識や態度に関する質問項目を設定した。

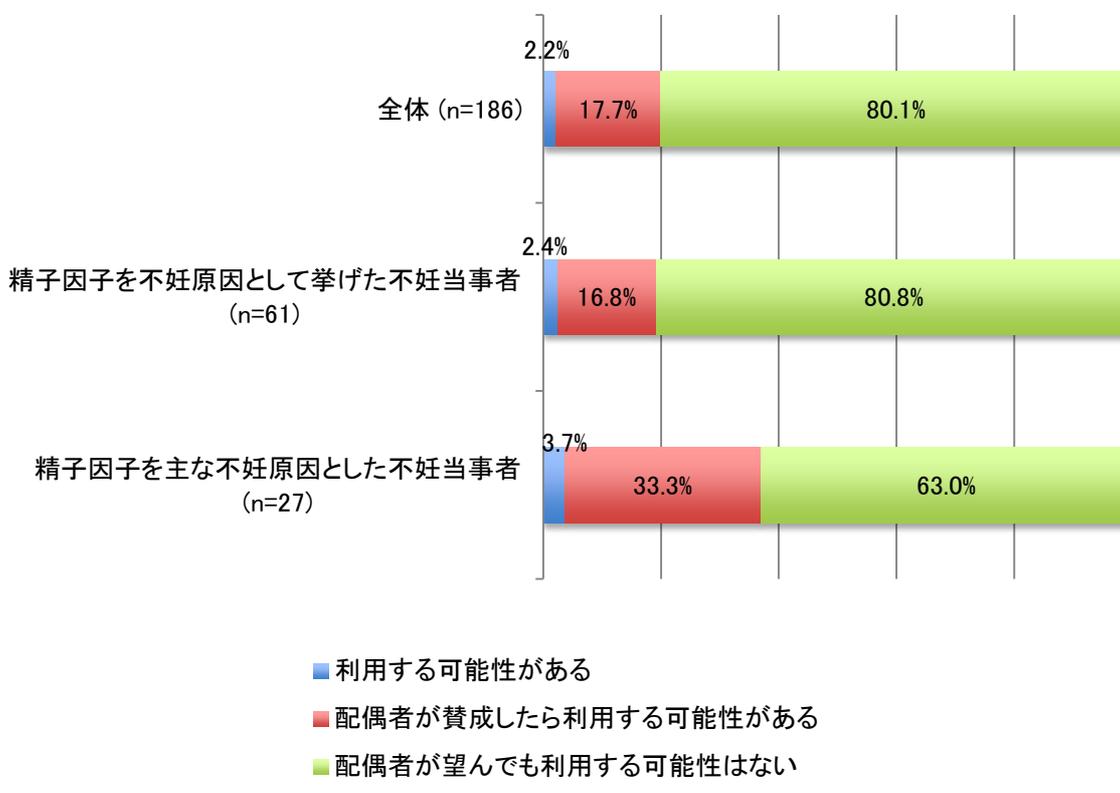
(a) 第三者が関わる体外受精および人工授精を受ける可能性

精子提供を伴う人工授精と卵子提供をともなう体外受精について、どの程度その利用を検討する意思があるのかを聞いた。精子提供と卵子提供ともに、「配偶者が望んでも利用する可能性はない」が最も多かった。また、精子提供・卵子提供いずれの場合でも、「利用する可能性がある」よりも「配偶者が賛成したら利用する可能性がある」という回答が多かった（図 12）。



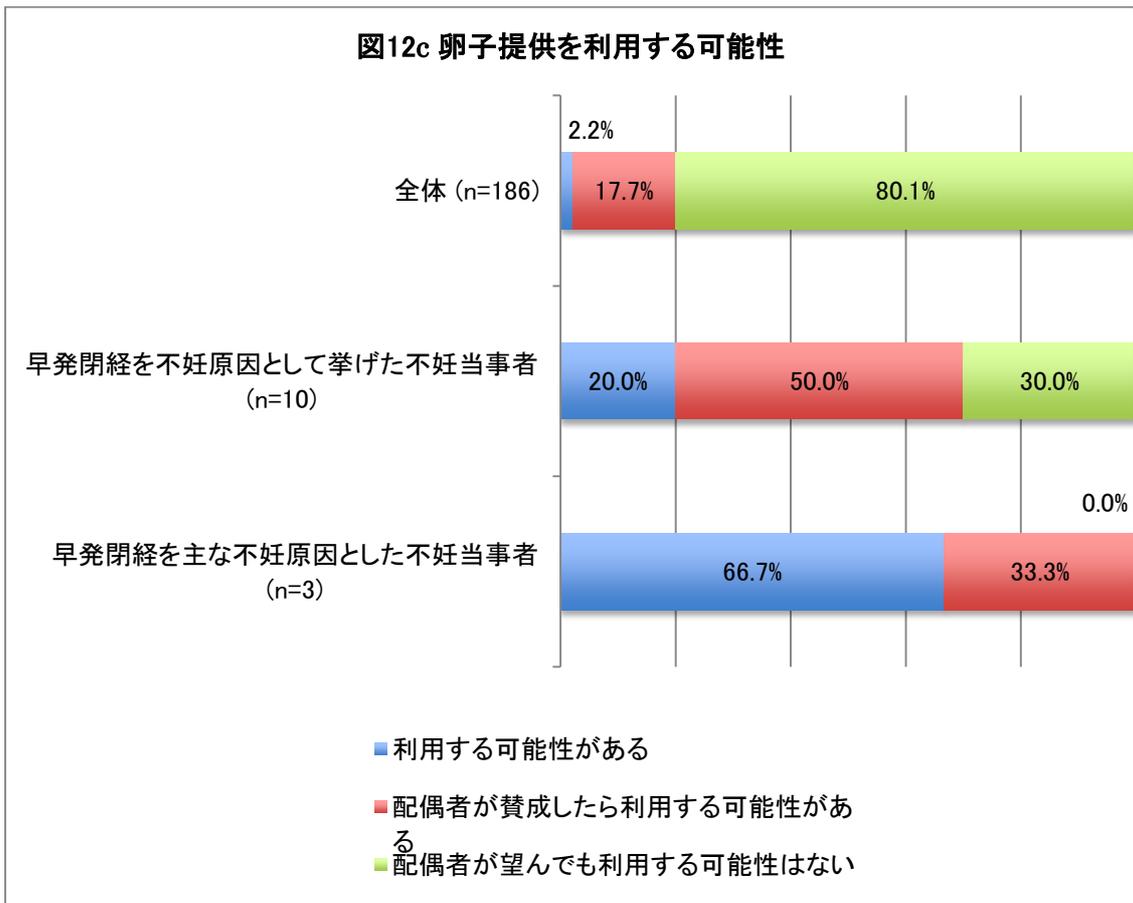
精子提供と卵子提供と比較すると、「配偶者が望んでも利用する可能性はない」と回答した人の割合は「精子提供」で 80.1%、「卵子提供」で 69.4%と、「精子提供」のほうが多かった。卵子提供については「利用する可能性がある」と解答した人が 9.1%、「配偶者が賛成したら利用する可能性がある」と回答した人が 21.5%であり、卵子提供を利用する可能性があると回答した人の合計は、30.6%だった。精子提供では、「利用する可能性がある」の回答が 2.2%、「配偶者が賛成したら利用する可能性がある」の回答が 17.7%で、検討する可能性があると回答した人は合計で 19.9%にとどまった。

図12b 精子提供を利用する可能性



以上の結果の背景として、アンケートに回答した女性が自分側に不妊の主な原因があると考えており（もしくはそのように診断されており）、したがって、精子提供は現実的な選択肢ではない可能性がある。「主な不妊原因」として精子因子挙げた人に限ってみれば、これらの回答の割合は高く、「利用する可能性がある」（3.7%）「配偶者が賛成したら利用する」（33.3%）と合計で37%にのぼった（図12b）。

卵子提供を「利用する可能性がある」、「配偶者が賛成したら利用する可能性がある」と回答した人の割合を不妊原因との関連で見ると、目立って多かったのは、早発閉経を不妊の原因として挙げた人々だった。該当者は少なかったが、多くの人々が利用する可能性がある、「配偶者が賛成したら利用する可能性がある」と回答した。



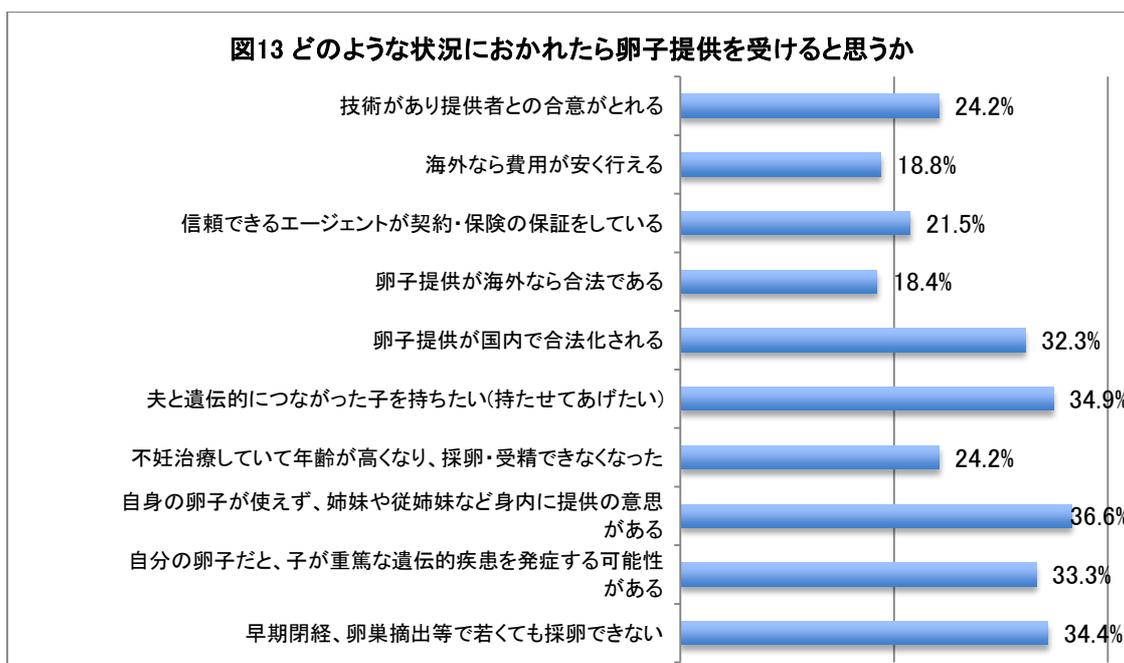
(b) 卵子提供を受けるための条件

不妊治療の当事者や経験者にどのような状況なら卵子提供を受ける可能性を検討するかについて複数回答で尋ねた。「早期閉経、卵巣摘出等で若くても採卵できない」(34.4%)、「自分の卵子だと、子が重篤な遺伝的疾患を発症する可能性がある」(33.3%)など、回答者である女性自身の身体にまつわる医学的理由に関する項目をいずれも3分の1程度の回答者が選択した。これに対して、「不妊治療していて年齢が高くなり、採卵・受精できなくなった」を選択した回答者は24.2%で、他に比してやや少なかった。この結果は、(1)早発閉経や遺伝的疾患などの医学的理由から、卵子提供による体外受精しか不妊治療の選択肢がない場合と(2)夫婦間体外受精を行ってきたが加齢で継続困難となったケースでは、不妊当事者の卵子提供に対する意識も異なることを示唆している。後者のケースでは、採卵・受精の継続が困難となった時点で、不妊当事者が不妊治療を休止・終止する場合があると推測される。

また、それ以外の条件にたいする回答では、「夫と遺伝的につながった子を持ちたい(持たせてあげたい)」(34.9%)と回答した人も3分の1程度いた。「卵子提供が国内で合

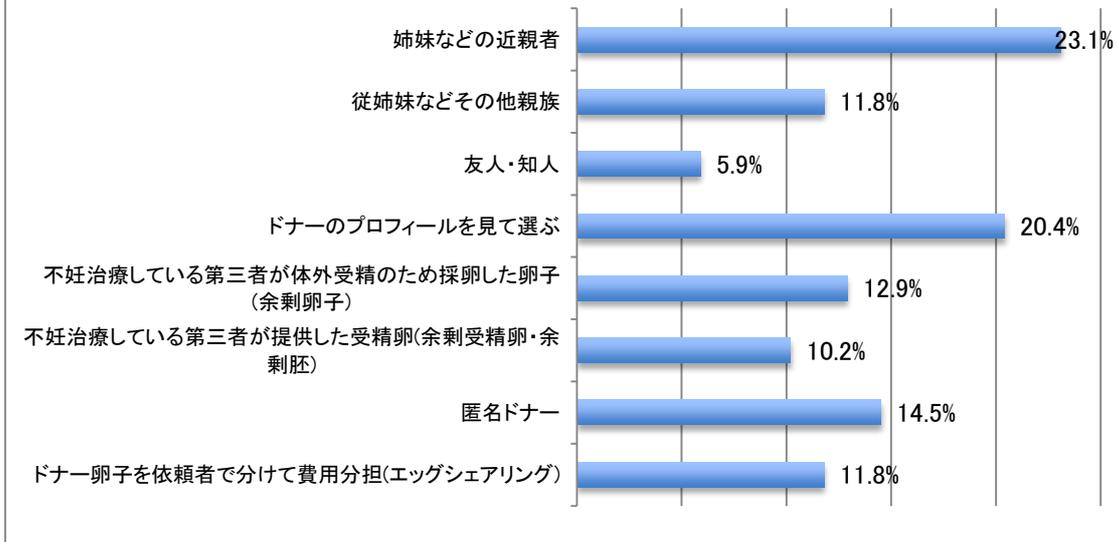
法化される」(32.3%)、「自身の卵子が使えず、姉妹や従姉妹など身内に提供の意思がある」(36.6%)など、国内での実現可能性に関する回答も多かった。

これに対して、「卵子提供が海外なら合法である」(19.4%)「信頼できるエージェントが契約・保険の保証をしている」(21.5%)「海外なら費用が安く行える」(18.8%)などの渡航治療に関わる項目はいずれも2割前後に回答にとどまった(図13)。



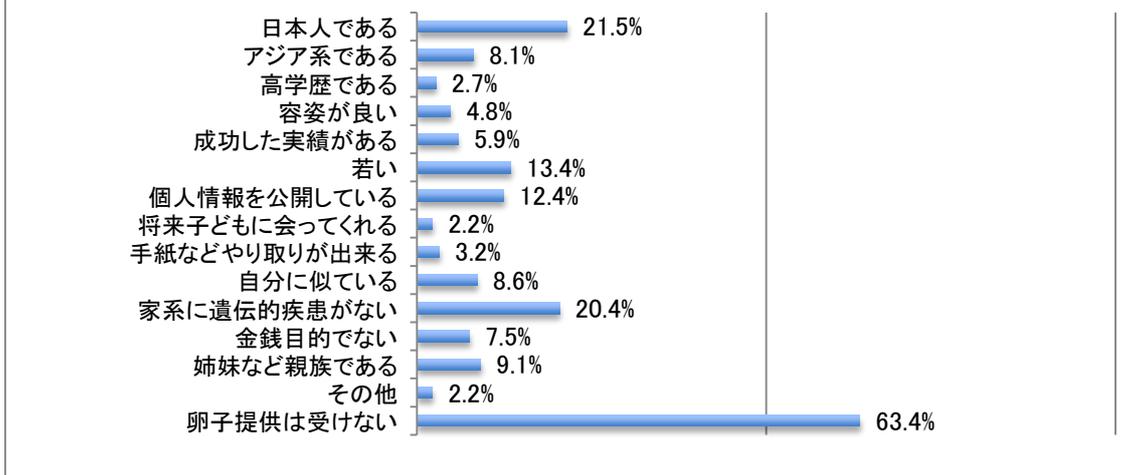
また、卵子提供を受けるとしたら検討する選択肢について聞いた。姉妹・従姉妹という近親者への依頼を検討すると回答した人が多かった。「ドナーのプロフィールを見て選ぶ」も20%いた。卵子提供者として、自身と深い関係にある人(=非匿名)が望ましいとする傾向とともに、自身とは関わりのない人(=匿名)のほうが望ましいとする傾向が併存しているといえる(図14)。

図14 卵子提供を受けるとしたら検討する可能性のある選択肢 (n=186)



卵子提供のドナーに求めることについては、「日本人である」(21.5%)、「家系に遺伝的疾患がない」(20.4%)の2つが「卵子提供は受けない」(63.4%)について多かった。その他では、「若い」と回答した人が13.4%おり、「個人情報を公開している」という人が12.4%いた。容姿や学歴、キャリアなどの項目や「将来子どもに合ってくれる」「手紙などのやりとりができる」などの項目を選択した人々は少なかった(図15)。

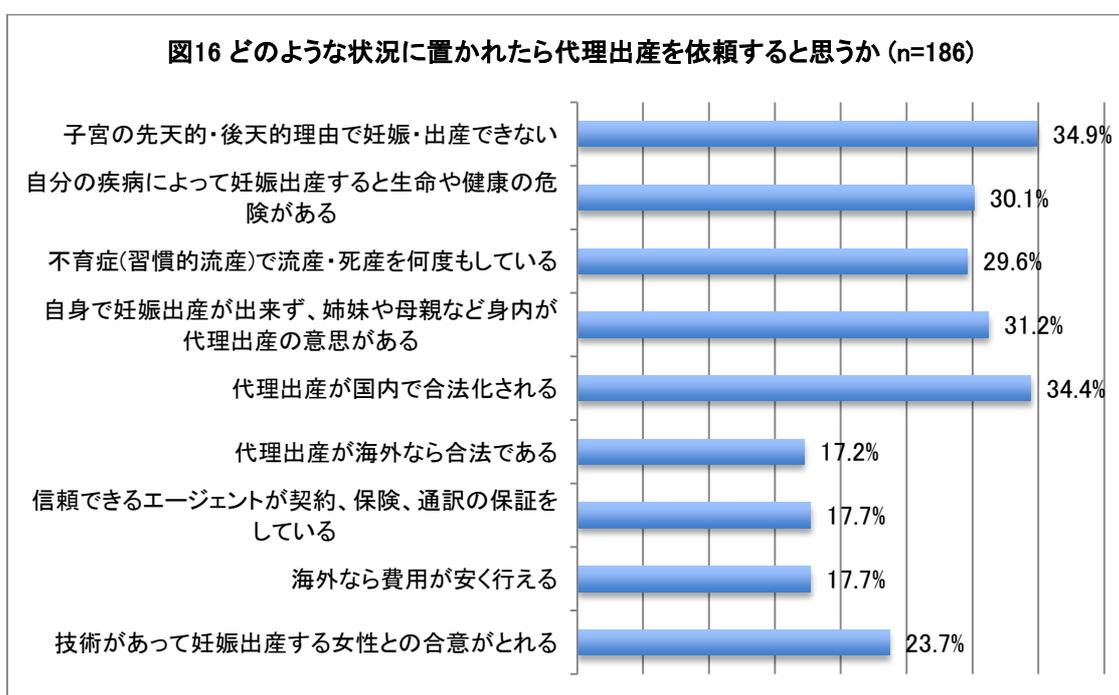
図15 卵子提供のドナーに求めること(「卵子提供は受けない」以外複数回答可) (n=186)



(c) 代理出産を依頼するための条件

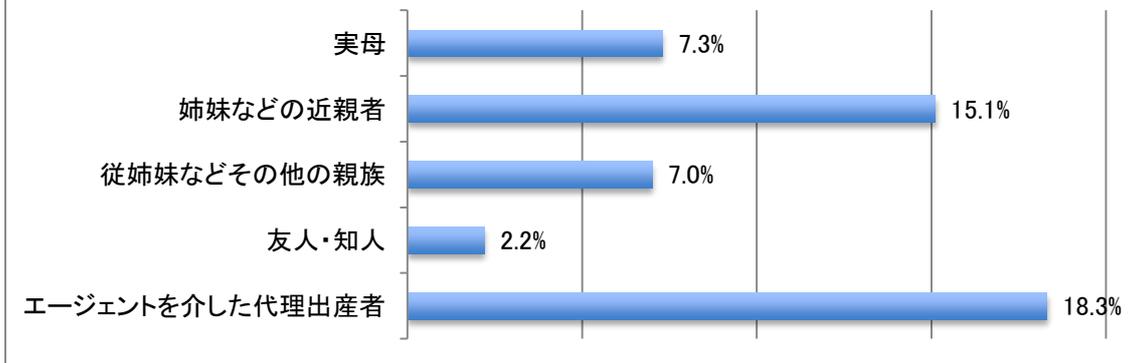
「どのような状況なら代理出産を依頼するか」という質問に対しても、卵子提供の場合とほぼ同様の回答が得られた。「子宮の先天的・後天的理由で妊娠・出産できない」

(34.9%)「自分の疾病によって妊娠出産すると生命や健康の危険がある」(30.1%)「不育症(習慣的流産)で流産・死産を何度もしている」(29.6%)など、自身の医学的理由から妊娠出産できない場合にまつわる項目にたいする回答がいずれも3割程度あった。これに加え、「自身で妊娠出産が出来ず、姉妹や母親など身内が代理出産の意思がある」(31.2%)、「代理出産が国内で合法化される」(34.4%)という項目を3分の1程度の人々が選択した。これにたいし、「代理出産が海外なら合法である」(17.2%)「信頼できるエージェントが契約、保険、通訳の保証をしている」(17.7%)「海外なら費用が安く行える」(17.7%)という海外での代理出産に関する項目を選択した人は低かった(図16)。



また、代理出産を依頼するとしたら検討する選択肢について聞いた。ここでも卵子提供の場合と同様に、実母、姉妹などの近親者を検討するという回答がもっとも多かった。ただし、代理出産では「エージェントを介した代理出産者」とする回答が20%あった(図17)。

図17 代理出産を依頼するとしたら検討する可能性のある選択肢

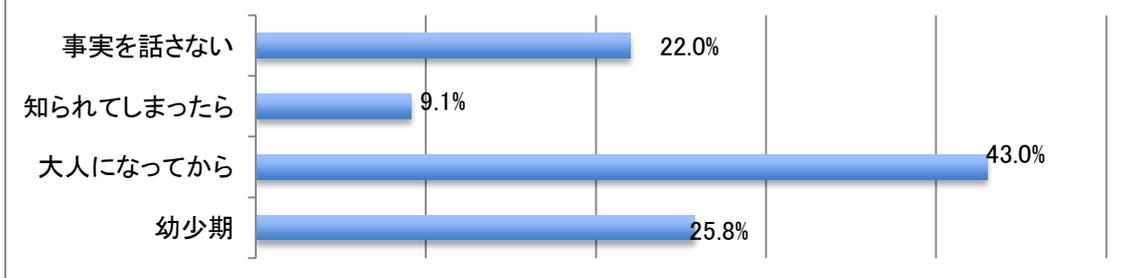


このように、卵子提供と代理出産いずれの場合にも、国内で合法ではなくとも、渡航生殖の条件が整えば、卵子提供を受けたい、代理出産を依頼したいと1～2割程度の回答者がいた。その一方で、国内で法的、制度的環境が整っていることを第三者の関与する生殖によって子をもうけるための条件と考える不妊治療当事者が一定数存在していた。

(d) 子どもへの告知について

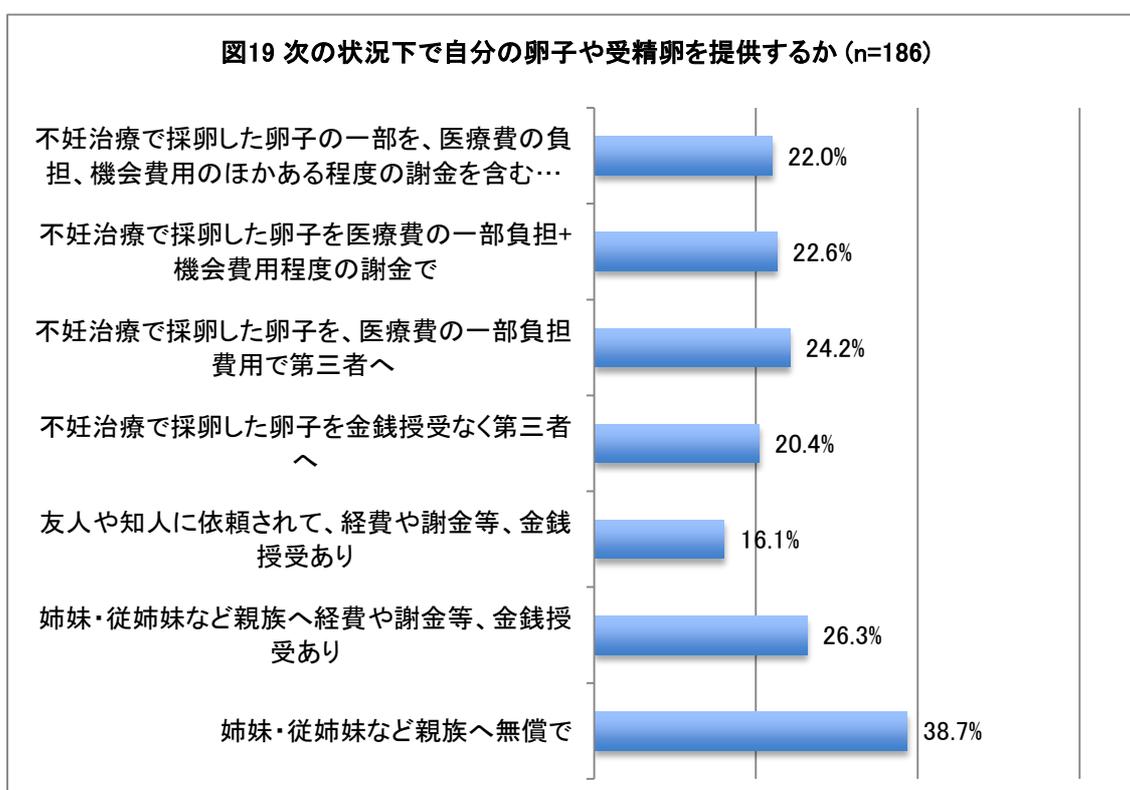
卵子提供・代理出産で子を持った場合、子どもにその事実をいつ話すのかについて聞いた。「大人になってから」(43.0%)という回答がもっとも多かった。「幼少期」(25.8%)とあわせると、約7割の回答者は積極的に子の出自に関する情報を開示する意思があると回答した。その一方で、「知られてしまったら」(9.1%)「事実を話さない」(22.0%)と子に出自を知らせることに消極的な回答者も約3割にのぼった。子の福祉、子の出自を知る権利との関わりの中で、親となる者の持つべき意識のあり方を議論する必要が浮き彫りとなった(図18)。

図18 卵子提供・代理出産によって子を持った場合、子どもにいつその事実を話すか (n=186)



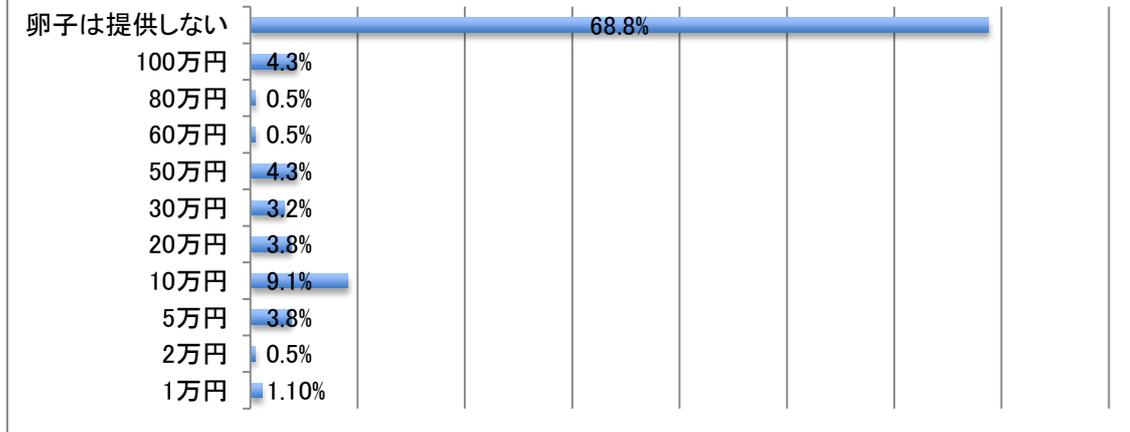
(e) 卵子提供の可能性について

さらに、さまざまな条件で自分の卵子や受精卵を提供する用意があるかどうかについて聞いた。「姉妹・従姉妹など親族へ無償で」がもっとも多く 38.7%だった。「友人や知人に依頼されて、経費や謝金等、金銭授受あり」は 16.1%にとどまった。また、不妊治療で採卵した卵子の第三者への提供にかんしては、約 4 分の 1 程度の不妊治療当事者が考慮すると回答した。「無償」(20.4%)「医療費の一部負担」(24.2%)「医療費の一部負担+機会費用程度の謝金で」(22.6%)、「医療費の負担、機会費用のほかある程度の謝金を含む金額」(22.0%)に大きな違いは見られなかった(図 19)。



また、卵子提供に対する「医療費負担、機会費用、謝金合わせてどの程度の金額が妥当か」という問いについては、「卵子は提供しない」(68.8%)が多く、「10万円」(9.1%)がもっとも多かった。「1万円」(1.1%)「2万円」(0.5%)「5万円」(3.8%)とそれ以下の額を選択した回答者もいたが、「20万円」(3.8%)「30万円」(3.2%)「50万円」(4.3%)という回答もあった(図 20)。

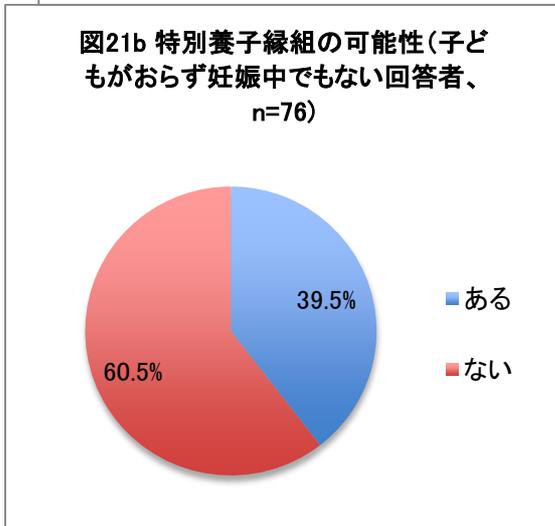
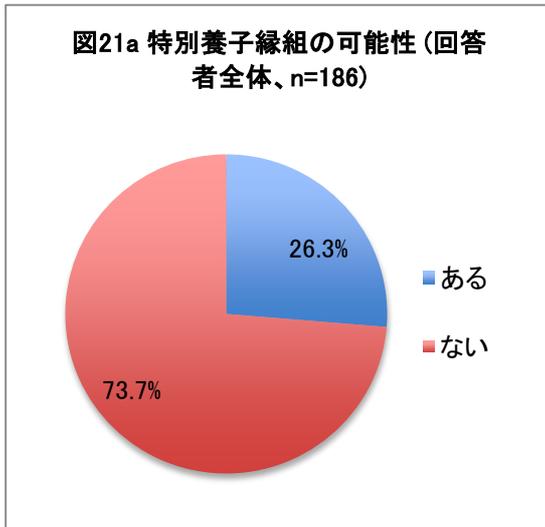
図20 提供の可能性がある場合、医療費負担、機会費用、謝金合わせてどの程度の金額が妥当か (n=186)



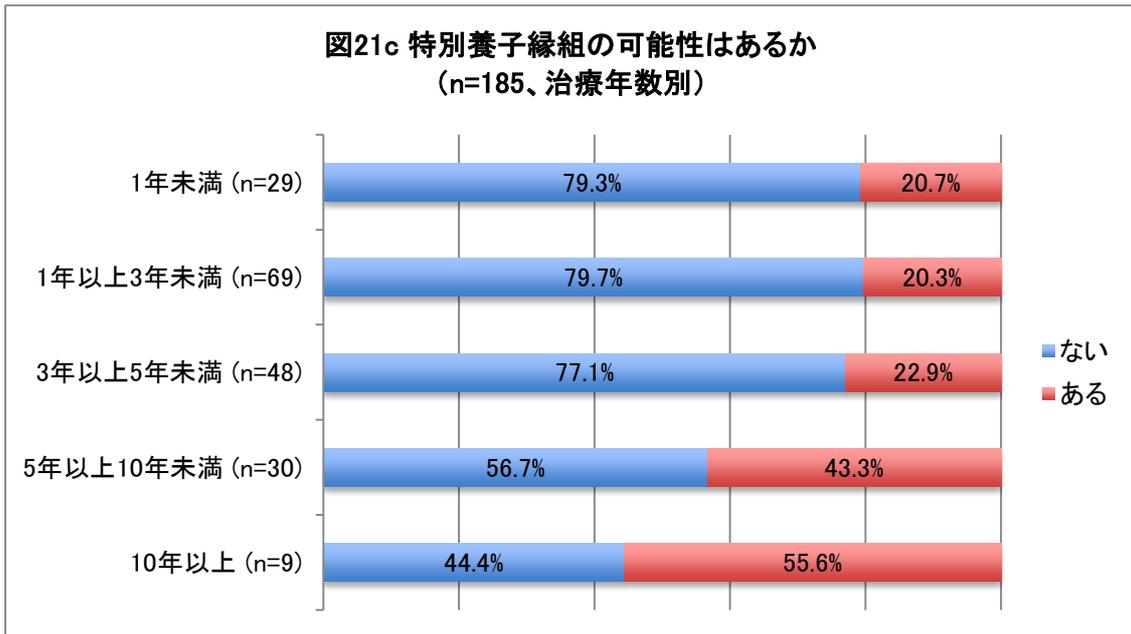
(f) 特別養子縁組の利用について

不妊当事者が子を持つことができないときの選択肢として、第三者の関与する生殖医療のほかに養子縁組がある。とくに、特別養子縁組は、実子に近い形で法的親子関係を作ることが出来る。それでは、不妊当事者は、子を持つための手段として、特別養子縁組をどの程度現実的な選択肢として考えているのだろうか。

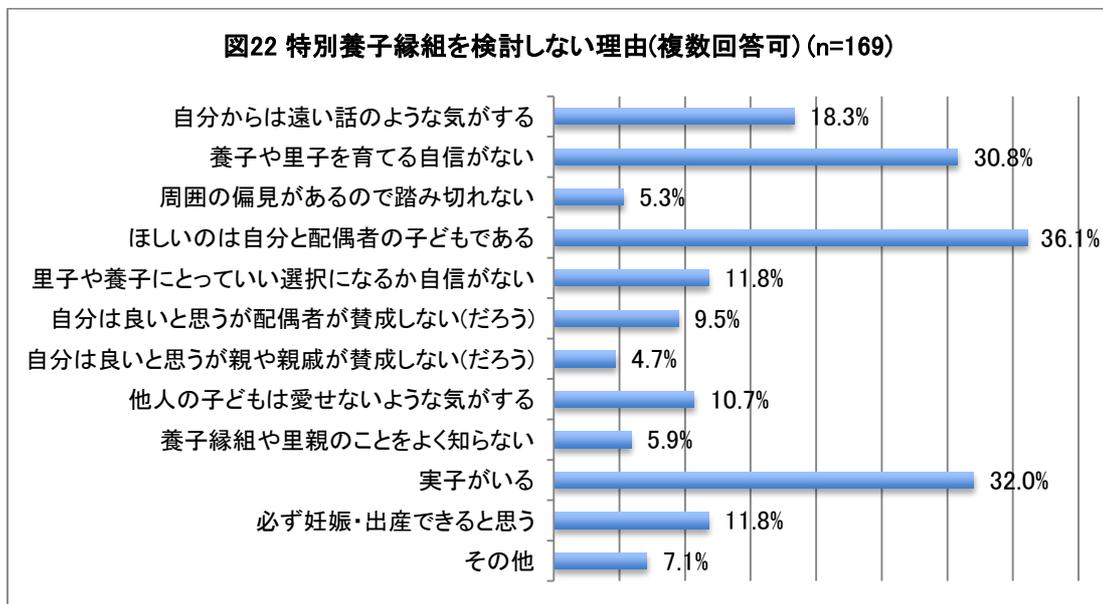
アンケート調査に回答した不妊治療の当事者や経験者のなかでは、「ある」とした回答者は 26.3%で、「ない」とした回答者は 73.7%だった。精子提供、卵子提供や代理出産などと同様に、全体の約 4 分の 1 のカップルが養子縁組を検討する用意があると回答した。この割合は、子どもがおらず妊娠中でもない回答者のなかではさらに高く、39.5%と 4 割近くにのぼった (図 21a, 21b)。



また、養子縁組を検討する可能性があるという回答した者は、治療年数が多くなるにつれて増加する傾向にあった。とくに、治療年数5年を超えた人々のあいだで特別養子縁組の可能性を検討するとした回答者が多く見られた (図 21c)。不妊治療の年月を重ねる中で、生殖医療の代替的選択肢として養子縁組を検討しはじめる不妊当事者がいると考えられる。

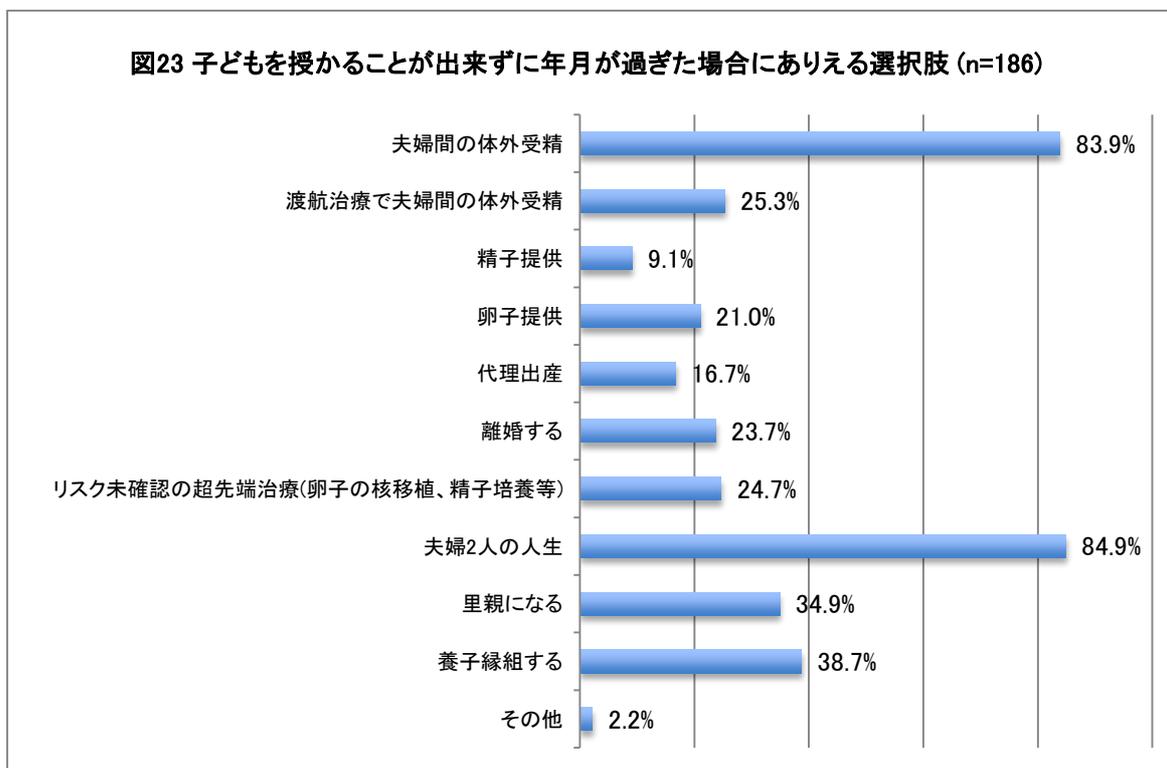


特別養子縁組を検討しないと答えた回答者にその理由を複数回答で聞いたところ、「ほしいのは自分と配偶者の子どもである」(36.1%)という回答が最も多く挙げられた。その他には「実子がいる」(32.0%)、「養子や里子を育てる自信がない」(30.8%)の理由が多く挙げられた(図22)。



また、子どもを授かることが出来ずに長年過ぎた場合にありえる選択肢について聞いたところ、「夫婦間の体外受精」(83.9%)および「夫婦二人の人生」(84.9%)という回答が突出して多かった。主にタイミング療法、人工授精、体外受精で子を授からなければ、子を持つこと自体を諦めるというシナリオを想定している不妊治療当事者が多いこ

とが伺える。「養子縁組する」(38.7%)、「里親になる」(34.9%)という回答が、「精子提供」(9.1%)、「卵子提供」(21.0%)、「代理出産」(16.7%)などの第三者の関与する生殖医療や「超先端医療の利用」(24.7%)、「離婚」(23.7%)よりも多かった。このことは生殖医療の在り方を考える上で特に注意に値するであろう(図23)。

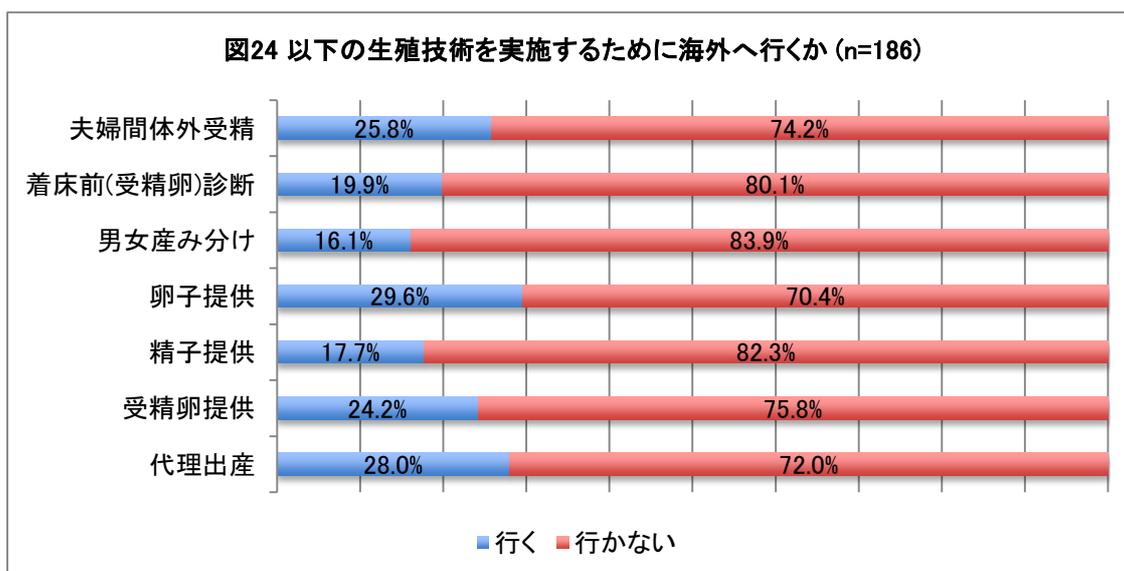


6. 渡航治療について

(a) 渡航による生殖補助技術の利用への態度

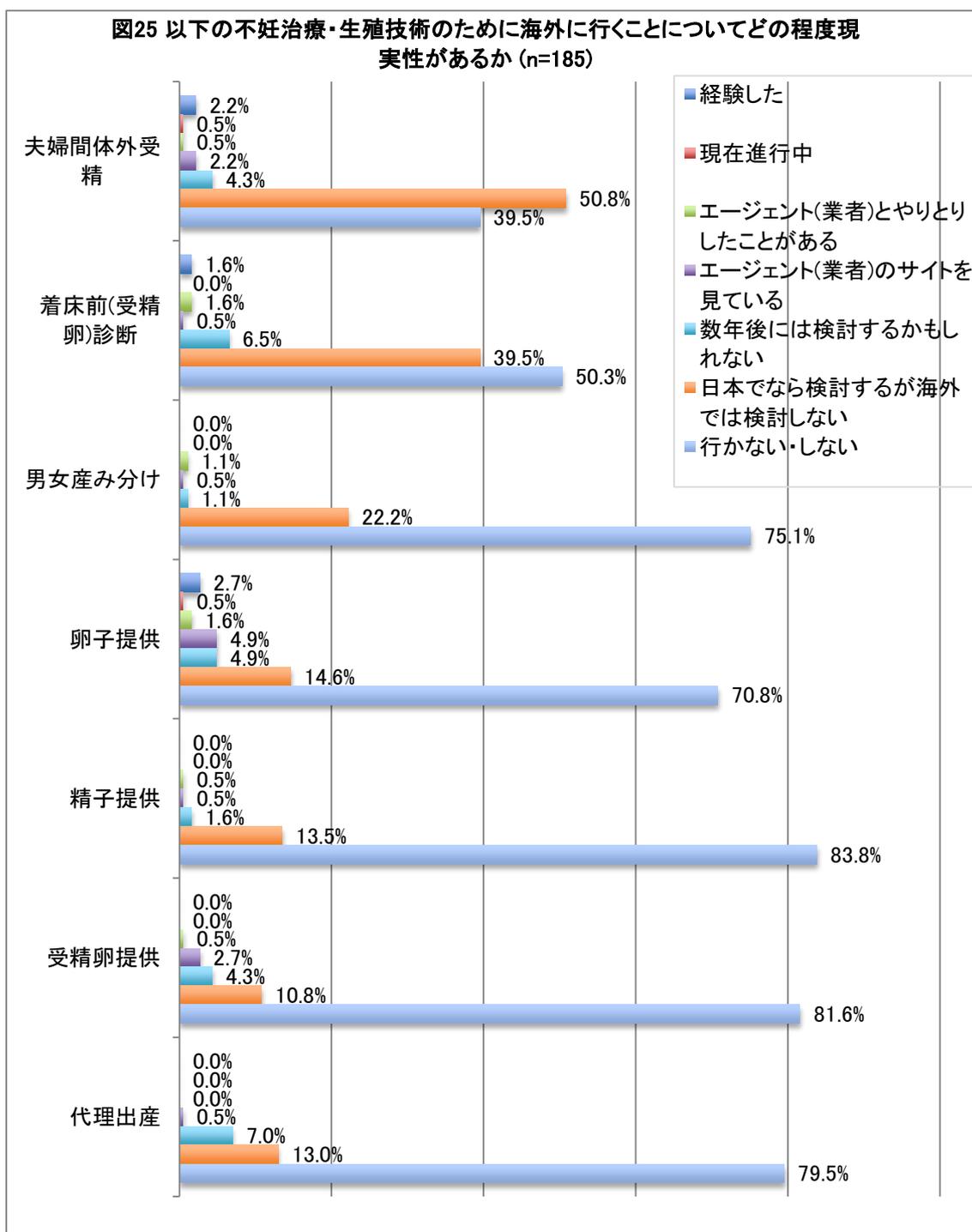
夫婦間体外受精、着床前(受精卵)診断、男女産み分け、卵子提供、精子提供、受精卵提供、代理出産という技術の利用に際し、海外渡航について「行く」か「行かないか」について二者択一で聞いた。海外渡航については、どの技術についても「行かない」と回答している者が7~8割を占めた。

「行く」と回答したのは、「夫婦間体外受精」で25.8%、「着床前(受精卵)診断」で19.9%、「男女産み分け」で16.1%、「卵子提供」で29.6%、「精子提供」で17.7%、「受精卵提供」で24.2%、「代理出産」で28.0%だった。先の第三者の関与する生殖補助医療に関する質問にたいする回答と同様に、海外での卵子提供を検討する人々は海外での精子提供を検討する人々よりも多かった。代理出産で「行く」と回答した人の割合も多く、4人に1人以上の割合にのぼった(図24)。



海外渡航をどの程度現実的選択肢として考えているのかについて、より具体的な選択肢を提示して回答してもらった。夫婦間体外受精、着床前(受精卵)診断、卵子提供について、「既に関験した」という回答者が数名いたが、実際に海外で経験したり、実施に向けて具体的な行動をとったりしている回答者はごく少数にとどまった。また、夫婦間体外受精では、「日本でなら検討する」という回答が「行かない・しない」という回答を上回った。これにたいし、精子提供、卵子提供、受精卵提供、代理出産などの第三者生殖に関する項目ではいずれも「行かない・しない」という回答が7～8割を占め、「日本でなら検討する」(10～15%)を大きく上回った。これは、第三者生殖では、渡航治療以前に、国内でも検討しないとする回答者が多いという上記の結果と照応する。

ただし、「夫婦間体外受精」、「着床前(受精卵)診断」、「卵子提供」、「受精卵提供」「代理出産」の項目では、4～7%の者が「数年後に検討するかもしれない」と回答した。このことから、少数とはいえ、渡航生殖を現実的な選択肢として捉えている回答者がいたことが注目される(図25)。



(b) 渡航先の選択肢

渡航生殖を選択肢に含める人々は、渡航先としてどの国を検討するのであろうか？ 夫婦間体外受精、着床前(受精卵)診断、男女産み分け、卵子提供、精子提供、受精卵提供、代理出産というそれぞれの技術の利用に際し、検討する検討先について複数回答で聞い

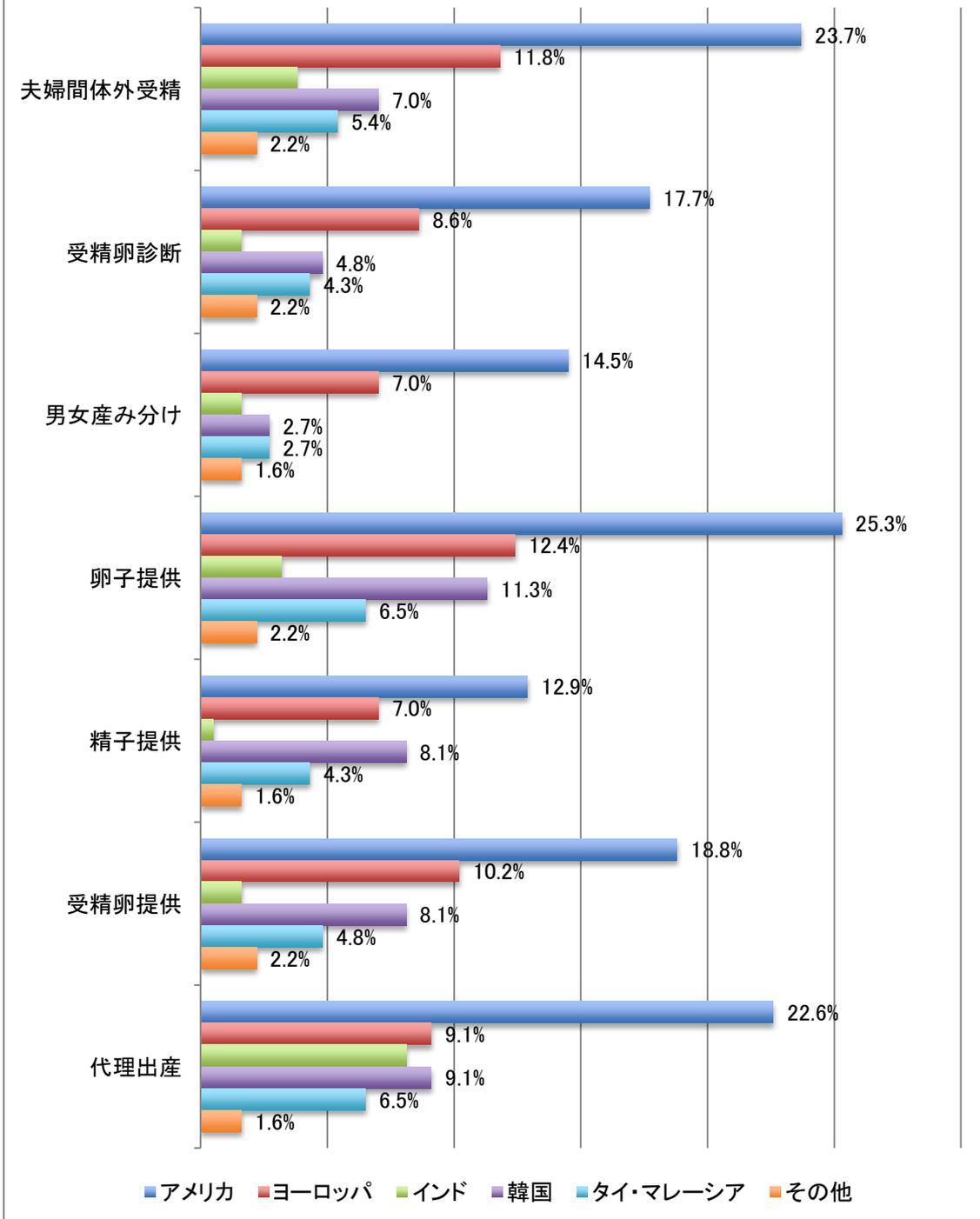
た。

すべての項目で、アメリカという回答が最も多かった。アメリカで第三者生殖が盛んに実施されていることが広範に認知されていることが伺える。著名人が卵子提供や代理出産をアメリカで行った事例が、大々的に報道されてきたこともこうした広い認知度の要因と考えられる。次いでヨーロッパを挙げる回答者が多かった。代理出産については、ヨーロッパの多くの国々で実施が困難であり、卵子提供についても、日系・アジア系ドナーから卵子の提供を受けるのは困難と思われる。¹にもかかわらずヨーロッパを挙げる人々が多かったのは、「欧米＝医療先進国」という一般的イメージの影響もあるかもしれない。

一方で、夫婦間体外受精や精子提供や卵子提供などの項目では、韓国という選択肢が相対的に多くなっている点が着目される。距離的に近く利用しやすいこと、日本人に近いアジア系の人からの配偶子の提供を望むという意識もあると思われる。また、過去には韓国での卵子提供を斡旋する業者に関する報道があったことも関係しているかもしれない。さらに、代理出産については他の項目に比べてインドを挙げた者が多く、報道やインターネットでの情報をつうじて、インドにおける代理出産に関する認知も不妊当事者たちの間で高まっていると言えるかもしれない（図 26）。

¹ 近年ではロシアやウクライナ等で行われているという報告はあるが、こうしたことがどれだけ回答者に念頭におかれているかは疑問である。

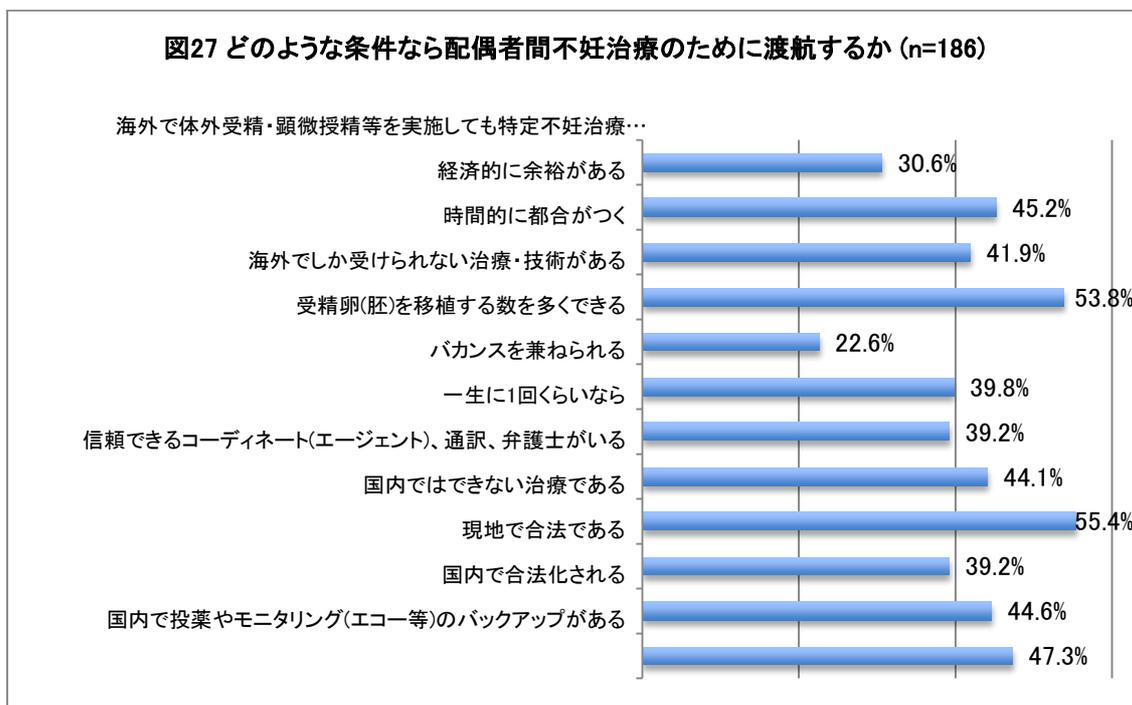
図26 以下の生殖技術を実施するために行ってみても良い渡航先(「行かない」
 以外は複数回答可) (n=186)



(c) 渡航治療の条件について

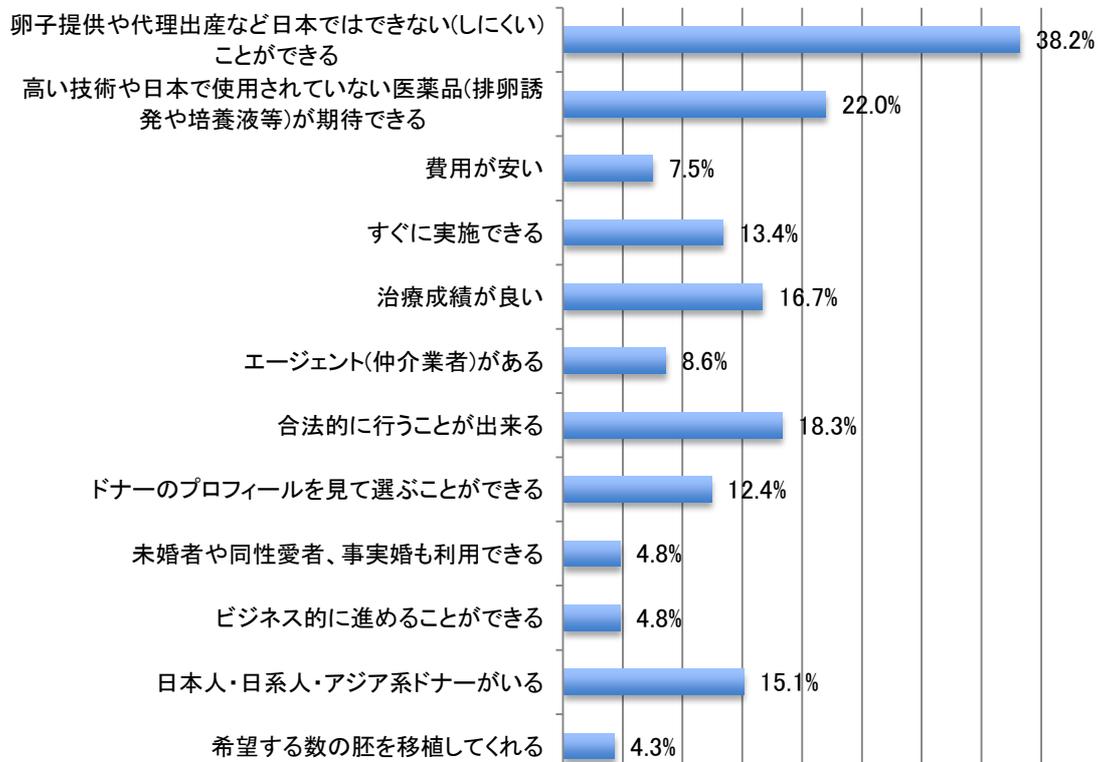
配偶者間不妊治療のために渡航する条件について複数回答で聞いた。「海外でしか受けられない治療・技術がある」(53.8%)、「国内ではできない治療である」(55.4%)という

回答がほぼ同数で最も多かった。その他、治療後のバックアップ体制、経済的・法的要因、現地でのバックアップや時間的余裕などを挙げる回答者がいずれも4割を超えていた（図27）。



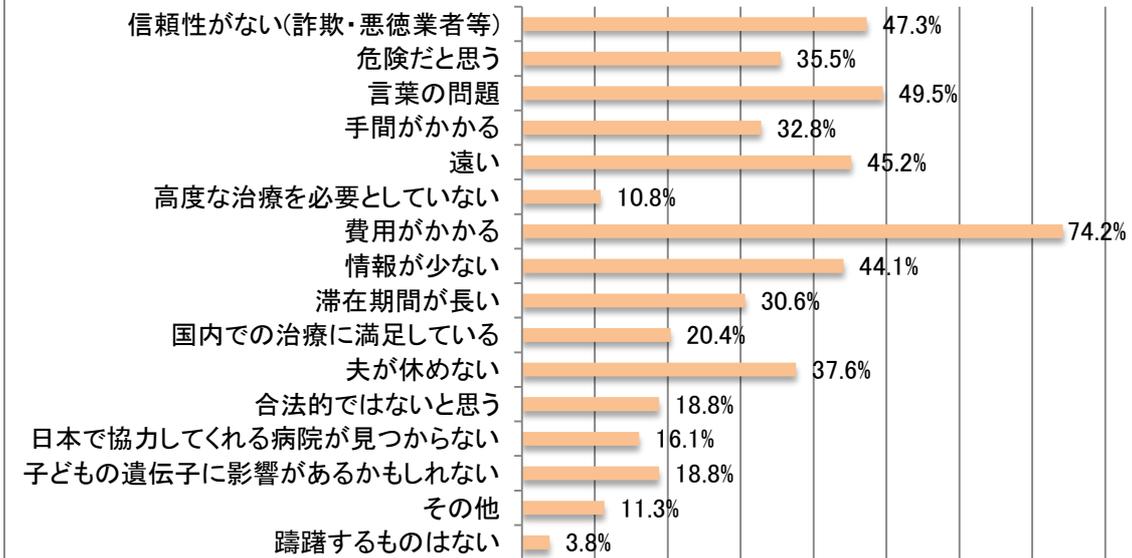
また、渡航治療に関心をもつ理由および躊躇する理由について複数回答で聞いた。関心をもつ理由としては、「卵子提供や代理出産など日本ではできない(しにくい)ことができる」(38.2%)が、次いで「高い技術や日本で使用されていない医薬品(排卵誘発や培養液等)が期待できる」(22.0%)、「合法的に行える」(18.3%)などの項目で回答が多かった。配偶者間の不妊治療に限らず、海外では利用できる生殖補助技術が国内では利用が困難であるという状況が渡航治療に関心をもつ理由として挙げられた（図28）。

図28 渡航治療に関心を持つ理由(「関心はない」以外複数回答可)(n=186)



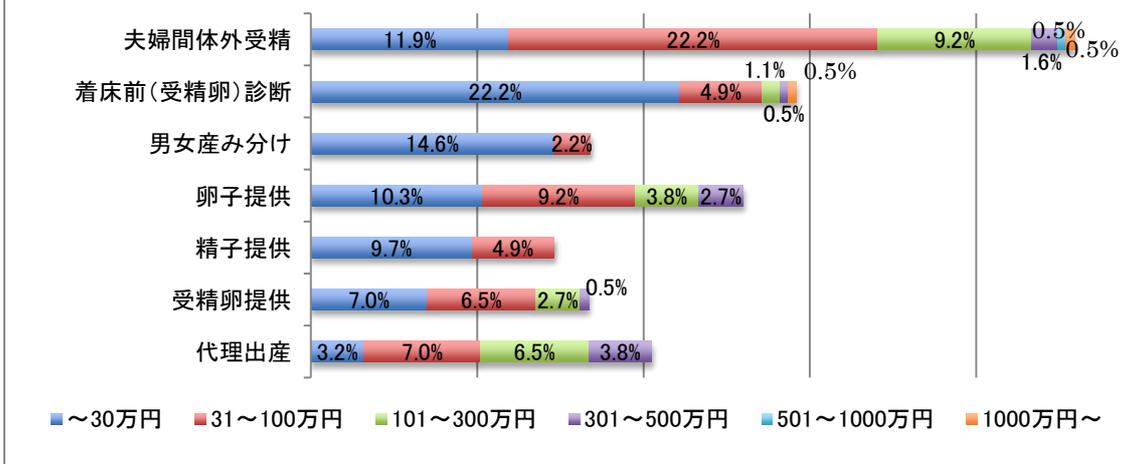
「躊躇する理由」で最も多かったのは「費用がかかる」(74.2%)だった。その他では、「言葉の問題」(49.5%)、「遠い」(45.2%)、「情報が少ない」(44.1%)などの、コミュニケーションや移動にともなう障壁にまつわる回答が多かった。また、「信頼性がない(詐欺・悪徳業者等)」(47.3%)を挙げた回答者も多かった。「躊躇するものはない」と答えた回答者は約4%しかいなかった。多くの不妊治療当事者は、たとえ渡航治療に関心をもったとしてもその実現には、さまざまな障壁や困難があるという現状が伺える結果となった(図29)。

図29 渡航治療に躊躇する理由(「躊躇するものはない」以外複数回答可)
(n=186)



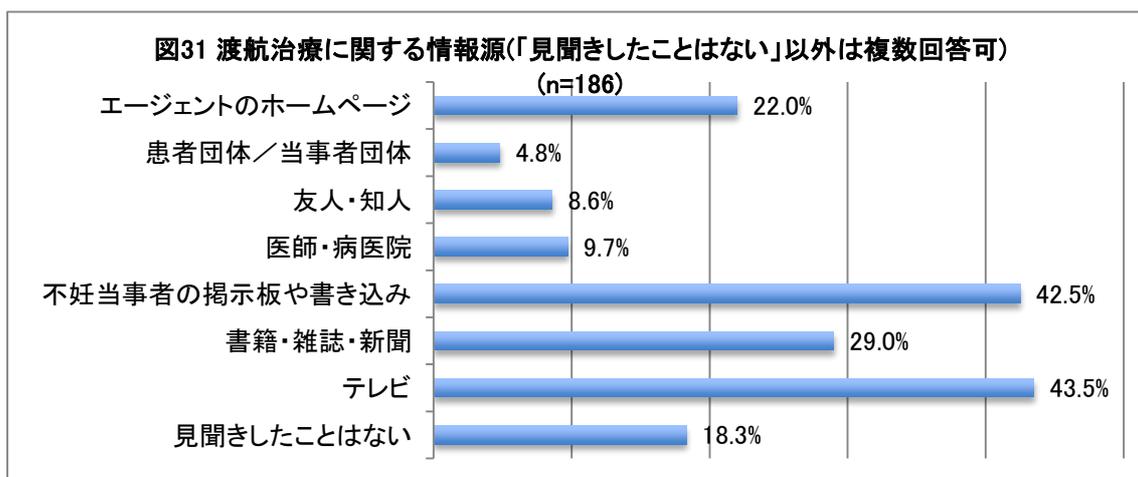
また、どの程度の金額であれば渡航治療を検討するかについて聞いた。どの技術についても安価(30万円以下、31～100万円)ならば検討すると考える層が一定数おり、とくに「海外での夫婦間体外受精」、「着床前(受精卵)診断」で多かった。また、卵子提供や代理出産に関しては、「301～500万円」と回答する人々が少数であるが存在した(「卵子提供」5名、「代理出産」7名)(図30)。

図30 総額がいくらなら渡航治療を検討するか(n=185)



(d) 渡航生殖に関する情報源

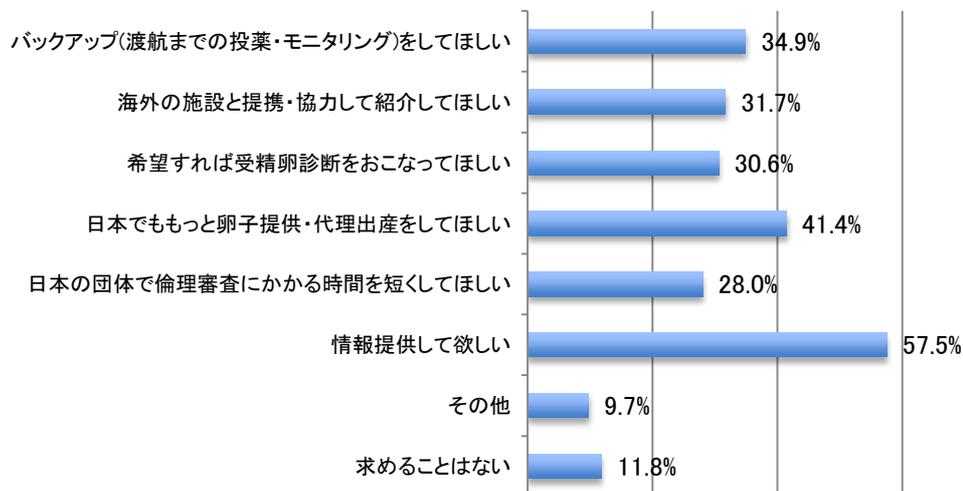
渡航治療に関する情報源について複数回答で聞いた。「テレビ」(43.5%)と「不妊当事者の掲示板や書き込み」(42.5%)の2つが突出して多く、ついで「書籍・雑誌・新聞」(29.0%)、「エージェントのホームページ」(22.0%)、「医師・病院」(9.7%)と続いた。「不妊当事者の掲示板や書き込み」という回答が多いことについては、そもそも本調査が不妊治療当事者の掲示板を運営するホームページを介した web 調査であるという点を念頭におく必要がある(図31)。



(e) 病院や医師への要望

また、第三者生殖・渡航生殖に関して、病院と医師に求めることがあるかどうかについて尋ねた。「情報提供して欲しい」(57.5%)、「バックアップ(渡航までの投薬・モニタリング)をしてほしい」(34.9%)、「海外の施設と提携・協力して紹介してほしい」(31.7%)など、国内の医師や医療機関に海外での不妊治療のサポートを求める回答があった。その一方で、「日本でももっと卵子提供・代理出産をしてほしい」(41.4%)「希望すれば受精卵診断をおこなってほしい」(30.6%)「日本の団体で倫理審査にかかる時間を短くしてほしい」(28.0%)など、国内でより生殖医療技術を利用しやすい環境整備を求める声も多かった(図32)。

図32 日本の病医院と医師に求めること(「求めることはない」以外複数回答可)
(n=186)



7. 生殖補助医療のルールや仕組みに関する見解

(a) 現行の生殖医療における法や制度、組織に関する認知と理解

不妊治療当事者は、生殖補助技術に関する法や制度についてどの程度認知しているのかを調べるために、次のそれぞれの文章に対して正しいと考えるかどうか聞いた。

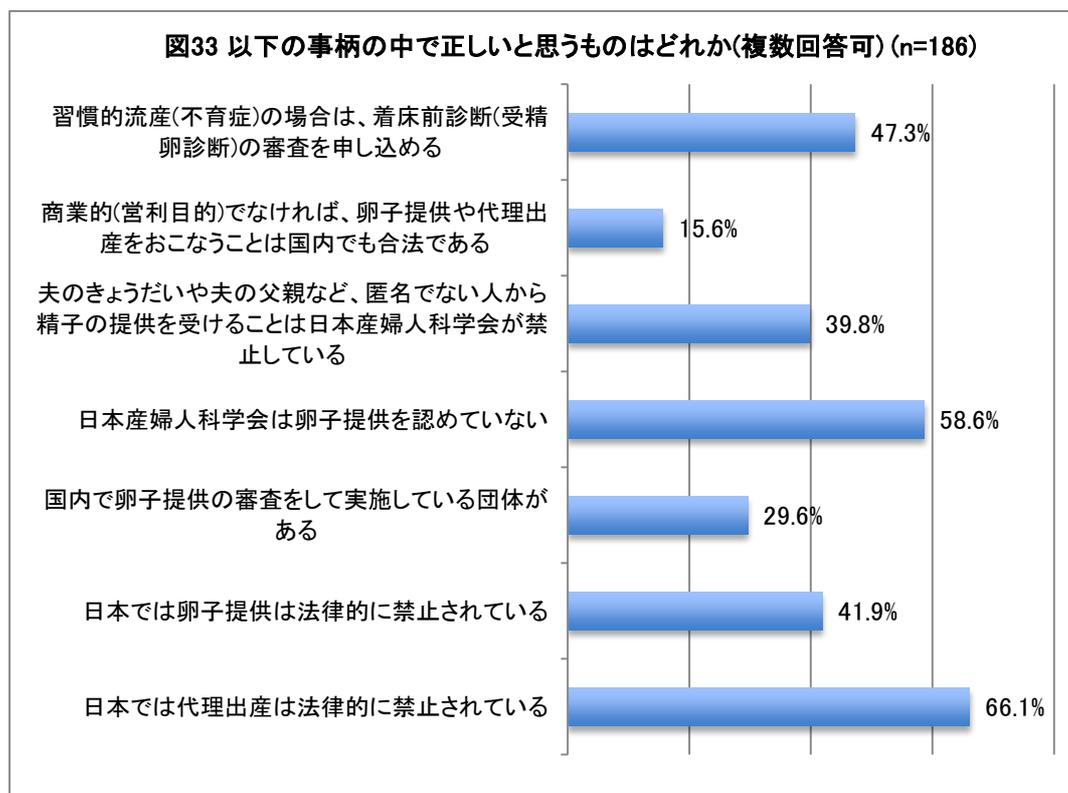
(1)「日本では代理出産は法律で禁止されている(=正しくない)」、(2)「日本では卵子提供は法律的に禁止されている(=正しくない)」、(3)「国内で卵子提供の審査をして実施している団体がある(=正しい)」、(4)「日本産婦人科学会は卵子提供を認めていない(=正しくない)」、(5)「夫のきょうだいや夫の父親など、匿名でない人から精子の提供を受けることは日本産婦人科学会が禁止している(=正しい)」、(6)「商業的(営利目的)でなければ、卵子提供や代理出産を行うことは国内でも合法である(=正しい)」、(7)「習慣性流産(不育症)の場合は、直床前診断(受精卵診断)の審査を申し込める(=正しくない)」、(8)「代理出産で子どもをもっても、遺伝的につながっていれば戸籍上は実子(嫡出子)になる(=正しくない)」。

「正しい」と回答した者は、「日本では代理出産は法律的に禁止されている」(66.1%)、「日本産婦人科学会は卵子提供を認めていない」(58.6%)「日本では卵子提供は法律的に禁止されている」(41.9%)などの項目において多かった。「夫のきょうだいや夫の父親など、匿名でない人から精子の提供を受けることは日本産婦人科学会が禁止している」については、「正しい」とする回答は39.8%にとどまった。「国内で卵子提供の審査をして実施している団体がある」についても29.6%に留まり、日本生殖補助医療標準化機関

(JISART)等の存在にたいする認知度が不妊治療当事者のあいだでさえ低い現状が伺える結果となった。また、生殖技術の利用には相応の理由が必要であるという意識からか、「習慣的流産(不育症)の場合は、着床前診断(受精卵診断)の審査を申し込める」という質問については、47.3%の回答者が正しいと思うと回答した。

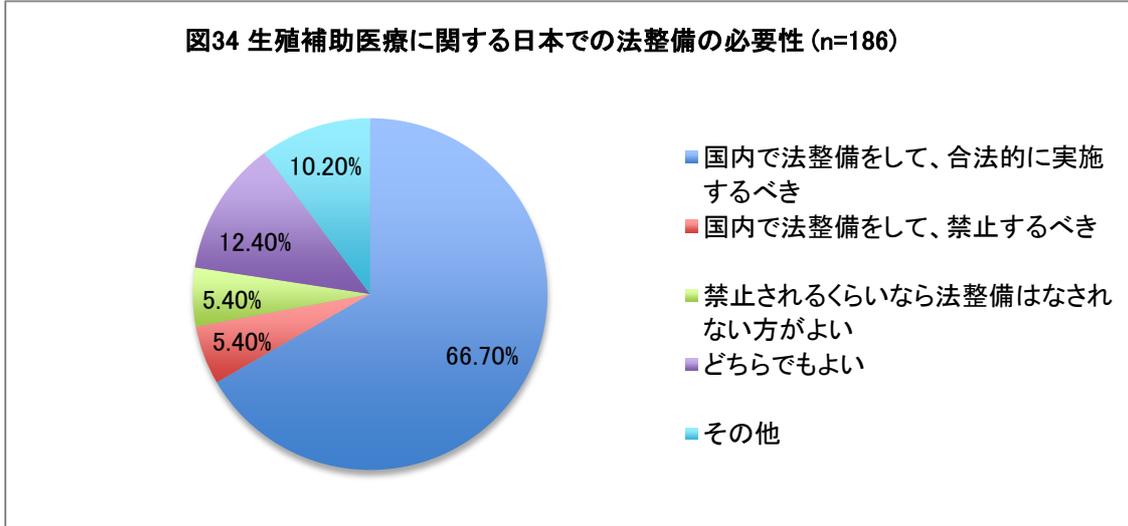
その一方で、「代理出産で子をもっても、遺伝的につながっていれば、戸籍上は実子(嫡出子)になる」という合法性や法的関係の成立についての記載は、いずれも正しいと考える回答者が10.8%にすぎなかった。これは、代理出産をとおして生まれた子どもの法的地位について争われた裁判(向井亜紀・高田延彦夫妻のケースなど)がメディアで大きく報道されたことも関係しているものと思われる。

概して、日本での生殖医療において何が合法で・非合法であるのか、何が制度上可能もしくは不可能であるのかについて、不妊治療当事者のあいださえでも、明確に認知されていない状況が伺える。これは、学会のガイドラインによる自主規制にのみ依存し、生殖医療の明確なルールづくりを怠ってきたため、生殖補助医療の仕組みが極めて不明瞭なものとなっている現状を映し出している(図33)。

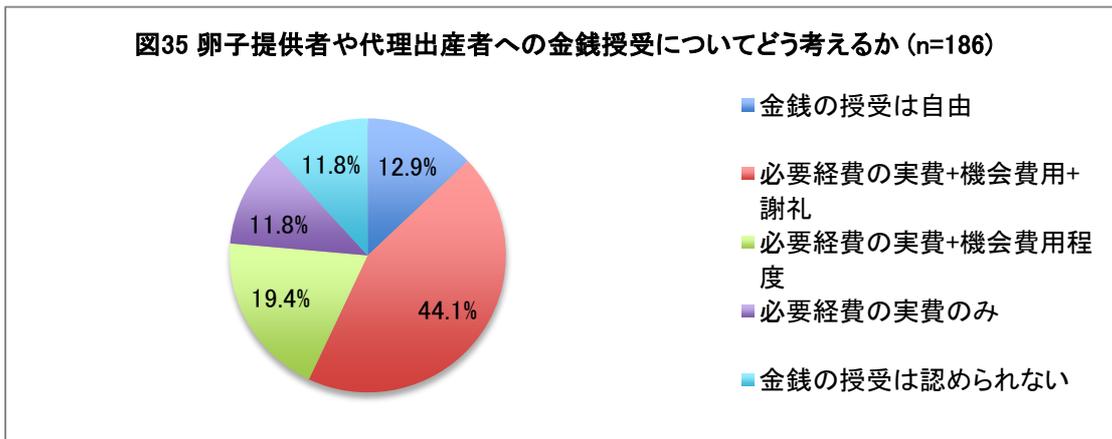


(b) 法整備について

生殖補助医療に関する日本での法整備については、7割近くの回答者が、国内で法整備をして合法的に実施すべきとした(66.7%) (図 34)。



卵子提供者・代理出産者の金銭授受について、どのようなルールを定めるのが望ましいのかを聞いた。「金銭の授受は自由」(12.9%)「金銭の授受は認められない」(11.8%)はともに少数にとどまった。必要経費の実費および機会費用の補償に一定程度の謝礼を上乗せした金額を支払うことが望ましいという回答が 44.1%と最も多かった。「必要経費の実費+機会費用程度」(19.4%)もしくは「必要経費の実費のみ」(11.8%)と 31.2%の回答者が、何らかの補償をすることが望ましい(補償することを認めるべき)と回答した (図 35)。



(c) 子どもの出自を知る権利

生まれた子の出自を知る権利としてどの国・地域の法制度が妥当と考えるかについて、

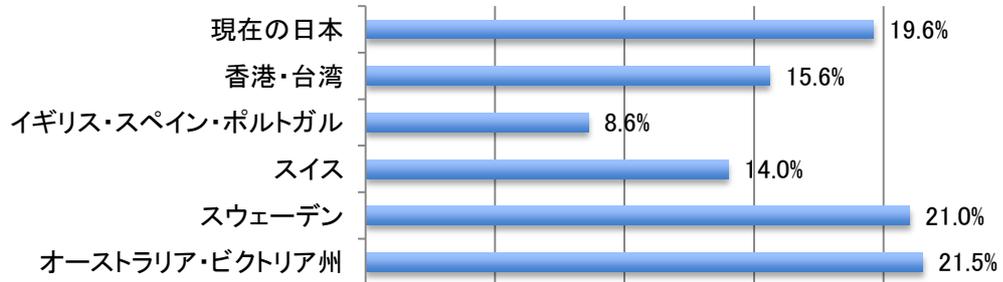
6つの国・地域を例としてあげて聞いた(法制度の詳細は表 19 を参照)。

表 19 各制度の概要

オーストラリア・ビクトリア州	提供者は、個人が特定される情報の開示に同意する者で、記録は公的機関に管理され、 <u>子ども、提供者、子どもの親(法律上の親)、子どもの子孫</u> に対して <u>個人情報が開示される</u> 。親が告知していなくても、一定年齢以上になれば、出生記録によって子どもは出自を知ることができる。子どもが同意すれば提供者も情報を知ることができる。
スウェーデン	子どもがある程度の年齢に達した時に、公的機関に自らが非配偶者間人工授精によって <u>生まれたかどうかを照会</u> ことができ、 <u>個人が特定される情報を含む個人情報</u> を知ることができる。
スイス	子どもが請求すれば、 <u>個人が特定される情報を含む個人情報</u> を知ることが出来る。
イギリス・スペイン・ポルトガル	提供者の情報のうち、 <u>個人を特定できる情報は開示せず</u> 、 <u>身体的特徴など一部の情報</u> を知ることができる。
香港・台湾	提供者の情報は開示されないが、 <u>結婚しようとする相手と血縁関係があるかどうか記録管理機関に照会</u> することができる。
現在の日本	<u>提供者の情報は開示されず</u> 、 <u>どの期間も個人情報</u> を永続的に管理する義務がない。

その中で、突出して支持する回答者が多い選択肢はなく、見解が分かれることになった。そのなかでも、情報開示の範囲が広く、情報開示を受ける対象が多い地域、「オーストラリア・ビクトリア州」と「スウェーデン」を選択した人がもっとも多く、それぞれ、21.5%、21.0%にのぼり、より情報開示の範囲の狭い「スイス」(14.0%)「イギリス・スペイン・ポルトガル」(8.6%)を上回った。他方で、「香港・台湾」(15.6%)、「現行の日本」(19.6%)とする回答も多かった。全体として、情報開示と秘匿に2分化される傾向が見られた(図 36)。

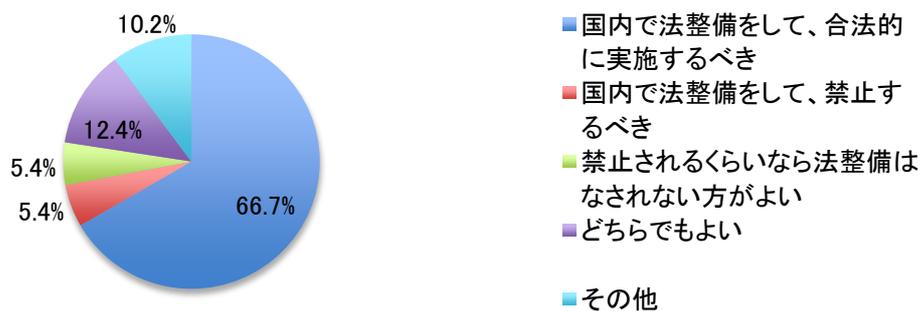
図36 生まれた子どもの出自を知る権利に関して、どの国・地域の制度が妥当と考えるか (n=186)



(d) 渡航治療に関する一般的な態度、見解

渡航治療に関する一般的な態度・見解について複数回答で聞いた。約半数の者が「海外ではなく、国内で実施できるようにするべき」(47.8%)「国内でできないのなら海外でもやむを得ない」(48.9%)、「個人の自由」(53.2%)と回答をした。「海外での治療は全面的に禁止すべき」という回答は 3.2%とごく少数にとどまった。このように、海外では利用可能な生殖補助技術が国内では利用が困難であるという現状にたいして、海外での生殖補助医療技術を容認する（もしくは容認せざるをえない）という姿勢が目立った。それとともに、国内でより生殖医療技術を利用しやすい環境の整備を望む回答者も多かった（図 37）。

図37 生殖補助医療に関する日本での法整備の必要性 (n=186)



(f) 海外での卵子提供・代理出産によって生まれた子どもの法的地位について

海外での卵子提供、代理出産の場合の生まれた子どもの法的地位について、どのようなものが望ましいか選択肢を提示して尋ねた（図 38,39）。

卵子提供を受けた場合は分娩した日本人女性、代理出産を依頼した場合は依頼した日

本女性と、あくまでも依頼した側、すなわち親になる意思を持つ者が親になるべきであるとする回答者が6割を超えた。一方で分からないと回答しているものも、卵子提供で31.2%、代理出産で26.9%にのぼっている。自身の願望はともかく、双方のケースとも難しい問題を孕んでいることを認識している回答者も少なくないことが伺える。

図38 海外で卵子提供を依頼する場合、生まれた子どもの法的地位はどうあるべき (n=186)

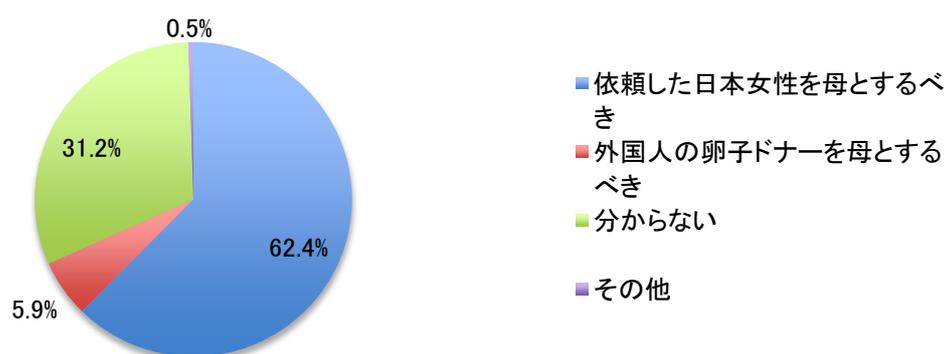
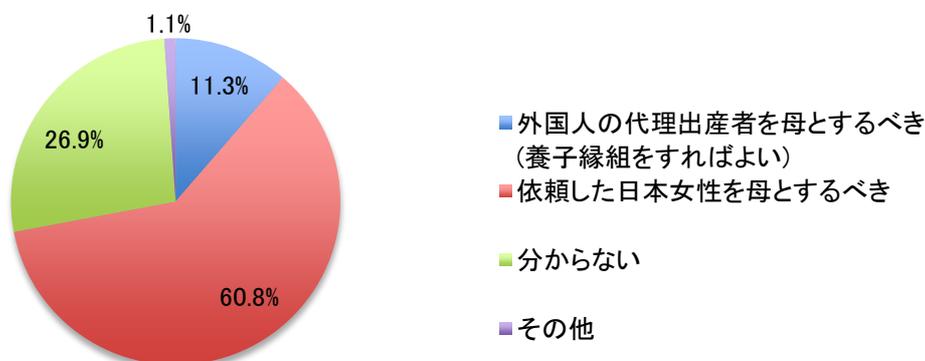


図39 海外で代理出産を依頼する場合、生まれた子どもの法的地位はどうあるべき (n=186)



8. 考察

以上、不妊治療の当事者および経験者を対象としたアンケート調査の結果を提示した。以下では、本調査によって明らかになった点を整理し、今後法整備を含めた我が国の生殖医療のルールや仕組みづくりに関してどのようなことが示唆されるのかを検討する。

1. 本調査の結果から、生殖補助技術が多くの不妊治療当事者に不妊治療の現実的な選択肢として捉えられていることが明らかになった。とくに、配偶者間の人工授精や体外

受精といった生殖補助技術は不妊治療の有力な選択肢として捉えられている現状が伺える。また、顕微授精や凍結保存された受精卵の融解後の移植などの治療についても多くの患者が経験していた。ただし、回答者のなかには世帯収入が1000万円以上の所得者層が一定数いるなど、不妊治療に対する費用が大きく負担となっていることが伺われた。自由記述でも、経済的負担にまつわる記述や助成金増額にたいする要望などが多く見られた。

2. 体外受精の浸透に比べると、精子、卵子などの配偶子の提供や代理出産を経験した患者は極めて少数にとどまった。本調査の結果からは、第三者が関わる生殖技術は国内での利用が極めて難しいという制度的要因以外に、不妊当事者の側にもその実施に対して心理的な障壁が影響していると示唆された。配偶者間の体外受精や人工授精などの不妊治療の延長線上に精子提供や卵子提供、代理出産を捉える不妊治療当事者は一定数存在するものの、全体としてみると、人工授精や体外受精などの生殖補助技術それ自体の利用に比して、配偶子提供や代理出産など第三者の関与する生殖補助医療の実施に対しては、多くの回答者がなんらかの理由で躊躇したり抵抗感をもったりしている状況が伺われた。

3. また調査の結果、精子提供と卵子提供を比較すると不妊当事者に興味深い意識の差があることが明らかになった。ドナーへの負担や手続きの侵襲性などへの考慮から、精子提供は許容しても卵子提供は禁じている国々も多い。しかし、不妊当事者の立場からは、精子提供よりも卵子提供のほうが不妊治療の選択肢として重要であることが示唆された。その要因として考えられるのは次のような事柄である。(1)アンケートに回答した女性が自分側に不妊の主な原因があると考えおり（もしくはそのように診断されており）、このことが、卵子提供についてより真剣に考慮することを促している可能性がある。(2)第三者の配偶子を用いるインセンティブとしては、「夫の遺伝子を残すため」のほうが「妻の遺伝子を残すため」よりも強いという可能性もある。(3)また、精子提供の場合は、夫側は出生児との「つながり」を見出しにくいのに対し、卵子提供の場合、妻側には妊娠・出産をつうじて出生児との「つながり」を見出せるということが、心理的障壁を低くしている可能性もあげられる。

4. このような第三者の関与する生殖補助医療をめぐる現状を考えれば、渡航による不妊治療の実施も、極めて少数の不妊治療当事者によって実施されているにすぎないことも至極当然である。さらにこのアンケートの結果は、渡航による不妊治療には、不妊当事者を躊躇させる様々な障壁一言語的、地理的、経済的—があることを示している。し

かし、とくに卵子提供を受けたり、代理出産を依頼することを検討するとした回答者に限ってみれば、国内外に限らずこれらの技術の利用を考慮する人々と国内で実施可能な場合にのみ考慮する人々に二分された。また、自らは渡航治療を検討しない人々のあいだでも、渡航治療については、国内で実施が困難である場合は渡航をやむを得ない、あるいは個人の自由として容認する姿勢が目立った。国内外での生殖医療ビジネスの展開次第によっては、渡航による不妊治療が子をもつための選択としてより広い不妊治療当事者のあいだに浸透していく可能性もある。

5. 現状、日本では生殖補助医療の規制は、日本産婦人科学会の会告による専門家の自主規制に委ねられている。こうした状況は、日本国内で何が法的に許容されており、何が許容されていないのか、何が状況的に可能であり、何が不可能もしくは困難なのか、こうした事柄に対して不妊当事者の間にさえ混乱があることが示唆された。現在の生殖補助医療の在り方が当事者にとっても極めて分かりづらいものとなっている。

6. また、このアンケート調査からは、配偶者間の人工授精や体外受精によって子を持ってない場合、多くの不妊カップルが第三者の関与する生殖医療よりも養子縁組や里子を優先的に考慮することが示唆された。生殖補助医療にまつわる議論は、とかくさまざまな生殖補助技術の利用がどの程度許容されるべきか、という問題に議論が集中する傾向がある。しかし、不妊治療を受けるカップルは自らの悩みの解決を生殖補助医療にのみ求めているとは限らない。養子縁組や里子などの制度の整備と拡充など、生殖補助技術の利用以外の仕方で子の養育に携わり、家族を形成する道を用意していくことが重要であると考えられる。

9. 結論

このアンケート調査から、生殖補助医療については法整備を含めて、社会的に明確なルールを定めつつ、透明かつ公正な仕組みに取り組む必要性が確認された。渡航による不妊治療や第三者の関与する生殖補助医療の実施に関しては、未だ十分知られていないことが多い。グローバル化の時代にあって、海外での生殖医療ビジネスの展開によって、我が国の不妊当事者の渡航治療に対する態度が変化し、そのことが我が国の生殖医療にさまざまな問題を投げかけることもありうる。今後の生殖補助医療に関するルールや仕組みづくりの際にも、このことは念頭におかなければならないだろう。また、不妊当事者の生殖補助医療に対する意識や態度、ニーズをより正確に把握することは、社会的に望ましい生殖医療の在り方についての議論を深化させることにもつながるだろう。

このアンケート調査は、ベビカムや babycom などの団体が運営するウェブサイトをつうじて実施された。したがって、アンケートに回答した人々は、日常的にこれらのウェブサイトを利用して不妊治療に関する情報を収集している人々が主である。したがって、本調査で得られた結果が、国内の不妊治療当事者全体に妥当するかどうかについては留保が必要である。本調査の結果は、より広範な不妊当事者を対象とした調査によってさらに検証する必要がある。

自由記述

【渡航治療について：賛成または容認】

○私は海外に行けるほど時間的にも経済的にも余裕がありませんがどうしても子どもを授かりたい方は、やられたらよいと思います。(24 歳、治療歴 1 年)

○渡航治療には、経済的、時間的に負担がかかる。それをしてでも子供がほしいと望むのだから、個人の自由だと思う。(32 歳、治療歴 2 年 2 ヶ月)

○言葉の壁やら費用やら情報がとても少なく躊躇してしまうのが現状です。もし国内でどうしても身体的に無理な状況であれば、まず子供を作るのをあきらめると思います。ですが、情報提供なり不妊治療に対して情報公開がオープンであれば渡航もやむをえないと思います（他に治療法等見つかるかもしれません）。私は第三者の力を借りてまでとは考えておりませんが、(婚姻夫婦オンリーで)技術が日本より海外の方がいいのであれば、渡航治療は受けてみたいと思います。(35 歳、治療歴 5 年 4 ヶ月)

○日本の医療は高度であると信じているし、国内で認められない治療を海外に行つてまで受けることに抵抗がある。しかし、個人の自由だとは思っている。(38 歳、治療歴 2 ヶ月)

○実際に国内で体外受精をして子供を授かりました。が、海外での卵子精子提供、代理出産がもし必要な体だったとしても第三者が関わる治療は受けたいとは思いません。そこまでして子供が欲しいとは思いませんし、だったら養子縁組を選びます。ただし、こうした考えは個人の自由であり、渡航しての第三者が入つての治療を否定しようとは思いません。(35 歳、治療歴 7 年)

○国内では行えない治療が海外で行えるのなら、個人の自由で受ければよいと思う。それぞれのラ

イフスタイルに合わせて、選択肢が広がるよう、国内外問わず、治療を受けられればもっといいのですが・・・。(35 歳、治療歴 7 ヶ月)

○日本では合法でないのも、個人の自由だと感じる。が、早く国内でも治療できるよう積極的にすすめてほしい！！(36 歳、治療歴 5 年 8 ヶ月)

○日本で子どもの欲しい人がいて、日本でできないのなら、海外でする手もあるとも思うが、そこまでして子どもがほしいのか？と少し思ってしまう。養子つて手もあるし、私には 4 人の子がいて、3 人目は不妊症で病院へ通つて無事に 3 人目も産めて、4 人目は排卵でないはずなのに授かったラッキーな？タイプなのでそれを思うと、不妊で悩む方が納得した上での治療ができるのなら、進んで応援したい。(29 歳、治療歴 10 年)

○それしか選択肢がない夫婦にとっては海外での治療もやむをえないが、費用などの問題で、海外で治療を受けたくても諦めざるを得ない人が大多数だと思う。(34 歳、治療歴 6 年 8 ヶ月)

○私はそこまでする気はないが、国内で同じように治療ができないなら、渡航もやむをえないと思う。(41 歳、治療歴 9 年)

○どうしても欲しい人は、選択肢に入れてもいいかもしれません。(39 歳、治療歴なし)

○個人の自由。(37歳、治療歴5年)

○日本でもっと前向きな活動があれば、海外へ行くことにはならないと思う。なるべくなら家族間で提供しあい、解決に結びつけられると血縁問題や人種問題も多少減るのでは。選択肢としてはいけなとするのはおかしい。(37歳、治療歴5年)

【渡航治療について：反対】

○かかる費用が莫大になりそう。(32歳、治療歴6年)

○コミュニケーションが難しい。(35歳、治療歴1年)

○お金がないと出来ない感じがします。(32歳、治療歴6ヶ月)

○不妊治療は、経済的のもですが、精神的の負担も大きいものです。海外に慣れた人であればいいのかもしれませんが、国内治療以上に負担が大きくなるのはよくないと思います。もっと国内での理解度が上がり、渡航治療をしないで国内で十分な治療ができるようになることを望みます。(37歳、治療歴4年1ヶ月)

○安全性が一番心配。何かあったら取り返しがつかない。(33歳、治療歴1年)

○渡航治療をするにあたって夫婦のすれ違いがこわい。日本でおこなっている治療を受けることさえすれ違うのに、離婚の引き金になったりしないか、と思う。(37歳、治療歴8年)

○できるだけ自然に思っているのに、治療ということそのものにまず抵抗がある。妊婦に囲まれる婦人科受診だけでも精神的に苦痛なのに、そのために海外へとなると憂鬱になりそう。ただ興味はあるのでテレビなどで扱っていたら見ると思う。(34歳、治療歴2年6ヶ月)

○どの面からみても余裕がないと出来ないと思う。(35歳、治療歴6ヶ月)

○日本で治療ができるようにするべきだと思います。(38歳、治療歴2年)

○夫婦間に関しては、病院をきちんと選べば国内で十分な治療ができると思います。(42歳、治療歴2年2ヶ月)

○子供が切実に必要だと考える人には何をしても自由だと思うが、私個人としてはそこまでしなくても・・・と思う。(27歳、治療歴1年)

○金銭的な問題や夫の仕事が休めないこと、行くために周りの人に治療について打ち明けることを考えると、渡航することは、考えられない。(33歳、治療歴2年6ヶ月)

○不妊治療を始めたばかりなので渡航治療は自分と置き換えて考えられない。渡航治療は個人の自由だと思うが自分自身は国内での体外まででいいと思っている。(38歳、治療歴4ヶ月)

○周囲にそういう方がいないので、現実感に乏しいが、「どうしても欲しい」理由はなにか？それより大事なことはたくさんあるのではないかと人事ながらに思ってしまう。(39歳、治療歴1年6ヶ月)

○卵子(精子)提供や受精卵提供となると、私自身もそうなのですが、日本国内には海外渡航しての不妊治療に偏見があると思います。アジア圏での卵子提供があるといっても、顔立ちが日本人離れしていると、家族が愛情を持って育てても、将来、様々な理由で子供が傷つくことになると思います。子供を望んでいても、国内での治療で無理な場合はあきらめる。私たち夫婦にとっては、日本でダメなら子供のいない人生を考える区切りにもなると思っています。(31歳、治療歴2年3ヶ月)

○夫婦になって、自分たちのつながりを確認できるものが唯一子供であると思っている。しかし、子供が欲しいという親のエゴで、何でも手段を選ばずに、というのは、賛成できない。子供がいない生活というものがどの程度将来に影響するかわからないが、そういう選択肢もあるということをもっと考えてほしいと思う。(41歳、治療歴4年1ヶ月)

○国内で夫婦間治療をしたが、何しろ時間がかかる。この時間がかかることを海外でやるとなると費用・時間が莫大になるのは想像できるので現実的ではない気がする。(36歳、治療歴10年)

○渡航治療に関しては、私自身も怖いし検討もしていません。私の場合、国内での不妊治療も旦那からの許可が出ないし、費用もないので、卵胞確認、タイミング法、排卵誘発剤のみしかしていません。それも、旦那からみれば不妊治療に入るらしく快くは思っていないみたいです。不妊がどれだけ女性にとってストレスになるか男性にもっと知ってもらいたいです。(41歳、治療歴2年6ヶ月)

○考えたことがない。(29歳、治療歴なし)

○経済的、時間的に余裕がないとできない。夫婦間の絆と子どもが欲しいという気持ちがよほど強くないと決断する事は難しいと思う。(40歳、治療歴6年6ヶ月)

○そこまでは考えられません。(35歳、治療歴2年)

○不妊には苦しんだけれど、渡航してまでや第3者が関わることまでしてほしいとは思わなかった。国内の治療でできなければあきらめていたと思います。(34歳、治療歴2年)

○個人的な考えと、私自身の知識不足が前提ですが・・・何をすることも言葉の壁があること、渡航しても失敗に終わったら・・・など日本で高度治療を受けて結果が出なくてもかなりのストレスになり絶望感もあるのに、渡航までして頑張っても結果が出なかったときの疲労とその落胆など・・・私には耐えられない。(36歳、治療歴6ヶ月)

【卵子提供について：賛成・容認】

○野田聖子さんのケースのように、母体が超高齢では妊娠できたとしても、結局子どもが十分に育たない可能性が高いので、卵子提供を受ける年齢は44歳程度までなど上限を決めるべきです。(35歳、治療歴6ヶ月)

○とても難しい問題だと思います。どうしても、子どもを授かりたい人は、方法を用いればいいと思います。私は、そこまではしないとします。夫婦ふたりで暮らしていきたいです。(24歳、治療歴1年)

○子供を切実にほしいと考えている人には必要な技術・手段だと思う。(27歳、治療歴1年)

○個人の自由。(32歳、治療歴6年)

○それが出来る時代に生まれたことに感謝して、あとは個人の自由だと思う。(32歳、治療歴2年2ヶ月)

○当事者間の合意がある卵子提供は全く問題ないと思います。(31歳、治療歴2年3ヶ月)

○血縁関係にあるもの同士の卵子提供は、遺伝子的にあっても良いと思う。(40歳、治療歴6年6ヶ月)

○どうしてもそれしか方法がない夫婦にとって卵子提供は有効な手段だと思う。卵子提供だと提供者にもそれほど負担はないし、トラブルも少ないような気がする。代理母出産は代理母にも身体的精神的金銭的にもかなり負担がかかるのでトラブルもおきやすいと思う。(34歳、治療歴6年8ヶ月)

○自分はそこまでして子供をほしいとは思わないが、他の人がそれを望んでいるのならばそうすることに反対するつもりはない。(34歳、治療歴2年)

○命を人工的に生み出す技術は、不自然さを最初から抱えている。選択する夫婦と誕生する子供、それぞれに生涯に渡るバックアップやケアが必要だと思う。それと、日本では血縁を重視する反面非血縁を軽んじる傾向がある。そのような偏見は是正されるべきだが、長い時間がかかると思う。(35歳、治療歴なし)

○基本的には親族間で対応すべき問題かと思う。(37歳、治療歴5年)

○自分自身はここまでしたくない。ただ個人の自由なので自分の卵子がためになるのなら提供することはいい。(38歳、治療歴4ヶ月)

【卵子提供について：反対】

○卵子提供は、夫婦のうち、夫の遺伝子を受け継ぐ子供を妻が出産する構図だが、妻の遺伝子は受け継がないのに「出産」の事実が残る。夫婦の自己満足によって子供が出産されるように思える。血縁を重視するあまりの行為に思える。(35歳、治療歴なし)

○卵子提供は個人的には考えられない。(43歳、治療歴7年10ヶ月)

○まだ身近な現実として思わない。芸能人やお金持ちの人がやる治療の延長のかんじ。(37歳、治療歴8年)

○卵子提供は私自身考えない。代理出産は…旦那さんがどうしてもほしいとなれば考えるかも。(33歳、治療歴3年5ヶ月)

○自分とパートナーの2人の遺伝子を持つ子だけしか愛せないわけではないかも知れないけれど、どうしても第三者からの提供を「受けてまで・・・」という考えになってしまう。(36歳、治療歴6ヶ月)

○夫はバツイチで、前妻が2人の子を引き取って育てています。不妊に悩んでいたころ、卵子提供ってどんな感じだろうと何となく考えてみたことがありますが、私は、自分の卵子と夫の精子から育った子供が欲しいのであって、そうでないなら子供はいらない、と思いました。私にとっては、卵子提供を受けることとはつまり、夫の精子と第3者の卵子から成長した子供＝夫の前妻の子。ただし、前妻の子に対しては少なからず愛情を感じられますが、同様に第3者の卵子から成長した子＝夫が浮気して出来た子供、に対して愛情を感じられるかと考えるとそれは無理・・・と思います。(39歳、治療歴3年5ヶ月)

○卵子提供以上の治療は国内では出来ずに海外になりますが、費用が高すぎて一般のサラリーマン家庭には不可能に近いと思っています。つまり、子どもをあきらめる道しかないのです。現実的ではありません。(42歳、治療歴2年2ヶ月)

○当事者として、可能性があるならば手を尽くしたいという気持ちはすごく分かります。しかし、技術が進歩することで、治療の辞めどきが分からなくなり、経済的・精神的・肉体的にかなりの負担がかかってしまうということもあります。(26歳、治療歴3年)

○卵子提供は自分の子ではないので、それならば養子を考える。出産はそれなりのリスクがあるので。(35歳、治療歴1年)

【代理出産について：賛成・容認】

○お金を払ってやっていることなので依頼した人が母になるべきだと思います。(28歳、治療歴9ヶ月)

○当事者になるまでは、否定的な考えでしたが、今では、できるならあらゆる可能生を試したいと思うようになりました。ただ金銭面で限界は感じています。(26歳、治療歴3年)

○代理出産は、妻になりかわり、別の女性に妊娠・出産を委託する形態だが、遺伝により夫婦の子供と証明できるのだから、奨励されてもいいと思う。出産の痛みを伴わなくても、父親は父親なのだから、母にだけ「出産」の事実が必要、とはおかしい理屈だと思う。(35歳、治療歴なし)

○代理出産は割り切れる人同士の意思で行う分にはいいと思う。(43歳、治療歴7年10ヶ月)

○個人の自由だし、お互いが話し合っただした結論ならそれでいいとおもう。(29歳、治療歴なし)

○代理出産は、個人的には必要性を感じませんが、子供を希望する夫婦にとって、子供を持つことができる手段の一つとして、今後重要になってくると思います。(31歳、治療歴2年3ヶ月)

○代理出産も日本でできるなら、すごく良いと思う。義姉がもし必要だと言うのなら提供することも。代理で産めと言え、考えないこともない。(29歳、治療歴10年)

○代理出産をする女性が金銭目的の場合は賛成できない。(40歳、治療歴6年6ヶ月)

○とても難しい問題だとは思いますが、やはり依頼した方が母とすべきだと思います。代理出産者は本当に善意のある方でないと務まらないと思います。(35歳、治療歴2年)

○やりすぎかな、とも思いますが、本当に欲しい人には朗報だと思います。(39歳、治療歴なし)

○本当に欲しい人ならどんな手段であっても欲しいと思うので、可能な人にはチャンスを与えて欲しい。スタイルを保つため、出産が漠然と怖いから代理出産したいとかって言い出さなければいいのには思う。(43歳、治療歴7年10ヶ月)

○子供を欲しいと思う気持ちの強さはひとそれぞれ。でも どうしても欲しいのにできないのは辛い事なので 卵子提供、代理出産という選択肢があってもよいと思います。ただし生まれた子供や本人たちが精神的に辛い目にあわないように・・・と思います。提供して下さる側の体も心配です。(40歳、治療歴2年)

○妊娠・出産できない母体にとって、欲しい！子供が欲しい！という懇願からすると、上記について、賛成です。もっと、国内で情報収集できる機会や場所が増え、実際に日本での実施が合法化になることを願います。(36歳、治療歴5年8ヶ月)

【代理出産について：賛成・容認】

○代理出産のほうが、大人も子供自身も、複雑な思いを抱えそう (34歳、治療歴なし)

○やはり世間の目が気になるので抵抗を感じる。(28歳、治療歴2年)

○何かトラブルがあった時に他人のせいにはしないと分かっている、心の中では葛藤が生まれると思う。(39歳、治療歴1年6ヶ月)

○日本では色々と法にひっかかる部分もありますし、もし渡航して子供がみごと海外でできたとしても、将来子供が戸籍うんぬんでイヤな思いをさせてしまったりは子供に申し訳なく思うので、(正直第三者まで使って子供を作るというのはエゴだと思っています)代理はないです。たとえ法が改訂したとしても。(35歳、治療歴5年4ヶ月)

○自分自身は「子どもは授かり物」であり、なかなかできないとはいえやはり自分の子は自分で産みたいと思う。子どもができないのなら、子どもをもたない人生の楽しみ方を前向きに考えたいと思う。なので、他人に代わりに生んでもらうということは、正直考えられない。でも、「それでもどうしても欲しい」と強く希望する夫婦の気持ちもわからないでもない(37歳、治療歴なし)

○代理出産は依頼されても受けない。やはり情が出てしまうと思うから。(38歳、治療歴4ヶ月)

○とても難しい。できれば全員が自然に授かりたいと願っている。それでもどうしても授かることができない場合、卵子の提供ならまだしも代理出産した子を本当に愛せるのか疑問がある。(33歳、治療歴1年)

【国内でのシステム作りが必要：サポートが必要】

○お金が無いので助成してもらいたいです。(28歳、治療歴9ヶ月)

○もっと支援をすべき(31歳、治療歴3年)

○もっと日本も普及していいと思う。ただ、少子化と叫ばれている割には子供を望む不妊治療において全体的に不親切に感じる。現在、卵子提供や代理出産という＝海外でしか受けられないイメージ。海外＝お金と時間がかかる＝言葉の問題＝本当に信頼出来るか等、踏み込みたい思いや事情があったとしても、とっつき辛い。TV等で見かけてもこれらが可能であるのは裕福な一部の人だけのように思う。(36歳、治療歴10年)

○結婚してなかなか子供を授からないと、周りがなんとも色々聞いてきてストレスを感じる事もあるとおもう。実際自分がそうでした。夫婦ではいつでも妊娠出来ると思っていたがなかなか妊娠に至らず、不妊治療で薬付けになり本来の妊娠機能を低下させることもある。今の世の中、なかなか結婚しない等社会的問題も多い中、高校の保健体育などで、妊娠を望んでも出産までに至らない事もある事を教えて欲しい。望む夫婦がなかなか授からないと、精神的にも辛く、また、身近で出産や妊娠した人を見るのがとても辛く我慢なかなか人には言えない事であり、理解者が少ない。夫婦間の治療は、お互いの意見が同じ方向性にあるのならば、将来の子供にきちんと話す事ができ、親としても責任を果たせれば良いかも知れない。(44歳、治療歴6年2ヶ月)

【国内でのシステム作りが必要：法整備が必要】

○提供する側もされる側も、精神的・肉体的負担がかかることなので、簡単に考えることはできないと思う。また、国内での法整備があまりなされていない中、行うことにも抵抗がある。(35歳、治療歴7ヶ月)

○契約として結ばれている以上、提供者や出産した方は親権の主張はすべきでないし、法律でも依頼者を優先すべきと思う。それだけの覚悟や法整備ができないのであれば、実施すべきでない。(37歳、治療歴1年6ヶ月)

○私自信はそこまではしないと今は思うが、実際に必要にせまられる状況になればわからないだろう。日本でももっと積極的に議論を行い、前向きに取り組むべき。(41歳、治療歴9年)

○渡航治療は費用もかかり、裕福な家庭に限定されたものと感じる。少子化対策として国内の法律や制度をもっと整備し、子供を希望する人に可能性を広げてほしい。国内で受けるにしてもまだまだ費用が高い。費用の助成は少子化対策において子供手当よりずっと効果的だと思う。(37歳、治療歴1年6ヶ月)

○日本に戸籍制度がある以上、国内での法整備が整わないと行ってはいけないと思う。産みたいという親の気持ちよりも生まれてくる子の将来の気持ちを考えるべき。(42歳、治療歴2年2ヶ月)

○純粹に、不妊治療をしていて、子供が欲しいと願う夫婦がどうしてもその手段でしか子供を持

つことができなければ、それはある程度の代償があったうえで行うのには何の問題もないと思うが、その部分をオープンに自由にしてしまうのは、法的規制の未熟なうちは危険だと思う。親のエゴのみの医者の子、容姿端麗な子、スポーツ選手、など特定の子供が欲しいために、そういう遺伝子を選び好みで行うことは、人間としてどうかと思うが、提供者の個人情報が開示されている場合、そっちのほうに偏ってしまうことは免れない。貧しい国の人が進進国へお金のために卵子提供や代理出産をするという話も聞いたことがあるし、金銭目的の提供もどこまでが良くてどこまでが悪いのかもわからない。売春婦の売買のようにそういうことが闇で行われなくても限らないし、未知の部分が多すぎて、現実的に考えることができない。そこまでして、子供が欲しいとも思わない。私は不妊治療をしているが、まだ子供を授かったことが無く、この考えは、もしかしたら、出産や育児を体験したら簡単に代わってしまう気がする。(41歳、治療歴4年1ヶ月)

【第三者が関わる生殖技術に反対：子どもとの血縁関係が重要】

- 日本で行われている高度生殖医療で子供を授かれなければ、二人で生きていく道を選ぶ予定なので、選択肢になかった。あくまでも、二人の子供がほしいので、それで第三者の方の体に負担を負わせてまで…は考えていない。(35歳、治療歴2年8ヶ月)
- 血のつながりが一番大事だと思います(38歳、治療歴2年)
- 卵子提供、代理出産も抵抗があります。やはり子供ができた時、子供がこれから考えるだろう自分自身のことや将来を考えてしまいます。卵子提供は自分の子供ではない(遺伝子的に)と必ずどこかで思ってしまう。代理出産は、2人の子供ではありますが、自分のお腹で育てて成長していく過程が自分自身も母性に目覚めるきっかけにもなりますし、人のお腹ではどうしても実感がわかないと思うんです。また代理出産してくれた方に母性が目覚め、間際になって手放さないってことになったら厄介です。(35歳、治療歴5年4ヶ月)
- 私は渡航治療に限らず、第三者が関わる治療が日本でできるようになったとしても利用しない。現時点で夫婦共に問題が見つかっていないから言えることだが、やはり子供を授かるなら、自分たちの卵と精子でないと…とっている。(34歳、治療歴10ヶ月)
- 人それぞれの考え方があるので とやかく言うことではないが 私自身はするつもりはない。(37歳、治療歴4年1ヶ月)
- 子どもは夫婦2人の間にできるものであってほしいので、他人の卵子を使うことや、他人に生んでもらうということには非常に抵抗がある。なので、自分自身のこととしてはまったく現実味をもって考えられない。(37歳、治療歴なし)
- 個々の考え方の問題だとは思いますが、私個人的には「考えられない」。「子供が欲しい」と望んでもやはり「授かりもの」という意識が高い。(34歳、治療歴10ヶ月)
- 身体的に、妊娠・出産ができないのであれば、きっぱり子どもはあきらめる。夫婦2人の生活を考えればよい。ただ、否定しているわけではない。私ならば受けることはない。(38歳、治療歴2ヶ月)

【第三者が関わる生殖技術に反対：その他の反対意見】

- 今は母になることが出来たので、気持ちが落ち着いているが、治療をしている時は、いつも神様をお願いしていました。海外での治療や卵子提供、代理出産は私の中で現実的ではないので選択支にはありませんでしたが、現実として方法が残されていない方にとっては、大きな悩みであると思います。実際に治療を経験しても、やはりこういったことは受け入れ難く感じるので、普通に病院で受けられるようになることや、後々の血縁関係、子どもへの伝え方など、難しいことが多く感じます。(33歳、2年6ヶ月)
- 複雑な問題がある(40歳、治療歴なし)
- 第三者が関わる治療は受けたとは思いません。出産はとても負担の大きい行為です。第三者をお願いしてまで子供が欲しいとは思いませんし、また夫婦以外の子供も欲しいとは思いません。それでもどうしても子供が欲しければ、養子縁組を選びます。子供を育てることだけが人生だとは思いませんし、夫婦間で解決できない場合、子供は諦めます。(35歳、治療歴7年)
- 不妊に悩む当人にとってはワラにもすがりたい思いがあり、そのため冷静に判断できなく

っているというのも否定できないと思います。6年前に内視鏡手術で不妊治療手術をして、半年後に第一子を自然妊娠、第2子も自然妊娠しました。現在、第3子を妊娠中で、8月5日に出産予定日を控えています。かつて、子供が欲しい一心で辛い治療に耐えた日々を思い出すと、お金と時間がある人しか海外で治療を受けられないなんて不公平だ！と腹立たしい気持ちしか感じませんでしたが、今、倫理的な問題などを考える余裕が出来てきて、生殖医療に関する本もいろいろ読んでみると、あまりに自然に反した「治療」に対しては反発というか違和感を覚えます。今なら、技術的な選択肢は増えたとしても、不自然と思われる不妊治療（特に、第3者の卵子または精子の提供を受けること）は選択しないと思います。（39歳、治療歴3年5ヶ月）

○お金がかかることだと思います。（32歳、治療歴6ヶ月）

○芸能人・国会議員がやっているが、お金のない人にはできない事。（44歳、治療歴6年2ヶ月）

II. 海外渡航治療と第三者が関わる生殖技術に対する 不妊患者への調査

島菌洋介・日比野由利

1. 目的

我が国では、晩婚化、晩産化を背景とした不妊当事者の高齢化から、不妊カップルが年々増加している。これに伴い体外受精をはじめとした生殖補助技術(Assisted reproductive technology, ART)を利用した不妊治療も急速に普及してきた。しかし、生殖補助技術の社会的浸透にもかかわらず、生殖補助技術の利用をめぐる公的なルールと仕組みづくりは進んでこなかった。生殖補助医療の規制は法的拘束力を欠いた産婦人科学会の会告に長らく委ねられてきた。専門家集団の自己規制に依拠する生殖補助医療の規制には明らかに限界があり、また公平性や透明性などの問題も指摘されうる。

こうした中で注目されるのは、生殖補助医療をめぐる二つの動向である。一つは、日本生殖医療標準化機構(JIART)が設立されるなど、独自の審査基準にもとづき、第三者の関与する生殖補助医療を実施する医療機関が出てきたことである。今後、卵子提供にもとづく体外受精の実施件数も増えていく可能性がある。もう一つは、卵子提供を受けたり、代理出産を依頼したりするために、不妊当事者が海外に渡航するケースが報告されており、今後その増加も予測する声もある。とくに、近年のアジアにおける生殖医療ビジネスの急速な展開は、今後渡航治療の増加をもたらすかもしれない。

精子提供や卵子提供、代理出産など、第三者の関与する生殖医療(Third-party reproduction)は、さまざまな法的・倫理的・社会的問題(legal, ethical social issues)を投げかける。これらの技術は、配偶子や生殖能力の商品化へと道を開くものであり、優生思想の助長につながる面ももっている。子を産みたい、持ちたいという夫婦・カップルの欲求だけではなく、生まれてくる子の福祉に配慮した公正な仕組みとルールづくりが求められている。

生殖補助医療の在り方をめぐる公共的議論においてもこうした生殖医療における現場の動向は十分に配慮される必要があるだろう。しかし、渡航による不妊治療に関しては、メディアの報道による断片的な情報はあるものの、その実態に関しては不明な部分が多い。また、第三者の関与する生殖補助医療に対する不妊当事者のニーズを的確に把

握したうえで制度設計がなされなければならない。しかし、第三者の関わる生殖補助医療や海外での不妊治療に対する不妊当事者の意識や態度については十分に明らかになっているとは言い難い。

そこで、我々は、第三者の関与する生殖補助医療や海外での不妊治療について、不妊当事者の意識を明らかにすることを目的とし、不妊患者および不妊治療の経験者を対象とした調査を行ってきた。既に、第三者の関与する生殖補助医療に対する医療従事者の意識に関するアンケート調査および不妊患者や不妊治療の経験者に対する web アンケート調査を実施してきた。ただし、後者の調査は、手法やサンプル数などの限界もあった。

この調査では、その成果を踏まえ、不妊患者（現在進行中で不妊治療を受けている人）を対象を限定し、より多くのサンプル数に対してアンケート調査を実施した。以下では、まず、方法と回答者の基本属性について記述する。次に、(1) 不妊患者の第三者の関与する生殖補助医療と(2) 海外での不妊治療（渡航治療）に対する不妊当事者の意識や態度について、調査の結果を報告する。そして、これらの事がとくに第三者の関与する生殖補助医療に対する法整備をめぐる論議にどのような含意をもつのかについて論及する。

2. 方法

全国の特定不妊治療費助成施設のうち、自記式調査票の配布協力に対する許諾を得られた 65 病院を通して、2011 年 11 月中旬に合計 7,309 票を送付し、3 月上旬までの間に 2,007 票を患者個人から返送されてきた後納郵便で回収した（回収率 27%）。本調査は、金沢大学医の倫理委員会の審査を経た上で行われた。なお、無回答が一定数存在したので単純集計の合計は必ずしも 100%にはなっていない。

3. 回答者の基本属性および不妊治療歴

回答者の主な基本属性は表 1 にまとめた。

表 1 回答者の基本属性

1. 性別	女性：98.6% 男性：0.7%（無回答：0.7%）
2. 年齢	平均：36.3±4.9 歳、（範囲：23～51）
3. 配偶者の有無	あり：95.5% なし：1.8%（無回答：2.6%）
4. 初婚年齢	平均：29.9±4.8 歳（範囲：16～49）
5. 離別・死別・再婚経験	あり：7.5% なし：90.4%（無回答：2.1%）
6. 子どもの数	0 人：70.0% 1 人：19.6% 2 人：1.5% 3 人：0.2% 無回答：8.6%
7. 最終学歴(退学含む)	中学校：0.4% 高等学校：17.5% 短大・高専：42.3% 大学・大学院：39.2% 無回答：0.6%
8. 仕事の有無	あり：60.7% なし：36.4%（無回答：2.9%）
9. 世帯の収入	～300 万円未満：6.2% 300 万円以上～500 万円未満：27.5% 500 万円以上～700 万円未満：25.6% 700 万円以上～1,000 万円未満：23.3% 1,000 万円以上～2,000 万円未満：10.3% 2,000 万円以上：2.1% 無回答：5.0%
10. 妊娠（化学的妊娠を含む）	1 回：30.1% 2 回：12.7% 3 回：5.2%、4～7 回：4%
11. 流産・異常妊娠処置	なし：58.7% 1 回：21.2% 2 回：7.1% 3 回：1.8% 4 回：0.8%、5 回：0.1% 6 回：0.2%
12. 人工妊娠中絶の経験	なし：75.5%、1 回：8.3% 2 回：1.4% 3 回：0.3% 4 回：0.0%

回答者のほとんどが女性であった。回答者の平均年齢は 36.3 歳であり、初婚年齢は 29.9 歳だった。既に指摘されている晩婚化・晩産化に伴う不妊患者の高齢化の実情が確認される結果となった。また、既に子どもを有している回答者も 21.3%（うち 1 人が 19.6%）おり、二人目（以降）の出産のために不妊治療を利用している人も多かった。

表 2 回答者の不妊治療歴

不妊治療期間	1年未満: 21.8% 1年以上2年未満: 21.7% 2年以上3年未満 16.0% 3年以上4年未満: 13.7% 4年以上5年未満: 8.1% 5年以上: 13.9% 非有効回答: 4.7%
不妊原因として考えられるもの	加齢(卵子・卵巣因子): 38.4% 子宮・頸管因子: 33.3% 卵管因子: 25.8% 卵子・卵巣因子: 25.2% 不育因子: 11.2% 早発閉経: 2.7% 精子因子: 25.6% 性交因子: 11.2% その他: 13.8% 非有効回答: 3.2%
そのうち主な原因と思われるもの	加齢(卵子・卵巣因子): 22.3% 子宮頸管因子: 16.4% 卵管因子: 12.6% 卵子・卵巣因子: 12.6% 不育因子: 2.1% 早発閉経: 0.8% 精子因子: 11.6% 性交因子: 3.4% その他: 10.4% 非有効回答: 10.1%
タイミング療法の実施年数	1年未満: 21.1% 1年以上2年未満: 27.8% 2年以上3年未満: 14.3% 3年以上5年未満: 9.0% 5年以上: 5.0% 非有効回答: 22.8%
配偶者間人工授精の実施回数	0回: 11.3% 1~3回: 20.4% 4~5回: 11.5% 6~10回: 14.4% 11回以上: 2.0% 非有効回答: 40.5%
配偶者間の体外受精回数(採卵チャレンジを含む)	0回: 11.7% 1~3回: 29.8% 4~5回: 6.5% 6~10回: 6.3% 11回以上: 3.0% 非有効回答: 42.6%
顕微授精の回数(採卵チャレンジを含む)	1回: 13.8% 1~3回: 12.4% 4~5回: 5.0% 6~20回まで: 5.0% 21回以上: 0.1%
凍結受精卵の融解後の移植(ETのみ)	1回: 8.9% 2~3回: 9.5% 4~5回: 2.6% 6~10回: 2.0% 11~20回: 0.3%
精子吸入採取(TESE・MESA・TESA・PESA等)	1回: 1.3% 2回: 0.3% 3~10回: 0.4%

回答者の不妊治療歴については、表2にまとめた。表から伺えるように、人工授精や体外受精不妊当事者は多かった。これに対し第三者生殖医療については、実際に経験し

たとする回答は少数にとどまった。精子提供を伴う人工授精（AID）については計 40 名が実施したことがあると回答した。「1～5 回」が 18 名、「6～10 回」が 10 名、「11～15 回」が 2 名、「16～30 回」が 10 名だった。卵子提供を伴う体外受精を実施したことがあると回答した不妊患者はさらに少なく計 3 名のみだった。実施した回数については、「1 回」、「3 回」、「4 回」だった。また、代理出産について「依頼した」と答えた不妊患者が 1 名のみであるが存在した。

4. 第三者の関与する生殖補助技術の利用およびその可能性について

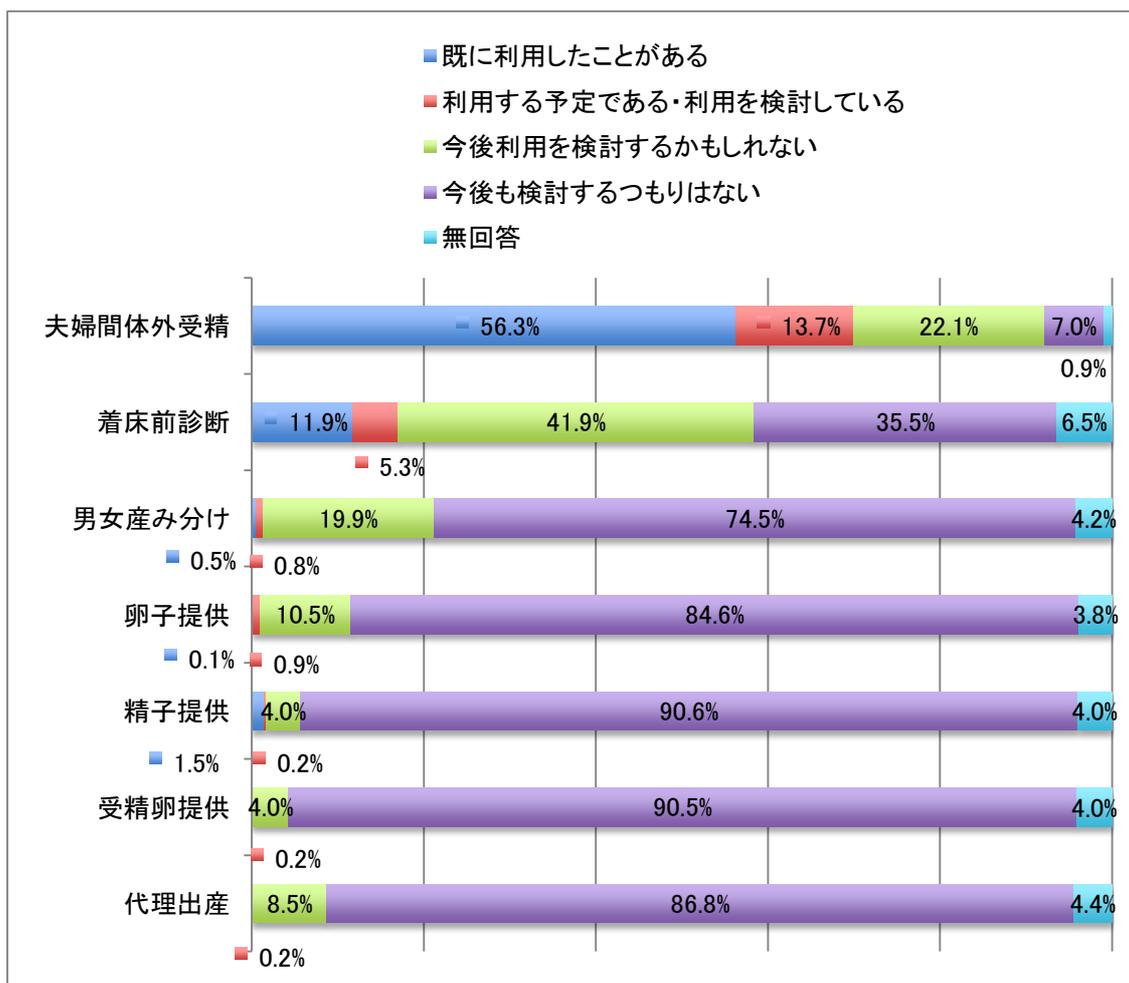
「夫婦間体外受精」、「着床前（受精卵）診断」、「男女産み分け」、「卵子提供」、「精子提供」、「受精卵提供」、「代理出産」のそれぞれの生殖補助技術について、(i)「既に利用したことがある」、(ii)「利用する予定である」、(iii)「現在利用を検討している」、(iv)「今後利用を検討するかもしれない」、(v)「今後も利用を検討するつもりはない」の 5 つの選択肢を示し、利用の経験および可能性についての回答を求めた。(ii)と(iii)については該当する回答の数が少なかったため、これらの回答を一つのカテゴリーにまとめ集計し、「利用する予定である／現在利用を検討している」として表示した（以下、渡航不妊治療についても同様である（図 1））。

夫婦間体外受精については、56.3%の回答者が「既に利用したことがある」と答えた。また、「利用する予定である／現在、利用を検討している」と回答した人が 13.7%おり、「今後、利用を検討するかもしれない」とした人も 22.1%いた。これに対し「今後も検討するつもりはない」と回答した人は 7.0%のみにとどまった。「既に利用したことがある」と回答した人と今後利用する可能性があると回答した人々（「利用する予定である／現在、利用を検討している」および「今後、利用を検討するかもしれない」と回答した人々）を合わせると、9 割以上にのぼった。夫婦間体外受精が多くの不妊患者によって不妊治療のステップの一つとして広く受容されていることが見て取れる。

また、体外受精から派生する技術である着床前診断について、約 1 割の回答者が「既に利用したことがある」（11.0%）と回答した。また、5.3%の回答者が「利用する予定である／現在、利用を検討している」とし、41.9%の回答者が「今後利用を検討するかもしれない」とした。これらを全て合わせると回答者の半数を超えた。男女の産み分けとして具体的にどのような技術を想定したのかは不明であるが、「既に利用したことがある」（0.5%）あるいは「利用する予定である／現在、利用を検討している」（0.8%）と回答した人は極めて少なかったが約 2 割の不妊患者が「今後検討するかもしれない」（19.9%）

と回答した。着床前診断は、遺伝性疾患や習慣性流産を防止できるなどの特色がある一方、その利用の仕方によっては優生思想を助長する側面もある。親の希望にそった性別の子を出生させることを意味する男女産み分けや着床前診断への関心の高さは、生殖補助医療の普及とともに、「生命の選別」が広がる可能性を示している。

図 1 生殖補助技術の利用の経験および可能性 (n=2,007)



第三者生殖医療に目を転じると、精子提供、卵子提供、代理出産などを利用したことのある不妊患者は少数にとどまっただけではなく、精子提供、受精卵提供、卵子提供、代理出産についても「今後も利用を検討するつもりはない」という回答が大多数を占めた（卵子提供 84.6%、精子提供、90.6%、受精卵提供 90.5%、代理出産 86.8%）。第三者の関与する配偶子の提供や代理出産に対して、不妊患者の多くは消極的な姿勢を示していると言える。

精子提供を受けた経験をもつ不妊患者が卵子提供を受けた経験をもつ不妊患者より

も多いのは、(1)産婦人科学会の会告でも匿名のドナーによる精子提供は認められていること、(2)精子提供にもとづいた人工受精を実施している生殖医療機関が卵子提供や代理出産を実施している生殖医療機関に比べて多いことなどの点を勘案すれば、ごく自然な結果である。その上で注目されるのは、現在、日本国内では実施困難な卵子提供や代理出産に対するニーズが、現在でも実施されている精子提供よりも大きいと考えられることである。

卵子提供を伴う非配偶者間体外受精については、「利用する予定である／現在、利用を検討している」(0.9%)や「今後利用を検討するかもしれない」(10.5%)と回答した人が不妊患者の1割を超えた。代理出産についても、「利用する予定である／現在、利用を検討している」(0.2%)や「今後利用を検討するかもしれない」(8.5%)を回答した人が8.7%を占めた。これに対し、精子提供を伴う非配偶者間人工授精では、「利用する予定である／現在、利用を検討している」(0.2%)や「今後利用を検討するかもしれない」(4.0%)と回答した人は、5%に満たなかった。

上記のように、第三者生殖医療を利用した経験をもつ患者は極めて少数であり、利用する可能性があるとした回答した患者の割合も回答者全体から見れば小さい。しかし、第三者生殖医療の実施に対する不妊患者の意識は、個々の不妊患者を取り巻く状況によって大きな違いが見られた。

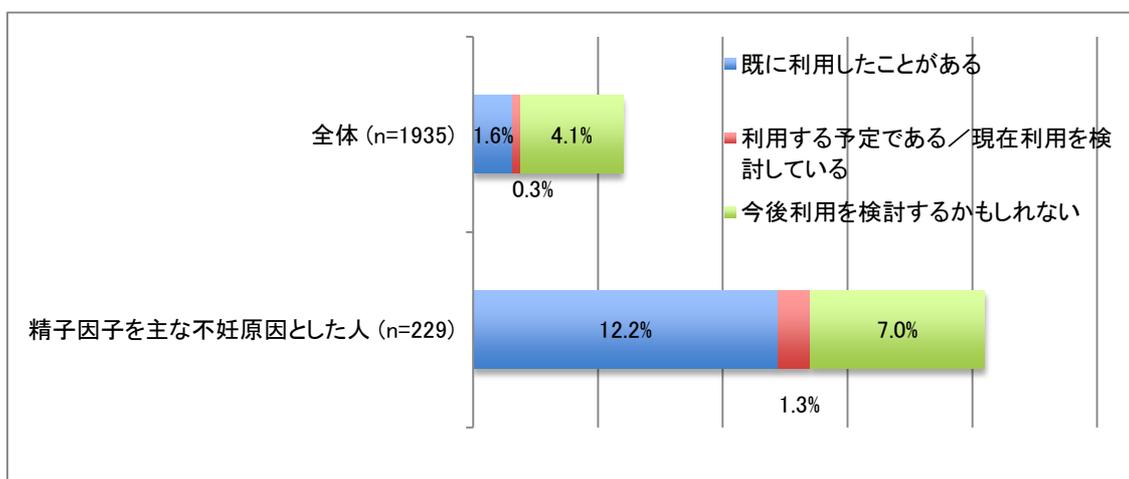
(a) 不妊原因

不妊原因と第三者生殖医療の実施に対する不妊患者の意識の関連を調べるために、精子提供、卵子提供、代理出産についてクロス集計を行った。精子提供に関しては「精子因子」を主な不妊原因とした回答者の間で、卵子提供に関しては「早発閉経」と「加齢」を主な不妊原因とした回答者の間で、「既に利用したがある」「利用する予定である／現在利用を検討している」「今後利用を検討するかもしれない」と回答した人の割合が統計的に有意に大きかった。代理出産については、どの特定の不妊原因とも統計的に有意な関連性は認められなかった。

「どれが主な不妊原因と思うか」という問い(単数回答、有効回答 n=1740)に「精子因子」と回答した人々に限ってみると、精子提供を「既に利用したことがある」と回答した人が12.2%いた。また、「利用する予定である／現在利用を検討している」(1.3%)「今後利用を検討するかもしれない」(7.0%)と回答した人もあわせて8.3%いた。精子因子を主な不妊原因とする患者の約5人に1人が、精子提供を実際に利用した経験がある

か、もしくは今後利用する可能性がある」と回答した（図2）。

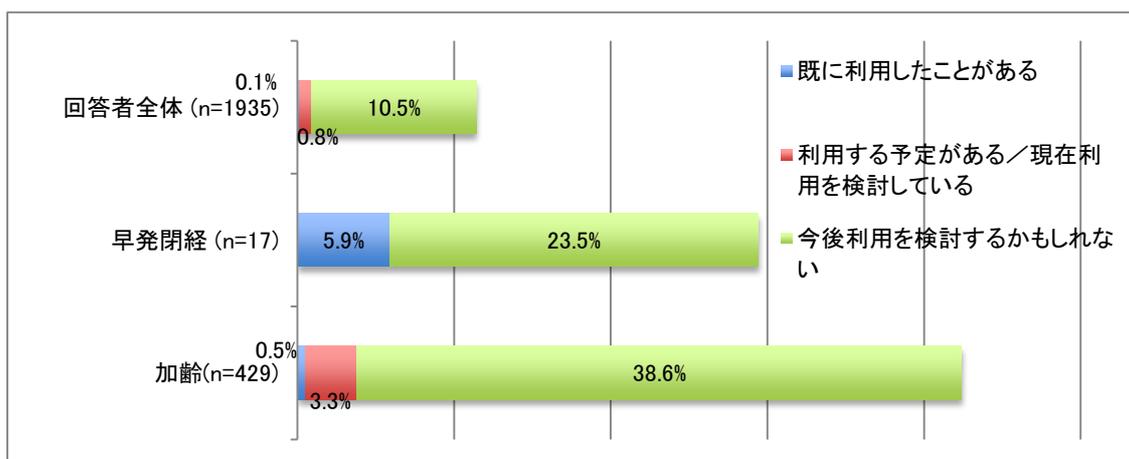
図2 精子提供を利用した経験および利用する可能性について



卵子提供についても、不妊原因に応じて卵子提供に対する意識や関心に差が見られた。とくに、「早発閉経」や「加齢」を主な不妊原因として挙げた人々の間では、その他の人々の間でよりも、「利用したことがある」「利用する予定である／現在利用を検討している」「今後利用を検討するかもしれない」という項目を選択した人の割合が多かった（図3）。

主な不妊原因を「早発閉経」とした17名の中では、「既に利用したことがある」が5.9%、「利用する予定である／現在利用を検討している」が0%、「今後利用を検討するかもしれない」が23.5%だった。主な不妊原因を「加齢（卵子・卵巣因子）」とした429名のなかでは、「既に利用したことがある」とした人が0.5%、「利用する予定である／現在利用を検討している」が3.3%、「今後利用を検討するかもしれない」が38.6%だった。

図3 卵子提供を利用する可能性（不妊原因による比較）

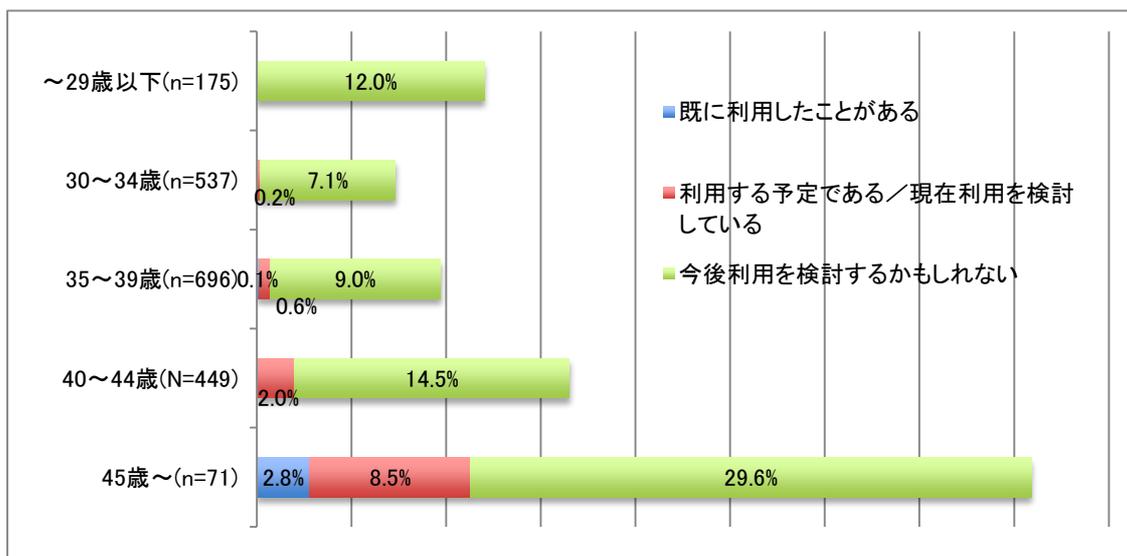


(b) 年齢

精子提供、卵子提供、代理出産それぞれの項目について、利用意思の有無と回答者との年齢との関連を調べた。「既に利用したことがある」「利用する予定である」「今後利用を検討するかもしれない」と回答した人々を「利用の意思のある人々」とし、7つの年齢階層での割合を比較した。とくに、卵子提供で、年齢階層と卵子提供の利用意思に対する回答の間に関連が認められた（表3）。

卵子提供を伴う体外受精の利用可能性に不妊患者の年齢層別のデータを見ると、図のように40歳以上の年齢層で多くなる傾向があった。40歳以上～45歳未満の年齢層で、「利用する予定である／現在利用を検討している」（2.0%）もしくは「今後利用を検討するかもしれない」（14.5%）と回答した患者は、この年齢層の不妊患者の16.5%を占めた。45歳以上の年齢層では、すでに卵子提供を受けたとする不妊患者も2名おり、「利用する予定である／現在利用を検討している」（8.5%）もしくは「今後利用を検討するかもしれない」（29.6%）いた。同年齢層の4割以上が、卵子提供を実際に利用したこと／利用する可能性がある」と回答した（図4）。

図 4 卵子提供を受ける可能性（年齢階層別 n=1918）



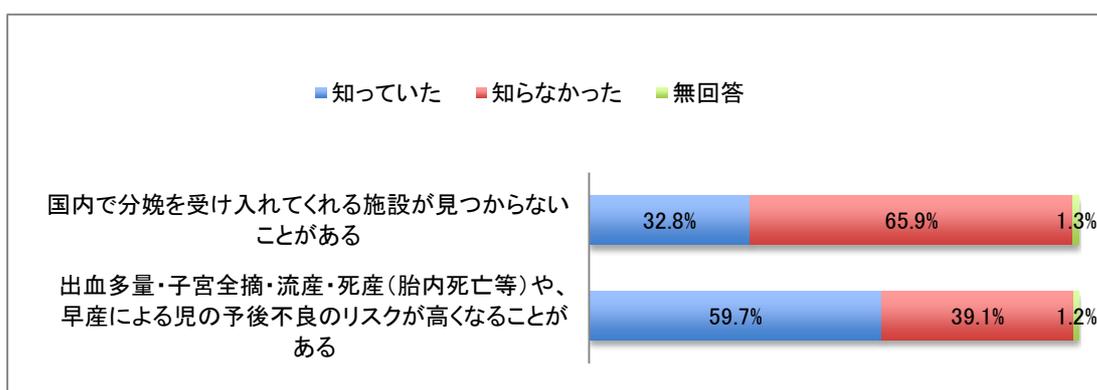
卵子提供による高齢での出産に伴うリスクについて不妊治療当事者の知識を聞いた
表 3 年齢階層と卵子提供利用の経験／可能性の有無

年齢階層		卵子提供利用意思		合計
		なし	あり	
<24	度数(%)	78 (7.5%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
	調整済み残差	.0	.0	
25-29	度数(%)	147 (88.0%)	20 (12.0%)	167 (100.0%)
	調整済み残差	.0	.0	
30-34	度数(%)	498 (92.7%)	39 (7.3%)	537 (100.0%)
	調整済み残差	4.0**	-4.0**	
35-39	度数(%)	619 (90.2%)	67 (9.8%)	686 (100.0%)
	調整済み残差	2.2*	-2.2*	
40-44	度数(%)	375 (83.5%)	74 (16.5%)	449 (100.0%)
	調整済み残差	-3.3**	3.3**	
45-49	度数(%)	41(60.3%)	27 (39.7%)	68 (100.0%)
	調整済み残差	-7.2**	7.2**	
50-	度数 (%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)
	調整済み残差	-2.9**	2.9**	
合計	度数 (%)	1688 (88.0%)	230 (12.0%)	1918 (100.0%)

X squared=81.161 p=0.000 * =p<0.05、**=p<0.01

ところ、「国内で妊娠管理（妊婦健診等）、分娩を受けて入れてくれる施設が見つからないことがある」については、「知らなかった」という回答(65.9%)が「知っていた」という回答(32.8%)を大きく上回ったが、「母体が妊娠に耐えられず出血多量・子宮全摘・流産・死産（胎児死亡等）のリスクが高くなったり、早産による児の予後不良のリスクが高くなることもある」については、「知っていた」という回答(59.7%)が「知らなかった」（39.1%）という回答よりも多かった。高齢の不妊患者が卵子提供を受けることを検討する場合に、それにとまなう医学的リスクのみならず社会的リスクについて十分理解していないケースもあると考えられる。医療機関が卵子提供を受けて出産しようとする高齢の不妊患者に対応するケースが増加することが予想され、こうした患者への適切な対応の在り方が検討される必要がある（図6）。

図 5 卵子提供によって高齢出産することに伴うリスクについての不妊当事者の知識



(c) 卵子提供を誰に依頼したいか

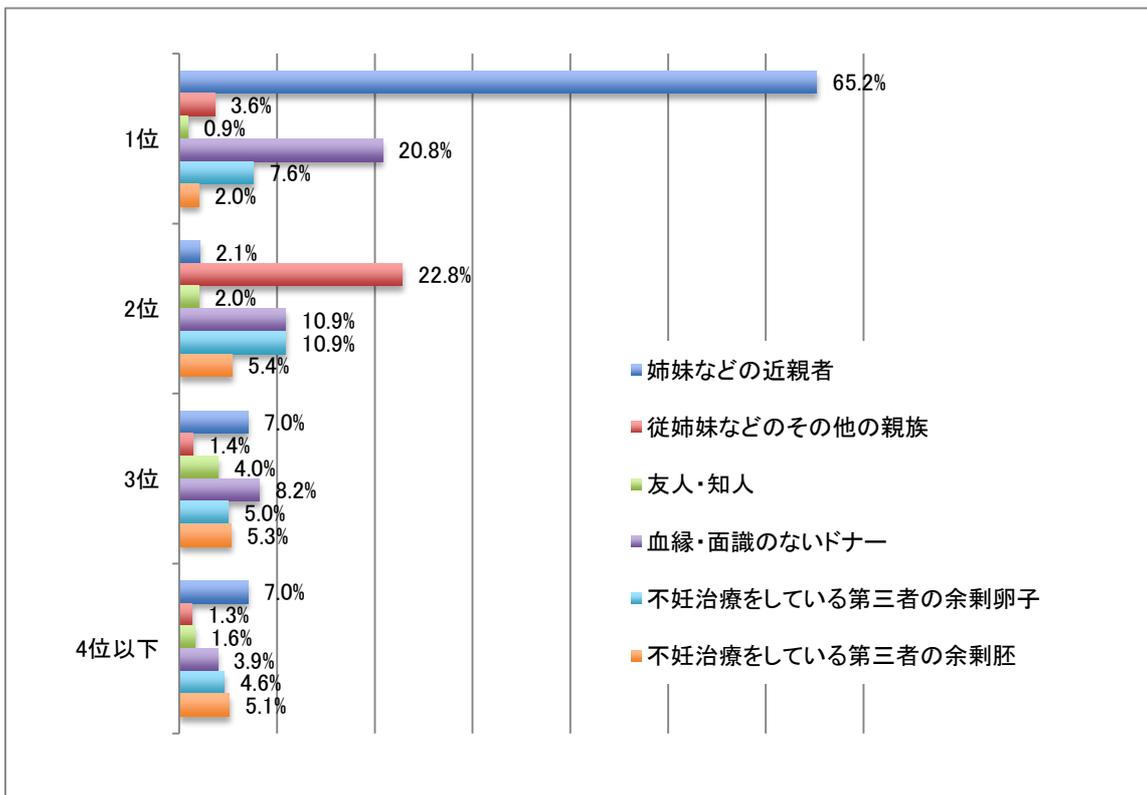
もし卵子提供を受けるとしたら、誰からの卵子の提供が望ましいかという問いについて、次の選択肢を示し、望ましいドナーに対する選択肢に順位をつけてもらった（有効回答、n=698）。

望ましい卵子ドナーの選択肢

- (i) 「姉妹などの近親者」(以下、「姉妹」と略す)
- (ii) 「従姉妹などのその他の親族」(以下、「従姉妹」)
- (iii) 「友人・知人」(以下「知人」)
- (iv) 「血縁や面識のないドナー」(以下、「匿名のドナー」)
- (v) 「不妊治療をしている第三者が体外受精のために採卵した卵子」(以下、「余剰卵子」)
- (vi) 「不妊治療をしている第三者が提供した受精卵」(以下「余剰胚」)

回答の順位別の集計を見ると、1位に「姉妹」を挙げた人が65.2%にのぼった。その他では、「匿名ドナー」(20.8%)および「余剰卵子」(7.6%)を挙げる回答が多かった。2位として多く挙げられたのは、「従姉妹」(22.8%)および「匿名ドナー」(10.9%)であった。また、「余剰卵」(10.9%)、を挙げる人々もそれぞれ1割程度いた。3位では、「匿名ドナー」(8.2%)が最も多く、「姉妹」(7.0%)、「余剰胚」(5.3%)「余剰卵」(5.0%)、「友人・知人」(4.0%)が続いた。

図 6 誰から卵子提供を受けたいか (有効回答 n= 698)



さらに、「卵子提供を伴う体外受精」について、「既に利用したことがある」「利用する予定である／現在利用を検討している」「今後利用を検討するかもしれない」とした人々を「卵子提供を受けた／受ける可能性のある人々」とし、卵子ドナーに関する選択を調べた(図7)。前述の結果と同様に、1位に「姉妹」を挙げる人々が最も多かったものの、50.2%にとどまった。これに対し、1位に「匿名ドナー」を挙げる人が28.0%おり、「余剰卵子」を挙げた人も14.8%にのぼった。2位でも、「従姉妹」(23.2%)に次いで、「匿名ドナー」(18.4%)および「余剰卵子」(18.4%)を挙げる人が多かった。このことから、「卵子提供を受けるつもりのない人々」よりも「卵子提供を受けた／受ける可能性のある人々」の方が、匿名の卵子ドナーや余剰卵の提供のような血縁や面識のない人々からの卵子の提供を好ましいと考える傾向がみられた。

図7 誰から卵子提供を受けたいか (卵子提供利用する可能性あり, 有効回答 n=207)

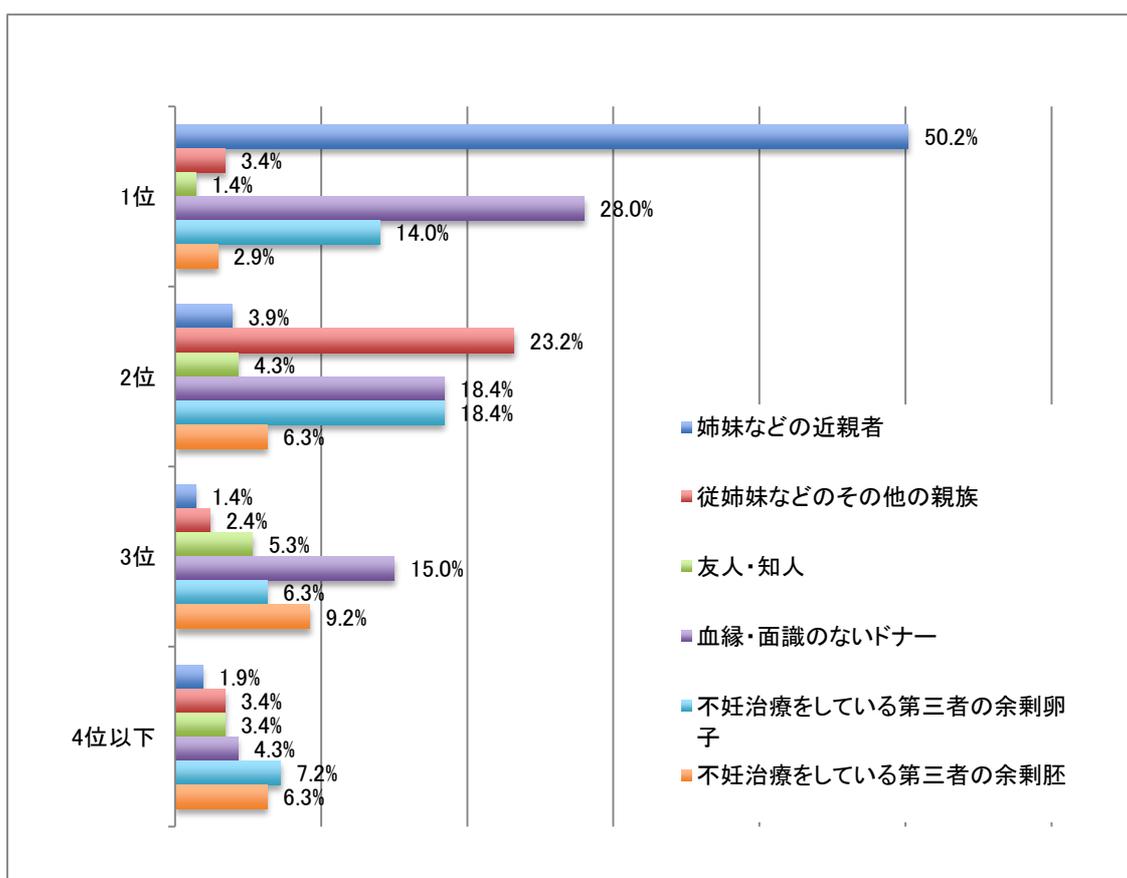
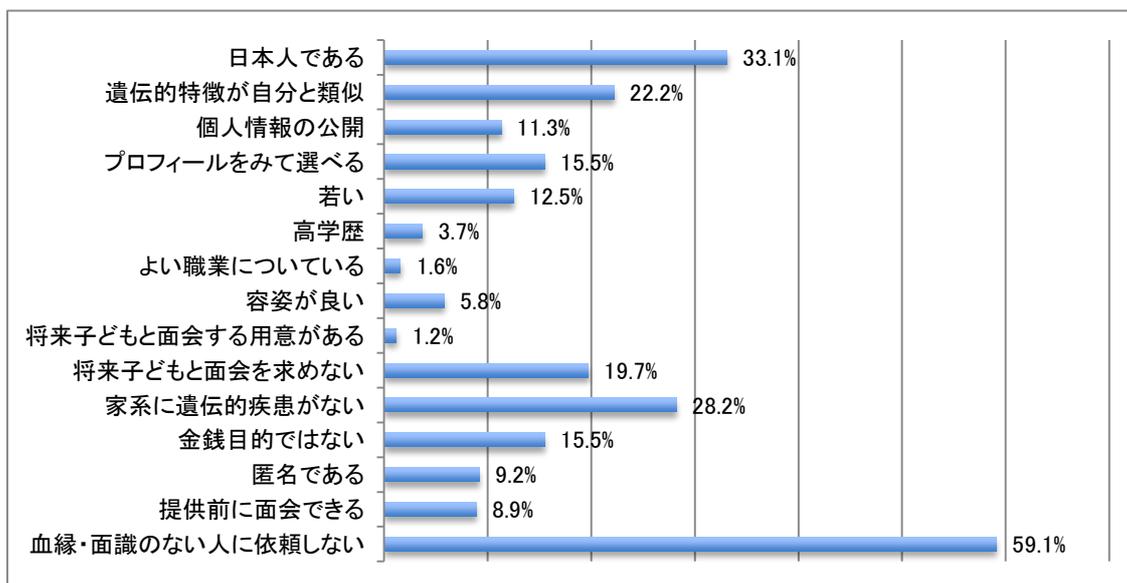


図 8 血縁・面識のない卵子ドナーに求めること（複数回答、n=1945）



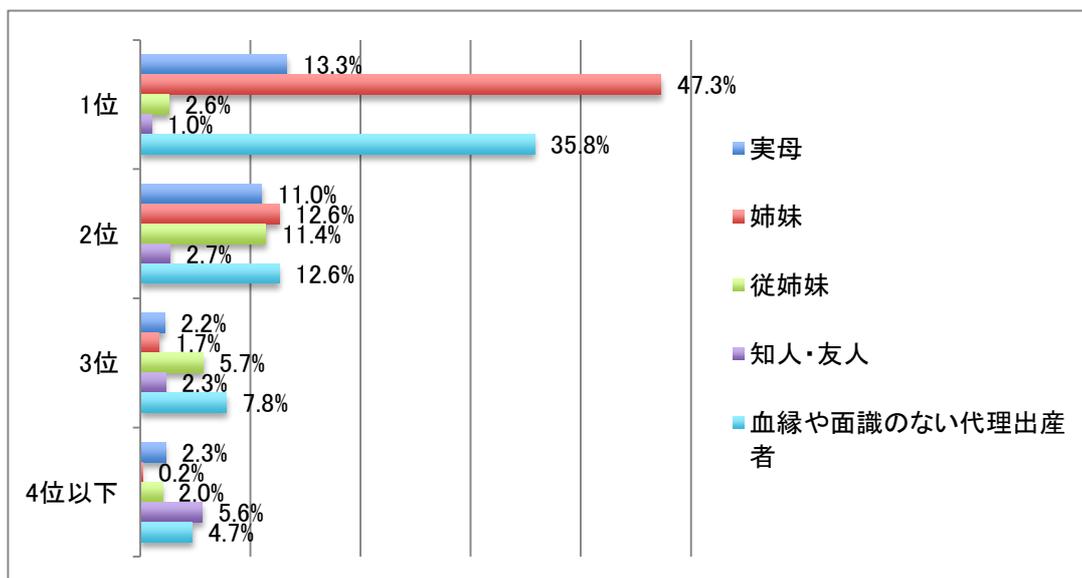
また、血縁や面識のないドナーから卵子提供を受ける場合、どのような条件が重要であるかについて、複数回答で聞いたところ、最も多い回答が「日本人であること」(33.1%)であり、「家系に遺伝的疾患がないこと」(28.2%)「自分と遺伝的特徴が類似していること」(22.2%)と次いで多かった(図8)。

「卵子提供の意思の有無」に基づき、「卵子提供を受けた／受ける可能性のある人々」と「卵子提供を受けるつもりのない人」の二つの集団の回答をクロス集計で比較した(図9)。「将来子どもと面会する用意がある」以外の全ての項目で統計的に有意な差が見られた。とくに「日本人であること」(62.4%)「遺伝的特徴が自分と類似していること」(55.9%)「家系に遺伝的疾患がない」(64.2%)「将来子どもと面会を求めない」(44.5%)、「若い」(35.4%)という回答の比率に顕著な差が認められた。

(d) 代理出産を誰に依頼したいか

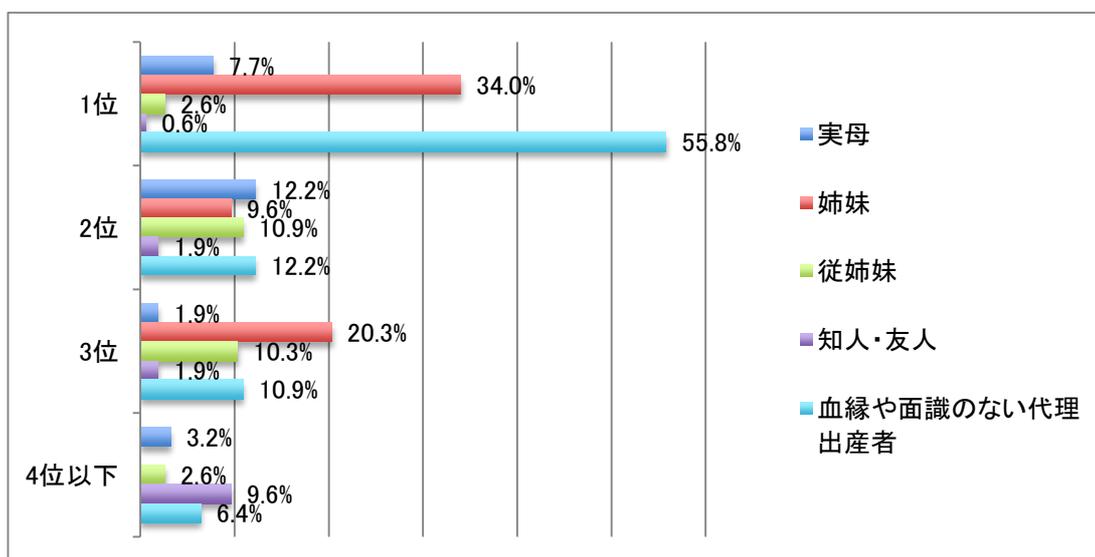
「代理出産を誰に依頼したいか」を複数選択肢の中から優先順位をつけてもらった(図10)。1位として最も多い回答が、「姉妹などの近親者」(19.1%)で、その次には「血縁や面識のない代理出産者」(14.4%)が多かった。2位として最も多かったのは、「血縁や面識のない代理出産者」(12.6%)であり、その次に「姉妹などの近親者」(8.8%)が多かった。実母は、1位(5.4%)、2位(5.6%)として回答する者がいたが、知人や友人、従姉妹などの親族を選択した人は、極めて少数であった。

図 9 誰に代理出産を依頼するか（有効回答 n=809）



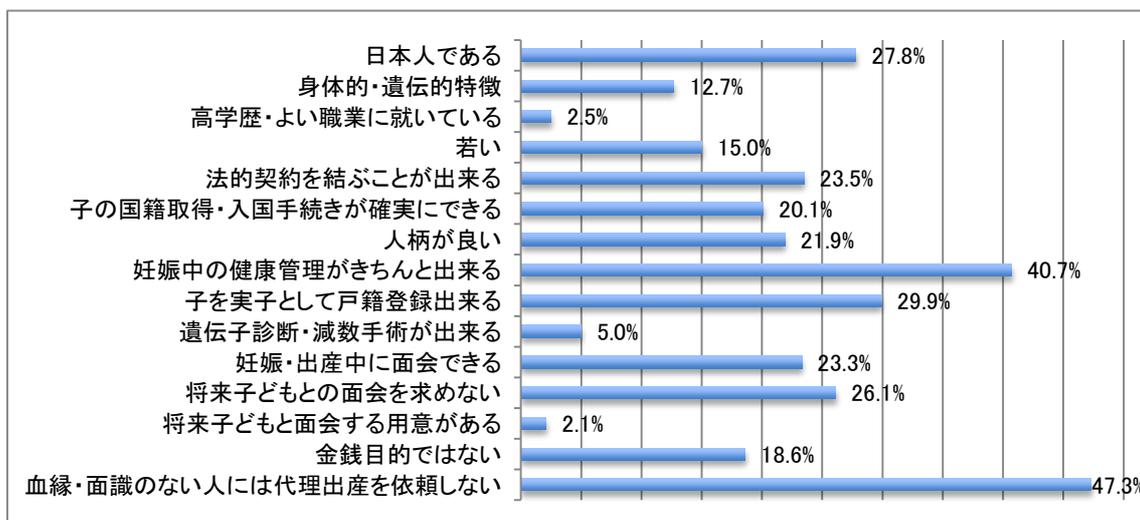
代理出産の依頼を検討する可能性のある人々の回答に限定してみると、1位としては「血縁や面識のない代理出産者」(55.8%)が最も多かった。次いで、「姉妹」(34.6%)、「実母」(7.7%)があげられた(図11)。

図 10 誰に代理出産を依頼するか（代理出産する可能性あり、有効回答 n=156）



また、血縁や面識のない人に代理出産を依頼する場合にどのような条件を求めるかについて聞いた(図12)。「妊娠中の健康管理がきちんと出来る」(40.7%)が最も多く、「子を実子として戸籍登録できる」(29.9%)「日本人である」(27.8%)「将来子どもと面会を求めない」(26.1%)「法的に契約を結ぶことが出来る」(23.5%)と続いた。

図 11 血縁・面識のない人に代理出産を依頼する条件（複数回答 n=1941）



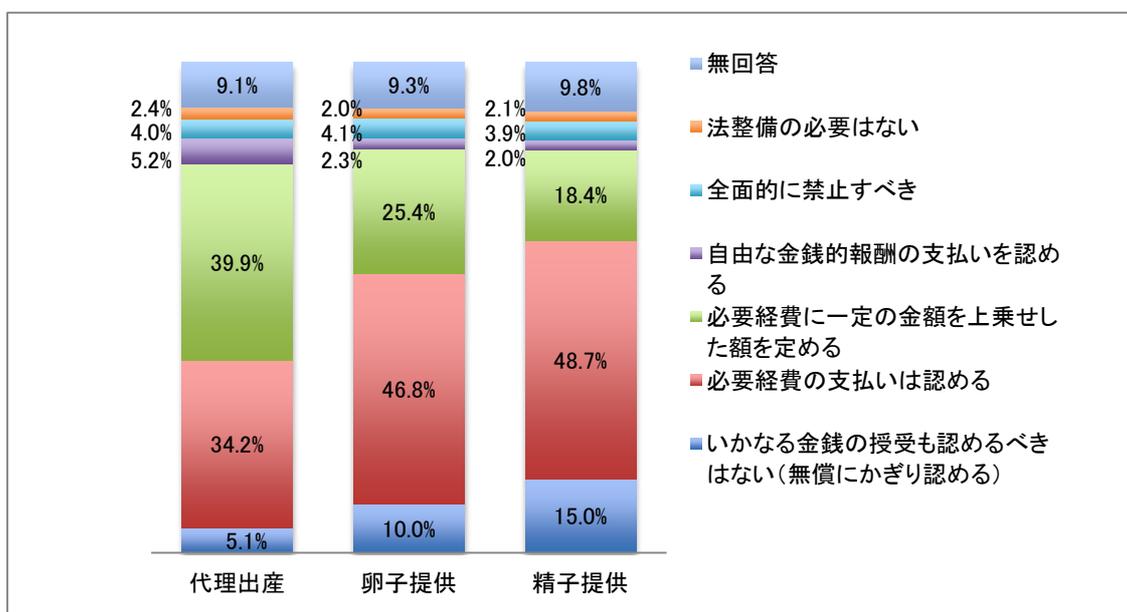
(e) 第三者の関与する生殖補助医療に関する法整備について

第三者生殖について、望ましい法規制の在り方について尋ねた（図 14）。精子提供については、「必要経費の支払いは認める」のが好ましいとする回答が最も多く（48.7%）、「必要経費に一定の金額を上乗せする」のが好ましいという回答が次に多く（18.4%）、「いかなる金銭の授受も認めるべきではない」とする回答は少数に留まった（15.0%）。卵子提供でも同様に「必要経費の支払いは認める」（46.8%）、「必要経費に一定の金額を上乗せする」（25.4%）、の順で回答が多かった。代理出産では、「必要経費に一定の金額を上乗せする」（39.9%）が最も多く、「必要経費の支払いは認める」（34.2%）と続いた。精子提供、卵子提供、代理出産いずれの項目でも、「いかなる金銭の授受も認めるべきではない」（15.0%、10.0%、5.1%）、に「自由な金銭的報酬の支払いを認める」（2.0%、2.3%、5.2%）とする回答は少数に留まった。

第三者生殖を全面的に禁止すべきとする回答は、精子提供（3.9%）、卵子提供（4.1%）、代理出産（4.0%）と少数であった。欧米諸国では、精子提供が一般に認められている一方、卵子提供に対する対応は諸外国でも分かれている。こうした法的規制の差は、ドナーが卵子提供についてより大きな身体的リスクを負い、また卵子提供に伴う医学的手続きがより侵襲的であるためである。また、代理出産は、出産に伴うリスクとともに、妊娠・出産という身体的過程の商品化や子を取引の対象とすることへの懸念などが指摘され、代理出産については、多くの国々で禁止されている。しかし、本調査では、精子提供、

卵子提供および代理出産に対する望ましい法規制に関する不妊当事者の見解に大きな差は認められなかった。

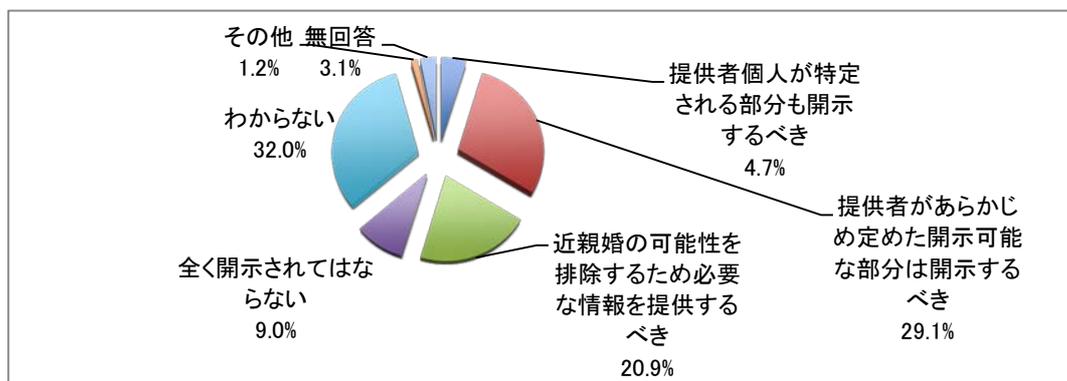
図 12 第三者の関与する生殖補助医療の法整備について



(f) 子どもの出自を知る権利について

第三者生殖医療が実施される場合に、子どもの出自を知る権利についてどのように考えるかについて聞いた（図 15）。「精子提供者、卵子提供者、代理母などの個人が特定される部分も開示すべき」と回答した人は少数に留まった（4.7%）。その一方、「あらかじめ定められた情報について部分的に開示すべき」という回答や(29.1%)、「近親婚の可能性を排除するために必要な情報を提供すべき」という回答(20.9%)が多くみられた。また、「全く開示されてはならない」という回答もあった(9.0%)。このように、配偶子のドナーの情報については、個人が特定されない範囲でのみ開示されるべきだと考えている人が多かったが、「わからない」という回答も多く見られた(32.0%)。

図 13 子供の出自を知る権利について（単数回答 n=2,007）



さらに、人工受精、卵子提供、代理出産に対する不妊当事者の意識とこれらの生殖補助医療を実施する意思の有無との関連を調べた。その結果、精子提供、卵子提供、代理出産、いずれにたいしても「利用する可能性のある人々」と「利用する可能性のない人々」の回答には差が見られた(図 16 および表 4、表 5)。

精子提供、卵子提供、代理出産いずれに関しても、「可能性のある人々」のあいだでは、「分からない」と回答した人々の割合が統計的に有意に少なかった。さらに、「精子提供の意思の有る人々」のあいだでは、「全く開示されてはならない」(25.7%)という回答が際立って多かった。「卵子提供を受ける可能性のある人々」のあいだでも「全く開示されてはならない」(12.8%)という回答が多かったが、より顕著な差は「あらかじめ定めた開示可能な部分は開示すべき」(36.2%)や「近親婚の可能性を排除するために必要な情報を開示する」(28.0%)という回答に対して認められた。

このように、とくに精子提供を検討する不妊当事者において、より子どもの出自を知る権利に対して慎重もしくは否定的な態度が認められた。

図 14 子どもの出自を知る権利について（配偶子提供を受ける可能性のある人々の回答）

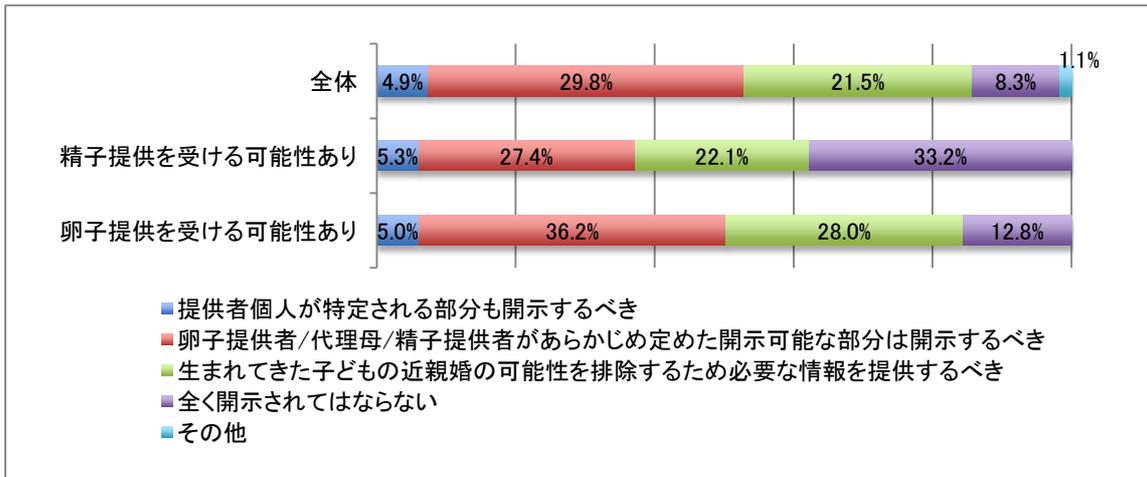


表 4 子どもの出自を知る権利について（精子提供を受ける可能性との関連）

		精子提供を受ける可能性		合計
		なし	あり	
提供者個人が特定される部分も開示すべき	度数 (%)	84 (4.9%)	6 (5.3%)	90 (4.9%)
	調整済み残差	-.2	.2	
卵子提供者/代理母/精子提供者があらかじめ定めた開示可能な部分は開示すべき	度数 (%)	517 (30.0%)	31 (27.4%)	548 (29.8%)
	調整済み残差	.6	-.6	
生まれてきた子どもの近親婚の可能性を排除するため必要な情報を提供すべき	度数 (%)	371 (21.5%)	25 (22.1%)	396 (21.5%)
	調整済み残差	-.2	.2	
全く開示されてはならない	度数 (%)	143 (8.3%)	29 (25.7%)	172 (9.4%)
	調整済み残差	-6.1**	6.1**	
わからない	度数 (%)	589 (34.1%)	22 (19.5%)	611 (33.2%)
	調整済み残差	3.2**	-3.2**	
その他	度数 (%)	21 (1.2%)	0 (0%)	21 (1.1%)
	調整済み残差	1.2	-1.2	
合計	度数 (%)	1725 (100.0%)	113 (100.0%)	1838 (100.0%)

X squared 32.230 p=0.000 * は p<0.05 を** は p<0.01 を表す。

表 5 子どもの出自を知る権利について（卵子提供を受ける可能性との関連）

		卵子提供受ける可能性		合計
		なし	あり	
提供者個人が特定される部分も開示すべき	度数	79 (4.9%)	11 (5.0%)	90 (4.9%)
	調整済み残差	-.1	.1	
卵子提供者/代理母/精子提供者があらかじめ定めた開示可能な部分は開示すべき	度数	467 (29.0%)	79 (36.2%)	546 (29.8%)
	調整済み残差	-2.2*	2.2*	

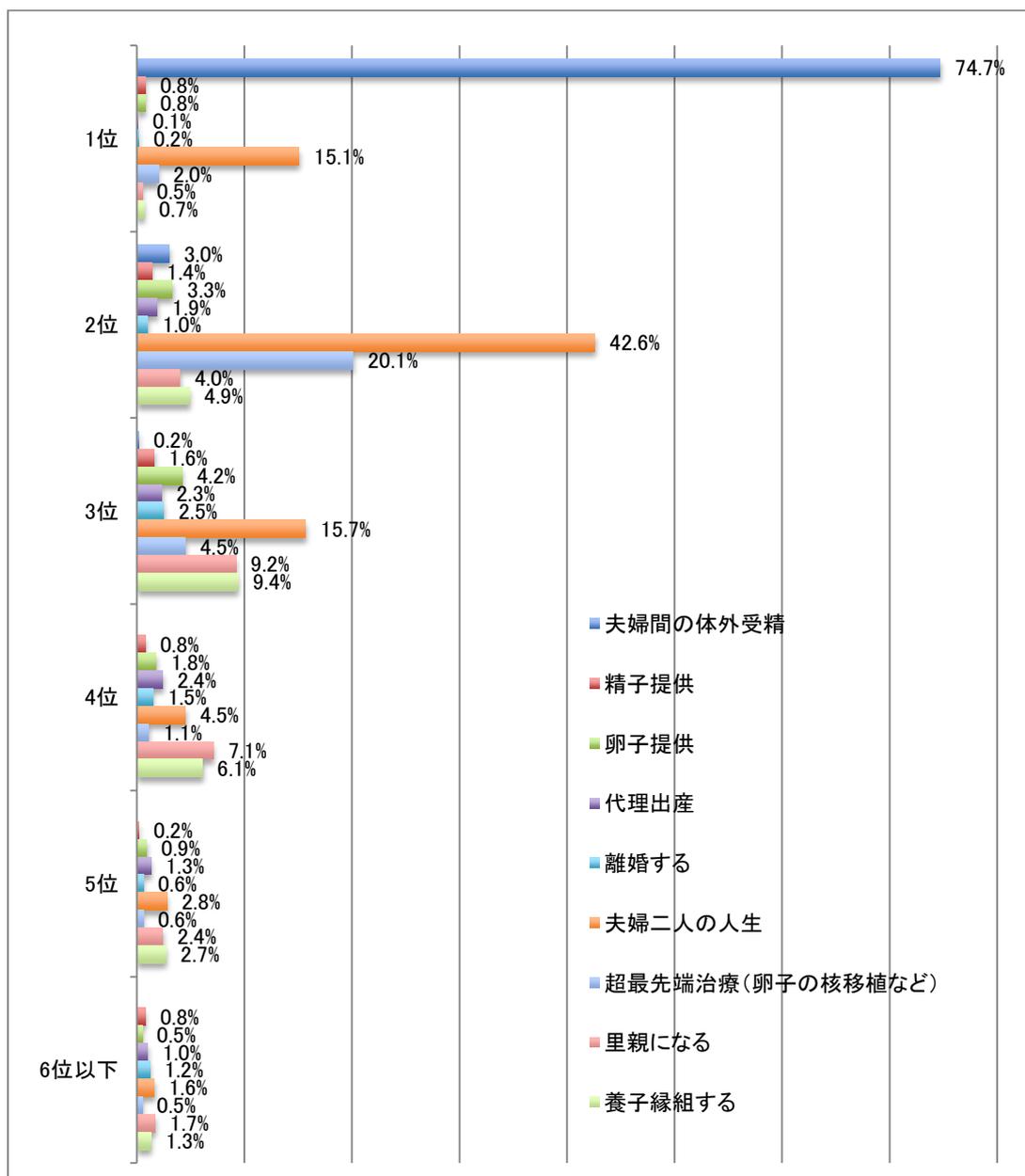
生まれてきた子どもの近親婚の可能性を排除するため必要な情報を提供すべき	度数	336 (20.8%)	61 (28.0%)	397 (21.7%)
	調整済み残差	-2.4*	2.4*	
全く開示されてはならない	度数	139 (8.6%)	28 (12.8%)	167 (9.1%)
	調整済み残差	-2.0*	2.0*	
わからない	度数	571 (35.4%)	39 (17.9%)	610 (33.3%)
	調整済み残差	5.1**	-5.1**	
その他	度数	21 (1.3%)	0 (0.0%)	21 (1.1%)
	調整済み残差	1.7	-1.7	
合計	度数	1613 (100.0%)	218 (100.0%)	1831 (100.0%)

X squared 32.230 p=0.000 * は p<0.05 を** は p<0.01 を表す。

(g) 子どもができなかった場合の選択肢

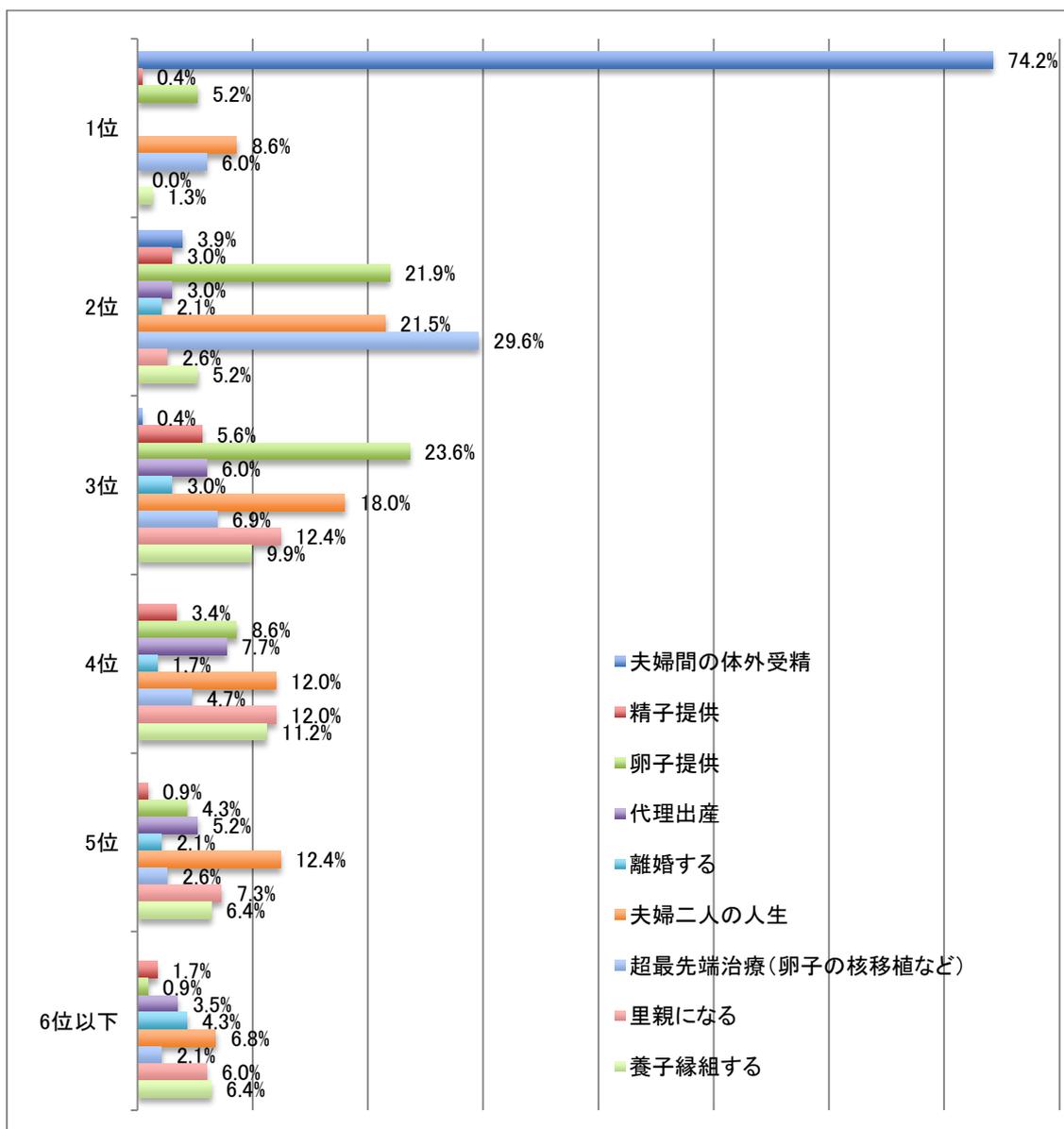
「お子さんを授かることができずに年月が過ぎた時、あなたの中で、ありうる選択肢はどれですか」という問いに対して、(i)「夫婦間の体外受精」、(ii)「精子提供による人工授精」、(iii)「卵子提供による体外受精」、(iv)「代理出産」、(v)「離婚する」、(vi)「夫婦二人の人生」、(vii)「超最先端治療（卵子の核移植など）」、(viii)「里親になる」、(ix)養子縁組をする、という9つの選択肢を示し、優先順位を聞いた（図17）。

図 15 子供が出来なかった場合の選択肢



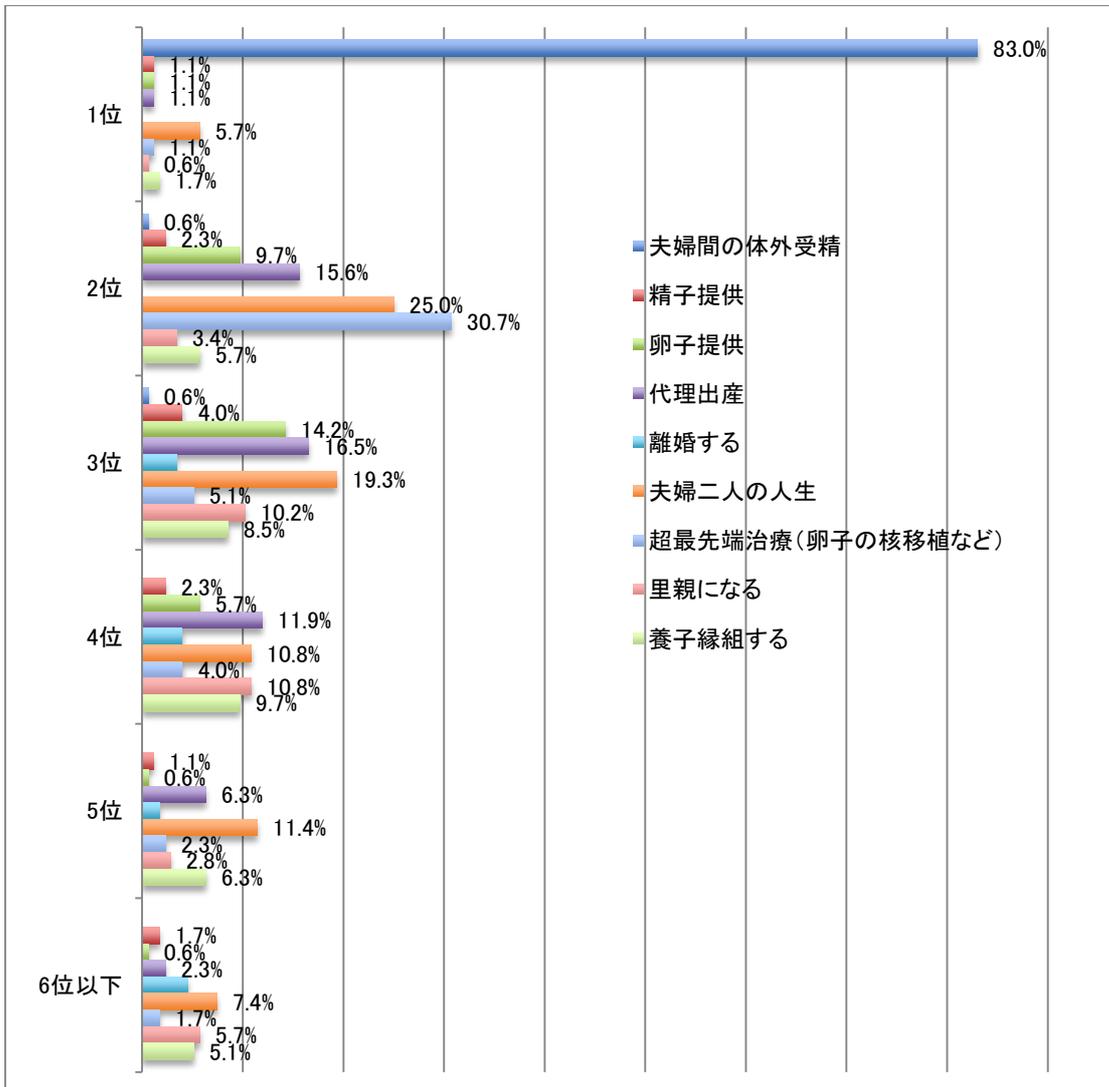
1位では、「夫婦間の体外受精」という回答（74.7%）が多数を占めた。「夫婦二人の人生」という回答（15.1%）がこれに次いで多かった。2位として最も多い回答があったのは、「夫婦二人の人生」（42.6%）という回答で、「超最先端治療（卵子核移植など）」という回答（20.1%）がこれに次いで多かった。3位では、「夫婦二人の人生」（15.7%）という回答が最も多かったが、これについて、「養子縁組する」（9.4%）や「里親になる」（9.2%）が多かった。

図 16 子どもが出来なかった場合の選択肢 (卵子提供を受ける可能性有り、有効回答 n=233)



卵子提供をともなう非配偶者間体外受精について関心のある人の回答では、回答者の全体の場合と同じく、1位では、「夫婦間の体外受精」（74.2%）が多数を占め、他には、「夫婦二人の人生」（8.6%）、「超最先端治療」（6.0%）が挙げられた。2位としては超最先端治療」（29.6%）、「卵子提供」（21.9%）、「夫婦二人の人生」（21.9%）を挙げた人が多かった。3位では、「卵子提供」（23.6%）、「夫婦二人の人生」（18.0%）とともに、「里親になる」（12.4%）、「養子縁組する」（9.9%）が挙げられた。

図 17 子どもが出来なった場合の選択肢（代理出産を依頼する可能性あり、有効回答 n=



代理出産に関心のある人の回答について見ると、1位では、「夫婦間の体外受精」(83.0%)が多数を占め、他には、「夫婦二人の人生」(5.7%)が挙げられた。2位としては、「超最先端治療」(30.7%)、「夫婦二人の人生」(25.0%)が多く挙げられ、「代理出産」(15.6%)や「卵子提供」(9.7%)がそれに続いた。3位では、「夫婦二人の人生」(19.3%)が最も多く、「代理出産」(16.5%)、「卵子提供」(14.2%)に加え、「里親になる」(10.2%)や「養子縁組をする」(8.5%)を挙げる人もいた。

図18と図19に示された結果から、卵子提供や代理出産に関心をもつ人々のすべてが、これらを「夫婦二人だけの人生」や「里親になる」「養子縁組をする」という選択肢に対して優先しているわけではないことが伺える。

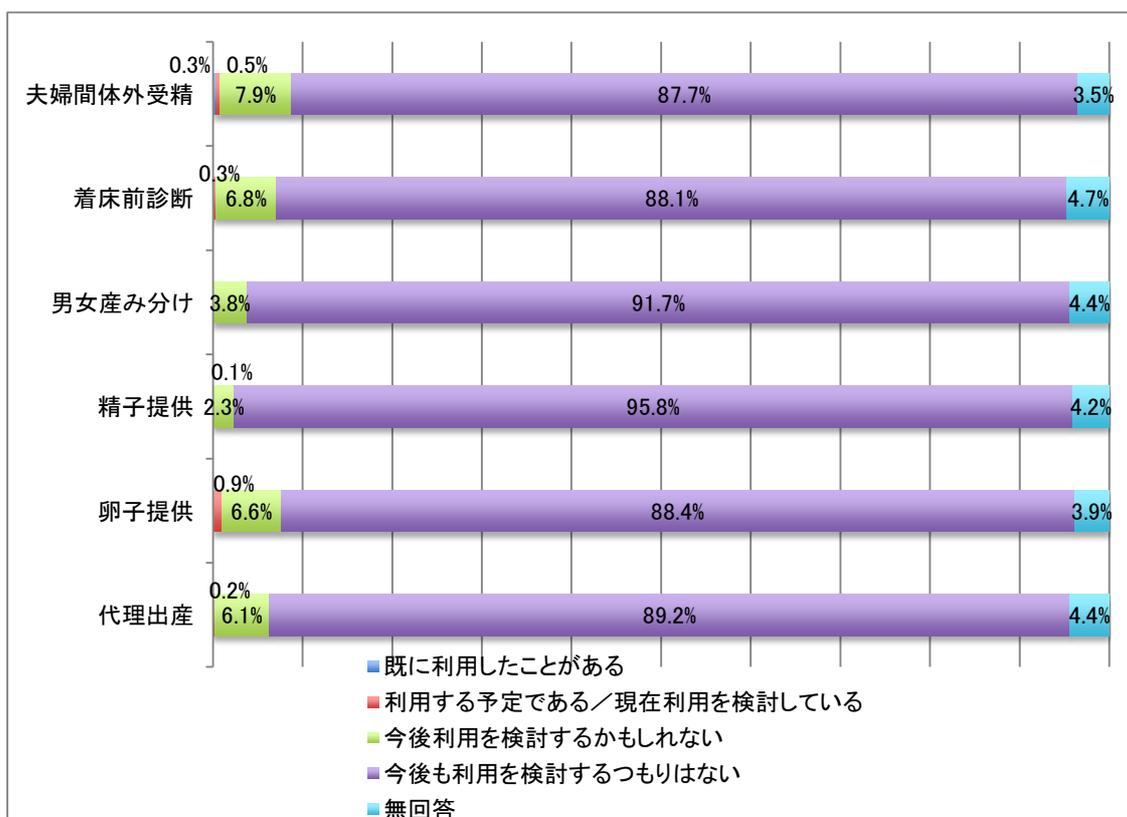
5. 海外での不妊治療や生殖技術の利用（渡航治療）について

(a) 渡航治療の経験および検討する可能性

海外で不妊治療を受けるかどうかを同じく技術別に聞いた（図 18）。いずれの技術についても「今後も利用を検討するつもりはない」が 9 割以上を占めた。「既に利用したことがある」が「夫婦間体外受精」（10 人）、「着床前（受精卵）診断」（2 人）、「男女産み分け」（1 人）、「卵子提供」（3 人）、「精子提供」（1 人）、「受精卵診断」（1 人）、「代理出産」（1 人）とそれぞれ少数であった（海外在住の間に不妊治療を受けた患者も含む）。

海外での第三者生殖医療の中では、卵子提供や代理出産を「利用する予定である／現在利用を検討している」とした人はそれぞれ 0.9%、0.2%で、「今後検討する可能性がある」と回答した人は、それぞれ 6.6%と 6.1%であった。

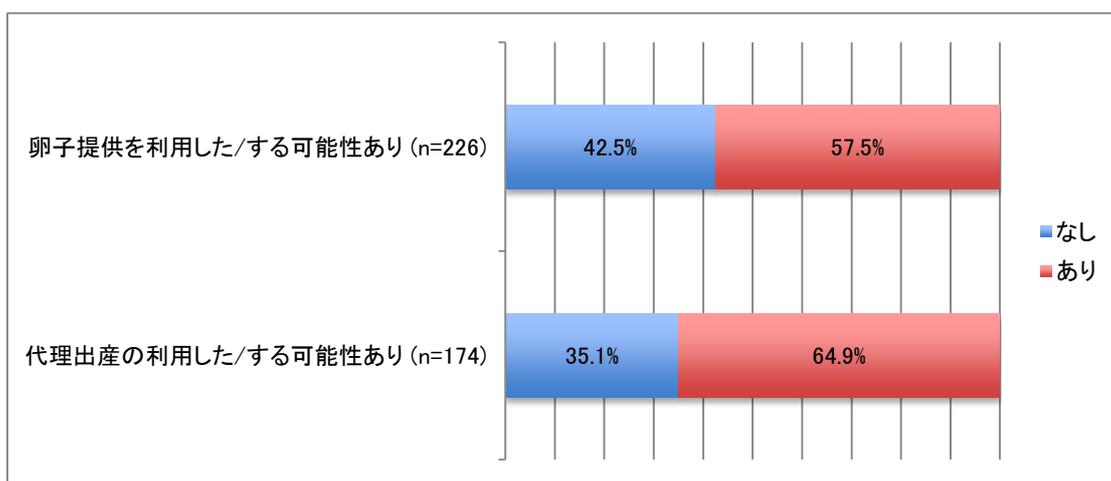
図 18 海外での不妊治療の経験および可能性



これらの数値は全体から見ると決して多くとは言えないかもしれないが、卵子提供を

受けることや代理出産を依頼することを希望する人々に占める割合は大きい。卵子提供では、「既に利用した」「利用する予定である」「現在利用を検討している」「今後利用を検討するかもしれない」とした回答者の 57.5%が海外での卵子提供を「既に利用した」「利用する予定である」「現在利用を検討している」「今後利用を検討するかもしれない」と回答し、代理出産ではこの割合はさらに 64.9%にのぼった。現状では国内で卵子提供や代理出産を行うことは難しいという国内の状況とともに、海外の生殖ツーリズム・ビジネスの展開によって渡航治療が実現しやすくなりつつある国外の動向も影響していると考えられる。

図 19 海外で卵子提供・卵子提供を受ける可能性



(b) 渡航治療の行き先について

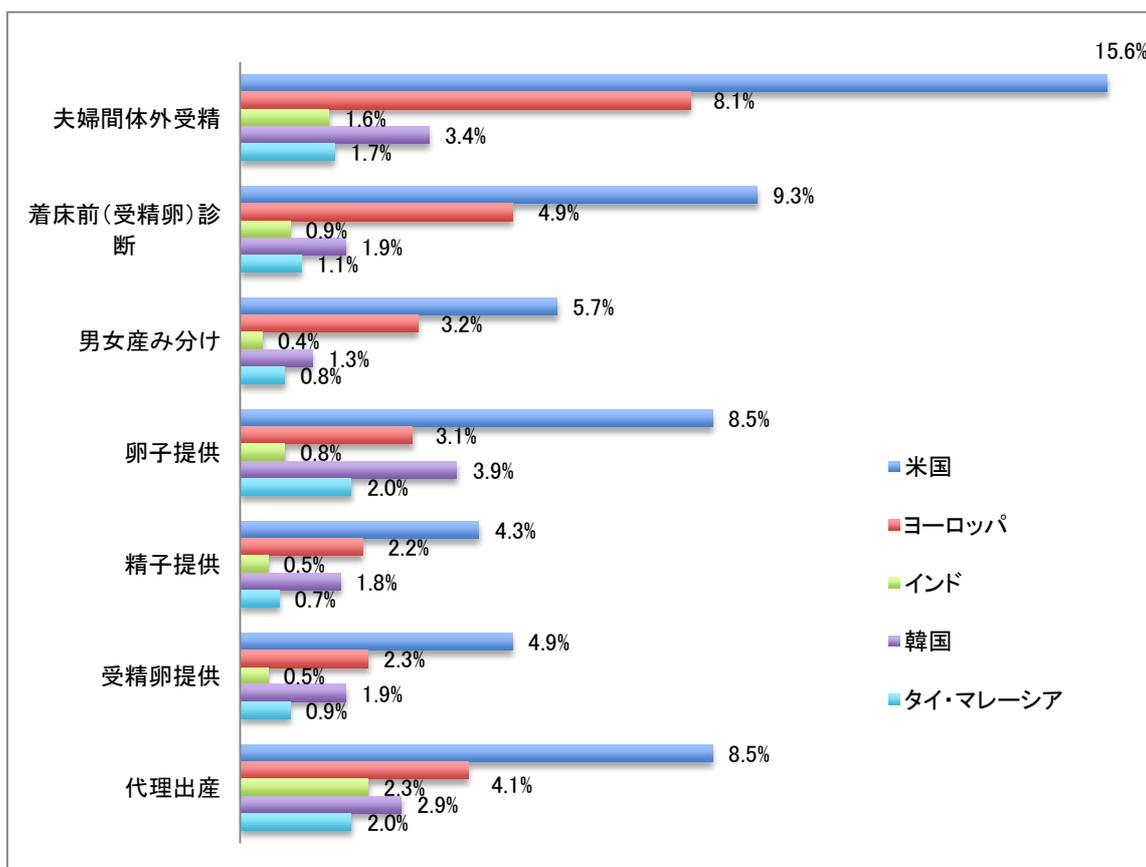
海外で不妊治療を受ける場合、どの国に行くかについて複数回答で聞いた（図 20）。いずれの項目に関しても「米国」という回答が最も多かった。日本の著名人が米国で卵子提供を受けたり代理出産を依頼したりといったケースが国内で盛んに報道されており、生殖補助医療ビジネスの先進国としての米国の存在が不妊当事者の間でも広く認知されていることが伺われる。その他の地域では、「卵子提供」の項目を除いて「ヨーロッパ」がそれに次いだ。

「卵子提供」についてはインドよりも遺伝的背景が日本人により近い「韓国」あるいは「タイ・マレーシア」の回答が多かった。実際には韓国では、卵子の売買は法律で禁止されており、日本人が渡韓して卵子提供を受けることは難しいにもかかわらず、特に「卵子提供」を韓国で利用したいという回答（3.9%）が多かったのは、地理的に近接しているからという理由のほか、韓国の配偶子バンクについての過去のメディア報道が影響

している可能性がある。

「代理出産」についてはインドで利用するという回答（2.3%）が他の技術に比べて多いのは、インドで商業的代理出産が「マンジーちゃん事件」以降を日本でも報道されるようになってきたほか、インターネットを通じて仲介ビジネスが展開されており、安い費用で代理出産を依頼することができるという事実が影響しているように思われる。

図 20 渡航治療の行き先（有効回答 n= 1888）



(c) 渡航治療に対する費用の負担

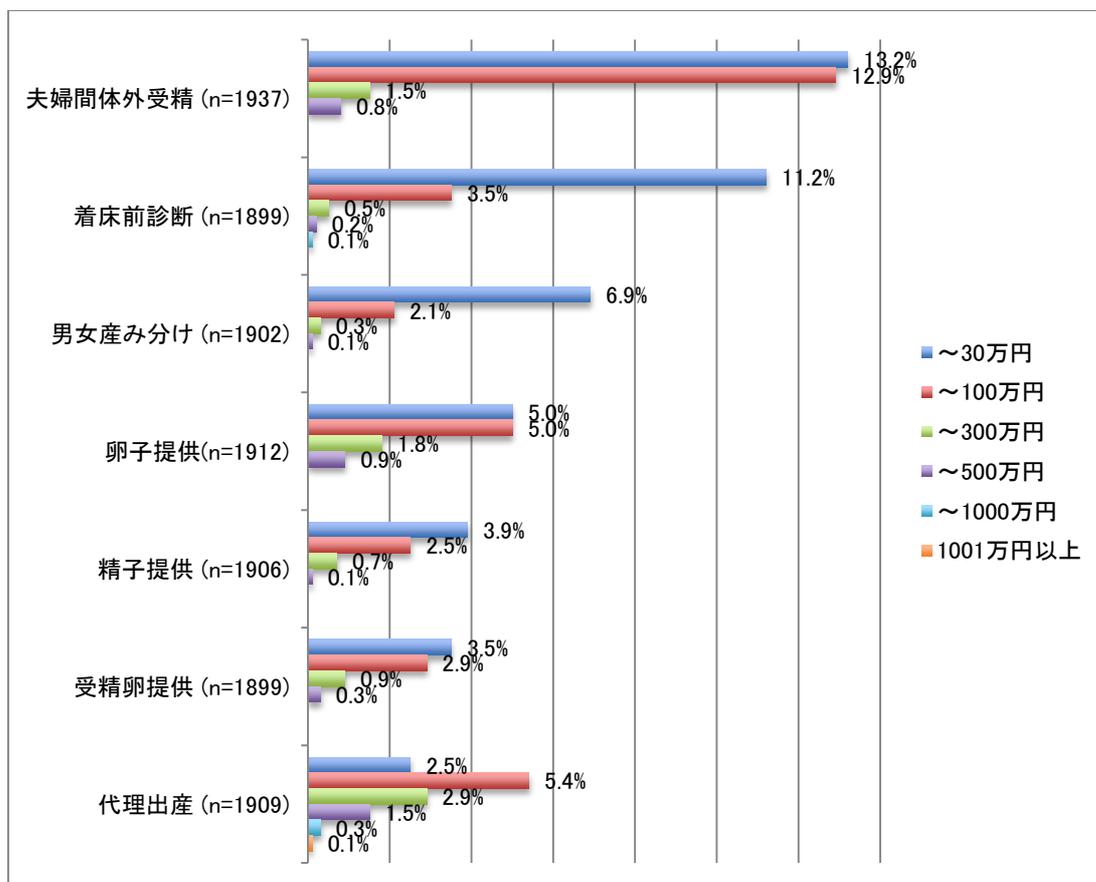
渡航治療についてどの程度の費用を負担する用意があるのかを聞いた（図 21）。

「夫婦間体外受精」（有効回答 n=1937）に対しては、「30 万円まで」（13.2%）、「100 万円まで」（12.9%）の回答が多く、「300 万円まで」（11.5%）、「500 万円まで」（0.8%）と続いた。「着床前診断」（有効回答、n=1899）では、「30 万円まで」（11.2%）、「100 万円まで」（3.5%）、「300 万円まで」（0.5%）、「500 万円まで」（0.2%）「1000 万円まで」（0.1%）という回答が続いた。「男女産み分け」（有効回答、n=1902）については、「30 万

円まで」(6.5%)、「100万円まで」(1.9%)、「300万円まで」(0.2%)「500万円まで」(0.1%)と続いた。

卵子提供や代理出産など第三者生殖医療に関する選択肢では、高額な費用の負担を考慮すると回答した不妊治療当事者がいた。「卵子提供」(有効回答、n=1912)に対する回答は、「30万円まで」(5.0%)、「100万円まで」(5.0%)の回答が多く、「300万円まで」(1.8%)、「500万円まで」(0.9%)と続いた。「精子提供」(有効回答、n=1906)では、「30万円まで」(3.9%)、「100万円まで」(2.5%)、「300万円まで」(0.7%)、「500万円まで」(0.1%)だった。「受精卵提供」(有効回答、n=1899)については、「30万円まで」(3.5%)、「100万円まで」(2.9%)、「300万円まで」(0.9%)、「500万円まで」(0.3%)だった。「代理出産」(有効回答、n=1909)に対する回答では、「30万円まで」(2.5%)、「100万円まで」(5.4%)、「300万円まで」(2.9%)、「500万円まで」(1.5%)という回答があり、「1,000万円まで」(0.3%)、「1000万円以上」(0.1%)という回答もごく少数ではあるが存在した。

図 21 どの程度の費用までなら渡航不妊治療の費用を負担するか(単数回答)

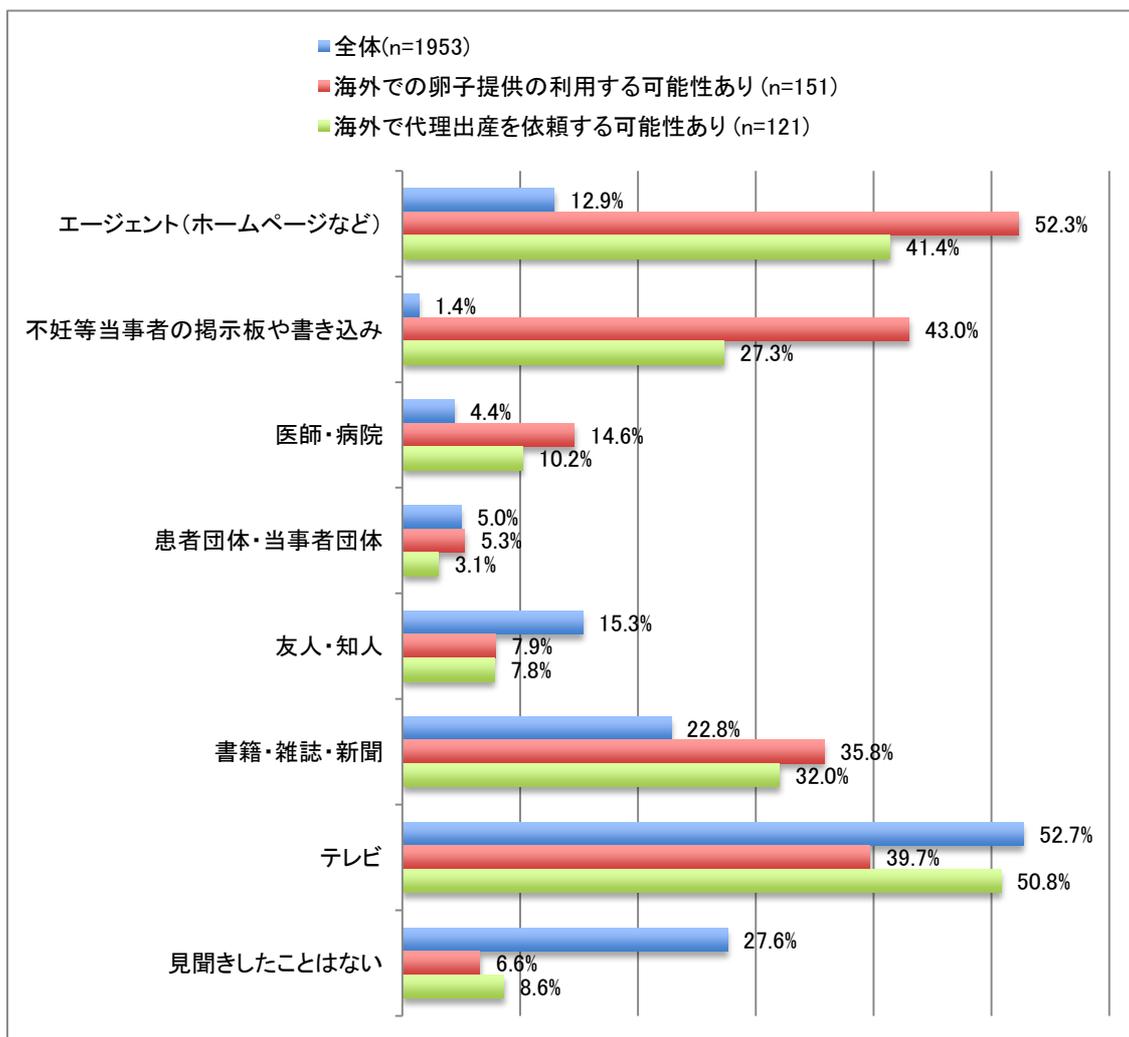


(d) 渡航治療の情報源について

海外での不妊治療に関する情報源について複数回答で聞いた（図 22）。最も多かったのが「テレビ」（52.7%）であった。次いで「書籍・雑誌・新聞」（22.8%）などのマスメディアが多く挙げられた。こうした回答を挙げた人には、主に、向井亜紀や野田聖子など、著名人による海外での不妊治療に関するメディア報道を通じて海外での不妊治療を見聞きはしたが、積極的に情報を収集しているわけではない人が多数を占めているものと思われる。「不妊当事者の掲示板や書き込み」（15.3%）、「エージェント（ホームページなど）」（12.8%）など、積極的に情報収集していると思われる回答も少なからず見られた。

海外での卵子提供を受けた経験／受ける可能性があるとした人々の回答では、「エージェント（ホームページなど）」を挙げた人々が 52.3%おり、「不妊当事者の掲示板や書き込み」を挙げた人も 43.0%いた。また、前者では「病院や医師」を挙げた人も 14.6%いた。逆にテレビについて挙げた人の割合は後者の方が高かった。代理出産の場合にも同様の違いが見られた。海外で代理出産を依頼する可能性ある人々の 41.4%は、「エージェント（ホームページなど）」を情報源として挙げており、「不妊当事者の掲示板や書き込み」などを挙げた人も 27.3%いた。「医師・病院」を挙げた人も 10.2%いた。海外での卵子提供や代理出産に関心を抱く不妊当事者にとって、仲介業者や不妊当事者の掲示板などが重要な情報源となっていることが伺える。

図 22 渡航治療に関する情報源 (複数回答)



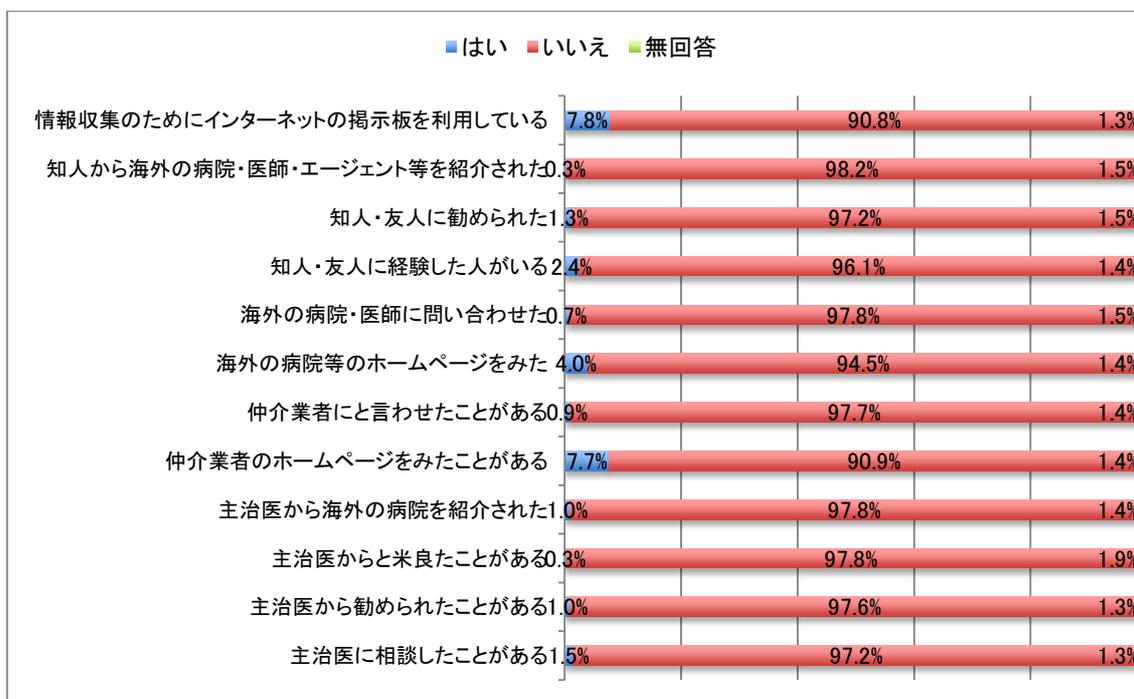
(e) 渡航治療に関する経験について

渡航不妊治療を選択する可能性があるかどうかとは別に、不妊患者が渡航不妊治療に関して医師や医療機関、エージェント、知人・友人とどのようなコミュニケーションをとっているのかを聞いた (図 23)。

最も多いのが「情報収集のためにインターネットの掲示板を利用している」(7.8%)で、次いで「仲介業者のホームページをみたことがある」(7.7%)、「海外の病院等のホームページをみたことがある」(4.0%)が多く、「友人・知人に経験者がいる」(2.4%, 49人)、「友人・知人から勧められた」(1.3%, 26人)を挙げる回答者もいた。渡航治療が徐々にではあるが身近な存在になりつつあることも伺われる。また、主治医に関連する項目は該当者が少なかった。主治医とは相談しなくとも、インターネットの掲示板や

仲介業者や海外の病院のホームページ等で情報を収集している不妊治療当事者がいることが伺われる。

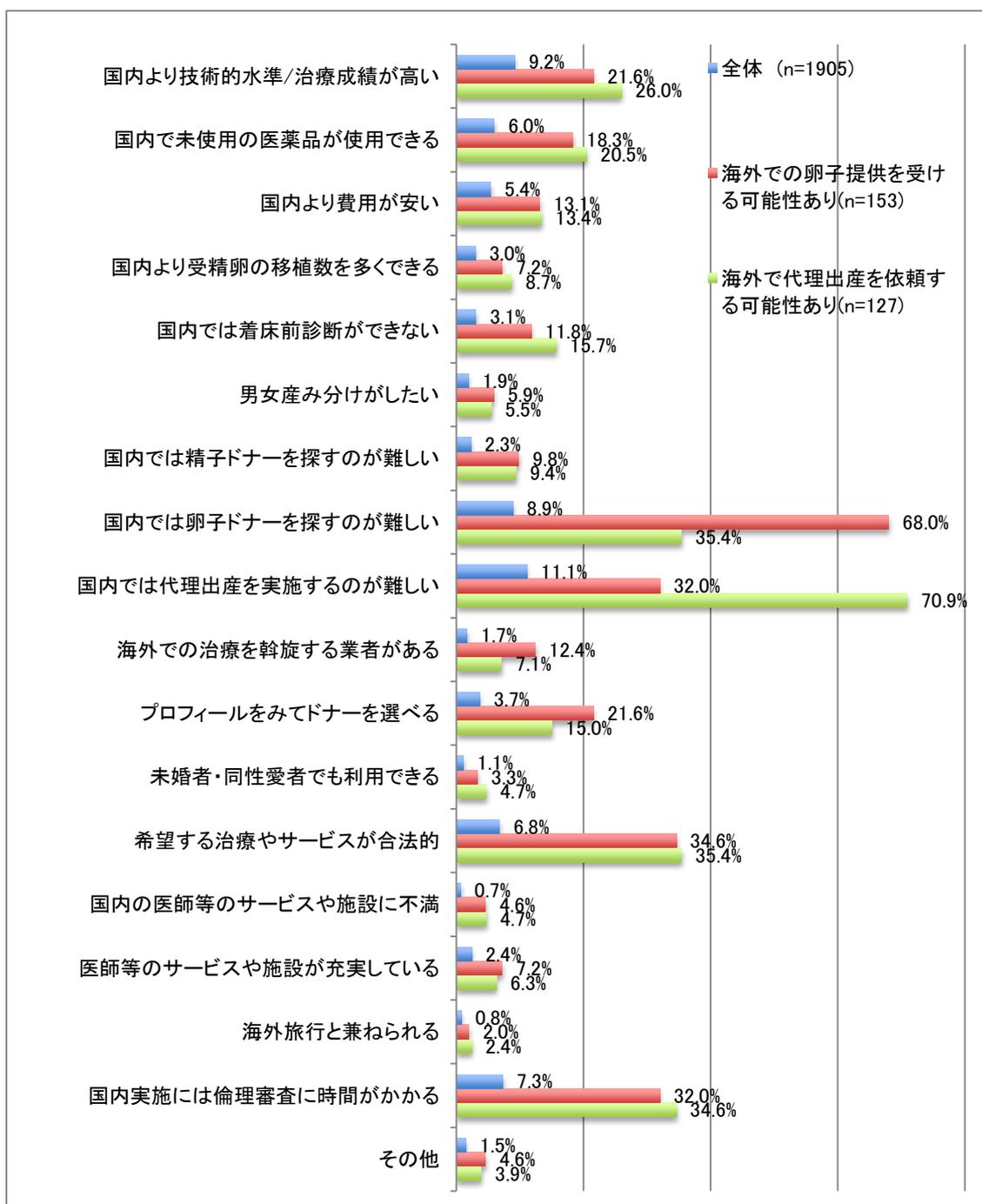
図 23 渡航治療について経験したこと (n=2007)



(f) 渡航治療に関心のある理由／躊躇する理由

海外での不妊治療に関心を持つ場合、その理由を複数回答で聞いた (図 24)。「国内より技術的水準/治療成績が高いから」(9.2%) という理由と共に、「国内では卵子ドナーを探すのが難しい」(8.9%)、「国内では代理出産を依頼するのが難しい」(11.1%) という回答が多かった。卵子提供や代理出産を望みながら国内では実施するのが困難な現状が、海外での不妊治療に患者を向かわせる要因となっていることが伺える。また、「海外なら希望する治療やサービスが合法的」(6.8%) や「国内実施には倫理審査に時間がかかる」(7.3%) という回答も見られた。着床前診断や卵子提供など国内で実施することが可能な治療についても、倫理審査の時間がかかるなどの問題が、海外で治療を希望する動機の一つとなっている可能性がある。

図 24 渡航治療に関心をもつ理由 (複数回答)



海外での卵子提供による体外受精に関心を抱く人々の回答について見ると、際立って多かったのは、「国内では卵子ドナーを探すのが難しい」(68.0%)であった。同様に、海外での代理出産の依頼に関心があるとした人々の約7割の人が「国内では代理出産を実施するのが難しい」ことを理由に挙げた。その他では、海外での卵子提供、代理出産いずれの場合も、「プロフィールをみて選べる」や「国内より技術水準が高い」といったプル要因についての回答が2割程度あったが、いずれの場合も、「国内で実施するのに

は倫理審査に時間がかかる」や「海外では希望する治療が合法的である」（日本では合法的ではない）といった回答の方が多く、3割を超えた。

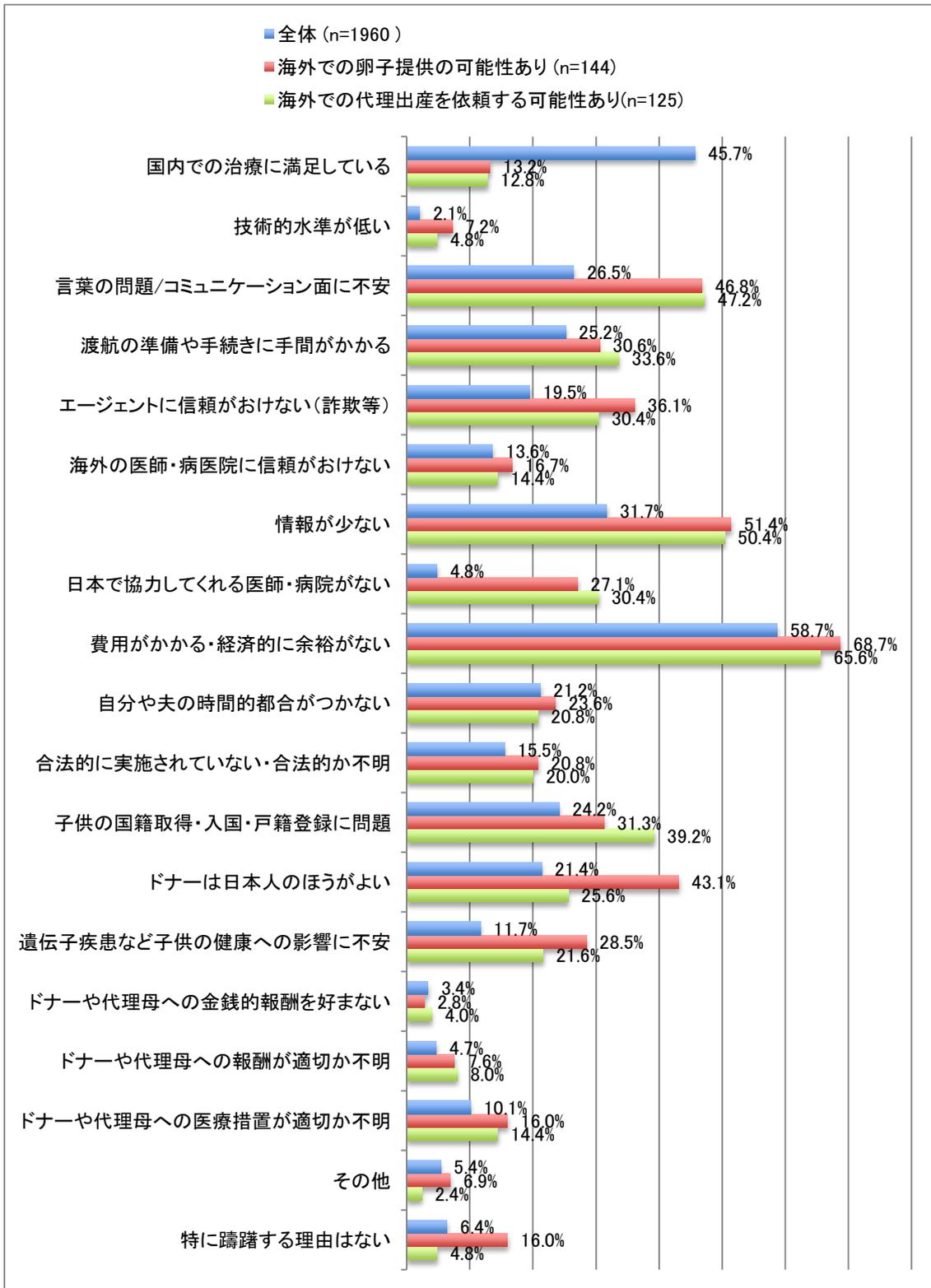
先述のように、卵子提供や代理出産を不妊治療の選択肢として考慮する人々の多くは海外での実施も視野に入れるものと考えられるが、上記の結果からそうした選択は積極的というよりも消極的になされるものであると推測される。

海外での不妊治療に躊躇する理由もしくは関心のない理由についても複数回答で聞いた（図 25）。最も多い回答は、「費用がかかる・経済的に余裕がない」（58.7%）という経済的な理由に関するものだった。次に「国内での治療に満足している」（45.7%）が多く、「言葉の問題／コミュニケーション面に不安」（46.5%）、「情報が少ない」（31.7%）が続いた。現状では、不妊当事者にとって、渡航に伴う経済的、言語的、地理的障壁が海外で不妊治療を受けることを躊躇させる大きな要因となっているものと考えられる。

さらに海外での卵子提供を伴う体外受精や代理出産を実施する可能性があるとした人々についてみると、両者のグループともに「国内での治療に満足している」という回答が10%にとどまった。海外でのこれらの生殖補助医療を実施するつもりはないとした人々のうち約半数が「国内での治療に満足している」としたのに比べて著しく低いと言える。また、海外で卵子提供を受ける可能性のあるとした人々の回答と海外での卵子提供を受けるつもりはないとした人々、および海外での代理出産を考慮する可能性のあるとした人々と考慮する可能性のない人々を比較すると、いずれの場合でも、前者において「情報が少ない」（海外卵子提供 51.4%、海外代理出産 50.4%）「エージェントに信頼がない」（36.1% 30.4%）「日本で協力してくれる医師・病院がない」（27.1%、30.4%）

「遺伝子疾患などの子どもの影響に不安」（28.5%、21.6%）という不安点を挙げる人々の割合が顕著に多かった。さらに、海外での卵子提供に関しては、「ドナーは日本人のほうがよい」（43.1%）とする人々が顕著に多く、海外での代理出産では、「子どもの国籍取得・入国・戸籍登録に関する問題」（39.2%）を挙げた人々の割合が多かった。

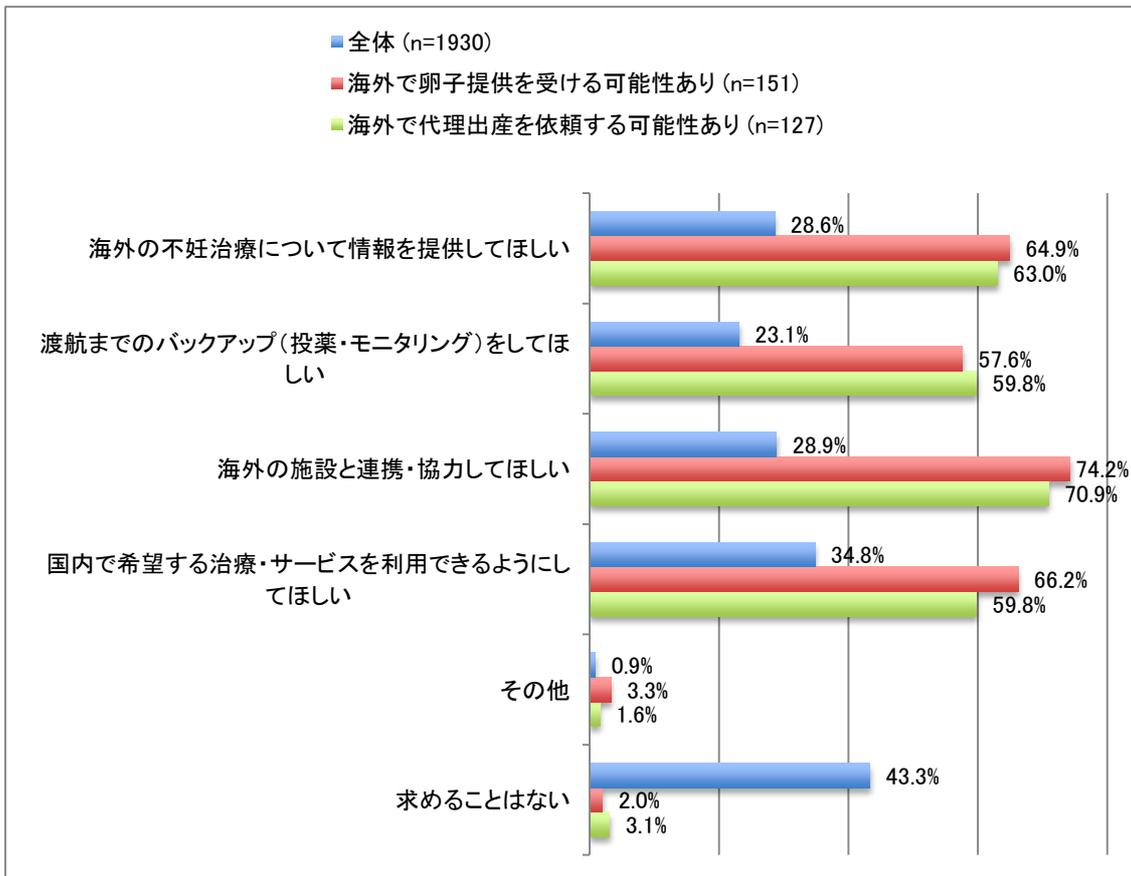
図 25 渡航治療に躊躇する理由 (複数回答)



(h) 渡航治療について日本の病医院・医師に求めること

海外での不妊治療について日本の医師に求めることを複数回答で聞いた（図 26）。「求めることはない」（43.3%）と回答した人が最も多く、それに次いで「国内で希望する治療・サービスを利用できるようにしてほしい」（34.8%）という回答が多かった。ただし、「海外の施設と連携・協力してほしい」（28.9%）、「海外での不妊治療について情報を提供してほしい」（28.6%）、「渡航までのバックアップ（投薬・モニタリング）をしてほしい」（23.1%）と回答した人も少なからずいた。海外で卵子提供を受ける可能性がある／代理出産を依頼する可能性があるとした人々の間では、いずれの項目に関しても、6割から7割程度の回答があった。

図 26 渡航治療に関する医師・病院への要望（複数回答）

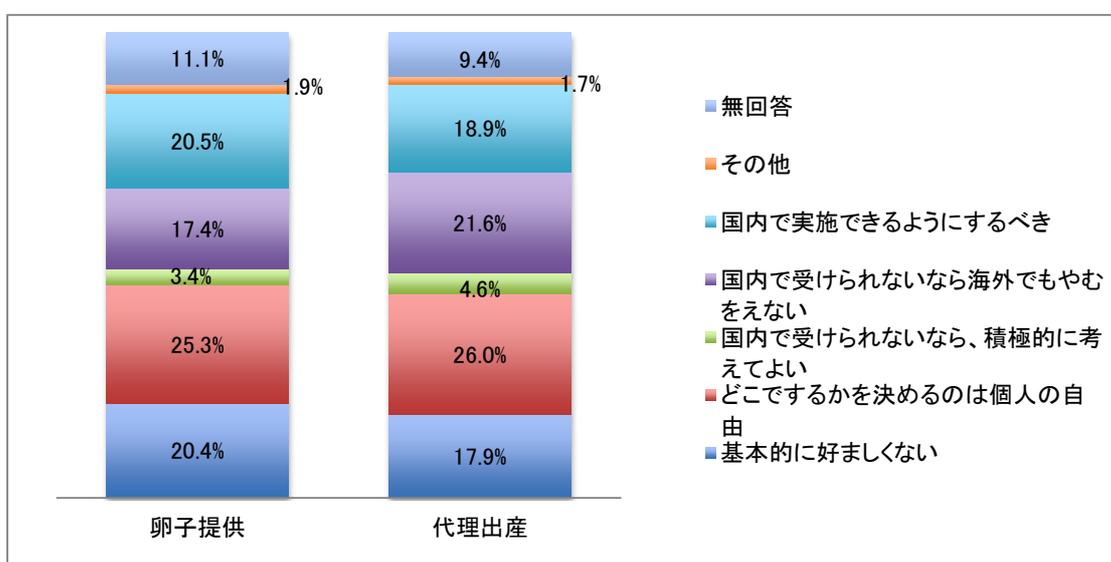


(g) 海外での卵子提供および代理出産の是非について

卵子提供と代理出産について海外で依頼することについての不妊治療当事者の見解を聞いた（図 27）。

「どこでするかを決めるのは個人の自由」(代理出産 26.0%、卵子提供 25.3%)、「国内で受けられないなら、積極的に考えてよい」(代理出産 4.6%、卵子提供 3.4%)という積極的容認や「国内で受けられないならやむを得ない」(代理出産 21.6%、卵子提供 17.4%)といった消極的容認を含めて、何らかの形で海外での代理出産や卵子提供を容認すべきとの見解が半数近くを占め(代理出産 52.2%、卵子提供 46.1%)、いずれも、「基本的に好ましくない」という回答を大きく上回った。

図 27 海外での卵子提供および代理出産に関する見解



また、海外で卵子提供を受ける可能性のあるとした人々の回答とそうでない人々の回答を比べると、すべての選択肢の回答比率について統計的有意な差が認められた ($p < 0.01$)。前者では、「基本的に好ましくない」(2.8% vs. 24.5%) だけではなく「どこでするかを決めるのは個人の自由」(11.3% vs. 29.6%)という回答が顕著に少なかった。その一方、「国内で受けられないなら海外でもやむを得ない」(32.1% vs. 18.9%)、「国内で実施できるようにするべき」(45.3% vs. 21.2%)という回答が目立って多かった。海外で卵子提供を受ける可能性のあるとした人々の回答では、「国内で実施できるようにするべき」および「国内で受けられないなら海外でもやむを得ない」があわせて8割近くに及んだ (図 28)。

海外での代理出産の依頼についても、おおむね同様の傾向が認められた。しかし、海外で卵子提供を受ける可能性のあるとした人々の海外での卵子提供に対する見解に比べて、「国内で受けられないなら、積極的に考えてよい」(20.0%)という回答が目立って

多く、「国内で実施できるようにするべき」(35.8%)という回答が比較的少なかった。こうした違いは、卵子提供よりも代理出産のほうが国内での実施環境が整う見込みが少なくいと当事者が認識していることに由来するものと推測される(図29)。

図 28 海外の卵子提供に関する見解 (海外で卵子提供を受ける可能性の有無別)

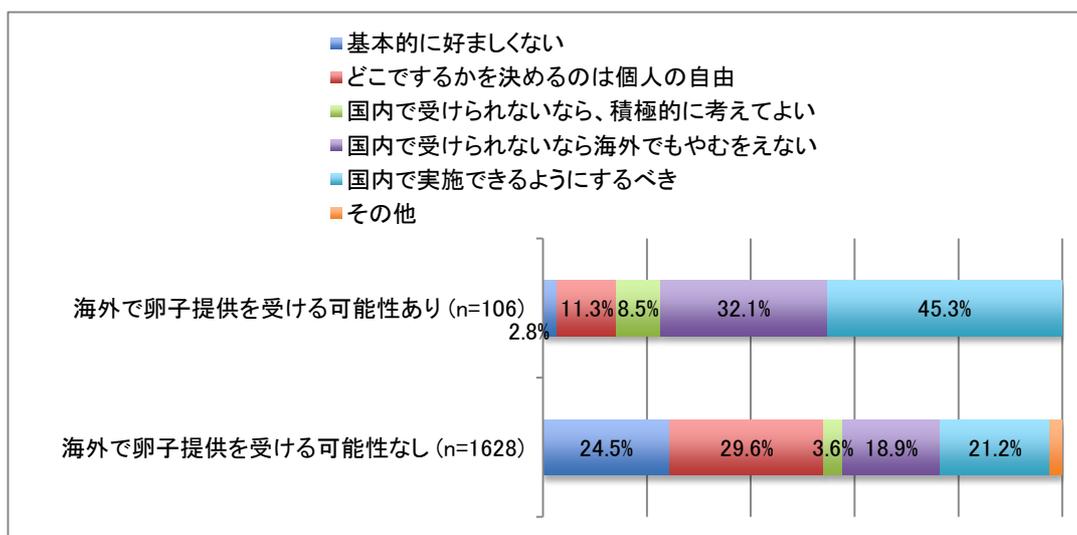
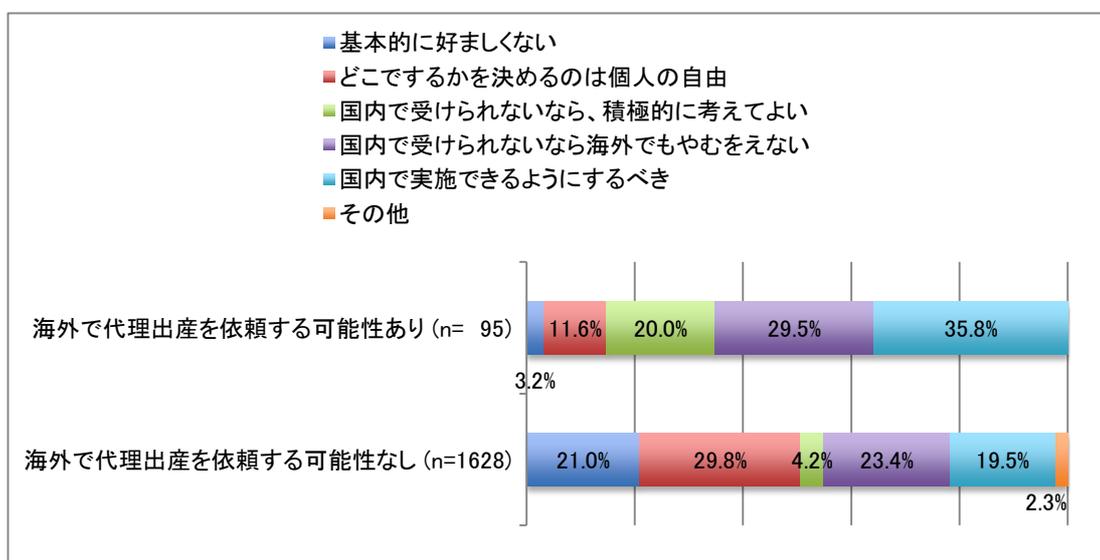


図 29 海外での代理出産に関する見解 (海外で代理出産依頼する可能性の有無別)



6. 考察

生殖補助医療は、不妊当事者に広く受け入れられている。体外受精は大きな経済的負担が伴う。それにもかかわらず、回答者の約半数が既に利用した経験をもっていた。そ

れ以外の人々の大半も利用する可能性がある」と回答した。不妊当事者は体外受精を不妊治療における数あるステップの一つとして捉えていると言えるだろう。

第三者の関与する生殖補助医療となると事情は異なる。今回の調査で、第三者の関与する生殖補助医療を受けた経験をもつと回答した人の数は極めて少なかった。また、精子提供、卵子提供、代理出産、いずれの項目に対しても、回答者の大多数が「今後も利用を検討する可能性はない」とした。不妊治療を続けても子を授からないときにどうするか、という質問に対し、第三者の関与する生殖補助医療を受けることよりも「夫婦二人の人生」を上位に選択した回答者が圧倒的に多かった。第三者の関与する生殖補助医療を受けることが国内では制度的に難しい。さらに、カップル以外の者が生殖のプロセスに関与することに対しては、さまざまな文化的・社会的・心理的な障壁が存在すると思われる。

しかし、第三者の関与する生殖補助医療については、以下のような点にも着目する必要がある。不妊原因によって不妊患者の第三者の関与する生殖補助医療に対する意識が異なる。とくに、卵子提供については、早発閉経と加齢を主な不妊原因として、卵子提供を受けることを検討する可能性がある」と回答した人が多かった。年齢層別で見ても、40歳以上の年齢層では卵子提供を視野に入れる人々が多かった。晩婚化・晩産化にともなう不妊当事者の高齢化の進行とともに、今後卵子提供へのニーズは増加する可能性がある。

また、どのような人からの卵子提供を希望するかについては、不妊当事者の間にも異なる志向が存在することが明らかになった。姉妹などの近親者からの卵子提供を選好する人もいれば、匿名の卵子ドナーからの卵子提供や余剰卵の提供の方を好ましいと考える人もいる。代理出産についても、望ましい代理出産者として姉妹などの近親者を挙げる人と血縁や面識のない代理出産者を挙げる人がいた。

渡航不妊治療については、現時点では、不妊患者の多くは、経済的、言語的、文化的、地理的要因などから実施は困難と感じており、渡航治療を視野に入れる不妊患者の割合は小さいが、インターネットによる情報の流通を通じて渡航治療に関する情報を入手しうらようになっており、こうしたことから、卵子提供を受けたり、代理出産を依頼したりすることを検討する人々の多くが、海外への渡航も視野に入れて考えているものと推測される。「卵子提供を受けることを検討している・検討する可能性がある」と回答した人々に限ってみると、「海外での実施を検討している・検討する可能性がある」と答えた人の割合は約6割であった。代理出産についても事情は同様であった。今後の海外

の生殖ツーリズム・ビジネスの動向を注視する必要があるだろう。

渡航不妊治療について留意すべき点として挙げられるのが、海外での卵子提供や代理出産の実施は、多くの場合、消去法による選択肢であると思われることである。「海外で卵子提供を受けたり、代理出産を依頼したりすることを検討している・検討する可能性がある」とした人々の多くは、海外での卵子提供や代理出産の実施について、「個人の自由である」「国内で実施できないなら積極的に考慮してもよい」とは考えておらず、「国内で実施できないならばやむをえない」「国内で実施出来るようにすべき」と考えていた。

7. 結論

上記のような調査結果の考察から、法整備を含めた第三者の関与する生殖補助医療の実施体制の確立の必要性が改めて確認される。

代理出産の是非についてはさまざまな意見はあるが、精子提供による人工授精はすでに我が国でも長らく実施されてきている。卵子提供による非配偶者間体外受精については、すでに日本生殖医療標準化機構(JISART)が国内で独自のガイドラインを設けて適切な倫理的配慮に基づいて実施している。配偶子提供に関しては、適切な倫理的配慮にもとづいた国内の実施体制を早急に整えるべきではないか。

また、卵子提供に対する多様なニーズをできるだけ汲み上げる体制を国内で整えることが望ましい。日本国内では、面識や血縁のない卵子ドナーや代理出産者を確保することは難しいかもしれないが、エッグ・シェアリングの実施も検討する余地はある。そうした際には、女性側の被提供者の年齢制限を設けることも考慮される必要があるかもしれない。

第三者の関与する生殖補助医療の結果生まれてくる子どもの福祉についての配慮が求められる。とくに、配偶子提供を受けて生まれてきた子どもの出自を知る権利については、情報開示のあり方について議論されなければならない。今回の調査では、精子提供や卵子提供を受けることを検討する人々の間では、「全く開示されてはならない」という回答が 3 分の 1 程度にのぼるなど、子どもが出自を知ることに対して否定的な回答が多かった。子どもに対する出自を知る権利については、これから配偶子提供を受けようとする不妊当事者とともに、すでに配偶子提供によって親となった人々に対する啓発や情報提供が求められる。

自由記述

「海外での不妊治療についてあなたはどのようなお考えをおもちですか。」

回答数 935 全て掲載

【個人の自由・自己責任】

- 日本人である以上、日本のルールの範囲で考えたい。海外で治療される方は現状では個人の自由であると思うが、国がそれを認め海外に依存してはならない。海外での治療を認めるなら、国内での実施ルールを整備すべき。(43歳、不妊治療歴2年2ヶ月)
- お金も時間も情熱も責任もあるのなら、子どもが欲しい気持ちは止められないかと。(31歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 個々の考え方が違うので人それぞれだが、どうしてもニュースになるのは芸能人や著名人が多いので、お金を持っている人がする治療というイメージが強い。(38歳、不妊治療歴2年)
- 個人の自由(34歳、不妊治療歴2年)
- 本人達が良ければいいと思う。子供が欲しいのにできないことは本人にしか分からない気持ちがある。(31歳、不妊治療歴3年)
- どこで卵子提供を受けるか、又は代理出産を実施するのか、決めるのは個人の自由だと思う。しかし海外よりは国内が望ましい。(43歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- チャレンジしたい人たちが自己責任においてチャレンジすれば良いと思います。(37歳、不妊治療歴1年4ヶ月)
- 私が望むならば、きちんとリスクを考えてするならば、良いと思う。(32歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- やむを得ない。(42歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 自分は考えていないが、海外での不妊治療に挑戦するのは個人の自由だと思うので、まわりがとやかくいう事ではない。(36歳、不妊治療歴3年3ヶ月)
- 経済面で不妊治療はしても国内までと思っているので考えてはいいです。ですが、海外で治療するのは個人の自由だと思っています。(24歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 金銭的に可能であり、夫婦の総意があれば良いと思う。(35歳、不妊治療歴3年)
- 個人の自由。(36歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 何を求めるかは個人によって違うので、それを希望する方は挑戦してもよいと思う。(28歳、不妊治療歴2年)
- いろいろとリスクはありそうだが、金銭的に余裕があり、どのような手段であっても子供が欲しくて、かつ、その先いかなる試練があってもよいという覚悟が夫婦間であるのなら、やっても良いと思う。(37歳、不妊治療歴3年)
- 安全、リスクがなければ個人の自由。(30歳、不妊治療歴3年4ヶ月)
- 個人の考え方なので、特に良い悪いなどは思わない。(42歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- 子どもがいないことで夫婦が追い込まれることがないように。希望を持って海外での不妊治療に行くのなら個人の自由だと思うが…。(39歳、不妊治療歴6年)
- 自分自身、海外での不妊治療は考えたことはないが、何が何でも子どもが欲しいと強く思っている人は、海外でも望みがあるなら試したいと思うのだろうと感じる。なので、どこで治療しようとするかは個人の自由だと不妊治療をしてみても感じた。(32歳、不妊治療歴1年)
- あとで、あの時こうしていれば…と後悔のないように、自分で納得の行く形が海外での不妊治療であるのなら、挑戦してもいいと思う。同じ不妊で悩んでいる人ならその気持ちは解かると思う。私もその気持ちはすごくわかります。海外での不妊治療を批判する人は同じ立場になったことがない人だと思う(私は納得の行く形は人工授精までです)。(40歳、不妊治療歴10ヶ月)
- どこまで治療をするのか、続けるのか、個人の自由だと思います。(29歳、不妊治療歴3年)
- 個人の自由であり、それについて批判する人たちはどうかと思う。人それぞれの考え方はある

- ので、批判したい思いはあっても、自分の意見を押し付ける必要はないと思う。不妊治療で苦しんでいる人の気持ちを考えてもらいたい。(33歳、不妊治療歴3年7ヶ月)
- 必要な方には大切なこと。(35歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 正直に言うと、よく分かりません。何が正しくて何が正しくないのか、いくら考えても正解はないと思います。私は海外での不妊治療については考えたこともないし、これからもありません。国内で治療を続けて、妊娠出来なかった場合は、あきらめます。金銭的にも無理です。でも、それぞれ人によって、考え方は違うと思うので、自分で納得できるなら、海外で行なってもいいと思います。(34歳、治療歴3年)
- 知識が足りなく、正直あまりわかりませんが、子供を望む親としては、個々の自由だと思います。ただ、難しい問題がたくさんあるとは思いますが…。(34歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 海外での治療しかないと言われれば子供を望む親にとっては…1度考えるかもしれません。でも今の私では、正直海外まで行くことは考えられませんし、主人もそこまでは望まないと思います。金銭的な面や言語の問題もありますし…。それしか方法がなくて、治療されている方がいるのであれば、個人の責任で決めるべきではないかと思います。(34歳、不妊治療歴2年)
- 個々の考えで海外へ行くのは自由だと思う。ただし、トラブル等があったときの対応や責任の明確化まで個人でやりきれるか不安があると思う。現状、海外で高度な治療を受けたり、代理出産を依頼する人は相当強い意志でやっていると思う。考えた末の夫婦の結論を周りの人間がとやかく言えないと思う(ので願いがかなうようお祈りします)。(39歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 個人の自由だと思う。(32歳、不妊治療歴2年)
- 当人の自由かと思います。(29歳、不妊治療歴2年5ヶ月)
- 個人の自由。代理出産であっても卵子・精子の提供者の国籍によって赤ちゃんの国籍を認めてほしい。(31歳、不妊治療歴3年3ヶ月)
- 個人の自由。(30歳、不妊治療歴3年8ヶ月)
- 海外で不妊治療を行うのは個人の自由だと思う。ただ、日本でも代理出産、卵子提供など治療の一環として普通にできるようになればいいと思う。いろいろな選択肢があった方がよい。(34歳、不妊治療歴2年11ヶ月)
- お金と時間に余裕があるなら、やればいいと思います。妊娠から出産までに個人の自由の上に格差が生じるのは仕方ないと思います。そしてその上で出産するのであれば、さまざまな法的な不平等が生じるのも仕方ないと思います。少子化対策や子の権利等は法律に反して出産する側に主張はできないと思います。(45歳、不妊治療歴1年)
- トライしたい人がトライしやすいような環境になればいいと思う。(42歳、不妊治療歴4年)
- 個人の問題なのでやりたい方はやれば良いと思う。ただそうすると経済的にやりたくてもできない方も多数いると思うので、日本でできるようになるのが一番だと思います。(32歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 個人の自由だと思います。(35歳、不妊治療歴4年)
- リスクを理解し言葉や費用に問題がなければ選択は自由だと思うが、日本人をターゲットにしたエージェントを頼る治療は危険だ。日本サイドで規制(早急)しないと悲惨な出産や事故が増える。日本人間の依頼を海外で行っているのは厳重に規制すべき。(45歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 個人の自由だと思う。(30歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- 望む人は海外へ行くのもよい。(38歳)
- 個人の自由である。私自身は国内で行いたい。(国内にも優秀な医師がいるので)特別な治療が必要な人(代理母等)は海外で行うしかないのでもいいと思う。私は望みませんが…。(36歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 詳しい正しい知識はあまりないが、本当に子供を望んでいる人達には進んでいる医療は素晴らしいと思う。(44歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 金銭的に余裕があるなら別にかまわないと思う。(35歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 自分は海外では受けたくないが個人の自由だと思う。ただし現状は、法が整備されていない不安と金銭的に余裕がある人しか検討できないところが問題だと思う。(27歳、不妊治療歴1年5ヶ月)

- 国内での規制が多いので、希望する方は個人の責任で行えばよいと思います。(32歳、不妊治療歴6年2ヶ月)
- 本人の自由だと思う。(ただ子供ができたときに、どんな問題が出てくると思われるかまで考えてそれでも欲しいと思えたらいいと思う。)(34歳、不妊治療歴5年)
- 個人の自由と思っています。(35歳、不妊治療歴2年)
- 排卵できて、お金があって、戸籍に問題が発生しないのであれば、希望する人はどんどん海外に行ってもらえばよいのではないかと。子どもが持てるかもしれない人を法で縛って、可能性を潰すのはよくないと思う。(40歳、不妊治療歴6年)
- 個人の自由で。ただし、自分の子供の将来のことをしっかりケアしてあげられるなら良いと思う。(36歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 「個人の自由」(38歳、不妊治療歴3年)
- やりたい人が無理のない範囲で出来るならいいと思う。(37歳、不妊治療歴5年)
- 金銭的に余裕があり、本人達が希望していれば問題ないと思う。(34歳、不妊治療歴4年)
- 希望する人が自由に行なえばよいと思う。(37歳、不妊治療歴1年9ヶ月)
- 個人の自由(41歳、不妊治療歴5年)
- 言葉の壁、費用の壁、法律の壁などがきちんとクリア出来るのなら、あっても良いとは思いますが。何とかして子供が欲しい、と思う気持ちは決して不純なものではないと思うので…(もちろん、授かる子供が利害関係に利用されかねないリスクも考えられると思うので、すごく難しい問題だとも思うんですが…)(32歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 個人の自由。(41歳、不妊治療歴2年4ヶ月)
- お金と時間がかかることなので普及するのは難しいと思うが、やりたい・やれる人達にはチャレンジできるようにしてあげたほうがよいと思う。(44歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 金銭的な余裕、夫婦間の価値観、周囲の賛同があれば良いのでは。しかし、一般的な家庭では仕事を休んでetcの問題が多々重なり、結局ストレスを感じてしまう気がする。(33歳、不妊治療歴7年)
- 不妊で悩む人々の辛さは当事者にしか分からないので、海外での不妊治療に踏み切らざるを得ない人達を批判する気持ちは全くありません。私のケースは、たまたま国内で解決できる不妊要因だったのだという認識です。(39歳、不妊治療歴4ヶ月)
- どうしても子供が欲しいのなら構わないと思います。費用の出せる人のみとなるのは仕方ないと思います。(40歳、不妊治療歴3年)
- どこで治療するかは、個人の自由だと思います。(34歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 個人の自由で希望する者がすればいいと思う。ただし、自分で産まなくても既に望まれず生まれてきている子供や虐待にあっている子供を、子供が好きで欲しい人は育てればよいと思う。(44歳、不妊治療歴3年)
- 経済的なハードル、法的なハードルが下がればもっと自由に不妊治療の選択肢が広がるので良いと思う。個人個人、納得するところまで治療できれば、社会的に規制されるようなことは最低限で良いと思う。(46歳、不妊治療歴2年5ヶ月)
- 望んでいる人はやっていると。望んでいる人にしか分からない気持ちだと思う。(29歳、不妊治療歴1年)
- 個人の自由。(30歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 本人が良いと思うのなら、自由に治療先(方法)を選ぶべき。ただし、その後、法的な問題が生じたら自己責任で。(33歳、不妊治療歴5年)
- 人それぞれ考え方が全く違うので、望む人は実行し望まない人はしない。それで良いと思う。ただ、実行し子供に遺伝的疾患などの影響が表れた場合、その子供の将来をちゃんと考えなければならぬと思う。親のエゴだけで子供を産もうとするのはいけないのでは。(32歳)
- 国内では認められていないが海外なら可能であるなら、選択は個人が自由に選べるべきだと思います。自分の子を授かりたい、ただそれだけのことなのに、国は協力すべきだと思います。(38歳、不妊治療歴3年)
- 子供が欲しい方の中でも考え方は人それぞれだと思います。夫婦が納得して治療するのが一番だと思いますので、海外に行くことで可能性が増すのであれば頑張ると思います。(31歳、不妊治療歴3年)

妊治療歴1年6ヶ月)

○子供を望む夫婦にとって、チャンスがあるならば海外で治療を受けることは賛成です。国内でできるとなお良いと思います。私が子育てしていて幸せを感じています。子を望む夫婦に、一組でも多くこの幸福感を味わってもらいたいと思っています。出産を可能にする医療技術があるならば利用すべき。(39歳、不妊治療歴2年3ヶ月)

○個人の自由だと思います。不妊で悩んだことのない人に倫理が…とか言われたくない。(34歳、不妊治療歴5年)

○子供が欲しい気持ちを優先して、海外の治療も規制なく海外で治療したい方でも治療したらよいと思います。(37歳、不妊治療歴2年5ヶ月)

○できる限り国内で治療すべきだが、海外でどのような手段で治療しようとする基本的な夫婦の自由である。赤ちゃんを授かりたいという想いは死ぬまで続く想いだと思うので、思う存分、納得いくまでしたい夫婦はチャレンジしても良いと思う。(39歳、不妊治療歴13年)

○気持ち的には大きな抵抗があります。が、実際不妊治療をしているとステップアップが必要になり、諦めるかそれでも諦めないかの選択をして、夢を持って海外にまで行くのだと思います。個人の価値観のことなので、夫婦の夢であれば何も言うことはできません。倫理の問題にもなるので、全くどうなっていくのが良いのかが分かりません。(37歳、不妊治療歴4年)

○できる人はした方がいいと思います。(40歳、不妊治療歴4年)

○個人の自由。(38歳、不妊治療歴2年)

○個人の自由であり、本人が納得するならばどの国でも良いでしょう。(41歳)

○選択するのは個人の自由だと思う。海外でしか道がないと言われたら、海外に行きたい気持ちはわかる。日本国内の法を整備し、第三者提供の選択を国内で可能にすべきだと思う。(40歳、不妊治療歴5年)

○日本で法規制されていないので、海外で不妊治療するかは個人の自由だと思っている。(39歳、不妊治療歴6年)

○考えたこともないのでわからないし興味もないが、必要としている人が必要な費用を持って、不自由なく治療できることができれば良いと思う。(31歳、不妊治療歴6ヶ月)

○個人の自由。(35歳、不妊治療歴6年)

○希望者の自由にすべき。国籍等に配慮を。(43歳、不妊治療歴3ヶ月)

○個人の自由だと思う。(40歳、不妊治療歴5年)

○資金があり、やりたいと思う人はやればよいと思う。(42歳、不妊治療歴3年4ヶ月)

○金銭的に余裕のある人がする治療というイメージがあります。子供が欲しいという気持ちは、ものすごく理解できるし。でも、テレビなどみていると、やはり普通に子供がいる人の意見かな…と思うことも何度もあり、海外に行っても欲しいと思うのは、間違っていないような気がします。(35歳、不妊治療歴1年)

○野田聖子さんのように高収入のある人は、やってもよいのではと思います。(ジャガー横田さんのように体力が若い人は、高年齢でも授かるのですから)若い人が卵子を凍結保存する人がいるというのはテレビで知りましたが、海外のことは今回初めて知りました。(41歳、不妊治療歴4年)

○日本より進んでいると思います。考え方もドライで、他の方からの提供や養子なども夫婦で望むのなら、受けるのも良いと思います。(40歳、不妊治療歴10年)

○メリット・デメリットを正しく伝えたいので、個人の判断で行っても良いと思う。(43歳、不妊治療歴5年)

○特に賛成・反対もなく、あくまで個人の考え・思いだと思います。私の場合は、今現在の年齢が最後(今の治療)だと考えているので、今後はありません。ただ、もっと若く金銭面も余裕があれば、チャレンジも考えの一つになったかもしれません。日本での不妊治療でも不安など多いため、海外では、すごく厳しいものと考えます。(42歳、不妊治療歴8年)

○個人の自由だと思う。(31歳、不妊治療歴1年)

○子供が欲しいという願いは、大きく計り知れないもの。金銭的なことなど条件がそろっていれば、本人の考えで、海外での治療も許されるものだと思う。ただ、生まれてくる子の体に負担がかかることは避けたい。(42歳、不妊治療歴10ヶ月)

- 個人の自由だが、お金がある人だけという気がする。(31歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 本人と家族が望んでいるのなら良いと思います。(31歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 向井亜紀さん、野田聖子さんの報道でしか知識はありません。自分がこれだけ長期の不妊生活を送り、経済力が許すならば、自然な選択だと思います。誰しもがいきなり「卵子提供等」を考えるわけではなく、自分とパートナーの体、治療結果、心理のいきさつがあり、行きつく選択なので。国内でも法律などが整備されて解禁されれば、体外受精(夫婦間)の先のステップとして、幅が広がると思う。…という程度の認識しかありません。(42歳、不妊治療歴5年2ヶ月)
- 結果として子供を幸せにすることができ、当事者も幸せになるのであれば、規制しなくてもいいと思う。たとえば良いかわからないが、性同一性障害のように(子供がいないと)生きていけない、(家系を継ぐ者がいないと)困る、離婚するしかなくなる夫婦にはやむをえないと思う。精神的にも経済的にも、海外での不妊治療を受けるには壁があり、乗り越える時点で覚悟できている人に絞られるわけだから、自然に規制がかかっているようなものだ(誰しも自分の子供が欲しいのは当然だから)。啓発するとすれば、運転免許更新時のビデオのように悪い事態も紹介し知識を深めることで、当事者の責任感を引き出すことにとどめたいと思う。誰にでも相談できるわけではないので、患者の方も知識は不足している。できれば規制の代わりに、今後の生殖医療がどのように発達し、いつごろどのような医療が受けられるからドナーは不要になると示してもらえれば、少しは説得できる。無理に規制すると、離婚率は増え、反発するだけなのでやめてほしい。自発性を損なわない方法を考えてほしい。
- あまり(今のところ)考えていないのでわからない。個人の自由だと思うので、もっと情報が得やすくなると思う。(26歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- やりたい人はやれば良いと思う。(40歳、不妊治療歴3ヶ月)
- まだ治療を始めたばかりですが、いろいろ考えます。そこまでして子供が欲しいのか？人それぞれ自由なので、本人が納得できるまでとことんチャレンジしていいと思います。それでもダメだったら他の人生もあるのかな、とも考えます。産後、数年後、トラブルになったりはしないのでしょうか？(39歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 法律や世間体などを心配して、海外で受けることになる気持ちや実態は理解できますが、不妊治療や出産には様々なリスクの可能性があることを思うと、無理してまですべきことなのかと疑問に思います。しかし、どうしてもという何らかの理由があるからには、個人の選択に異論を押し付けるまでのことはできない、というのが今の個人的な思いです。(41歳、不妊治療歴6年)
- 必要な人もいると思うので、個人の自由でできるようになるといいと思う。(38歳、不妊治療歴1年)
- 人それぞれの考え方なので、海外での治療を望むなら、それはそれで良いと思う。(37歳、不妊治療歴4年)
- 私は幸いなことに、国内で満足のできる治療を受けることができています。(自宅から通える範囲内に、技術的にも精神的にも信頼できる医師とスタッフさんのいる病院があるからです)そして、自分以外もしくは夫以外の方から、それがたとえ自分の肉親、夫の家族からであっても卵子・精子を提供していただく考えはありません。代理出産についても、するつもりはありません。私自身は海外での治療は必要とはしていませんが、他の方がその方の信念においてする分には自由だと考えています。(32歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- お金があり抵抗がない方がすればいい。(35歳、不妊治療歴5年)
- どうしてもやりたい理由がある人は、仕方ないと思う。(38歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- たとえ第三者の関わる技術を行ってでも子供を授かりたいという気持ちは理解できるので、個人の自由だと思う。そこまで考えることは、それなりの精神的苦痛や不安があつてのものなので、チャレンジできる範囲が増えるのは良いと思う。(27歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 人それぞれだと思います。(36歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 受けるのは個人の自由だと思う。望むのであれば、自由に受けたり、もっとオープンになるといいと思う。(36歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 自分自身、人工授精や体外受精などにステップアップしていないため具体的に考えたことはありませんが、子供が欲しいと望む人達が国内でできない治療を海外でと思うこと・治療することは本人の自由だと思います。(26歳、不妊治療歴2年3ヶ月)

- 医師との信頼関係が築けるのであれば、日本でも海外でも良いと思います。ただ、日本で認められていない技術を求めて海外へ行き、なし崩し的に進めてしまうことを良いとは思えません。(35歳、不妊治療歴6年)
- いいと思います。(37歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 本人が望むなら、そして経済的にも可能であれば、海外での治療を受けてまでも子供を授かりたいという気持ちはよくわかるのでいいと思います。(39歳、不妊治療歴2年)
- 本人が望むなら別にいいのでは。(39歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 個人の自由で、海外の治療を希望する人はしても良いと思います。(39歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- 治療費も日本より安く、子供が欲しいFAMILYは海外で不妊治療をすることはいいことと思う。(35歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 私の場合は国内での治療で可能性があるため、海外での治療までは考えたことはありません。しかし、お金にも余裕があり最後の望みが海外のできるのであれば、それを決断し不妊治療することは個人の自由だと思います。そこまでに至るまで、たくさん辛い思いをしていると思うので、法に縛らずに、できる方はチャレンジしてもよいと思います。(39歳、不妊治療歴10ヶ月)

【国内で子供が出来ない夫婦ならば容認】

- 全く子供を授からない、日本では制限があるので、希望すれば海外での不妊治療は自由だと思う。実際は金銭面や仕事のことなど関係してくるので難しい人が多いと思う。(37歳、不妊治療歴4年)
- 自分でするつもりはないが、海外での不妊治療に踏み切る人の気持ちはわかります。長い間治療しても結果が出ない場合、国内ではできない卵子・精子提供や代理母出産に最後の希望を持つのだと思います。(40歳、不妊治療歴5年6ヶ月)
- どうしても子供を持ちたい人についての選択肢として、国内でできないのなら海外に行っても治療したい人はいると思う。そういう考えの人達を否定はしないが、自分達はそこまでして子供を持つという気持ちはない。(40歳、不妊治療歴1年8ヶ月)
- どんなに頑張ってもできず、海外の技術に頼らなければならない人もいるのだから、規制する必要はないと思う。(26歳、不妊治療歴9ヶ月)
- 本当に子どもが欲しくて治療をしているのだから、国内でできないなら海外へ行って可能性が増加するならチャレンジしたいと思うのは理解できる。ただ自分が…となると金銭的にも主人の仕事の都合を考えると無理だし、何よりも分からないことが多すぎて不安で行こうとは思えません。(35歳)
- 病気などの理由から、海外でチャンスがあるならば、この場合は賛成できます。が、この反面、お金がある人の選択肢にはなって欲しくない。(44歳、不妊治療歴9年5ヶ月)
- 国内では限界があるので、夫婦で話し合った上でしたらやむをえないと思う。(32歳、不妊治療歴3年)
- 国内で何度治療しても授けられない場合や、現在海外でしか出来ない治療を受けたい場合は、海外で治療することは個人の判断によるのかなと思うところはあります。特に女性の場合は年齢によって期限がありますし。(36歳、不妊治療歴2年8ヶ月)
- 日本では精子提供による治療に関して制限があり、海外(米国など)で認められているが日本で認められていない技術でしか妊娠、出産の可能性がない夫婦がその技術を望むのは仕方が無いと思う。ただ、費用面など、かなりハードルが高いのが現状。誰でも治療が選択できれば良いのですが。(27歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 日本で治療できないのならば、海外での治療も仕方ないと思う。それだけ子どもが欲しい気持ちが強いから。(39歳、不妊治療歴4年)
- 私たち夫婦間では、自分たち(血縁)の子供を産むことになったので精子提供はしませんが、それぞれ夫婦の考え方があると思います。私達も出来る限りのことは全てして子供を授かりたいと思っています。国内でできない治療があるので、海外で治療を受けるのは当然のことだと思います。(36歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 日本では規制もあるため、どうしても子供が欲しくても日本ではどうにもならない人には海

- 外に行くしかないのです、しかたないことだと思います。日本で出来るなら海外に行かなくてすむのに、とたくさんの方が思っているのではないのでしょうか。(37歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 基本的には国内で出来ることを望みますが、現在は難しいので必要な方はやむなく海外へ行く人がいるといった状況なのではないのでしょうか。不妊治療をしている人は、本当に子供が欲しくて欲しくてしょうがないので、少しでも可能性があるなら海外を考えるのは当然だと思います。(39歳)
- 心底子供が欲しくて、年齢とのタイムリミット、スケジュール調整、経済問題と戦いながら、少しでも可能性を探している人がたくさんいます。その夫婦が望むなら、海外でもどこでも治療を応援するべきと思う。(42歳、不妊治療歴10年)
- 自分自身は、今の治療で、妊娠できる可能性が有るので、海外での治療については、考えたこともありませんでした。でも、全く子供ができる可能性がなく、それでも子供が欲しいご夫婦がおられるのであれば、海外で治療を受けることについては選択できるよう幅を広げてもいいのでは、と思います。ただ先の問題も含めて覚悟が必要でしょうが…。(36歳、不妊治療歴1年4ヶ月)
- 私自身、海外での不妊治療は現在考えておりませんが、日本国内で行えないのでやむを得ず海外で治療を受けることに関しては個人の考えを尊重します。生まれた子供の戸籍の問題などクリアにしなければならないことがたくさんありますが、近い将来もう少し身近に行われる治療になれば良いと思います。(43歳、不妊治療歴1年9ヶ月)
- 法的なことはよくわかりませんが、日本で許されていないことが海外で可能な場合、本当に子供が欲しいのであれば、法の許す範囲で海外での治療をすることは、当然の行為であり、特に問題があるとは思わない。法の改訂まで必要なのかはよくわかりません。(38歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 国内で子供が望めない場合は海外で不妊治療をすることは仕方ないと思う。もう少し国にもバックアップしてほしい。(30歳、不妊治療歴4年)
- 経済的に余裕もあり、強く望むのであればいいと思います。どんな問題が出てくるのか詳しく分からないですが、子供を望む気持ちは分かる。海外でしか授かる可能性がないのであれば、そうする(そうしたい)気持ちは分かる気がします。(28歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 女性にはタイムリミットがあるので、国内ですぐ受けられない治療であれば「海外で」を選択することもやむを得ないと思います。(28歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 国内で無理なら海外での不妊治療はいい事だと思う。(36歳、不妊治療歴8年)
- どうしても子供が欲しくても国内での治療ができないのであれば、海外での治療という考えもありなかなと思います。(38歳、不妊治療歴5年)
- 私は全く考えておりませんが、国内でできない治療であれば海外の不妊治療もあっても良いと思います。(41歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 情報が少ないためによくわからない。国内でできることを行っても妊娠に至らなかった場合、情報があり費用がかからないのであれば、可能性がある限り治療したいと思う。(30歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 国内で出来る手段を使っても妊娠に至らない場合、海外での治療に踏み切りたいのは本当に気持ちがよく分かります。今後、そういったケースの救済措置として、国内の医療機関との連携の上、代理出産、卵子・精子提供等が合法になることを願います。(37歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 日本で出来ないのなら、海外でやるしかないのが現実。ただ、経済的に余裕がなければ出来ないのも現実。(42歳、不妊治療歴10年)
- 国内で受けられない治療が海外では受けられるのなら、渡航治療も理解できる。(29歳)
- 国内で治療できないのであれば、できる方法として、海外での不妊治療は認めるべきだと思う。(31歳、不妊治療歴4年)
- 自分は考えていないが、治療で何をやっても授からず、国内では行っていないなら、海外も考えなくてはならないと思う。代理出産など母が産める年ならいいが、めったにないことだと思う。望んで海外に行くわけでは無いと思う。(41歳、不妊治療歴3年)
- 国内で不可能なことであれば、個人の自由で行っても良いと思う。(38歳、不妊治療歴2年)
- 日本でできないのであれば海外でもありだと思います。(35歳、不妊治療歴2年3ヶ月)

- 日本では無理な治療を本人が望むのであれば、海外での治療は試しても良いと思う。(39歳、不妊治療歴3年)
- 子供が欲しくて諦められない家庭にとって、日本国内ではできない治療ができるのは望みがあることだと思います。色々難しいとは思いますが、もっと情報が得られるようになっていくと救われる方、望みを持てる方が増えていくと思います。(31歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 日本で法律上できない技術もたくさんあると思うので、その技術が必要ならば海外に行くべき。(49歳、不妊治療歴6年10ヶ月)
- 身体的に海外での不妊治療を受けざるを得ないのであれば、本人の判断次第だと思う。ただし、自然妊娠が可能であるにもかかわらず、産み分けで海外へというのは、生態系も崩れるしどうかと思う。一定の条件は必要。(31歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 国内でできることは国内でと思っていますが、お金に余裕がある人で国内では無理な治療の場合、海外に行っても良いと思います。(36歳、不妊治療歴3年)
- 国内で受けられないので海外に行くのは良いと思う。(37歳、不妊治療歴2年)
- 国内の治療で何とか授かっていますが、一人もできないとなると海外も考えたかもしれません。向井亜紀さんのことはTVで観ましたが「母親になりたい」ただそのことだけなのに、国内でできず海外なら可能であれば、経済的事情が許す範囲でチャレンジしようと思うのは非常に気持ちはわかります。自然に妊娠できないことで悩む人はたくさんおり、たった一度の人生我が子を授かるためならチャレンジするのは当然だと思います。(38歳、不妊治療歴6年)
- 性別操作のための不妊治療には賛成できませんが、日本国内で法律上の問題で治療の選択肢に限りがある場合に限ってはいたしかたないと思います。(39歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- どうしても子供を授かりたい場合、国内でできないのなら、個人的には仕方がないと思う。ただ、日本では、海外で不妊治療を受けた場合の心理的な問題(両親の置かれる社会的な状況や子供への告知など)についての議論がほとんどなされていないと思う。(不妊治療歴3年)
- 子供が欲しくてもできない人はたくさんいるので、国内ではできないことが海外ででき、それによって子供が授かれるのならば積極的に取り入れるべきだと考えます。(33歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 国内で認められない治療があるなら仕方ない。(29歳、不妊治療歴4年6ヶ月)
- 日本国内で受けられない治療ならば、海外で受ける権利があると思うので、受けたい人は受ければよいと思う。(37歳、不妊治療歴1年)
- 個人の判断で、国内でできないことを海外で治療をするのもありだと思う。私は1人目が病院検査後のタイミング指導で授かり、現在2人目不妊治療中です。もし、1人も出産していなかったら出産できなかつたら、もっと違う回答をしていたかもしれません。不妊治療に悩んでいる女性(夫婦)が海外での治療で減るのなら、それも良いのではないのでしょうか？(41歳、不妊治療歴4年)
- 国内で実施できない内容については、海外で実施するしか方法がない。(43歳、不妊治療歴2年4ヶ月)
- 日本で受けることができないならば、海外へ行くしかない。(49歳、不妊治療歴3年7ヶ月)
- 日本でできないなら海外でという考えは、ありだと思います。早く日本でできるようになってほしいです。(35歳)
- 子供が欲しいができない場合は、海外での不妊治療も良いと思う。自分も欲しいが、できないのでとても辛いです。お金と時間が取れるなら、自分もしたいと思う。(33歳、不妊治療歴1年5ヶ月)
- 倫理上の問題で、国内ではやってもらえない治療が、海外では可能と聞くと「自分も…」とってしまう。国によって治療の内容が違うのも納得いかない。(38歳、不妊治療歴3年)
- 国内でできる不妊治療を全てしたとしても子供を授からず、どうしても何とでも子供が欲しいと思ったら、海外での不妊治療も可能性としてはチャレンジしているかもしれないと思うが、そこまでして子供を授からなくても夫婦2人の人生も楽しめると思う。一生後悔しそうなほど子供が欲しかったら、海外での治療をする。(37歳、不妊治療歴7年5ヶ月)
- 日本で受けられない治療が海外で受けられるなら、受けたいと思うのも仕方ないことだと思う。(44歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

- 日本で代理出産・卵子提供が難しいので、それしか方法がないんだと思う。(31歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 国内でできず、どうしても子供が欲しい人は、海外での治療も考えても良いと思う。(43歳、不妊治療歴6年)
- 海外での治療を考えたことがないので詳しいことはわかりませんが、とくかくお金がかかるのが一番だと思います。お金と時間が自由にあり、夫婦間での高度治療でどうしても無理ならば、海外での治療は検討したと思います。可能な人が実際に海外に行くのは当然で、子供を実子として育てられないのは、とても不幸なことだと思います。(40歳、不妊治療歴2年10ヶ月)
- 日本でできないので外国に行くしかないから、他にないので仕方ないです。外国に行く人は、みんなそうなんだと思う。だから、どうのこうのって考えたって仕方ないです。(47歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 日本で不可能であれば、海外へ出向いてもいいと思う。金銭的にも精神的にも負担は大きいですが、それぐらい子供が欲しいという気持ちが大きいということだと思います。(33歳、不妊治療歴3年)
- 国内で治療したうえで、国内では受けることのできない、あるいは法整備のない治療を受けるために、海外に行く方の気持ちは理解できます。しかし、実際に海外で不妊治療を受けることができるのは、時間的・経済的に恵まれた一部の方だけだと思います。(41歳、不妊治療歴3年5ヶ月)
- 海外での不妊治療の技術が、どの国でも日本より雲泥の差で優れているとは思わないので、わざわざ海外での治療にトライすることはないと思います。日本の技術はそれだけ優れていると思うからです。ただ思想や法律の違いで、海外でなければ受けることのできない治療があり、それを望むとしたらそのことに否定的な思いはありません。(45歳、不妊治療歴3年)
- 国内で不可能となった場合、海外で可能性が少しでもあれば治療するべきだと思います。(30歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 日本国内で治療ができないのならいいと思う。それだけ子供を望んでいるわけだし、不妊に悩んでいる人にしかわからないと思う。(36歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 国内で代理出産が認められていない以上、海外で治療を希望する人が出てくるのは当然だと思います。個人的には、自分と家族の仕事を考えると現実的に海外で治療を受けるのは困難とと思っている。(37歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 不妊の辛さは経験した人にしか分からない辛さです。海外に行くことで(国内でできないため)2人の子供を授かることができるなら、諦めたくないのが正直な気持ちです。色々な意見がありますが、苦勞なく授かった人には分からないことです。夫婦2人のことは2人で決めさせてほしい。(27歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 経済的な問題で、海外での治療を諦めている人は多くいると思う。卵子提供は国内でできないのだから、海外を選択肢に入れるのは当然のことだと思います。(40歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 日本ではできないことができる。(33歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 日本でできないなら海外でやっても良いと思う。(41歳、不妊治療歴3年)

【他の人がやる分には構わないが自分はやらない】

- 私達は日本の不妊治療の技術が高い水準にあると思っているので、海外に行こうとは考えたことはありませんが、育児希望の強さ、経済的なこと、それぞれの事情があるので、それ自体悪いこととは思いません。ただ、悪徳な仲介や母体の安全が確保されていないケースも多々報道で耳にするので、日本での治療が無理ならせめて、合法的に治療が受けられるよう整備してほしいです。(41歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 様々な疾患で妊娠が不可能になった場合の選択肢として、海外での代理出産や卵子・精子の提供があり、それは認められて当然だと思うが、自分がそこまでするか、と聞かれると多分、夫婦2人の生活を選ぶと思う。(39歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 自分自身のこととしては考えたことはないが、海外でされることについて特に違和感はない。出来る人はどんどんチャレンジして良いと思う。(39歳、不妊治療歴2年)
- 自分たち夫婦は考えていないが、考えざるを得ない夫婦もいると思う。なかなか結果が出ず、海外に目を向ける気持ちは理解できる。情報がたくさん得られるようになったら良いと思う。

(41 歳、不妊治療歴 3 年)

○海外に行ってまで治療をしたいと思う人を理解できます。しかし、自分自身はそこまでは考えられません。(45 歳、不妊治療歴 5 年 10 ヶ月)

○個人的には時間、費用、年齢等、不可能であると思い、ほとんど考えたことはない。しかし、子供が欲しいと思う人には、ありとあらゆる手段をとっても欲しいと考えるのではないだろうか。(39 歳、不妊治療歴 1 年)

○私自身は金銭面のことや、子供がいない人生に対する覚悟もあるので、海外での治療は深く考えたことはありません。しかし、どうしても子供を授かりたいという人たちの気持ちも十分理解できるため、海外での不妊治療が可能な場合は、行うこともよいと思います。しかし卵子提供や代理母出産など、倫理的な部分で法の整備が進まないことも理解できます。とても難しい問題だと思います。(36 歳、不妊治療歴 10 年)

○希望があれば、海外で治療を受けるべきであると思うが、私は希望が無いので、そこらへんはよくわからない。(36 歳、不妊治療歴 6 ヶ月)

○不妊治療をどういう形でどう進めるのかは、その夫婦間の考え方の問題かと思います。海外での不妊治療も選択肢の一つではありますが、私は“そこまでして”という考えです。(40 歳、不妊治療歴 5 年 8 ヶ月)

○子供が欲しい人にとっては必要なことだと思うので、反対とは思いませんが、倫理的に問われる部分については正直気になります。(41 歳、不妊治療歴 5 ヶ月)

○望む人がすればいいと思う。夫婦で話し合っ、興味がある人が考えればいい。私はそこまでは望まないけど、法律で可能性をつぶすのは間違っていると思う。(36 歳、不妊治療歴 6 ヶ月)

○人それぞれ希望する内容が違うので、一概には言えない。私は今のところ検討していない。(32 歳、不妊治療歴 3 年)

○あまり知識もないし、今のところ考えてもいない。しかし、やる人に関してはうまくいくといいなと思う。(32 歳、不妊治療歴 6 ヶ月)

○私自身、海外では治療するつもりはありませんが、不妊治療で国内でどうしても出来ない方で強く妊娠を望んでおられるのなら、海外での治療も反対ではありません。(31 歳、不妊治療歴 7 年)

○自分はするつもりはないが、否定もしません。本当に子供を望む人にとったら、すがりたいと思うのは当たり前。日本も子供不足と言っているので、認めて援助金など検討してもいいと思う。(30 歳、不妊治療歴 2 年)

○国内でどうしてもなければ海外も考えたいという人はいると思いますが、自分はそこまで考えていません。(41 歳、不妊治療歴 1 年 6 ヶ月)

○治療を受ける本人の自由だと思う。私個人的には国内で十分だと思う。(37 歳、不妊治療歴 8 ヶ月)

○私はするつもりはありませんが、多くの方に情報をいただくと良いと思います。(40 歳、不妊治療歴 1 年 6 ヶ月)

○自分自身は出産できたので行う意思はないが、望む人にはもっと間に入るエージェントなど情報をたくさん提供して、一人でもたくさんのママができるようにしてほしい。(38 歳、不妊治療歴 8 年 6 ヶ月)

○自分自身のこととしては、全く検討していません。経済的・時間的な面で恵まれている一部の人が行くというイメージで、身近な感じはありません。が、個人の考えで実施することは自由だと思います。(44 歳、不妊治療歴 2 年)

○基本的に個人の自由なので、悪いことだとは思っていませんが、自分がどうするか？というと、海外での治療は全く考えられません。国内で出来る限りのことを、夫婦間でのみ行なって、ダメなら諦めるしか無いと思っています。(31 歳、不妊治療歴 3 年)

○国内ではできない治療を受けても子供が欲しい方々もいらっしゃると思います。だから、個人が納得できるのであれば、海外で治療することも良いのではないのでしょうか。私個人としては、多額の費用と様々なリスクを考えると海外で治療することは検討しません。(31 歳、不妊治療歴 1 年)

○今はまだ自分自身が夫婦間の体外受精で可能性がある状態なので、海外の治療にあまり関心

のない状況です。でも今後治療が行き詰まり、どうしようもなくなった時、ようやく海外の治療に目を向けるかもしれません。日本では規制があり、できないことが海外ではできるというのは不妊に悩む人にとっては最後の希望だと思います。でも費用が不安です。(30歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○子どもが一人もいないで、どうしても欲しい人(お金があり海外の言葉も生活も出来る人)ならすればよいが、自分はムリ。(30歳、不妊治療歴2年)

○自分では海外で受けるつもりはないが、受けたいという人はそういう選択肢もありだと思う。(30歳、不妊治療歴7ヶ月)

○個人の自由なので良いのでは?と思う。私はNGですけど。子供が大きくなって真実を知っても平気になれる育て方をすればよい。(39歳)

○自分は考えていないのですが、希望されて頑張る方の応援もしたいような気がします。ただ、親権等でもめることのないように、子供が不幸にならないようにしてほしい。(39歳、不妊治療歴7年)

○私は海外までは考えていませんが、芸能人の向井亜紀さんのような方を考えると、海外まで行っても自分の子供が欲しいという気持ちはわかります。(31歳、不妊治療歴2年)

○自分には行かないが、行く人がいてもいいと思う。(31歳、不妊治療歴2年)

○子供がいる人・欲しいと思わない人には、不妊の人の気持ちは分からないと思う。子供をどうやって授かるかは、個人(当人)が決めればよいが、産み分けや遺伝子操作など人間が手を加えていい部分には規制があっても仕方ないと思う。私自身は、主人と自分の精子と卵子で受精してきた子供でなければ自分の子供ではないと思うので、体外受精をして出来なければ諦めるか、どうしても欲しければ養子を考えることがあるかもしれない。(36歳、不妊治療歴4年)

○国内での治療に限界があるなら、海外での治療を望むこともやむをえないと思います。私は、現在の医師・技術等に大変満足しています。現在の治療で子供が授からない場合は、それが私たちの宿命と受け止め、2人の人生を歩んでいきたいと思っています。(40歳、不妊治療歴1年8ヶ月)

○私は考えたことはないのですが、国内での治療で良い結果が出ない場合は海外での治療にステップアップするのも良いと思います。でも金銭的に厳しいと思います。(34歳、不妊治療歴4年8ヶ月)

○私自身は希望しませんが、本当に子供を欲しいと思っている人が本当に必要であれば、海外で治療してもいいと思います。(32歳、不妊治療歴5年)

○自分には関係ないと思えるが、若い夫婦の場合は選択肢に上がるだろうと思う。(41歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○個人の自由だが、私は海外での治療を全く考えていない。(35歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○本当に子供が欲しくて、お金に余裕のある方は、挑戦しても良いと思う。自分は言葉の壁やお金が無理なので、そこまではできないけど、産めなくなる前に後悔したくないので挑戦するべき。(32歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○私自身は考えたことはありませんが、海外でしか受けられない治療を望まれているなら、仕方がないと思います。ただ、代理母(卵子・精子提供)などは、これから先も私自身は考えないです。

(27歳、不妊治療歴9ヶ月)

○不妊治療をするのは個人の自由なので、その夫婦が望めば、海外での治療もアリかと思う。私は、そこまでしませんが。子供は欲しいけど、ダメなら夫婦2人の人生も考えていたので。(39歳、不妊治療歴4年)

○国内の治療だけでも、金銭的・体力的・精神的に厳しいと感じています。海外での治療を考えたことはありません。しかし、海外で治療を受けられている方に対して、否定的な気持ちは全くありません。夫婦の価値観・考え方で、一番信ずる治療を受けるものだと思います。(39歳、不妊治療歴3年)

○国内でできない不妊治療を海外で行うことは、仕方がないことだと思う。私自身、顕微授精で子供を授かったのですが、そこまで考えたことはないし、収入も低いこともあり、海外の不妊治療は高そうなので頭にはなかった。海外では高収入の人がするものかと…。採卵で私自身、卵巣が腫れ危険を伴ったので、卵子提供される方にはそういうことも含め、重みをもって行ってもらいたい。決して、営利目的であってはいけないと思う。(31歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○海外での治療については、個人の自由だと思います。ただし、金銭に余裕がある人しか、行きたくても行けないと思います。テレビで有名人や著名人がドキュメントでやっていると思いますが、私たち一般人には到底無理な話で現実味がありません。(37歳、不妊治療歴7年)

○「子供が欲しい」と強く希望されている方にとっては最終手段でもあり、全てを否定することはできません。しかし、自分自身としては、子供のいない人生も決して不幸ではないと思うし、経済的なことを考えても海外での治療は選択肢に入りません。第三者の体を侵襲してまでの治療は望まない。ただ、病気や先天的な問題で、第三者が関わる治療でないとならば妊娠が望めない場合は仕方がないと思います。(30歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○わざわざ海外で治療を受けるということは、特別な人が受けるという印象が強い(金銭的に余裕のある人)。法的なことは詳しくわからないが、日本でもできる治療は高い技術があると思っているので、全く考えたことがない。情報もないが一般的でないと思われるため、私自身関心がない。どうしても子供が欲しいという気持ちはよくわかるが、どんな手を使ってもやるというのは個人的には賛成できない。しかし個人の考えがあるので、全く道を閉ざしてしまうのもどうかとは思っているので難しいと思います。(39歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○国内でできないことを海外でするのは良いと思う。費用と時間がかかるので自分はしないけれど、賛成する。(31歳、不妊治療歴2年)

○なるべく自分はしたくない。でも個人の自由だから、したい人はどんどんすればいいと思う。(30歳、不妊治療歴6ヶ月)

○私は今のところ、したいとは思いませんが、したい人はしてもいいと思います。日本は倫理的な問題等でできなかつたりする治療もありますが、当事者が良く考えて決めてしっかりとした契約みたいなものを取り交わせば、日本でもしてみてもいいと思います。(24歳、不妊治療歴5ヶ月)

○自分はするつもりはありませんが、「海外に行っても不妊治療したい」と思う人がいるのも自然のことかなと思います。国内で受けられないから、海外に行くのでしょから。戸籍については、もう少し柔軟に対応できないものかなあと思います。(35歳、不妊治療歴3年)

【海外での治療に興味がある】

○もっといろいろな部分でスムーズにできるようになってくれれば嬉しく思います。(39歳、不妊治療歴4年)

○金銭的に余裕があれば考えたいと思う。国内がダメなら海外で。そこまでして子供が欲しいと思うんだということがもっと世間で理解されるべき。何が問題なのか分からない。但し、もっと養子縁組(特別)が国内でしやすければ、海外に目を向けず、養子をもらうことを考える人が増えるのは確かだと思う。(43歳、不妊治療歴10年)

○国内での治療でダメならいいと思う。でも、経済的な事を考えると思いとどまる。(30歳、不妊治療歴3年)

○新しい治療法があるなら(国内でできないなら)受けてもいいと思います。経済的に大丈夫ならいいと思う。(44歳、不妊治療歴7ヶ月)

○代理母出産が可能である。(32歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○今のところ考えていません。しかし、国内での治療が限界ならば、可能性を求めて海外で治療をするかもしれません。(37歳、不妊治療歴5年)

○日本の法律で不可能な治療法が海外で出来るのであれば検討したいが、渡航や治療代が高額なので、金銭面で断念するしかない。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○興味はある。しかし、安全性への不安は否めない。(41歳、不妊治療歴4年3ヶ月)

○お金があったら考えてみたい。(42歳、不妊治療歴3年)

○興味、関心はあるが、細かいことは分からない。情報(実績、費用、体験談など)が知りたい。どこで情報を収集できるのかも分からない。(34歳、不妊治療歴5年)

○日本よりもより高度な技術と可能性があるなら試してみたい。(35歳、不妊治療歴3年)

○自分は国内の治療で結果が得られたので満足していますが、もし結果が得られず、国内では無理となり、海外での治療なら可能性あるといわれれば、検討もしたと思います。不妊治療を続けていく辛さは経験しないとなかなか理解してもらえないかもしれませんが、可能性が少しでも

- あればそれにかけると思うはずです。(37歳、不妊治療歴6年)
- お金と時間があれば考えたいが、海外での治療は不安なのが強い。今の状況でも人には相談できず苦しい気持ちなのに、他の人には言えない。(43歳、不妊治療歴10年)
- 賛成します。今後、国内では妊娠ができないのであればやってみたい。でも私たちの家計では無理でしょう。(36歳、不妊治療歴1年7ヶ月)
- 国内、海外の技術の違いがわからない。国内で行えない治療が海外にあり、それによって子どもが持てるのなら海外に行くのもありだが、うちには金銭的余裕がない。(40歳、不妊治療歴1年)
- お金が安いならしても良いと思う。(29歳、不妊治療歴1年)
- 自分の遺伝子を後世に残したい気持ちが強いし、親や祖先のことを思うと自分の子が欲しいという思いがありますが、やはり今の医療の進歩がもし自分のリミットに間に合わなかったらと思うと卵子提供などを考えることがあります。海外で安全で安心できる方法が見つければ、挑戦する可能性もあるかもしれません。(28歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 最終手段。日本でダメなら考えても…。両親や友人が近くにいる方が安心。(44歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 日本で受けるのとあまり変わらない技術などであればわざわざ海外にまで行く必要はないと思うが、確実とは言いきれなくとも日本より確率があきらかに高ければ海外での治療も考えてみたい(ただし、費用や時間がかかりすぎるのであれば断念せざるを得ません)。(46歳、不妊治療歴3年)
- 情報があまりないのでわからない。聞いてみたい。(39歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 子供ができないのなら(国内で)、外国に行ってみたいと思う。(47歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 具体的にいろんな情報が出てくれば考えたいと思います。(43歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- TV等で知る限り米国等、とても自由にオープンで多様な可能性を感じる。(40歳、不妊治療歴10ヶ月)
- せっばつまってどうしても欲しいのなら行きます。(41歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 海外ですぐに妊娠するのであればやってみたいと思うけど、とても高額すぎて無理だなと感じた。(28歳、治療歴6年)
- もう少し費用が安く情報をもっとあれば、海外での治療を検討する人たちが増えると思います。(31歳、治療歴7ヶ月)
- 金銭的・時間的余裕があれば、是非検討してみたいと思っているので否定的な考えは持っていない。(35歳、不妊治療歴2年)
- 特に何も。技術が国内よりも高いのであれば是非受けたい。(38歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- お金と時間があれば海外でもいいかなと思う。(27歳、不妊治療歴1年7ヶ月)
- 必要に応じて考えます。今のところ2人子供がいるので考えませんが、1人もいなかったら考えたと思います。できれば、海外ではなく国内でできるようになればと思います。(40歳、不妊治療歴2年)
- 日本でできない治療を受けれるので良いと思う。(42歳、不妊治療歴6年)
- 本当に子供を欲しく日本でしっかり治療しても子供ができない場合はありだと思いますけど、私自身はそこまで考えていません。ただ、このままずっとできなくて40代に入ってしまったら、考えが変わって海外に行くかもしれません。(30歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 最終手段としてやむを得ない気がします。(43歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- 医療としての環境が整っているかが気になるので、海外の治療に関してはあまり積極的ではありませんが、自分の年齢も考えると子どもを設けるということが目的なので、実現可能であれば検討の余地があると思っています。(39歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 必要であれば、やりたい。(37歳、不妊治療歴2年)
- 日本の医療は限られていて、治療ができない部分が多い。時間・お金など自分の希望する治療と条件さえ合えば海外へ治療に行くのも考えられる。少しでも希望があれば子どもを欲しい方はみなさんその少しの光を信じ、子どもをつくる助力はしたいと思う。(36歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 本当に自分の子供を授かりたいと思うので、海外まで行かれるというのは賛成です。予算も体

も言葉も大きな負担だと思います。行動に移されるのがスバラシイ。もっと配慮があっても良いと思っています(金銭的・社会的)。もし海外の方が技術が上なのであれば、日本の医師も修得できるように国の補助があって欲しいです。(36歳、不妊治療歴3年)

○金銭的、仕事をしているので休暇をとれるなどが可能であればやってみたいが、言葉の問題が不安であるので、ある程度、日本語が通じれば良いと思います。チャレンジできるなら、誰もが試したいと思っています。(46歳、不妊治療歴10年)

○チャンスがあれば、やってみたい。(44歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○私は消極的ですが、いろいろな意見があって難しい問題だと思います。現在、2人目不妊で通院中なので、子どもが1人いるため積極的には考えませんが、もし1人もいなくて海外で治療することで可能性があるなら検討するかもしれません。(34歳)

○代理出産だろうが卵子提供だろうが、「自分の子供」を産む自由が羨ましい。「体外受精」もヘンな目で見られたりしない。「子供が欲しい」という望みが叶えられそうな良いイメージがある。(38歳、不妊治療歴5年10ヶ月)

○安全性・治療の費用等、法律の整備が進めば、自分にとって利用しやすければ検討するかも知れません。必要に迫られれば…。でも、不妊治療を受けずに子供を授かることが一番の望みです。(36歳、不妊治療歴5年2ヶ月)

○本来であれば、国内で適正な価格・最新技術で行える環境が望ましいが、卵子提供者が国内にいて、その後の関係等を考えると複雑な気持ちがするので、全く知らない(病歴等、ドナーとしての情報だけはあ)方がいいかもしれません。(41歳、不妊治療歴1年)

○オープンで積極的。お金を積めば何でもアリなイメージ。(37歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○経済的に余裕がない。あれば海外での治療も考える。(35歳、不妊治療歴5年)

○国内でいい結果が得れずについて、タイムリミットもあるとなると経済面でクリアできれば良いと思います。(41歳、不妊治療歴3年)

○今まで考えていなかったが、確率があるならチャレンジしても良い。(43歳、不妊治療歴7ヶ月)

○技術があり、日本より費用が安ければ検討したい。(38歳、不妊治療歴1年3ヶ月)

○加齢により受精卵のグレードも良くなく、着床しないまま5年が過ぎました。医師にも海外での卵子提供をすすめられましたが、300万ぐらいするので先に進めません…。自分でドナーを探してくればオフレコで体外受精をしてくれるところも見つけましたが、私には姉妹もいないので友人に頼んでもNGでした…。金銭的な問題さえなければ、すぐにでもアメリカで卵子提供を受けてみたいです。(45歳、不妊治療歴5年)

○お金があればいいと思う。(42歳、不妊治療歴2年)

○まだよく分からない。現在の治療で難しいようなら検討します。(33歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○このまま国内でダメならば、チャンスがあれば…。(36歳、不妊治療歴6年6ヶ月)

○私のように加齢により卵子の発育がなかなかできない場合に、OPENで卵子の提供をしてくれる海外には期待があります。たくさんの国で実践しているのであれば、たくさんの治療法があると思える希望となっています。(43歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○日本よりもはるかに進んでいる印象を受ける。不妊治療だけでなく、出生前診断・無痛分娩等、海外では当たり前のことが日本では受け入れられていない(好意的に)と思う。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)

○海外で不妊治療、また卵子提供がもっと身近なものになるのであれば考えたい。あまりにも費用が大きすぎて、日本での治療でも負担が大きすぎる。また、治療が合法的なものになれば考えたい。(40歳、不妊治療歴2年)

○安全でお金がかからないのであれば検討したい。(成功率も含めて)(36歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○海外での治療について特に調べたことがないので無知ですが、言葉の問題、保険の問題、成果・確率、経費が自分なりにクリアできれば、法的なことは無視して治療してみたい。できれば、妊娠が必ずできる確約があれば、少し経費がかかっても海外に出る気持ちもある。(すべて夫婦間の不妊治療で、ドナーは考えていない)(35歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

- 情報が確実に得られて、医療機関と積極的に話し合いができればよい。(44歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 費用はものすごく高いイメージですが、代理出産などとてもオープンなイメージで、日本より良いイメージを受けます。(36歳)
- 子供を欲しいと願ってやまない人は、たくさんいると思います。その希望を叶えられるように、いろんな可能性を教えてほしいし、実現できるようになってほしいです。(33歳、不妊治療歴2年)
- 様々な新しい議論が伴うが、いろいろな方法で子を持つチャンスを与えてくれるという意味で、日本よりも進んでいると思う。(38歳、不妊治療歴2年)
- 最終的な行動になると思う。日本より海外での治療の方が、ある意味進んでいるので羨ましい部分がある。(48歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 合法的にできるなら良いと思う。ただし、経済的弱者や貧しい国の人が自らの意思ではなく、利用されるようなことが起きてはいけないと思う。また、提供者・代理出産者の人権・健康・衛生も保たれることが必要。また今現在では、海外での治療は非常に高額だと聞きます。日本人でもお金がたくさんない人は、希望があっても、海外治療のチャンスを得られないのは残念だと思います。(44歳、不妊治療歴4年6ヶ月)
- 金銭的に許されるなら行ってみたい。(43歳、不妊治療歴3年4ヶ月)
- 可能な選択と思っていた。可能なら情報を得たい。(実行できるかは不明)(不妊治療歴10年)
- 日本では法整備をしようという動きすらない中で、唯一の希望となるかもしれない。できれば、言葉も通じ文化の壁もない日本で、安心して医療を受けたいことは誰もが望むことで、精神的・経済的負担があっても子供を持つことを諦めることができないので検討しています。(33歳)
- 事情がよく分からないので、まるで認識がありません。テレビドラマ等で取り上げられる内容が、果たして事実なのか知りたい。経済的にかなり負担になりそうで、一般庶民が手に届くくらいの額になるなら、と思います。子供が欲しい人は本当に欲しいと思うので、切なる願いと思います。(38歳、不妊治療歴1年)
- 高額、不安(衛生面)。日本でできない治療をやってくれるので良い。(47歳、不妊治療歴12年)
- 不妊治療費が高額であるという印象。実際そうだと思います。渡航して仲介料等支払うともっと高額になる。しかし、実績はあると思うので一度は試してみたいです。(44歳、不妊治療歴2年10ヶ月)
- 日本では制限のある内容でも海外で許されること。自分が望むことが安価でできるのであれば良いと思う。(42歳、不妊治療歴4年5ヶ月)
- 地方でも身近にコーディネーターがほしい。もっと情報、統計等数値が欲しい。(36歳、不妊治療歴5年)
- 自分自身の卵子がないとなった時に、最終的な決断として卵子提供も考えます。海外でしか認められないこと、敷居が高く踏み切りにくいのが現状で、高額という面でも厳しい決断になると思います。世論も心配です。(43歳、不妊治療歴5年)
- 私は、多発性子宮筋腫があり妊娠のため筋腫核手術を受け、仕事を休職して体外受精を行っていますが、未だ妊娠に至りません。健康な子宮さえあれば夫と私の子供が持てるのにと考えると、体外受精で子供が望めなければ、海外で代理出産を考えようと思っております。海外での不妊治療は、精神的・経済的・時間的にも様々な不安や負担がありますが、日本では認められておらず、他に方法がないので仕方ないと思っています。(33歳、不妊治療歴1年5ヶ月)
- 二子目ができず焦っています。妻と卵子提供(米国)を検討しているが、妻のことを考えると強引に考えられない。しかし、何とか子供が欲しい。(43歳、不妊治療歴3年8ヶ月)
- 最先端(卵子の核移植ができるのでは?など)の治療が受けられるのでは?と期待大です。(46歳、不妊治療歴2年2ヶ月)
- 考えたことがなかった。自分の夫のキャリアを捨ててまで海外に治療のために頻繁に通うことは現実的でないが、日本で治療中に海外赴任となり、そこで治療を行うことは考えられる。ただし、その国の医療技術、治療成績に納得がゆけばの場合に限るが。(34歳、不妊治療歴1年)
- 経済的にゆとりがあり、海外の方が優秀であれば行ってみたい。(38歳、不妊治療歴4年)

○興味はあります(タイで治療してみたいです)。経済的なことと具体的な成功率が、日本の今の病院より(××クリニック)高ければ行きたい。(36歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

【選択肢の一つに】

○全く考えたことがなかったが、選択肢の一つとしてあっていいと思う。(33歳、不妊治療歴1ヶ月)

○あらゆる選択肢があるべきだとは思いますが、悪用されることがないようにしてほしい。命の大切さだけは軽んじることのないように願います。(30歳、不妊治療歴2年8ヶ月)

○子供は生まれてから育つ環境が大切であり、海外でも国内でも自由に選択でき、社会に完全に認められた行為であるよう当たり前の治療になるべきである。(45歳、不妊治療歴5年)

○自分は全く考えていないが、子どもを強く望む人にとってはその選択肢も必要かと思われる。(35歳、不妊治療歴3年9ヶ月)

○日本国内では受けられない治療が可能で、なおかつ費用が支払える範囲であれば選択肢として考えて良いと思う。インターネットで調べることができた範囲ですが、日本国内は海外に比べて規制が多い気がします。(43歳、不妊治療歴3年4ヶ月)

○私は全く関心がないが、子供が欲しいと強く考えている人にとっては、可能性がある治療はすべて試してみたいのだろうと思う。治療の可能性がすべて絶たれた時の精神的苦痛は耐え難いと思う。ただ、日本と違い海外では卵子・精子提供者の人権が侵されていないかが心配だ。(35歳、不妊治療歴2年10ヶ月)

○積極的に賛成ではないが、深く悩んでいる方にとっては選択の一つであると思う。海外にいかなくとも、日本でその治療の選択ができることが望ましい。(38歳、不妊治療歴3年2ヶ月)

○子供を望む上で、最終手段として海外で治療することは、選択肢の一つとして考えてもいいと思う。国内でできるのであれば、それが一番だと思う。(31歳、不妊治療歴4年8ヶ月)

○特に賛成も反対もしません。海外での治療も選択肢の一つだと思います。(42歳、不妊治療歴5年)

○子供が出来ない苦しさを考えると、海外で不妊治療は一つの選択肢として良いと思います。ただ、高額になるので誰でもということにはならないと思いますが、金銭面で余裕があるならいいと思います。逆に言えば、そうしてまでも自分の子供が欲しいという人が日本にたくさんいるということではないでしょうか。体外受精は保険が効かない診療が多く、助成があるとはいえ、高額にかわりありません。海外のことを考えるよりも、まず、日本の不妊治療を見直し、たくさんの方が何度でもチャレンジできる診療方法を考えるべきだと思います。(33歳、不妊治療歴3年)

○認めるべきだと思う。(41歳、不妊治療歴1年)

○国内で認められている以外の治療を受けようと考えられている方は、どうしても子供が欲しくて諦められないという思いでおられると思うので、そのような人たちには海外での治療を受けさせてあげたいと思います。(39歳、不妊治療歴4年)

○身近に海外での不妊治療に関する情報がないため関心が持てません。しかし、今後、日本での認知度が高まり(掃除機なら日立、Panasonic など日本メーカー以外にもダイソンが海外にはあるように)不妊治療の選択肢の一つに渡航治療も加わってくることがあれば、次第に積極的に考えていけると思います。(30歳、不妊治療歴2年10ヶ月)

○友人が行ったこともあり、一つの選択肢として十分あり得ると思います。特に友人は病気の関係で他に選択肢がなかったこともあり、その決断を尊重したいと個人的に思っています。(39歳、不妊治療歴9年)

○一つの選択肢としては存在してよいと思う。が、例えば国内で治療していてもよい結果につながらないとき、Dr から提案される場がないとなかなか現実としてはイメージが見えてこない。条件の揃う人が治療の選択が可能な環境にしていくことは必要と思う。(42歳、不妊治療歴18年)

○高いお金を出してでも自分の子供がほしいと願う人たちにとっては、海外での治療という選択肢があるのはいいことだと思う。(29歳)

○子供がどのような手段であれ、生まれてくる子供を望んでいる夫婦に「道」を「選ばせて」ほしい。少子化対策としての一選択としてあっても良いと思う。金銭的援助もほしいぐらい。(39歳)

歳、不妊治療歴 8 ヶ月)

○海外にあまり免疫がないためか、そこまでは考えたことは正直ない。でも、もし十分な知識と資金があり、海外に行けば自分たちの子が授かれると言われたら、そういう状況に追い込まれたときは一つの選択肢として考えるかもしれないが現時点では考えられない。だからと言って海外の治療に反対はしない。やはり、そういう不妊症で苦しむ人の気持ちがわかるから。その苦しみは授かることでしか完全には解放されないと思うので。(28 歳、不妊治療歴 2 年 9 ヶ月)

○その選択肢があることで救われる人は多いと思います。不妊治療は文化的、倫理的に日本国内でも様々な捉え方がありますので、海外まで広がっていくことで宗教的問題もからみ、よりむずかしくなっていくと思います。技術だけでなく、精神面のサポートも深く求めていく必要を忘れてはならないのではないのでしょうか。(35 歳、不妊治療歴 5 年 3 ヶ月)

○自由に選べれば良いと思う。ただ、提供する側もされる側もできるだけ安全にできるように、技術的にも法的にもなれば良いと願う。そして、そのようにして生まれてきた子供も傷つかないように社会的には、法的なまた人々の心理的な配慮がなされていけばと思う。(37 歳、不妊治療歴 2 年)

○一つの手段。(28 歳、不妊治療歴 4 ヶ月)

○初耳でした。現在のところ全く検討する気はありませんが、最終的な選択肢として知ることができるきっかけとなり良かったです。(34 歳、不妊治療歴 11 ヶ月)

○言葉の問題や治療費が高額なので今のところ考えられないが、法律の問題などもクリアになれば選択肢が増えるので、不妊治療する者にとってはうれしく思う。(49 歳、不妊治療歴 16 年)

○時間と経済的に余裕のある人しかできない。もう少し早く海外での治療を知っていたら、選択していたかもしれない。年齢的に限界。不妊治療を始めるときにわかっていたら(情報を知っていたら)、前向きに海外での治療を検討していただろう。(44 歳、不妊治療歴 5 年 3 ヶ月)

○日本に比べ、海外の方が治療の選択肢が多い。(41 歳、不妊治療歴 3 年 6 ヶ月)

○治療に対して、あらゆる選択肢はあってよいと思う。(36 歳、不妊治療歴 2 年 2 ヶ月)

○人には様々な事情があり、一概に禁止するのはどうかと思う。自分は不妊治療で 2 人出産し、3 人目の治療中だが、もし子宝に恵まれていなければ、願いを叶える手段を考えていたと思う。(41 歳、不妊治療歴 1 年)

○カナダでの費用は、日本と同等 or + α です。助成金はないので、日本の方が安いと思います。米国は日本の 3~5 倍です。その代わりに選択肢が圧倒的に多いです。AIH→IVF→ICSI 日本はここまでですが、egg ドナー→代理母→養子といういろいろな方法で子供を授かるチャンスがあります。米国のような営利目的の一大マーケットには疑問を感じますが、日本にももっとチョイスがあっても良いと思います。(41 歳、不妊治療歴 9 年)

○海外での治療によって子供が持てるのであれば、子供を持つ、持たないの選択は与えるべきだと思う。倫理的にどうこう言う人は、子供の持てない人の気持ちをわからないんだなと思います。(41 歳、不妊治療歴 2 年)

○日本で許可されてない限りは、選択肢の一つとして肯定的に考えていますが、経済的・物理的に私たちには難しいと思っています。日本でもできる治療が増えることを希望します。(43 歳、不妊治療歴 3 年)

○私はまだ治療期間が浅いので、顕微授精で夫婦間のみで、いずれきっと妊娠・出産ができる日が来るはず、と思っているところがあります。でも、希望が叶わぬ状態が何年か続けば年齢的に厳しくなって、夫婦間では解決不可能と言われてしまったら…海外で、とその時考えるのかもしれませんが。今でも悩みは尽きないので、選択肢として海外での治療をする皆さんのことは理解したいと思います。(40 歳、不妊治療歴 10 ヶ月)

○治療の選択が広がることは、とてもいいことだと思う。(37 歳、不妊治療歴 4 年)

○まだ治療期間が浅いため、海外でのことは考えたことはないです。しかし今後、選択の一つとして考えていく可能性は否定できません。現在は、海外のことについてメディアでしか知りません。考えていく際は、様々な情報から国などを検討していくと思います。(34 歳、不妊治療歴 1 年 1 ヶ月)

○必要な人にとっての選択肢の一つだと思います。(35 歳、不妊治療歴 3 年 10 ヶ月)

○私は国内で治療しても赤ちゃんを授かれなかった場合、夫婦 2 人での人生を歩んでいきます。

なので、あまり肯定的ではありません。ただ、国内外問わず治療できると選択肢が増えるので、制度を作り環境を整えてもらえると嬉しいです。(31歳、不妊治療歴2年5ヶ月)

○子供が欲しいという思いの強い方には、いろんな選択肢があってもよいと思う。(37歳、不妊治療歴3年5ヶ月)

【海外に渡航するためのサポートが必要】

○私自身は考えていないことですが、一般的に情報が増え医療機関でのフォローが充実すれば、不妊治療の範囲がさらに広がり、利用していく人達が増えるのではないのでしょうか。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○海外へ行く余裕(時間、お金など)があるならチャレンジしてみたいが、いろいろ不安が多い。国、政府、病院がサポートしてくれるなら少しは安心。(28歳、不妊治療歴2年2ヶ月)

○本人が希望し、国内の医師が海外での不妊治療が好ましいと思うのなら、政府が援助してスムーズに治療ができるようにすべきと考えます。(30歳)

○国内の病院と連携して欲しい。(45歳、不妊治療歴2年8ヶ月)

○まだ海外での治療を考える段階ではありませんが、子供の国籍や病院選びも含め、情報がとても少ないと感じています。(26歳、不妊治療歴5年6ヶ月)

○調べていないので何が国内では出来ず、海外なら可能なのか分かりませんが、国内ではどうしてもできないのならば海外で行うことはいいと思います。ただ、お金がかかるでしょうから、国が援助すべきだと思います。本来なら日本国内で出来るようにするべきでしょう。これだけ不妊治療に通う人が多いのですから、もっと国が考えるべきだと思います。私は幸いにも国内の治療で子どもを授かりました。国内で無理なら海外で、と望む人たちの気持ちもとてもよく分かります。ぜひ、もっと国内での可能性を高めて行って欲しいものです。(42歳、不妊治療歴2年)

○言葉の問題など、いろいろな問題が多くある。お金もかかるので、そこまでして自分たちは求めるのかよく考えて実行する必要がある。情報の提供があまりないと思う。日本の医師との連携があれば取り組みやすいと思う。(44歳、不妊治療歴1年10ヶ月)

○係争が起きた際に、現地法と日本の法律でおそらく差異があると思うので、そのあたりも検討の際、考慮すべきかと思います。(43歳、不妊治療歴8ヶ月)

○言葉の問題や費用、手続き等、かなり大変なようなので、私の中には選択肢としてはないですが、それでも望む人にはサポートがあってもいいかなとは思っています。あるサイトで海外での代理出産で、自分の卵子だけでなく、外国人の方の卵子も混ぜられたとありました。納得できないままサインを求められ…との内容でやっぱりもめることも多いのだと不安になりました。(32歳、不妊治療歴4年10ヶ月)

○自分自身は、海外まで行くことは考えたことがありません。ただ、望む人には、何らかの法は作った上で、Backupもしくは日本国内での実現をアシストすべきと考えます。(38歳、不妊治療歴5年)

○海外で希望される方のために窓口をひらくべきだと思います。国内でもお金が無いと治療ができないので、保険が使えるなどして欲しい。(39歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○経済的・制度的・安全度が高ければ挑戦したい気持ちは少しある。しかしこれ以上、家計的負担・精神的負担を負うことに疑問がある。治療中の施設において、これらの情報についての提供があれば安心して考えを進めていくことができると思う。カウンセリング等をしてくれると良いが、ドクター1人のクリニックのため現状では転院しない限り無理かと思う。(47歳、不妊治療歴5年11ヶ月)

○個人的に予定はないが、自由な考え方や選択肢があっても良いと思う。信頼できるエージェントがあれば問題はないと思う。行政や医師などが連携していると良いと思う。(41歳、不妊治療歴4年)

○国内では現在難しいことも多いと思います。子供が欲しいと思っても年齢や育児の経済的なことなどを考えると高齢になる前に…というのもあるので、きちんとしたバックアップ・サポートがある良い環境で行うことが可能なら、治療を海外で受けるのも方法の一つだと思います。(30歳、不妊治療歴3ヶ月)

○日本で治療の見込みがない→海外治療へ移行。渡航費、通訳などの費用を助成金で払えるよう

にしてほしい。(38歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○個人的には海外での不妊治療は考えていないが、望む人には費用面・生活面の負担を減らしてあげてほしい。ただでさえ手探り状態の不妊治療で、さらに慣れない海外での生活となると精神面・肉体的ストレスは大きい。(30歳、不妊治療歴2年)

○それで可能性があるなら、あるかぎり頑張れる環境をつくってほしい。(32歳、不妊治療歴2年)

○経済的支援を受けられる制度が整備されていると、挑戦する人が増えると思います。どこまで治療をすれば本人が諦められるのか。人それぞれなので難しいと思います。(41歳、不妊治療歴5年)

○国内の病院において、渡航までと帰国時のバックアップを充実してほしい。(44歳、不妊治療歴3年)

○国内での治療がこれ以上難しいとなった場合、海外での治療を受けるのは個人の自由だと思いますが、そのような立場におかれた人々が安心して治療できるよう国としてもサポートしてほしいと思います。(42歳、不妊治療歴1年)

○費用や子供の戸籍の問題など、困難なことがたくさんありそう。もっと安心して、できうる限りの方法にチャレンジできるように国もバックアップしてほしい。(36歳、不妊治療歴1年)

○正しい情報が信頼できる機関から提供され、それに基づいて、個人で選択できるのであれば良いと思う。公的なサポートがあると良い。(33歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○海外のエージェント・病院は、どこが良いのか全然わかりません。日本の病院から紹介してほしいです。(40歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○良いと思っています。日本人が海外で治療を受けやすいようにしてほしいです。金銭的にも。(33歳、不妊治療歴7年)

○費用が一番の問題。現実的に国外で治療せざるをえないケースがたくさんあると思う。サポートを国内でも充実させてほしい。(36歳、不妊治療歴3年3ヶ月)

○最初は”なぜ、そこまでするの？”と疑問に思っていました。でも、自分が不妊治療に通うようになり、いろいろ勉強していくうちに自分の現状も考えると、何とか日本にいながら本人が納得のいく治療をできる限り国に応援してほしいです。可能性が数%でもある限り、どんな治療も受けてみたいです。女性にはリミットがあるので、皆必死です。保険も使えず(体外)、金銭的にもしんどい中、海外の治療を選ばざるをえない人たちのことを国にもっと考えてほしいです。(41歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○技術は素晴らしいと思っています。個人的でも治療を受けやすいルール作りをしてほしい。(30歳、不妊治療歴3年)

○私自身考えていないが、希望する人には今以上に実現しやすい環境を整えてほしい。(34歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○海外での不妊治療についての情報があまりなく、卵子提供や代理出産は法規制もないため実際に行うとなると怖いイメージがある。しかし、子供が欲しい気持ちは何物にも代えられないものであり、海外で治療が必要なきにきちんとした法規制があり、安心して治療ができるような環境が多くなれば良いと願っています。(29歳、不妊治療歴1年5ヶ月)

○国からの補助もしてくれて、安心して海外での治療ができるようになれば、不妊治療に悩む方も減ると思う。(28歳、不妊治療歴3年7ヶ月)

【法整備・社会的議論が必要】

○私は特に考えていませんが、本当に子供が欲しい方には、認めてあげるべきだと思います。戸籍や出生も日本で認めてあげれば、海外で望まれる方もいると思います。日本は少子化だと言われている今、ちょっと考え方を変えれば、子供の人口も増加するのではないのでしょうか。(35歳、不妊治療歴11ヶ月)

○現実として海外での不妊治療を利用する日本人がいる以上、きちんとしたルール作りをすることは必要だと思う。生まれてくる子供たちの近親婚を避けるためにも、記録が隠されず(偽って実子として届け出るなど)開示されるべきであると思う。(40歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○親は強い意志を持っていても、子どもが偏見にさらされるリスクが今の日本社会では大きす

ぎる。子どもが自分の意思決定が出来る年齢に達するまでは、周囲が騒がしくならないためにも子どもへの告知は慎重にすべき。そもそも親子間に愛情と信頼関係があれば血縁に頼る必要はないと思うが、個別のケースで状況は異なるのが当然。海外での治療(特に精子・卵子提供)は、今の社会環境では子どもにとって試練が大きすぎるように思える。双子出産でも偏見がある未熟な社会である。(26歳、不妊治療歴2年)

○広い心で、法を変えて欲しい。代理母でもDNAが親子ならば実子と出来るように。貧しい国の人が苦しまないよう(無理な代理母など)そこらあたりには厳しくしないとイケないと思います。(39歳、不妊治療歴2ヶ月)

○自分が不妊に悩む立場になって、国内での治療の限界を感じます。精神的にも海外での治療は大変だと思います。国内でできない、難しいことも多いと思いますが、前向きな法規制をし、海外に行かなくても良い方法を早く考えて欲しい。(36歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○自分自身では治療を受けることは限りなく無いと思うが、希望する方がいるのであれば法律の改正はあっても良いと思います。その場合はお金がある人、ない人が平等に治療できるように必要な費用のみで受けられるようになってほしいです。(35歳、不妊治療歴2年)

○海外での治療が必要な場合、行うのは良いと思うし、必要な人はいいと思う。国からの助成金も必要となると思うので法整備すべき。しかし、年齢に制限は設けるべきと思う(高齢妊娠・出産のリスクや妊娠は不可能と考えられるのに公からの助成金を受け続けるのは国民のためではないと思う)。(32歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○海外で治療をして子どもを授かったあとの子供の戸籍などの問題がスムーズにいくケースがあったり、夫婦の精子と卵子を使用したにもかかわらず、母の子として認められなかったりとどこか納得し難い所があるのは、なぜかと思うことがある。金銭的に子どもが欲しくても、諦めざるを得なかったりで、そう簡単に海外での治療には踏み切れない所がある気がする。夫婦は良くても、周囲の目が気になることもありそうに思う。(39歳、不妊治療歴7年)

○経済的、法的にクリアであれば良いと思う。(34歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○子供がどうしても欲しい気持ちはわかるので、人それぞれで良いと思う。そのかわり、生まれてきた子供がどのように思うのかは、子供に聞かないと分からないので、子供の気持ちを大切に出来るような関わりが必要。そのためには法律をしっかりと、改正するところはして行って欲しい。(39歳、不妊治療歴1年)

○日本独自で意固地になって古いしきたりを守りたいだけのような気がする。もっと広く意見を聞いて検討・前向きな考えを持っていくようにしてもよい気がする。(43歳、不妊治療歴7年)

○現在は治療を始めて間もない状況で、一通りの検査を終え(夫婦ともに)私の卵管の状態を良くする手術を1月に予定しております。その後、卵管の状況により体外受精をするかもしれませんが、やはり自然に授かりたいという思いがあります。そして、もともと外国へ行くことにあまり興味がなく日本が一番安心できる場所と思っていますので、渡航(不妊治療への不安に加えて)して治療することは考えられませんが、子供を授かるためにどこまで投入するかは個人の思いがありますので自由でよいと思います。できれば、日本ですべての治療を受けられることが望ましいですが、他の分野のように貧困層への犯罪などにつながらないよう法整備には力を入れていただきたいと思います。(38歳、不妊治療歴2ヶ月)

○子供を望む人のためにもっと積極的に治療が受けられるよう環境づくりしてほしい。(41歳、不妊治療歴2年7ヶ月)

○日本で認められていないから海外で治療するのは当然。しかし海外での治療はお金がある人しかできない。日本での卵子提供・代理出産を認めるべき。(30歳、不妊治療歴2年)

○基本的に私たちは考えていません。でもどうしても子供が欲しい人の気持ちも分からなくもないし、経済的な面でも倫理面でも社会で話し合われることが大切と思う。(37歳、不妊治療歴8ヶ月)

○法整備は進めた方がいいと思います。(43歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○望む方が治療できるようにしてあげた方がいい。そのために海外での治療で授かった子供が、国内での治療で授かった子供と差別・区別されるようなことがないような法整備をしてあげてほしい。(37歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○私個人では海外での治療は考えておりませんが、国内では認められない治療方法が多いよう

なので、日本国内でも安心して受けられるように法規制を緩めるべきと思います。(39歳、不妊治療歴3年)

○自身は自分たち(夫婦間)の卵子・精子以外で子供は望まないため、海外での治療は考えていない。海外での生殖医療は進んでいるかもしれないが、ビジネス化しすぎているイメージもある(ので、個人的には好きではない)。だが、国内にも卵子提供・精子提供・代理出産を望む者、実際に受ける方もいらっしゃるの、迅速な法整備は必要だと思う。(36歳、不妊治療歴3年3ヶ月)

○何も海外に行つてまでと思いますが、自然に(病院に頼らず)妊娠した人にとっては不妊治療そのものが「何もそこまでして」と思うもの。不妊治療(国内)している私にとっては不妊治療は「そこまで言うほどではないもの」ですが、結局は私も海外での治療については知識がないのでそう思う。自然に妊娠した人も不妊治療の知識がゼロもしくは誤解してるからそう思う。まず、広く一般に国内外の治療について知らしめるのが大事だと思います。偏見や誤解を無くしてからでないと思正しく判断できないと思います。(36歳、不妊治療歴2年)

○望む方がいるのであれば、その方々に納得できる制度を作してほしい。(34歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○病気などで、海外での不妊治療内容しか方法がなく、子どもの授かる方法がないのなら、選択肢の一つかな…とは思いますが、もっと倫理的にも、いろいろな専門家の意見を聞き、議論していくべきでは?医療の進歩は素晴らしいが、売買されるのは怖いと思う一面もあります。(40歳、不妊治療歴4ヶ月)

○海外に行かなければ、希望するまたは検討したいと思っている治療を受けることができないのは、とても残念なことだと思う。代理出産も卵子・精子の提供も、法の整備を進めて国内でも出来るようにしてほしい。(43歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○個人的には海外での治療は考えていません。しかし、望む人がいるのであれば、法改正も必要かと思つています。(33歳、不妊治療歴1年8ヶ月)

○子どもを1人も授かっていなければ、私も考えると思つています。結婚することが晩婚化していますし、日本で努力しても無理な場合は仕方ないと思つています。日本でもっと法的整備をして、生まれてくる子どもたちが幸せになる世の中になってほしいと思つています。(33歳、不妊治療歴2年)

○私自身は受けるつもりはありませんが、国内ではできない治療を望んでいる人が合法的に治療を受け、その子どもも、戸籍登録が問題なく行えるような法整備、代理母や卵子提供者と子どもとの関係などにおける諸問題(法整備も含めて)が必要だと思われまふ。(45歳)

○海外ならできて国内でできない理由は何なのかな?と思つています。お金がなければ選べない選択肢はおかしい気がします。もっと議論でもして法的整備を望みます。(42歳、不妊治療歴1年)

○代理出産はあつてもよいと思うが、卵子・精子提供は親子関係があると言えるのかどうか疑問がある(海外でも国内でも)。代理出産については国内でもっと認めるべきと思うが、すぐには進まないと思うので、海外でする場合の法整備をすぐにしていくべきと思う。(39歳、不妊治療歴2年)

○子供を欲しいという気持ちを汲み取つてさせてあげることは良いと思う。それに伴う問題を早期に解決できる法などの整備をしてほしい。(35歳、不妊治療歴4年)

○国内での法整備を進め、国内で実施してほしい。(37歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○国内でできないのであれば仕方ないと思つています。ただ、国内でできるように法整備など環境を整えてほしいと思つています。(41歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○治療により授かった子供がいるので私には考えられない。でも、先が見えない辛い治療…でも諦めきれない。一つの手段としてとらえている方がいる、その気持ちはわかります。そうして生まれてきた子供たちの未来が幸せであるように、法整備するべきだと思つています。国内でも実母や姉妹だったら認めていいのでは? (32歳)

○私たちは基本的に国内での治療しか考えていませんが、もっと手続きや金銭的な問題が簡素化したならば考え直すかもしれません。もっと情報がほしいのと法改正をしてほしい。(39歳、不妊治療歴10年)

○自分自身は現在のところトライする予定はないですが、海外での治療を他の方がすることに對して全く抵抗はないです。日本の法改正のためにも、海外で行つた人数や内容などチェックし

て海外に行かなければならなくなっている現状を国民皆さんに知ってほしいと思います。(34歳、不妊治療歴10ヶ月)

○治療の一つとして選択できるような状態を望みます。国内では全く海外での治療の情報がないえ、海外で出産しても実子とするのが難しいので法を考えてほしい。(44歳、不妊治療歴4年)

○生まれた子供の人権を第一に考えてほしい。(42歳、不妊治療歴4年)

○法律は現状に見合っていない。少子化で問題を抱えている日本こそ、不妊治療をもっと推進しなければならない。また、お金を払ってまで子供を欲しいと願っている夫婦こそ、倫理観に問題のある最近の夫婦・親に、真に子供を愛するだろう点から良い手本となる。そして生まれながらにして、または、後天的に身体・健康に問題があり妊娠できない人には、国内の代理母を認めるべき。米国でこのサービスを1200万円もかけて利用するなど限られた人にしかできないことだ。法整備で我々の経済問題を解決してほしい。今すぐに。加えて、未婚でも強くまじめに望む人も子供を持てるべき。(43歳、不妊治療歴4ヶ月)

○日本より技術が高く費用面で可能であれば、目的に応じて海外で治療を受けても良いと思う。自身ではIVFまでで、それ以上の卵子提供・代理出産などは行う気はないが、子供がどうしても欲しく、それしかない方もいると思うので、海外で治療を受けざるをえないことを前提で考えるのであれば実子にできるなど、日本での法整備も必要だと思う。実質の子でない卵子提供が実子になり、実質の子である代理母が実子にならないのはおかしいと思う。あとは十分なサポートケアをしてくれる、しっかりとしたエージェントがあればよい。エージェントに対しても法的な規制を行うべきでは？(36歳、不妊治療歴2年)

○「子供を持つために、どこまで努力すればよいのか。」という疑問はいつもある。どこまでも頑張りたいという気持ちと、早く見切りをつけて楽になりたいという気持ちがある。しかし、代理出産以外に無理とかやってみたいと思う方が、自分の遺伝子(あるいは夫の遺伝子)を引き継ぐ子供を望むなら、医療が発達し可能な以上は法整備も必要であろう。私自身は、夫婦間体外受精(顕微)までで諦めたいと思っている。(32歳、不妊治療歴5年)

○倫理的に問題があるのは否定できませんが、親が(特に女性)子供を望む気持ちはとても強いものです。子供なくして社会は成り立たないので、とにかく子供が増えなければ。国のルールで、人が親になれないのはおかしい。手を付けないのではなく、とにかく一歩でも前進してほしい。(36歳、不妊治療歴9ヶ月)

○海外では、国内で法的に不妊治療として認められている範囲以外のことまで個人の自由でできてしまうため、生まれてくる”人”が、国内で生活する上で困ることが多いのではないかと。すでに、海外へ渡って治療している人もいるようなので、国として考えをまとめてほしい。(35歳、不妊治療歴5ヶ月)

○私が当事者だったら、そこまで必要ならやりたいと思う。例えば、身体的な問題が理由なら(卵巣や子宮がないなど)、それしか方法がないからである。ただ、金銭の有無により不平等は生じてしまうが、それ以外の面においては、ある程度の法規制をしいたうえで、門戸が開かれてもよいのでは。(39歳、不妊治療歴4年)

○1人子供がいるが障害があるため、連れて行くこともできないし置いていくこともできないので、海外での不妊治療は考えられません。ただ、国内でできるだけことは法整備をして、やってもらいたいと思っています。(38歳、不妊治療歴3年)

○海外でしかできない治療もあり、どうしても子供が欲しくてチャレンジする人はいると思うので、それは個人の判断であるので悪いとは思わない。しかし、海外で治療することは費用もかかり、精神的・肉体的負担も、国内での治療以上に増すと思う。できれば、国内でも希望すれば治療できるように、法整備が進んでほしいと思う。(35歳、不妊治療歴2年)

○子供を望んでいて金銭的に余裕がある方は、法的に整備をして行えるようにすれば良いと思う。今のグレーゾーンの状態は良くないと思う(代理出産などについて)。(32歳、不妊治療歴3年)

○日本でできないから、相当のリスクや金銭的負担をもってでも海外に行くんだと思う。それで、子供の日本国籍が取れない等があれば悲しいと思う。日本でも、もっと不妊治療に対して力を入れてほしい。(29歳、不妊治療歴2年)

- 倫理的に逸脱していないかは、治療そのものにおける大きな課題ですが、海外、国内の違いはそう大きく感じていません。ただ、金銭目的だけは行われないう、法律で定めてほしい。(39歳、不妊治療歴6年2ヶ月)
- 私自身は考えていませんが、どうしてもと思われる方のためには道筋というか法整備があった方がいいのでは、と思います。(40歳、不妊治療歴9年6ヶ月)
- 海外治療に踏み切ることには大変勇気のいること。その決断をしたということは余程のことだと思います。私自身は望みませんが、望む人が安心して治療を受ける態勢や制度をもっと議論し、早く整えてほしい。(37歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 個人の考え方で海外での治療は受けることができたらいいと思いますが、”不妊治療”に対する理解がまだまだなのに、受けたことを理解してもらえることが少ないと思います。もっと情報を流し、国内での不妊治療に対するバックアップをしてほしいと思います。”子供が欲しい”と望むことが、「そこまでしなくても」と、言われるのは辛いです。(38歳、不妊治療歴6年)
- 海外でできることが日本でもできるような法整備が必要だと考える。(40歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 自分自身には、まだあまり関わりのないことと考えて知識不足ではあるが、本人が望んでいるのであれば可能性を広げる意味で利用しても良いのではないかと思う。しかし、法整備は早急にされなければならない。自分自身はおそらく国内での治療のみになると思う。海外で治療を受けるゆとりもないし、不安も大きいので。(33歳、不妊治療歴1年4ヶ月)
- 不妊治療を何年か経て、子供が欲しいと切実に願った先の海外での不妊治療だと思います。なぜ国内ではできないのか等、解消されていけば良いと思います。海外での不妊治療を望んでできる人は、ごくごくほんの一部の方だと思います(金銭的にもスケジュール的にも)。問題は、している人ではなく、したいと思っている人の気持ちとその問題点が大事だと思います。(28歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

【海外での不妊治療に反対】

- 海外での治療は全く考えていない。(38歳、不妊治療歴2年)
- 子どもを早く欲しいことには変わりはないのですが、海外に行っても授かりたいとは思いません。世間体とかを考えてもそこまでは手を出せるとは思いません。現在、体外受精を何度かやっていますが、そのことすら話をすることに躊躇してしまう相手がいます。また金銭面でも無理な気がします。安ければ…とも思いますが、あんまり安すぎても不安です。(34歳、不妊治療歴3年2ヶ月)
- 国内で出来る範囲の治療で出来なければ、諦めようと思っています。海外で治療を受けたくないということではなく、代理母、精子提供、卵子提供等は倫理的問題を考えてしまうからです。(39歳、不妊治療歴6年3ヶ月)
- 子どもが欲しい気持ちはわかるが、“そこまでしなくても…”という思いの方が強く、どちらかというのと否定的です。(42歳、不妊治療歴4年)
- 海外に行っても治療は考えていません。(40歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 海外での治療は考えていない。国内でできることを試し、それでダメなら諦める。(38歳、不妊治療歴3年)
- 基本的にはあまり好ましくはないが、子どもが欲しいという気持ちがわかるため、全面的に否定はできない。(37歳、不妊治療歴3ヶ月)
- そこまでしていらぬ。(38歳、不妊治療歴2年)
- 特に海外まで行ってする必要はないと考えます。今の日本の技術で十分満足できる治療を受けることができているため。(37歳、不妊治療歴3年)
- 経費もかかり、いろいろな問題が生じて合法的にいかないことがある。里親や養子縁組の方を考えると。 (44歳、不妊治療歴4年)
- そこまでして子どもを持つとは思わない。(41歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 私は今のままでも十分幸せなので海外での治療までは考えておりませんでした。もし収入があり、夫との協力が可能だとしても、夫婦で2人きりの人生もありなので。(34歳、不妊治療歴1年)

- 現時点では、とにかく情報量が少ないこと、費用がかかるなど、好印象を与える要素がわからない。(37歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 私自身、そこまでして子どもを欲しいとは正直思いません。できないのなら夫婦2人の人生を楽しもうと思います。(42歳、不妊治療歴6ヶ月)
- あまり好まない。お金で子どもの誕生には、何か気持ちが晴れない。(29歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 海外の病院は、言葉の壁、金銭面での壁があり、いろいろな面で余裕のある人しかできないと思う。ちょっと不公平な気がする。(40歳、不妊治療歴2年1ヶ月)
- ある程度の治療が日本でできるのだから、それで妊娠できないのならそれが運命と割り切るべきだと考えています。海外での不妊治療については商売の印象が強く受け入れ難いです。(38歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 私も含め私の周りにも晩婚の方が多く、不妊治療に通う方も増え、職場や周りにも公言し理解も得やすくなってきましたが、海外までの治療は理解できないですし、しようとも思いません。それよりも国内での治療を充実させてほしい。(40歳、不妊治療歴1年)
- わざわざ海外まで行く必要はない。女性も仕事をして、不景気で結婚に対して前向きになれないので、海外での不妊治療よりも高齢出産のリスクや不妊症をテレビなどCMで訴えていく必要はあると思う。(31歳、不妊治療歴3年)
- 国内でも十分な不妊治療が受けられるので、特に海外で治療する必要性を感じない。海外での治療は精神的ストレスが増えるし、周りに内緒にできないので仕事を続けながらは難しいと思う。(42歳、不妊治療歴18年)
- 海外まで行って治療をしたいとは思わない。(29歳、不妊治療歴2年2ヶ月)
- 海外に行ってもまでは不妊治療をするつもりがない。怖い。(28歳、不妊治療歴1年5ヶ月)
- 倫理的な問題なので、海外へ行ってまで不妊治療をしようとは思わない。(35歳、不妊治療歴1年5ヶ月)
- 海外での治療は全く考えていません。日本での治療に満足しているので、それでもダメだったら2人の人生でいいと思っています。(36歳、不妊治療歴2年)
- 海外まで行って治療を望まない。経済的にできる人はいいが、ほとんどの人ができない。(36歳、不妊治療歴11年)
- 不妊治療だけでとても大変なのに海外に行っても治療することは考えにくい。(28歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 私自身は国内での不妊治療しか考えていません。それで授からなければ夫婦2人で暮らしていくつもりです。(29歳、不妊治療歴1年5ヶ月)
- 自分は海外に行っても治療はしたくないです。(40歳、不妊治療歴1年)
- 経済的にも身体的にも負担がかかり、海外での不妊治療は考えられない。(36歳、不妊治療歴5年)
- 現実的ではない。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 法整備と実際のニーズとの隔たりも問題と思いますが、感染症(HIVなど)や摂取してきた食物の違いなどもあり、自分自身がそこまで踏み込む可能性はほとんどないと思います。(39歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 国内で子供ができなければ無理して子供を授かるうとは思わない。海外での治療はリスクが大きいように感じる。(29歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 日本でもどこの病院の先生が優れているかなどの情報は、明確な基準があるわけでもないのでもとも入手しにくいのに、海外でそれを一般人がするなんて、湯水のようにお金を使えるような人にしか最善の治療は受けられないのではないかと思います。(39歳、不妊治療歴8年)
- 国内でさえ金銭的に大変なのに、海外での治療は時間的にも考えたことはありません。(31歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 国内の治療でいくら頑張っても妊娠できないのであれば、養子等、他のやり方があると思う。たくさんの時間・お金を使って海外まで行くことで疲れてしまい、たとえ出産が成立しても後の人生が息切れしてくるような気がします。(41歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 不妊に悩む者として、手段を問わず子供が欲しいという気持ちは分かるが、海外で治療するこ

- とは同意できない。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 現在国内での不妊治療をしており、何度かチャレンジすれば妊娠できるのでは？と思っている(信じている)。そのため、海外にまで行く必要はないと何となくではあるが、考えている。(40歳、不妊治療歴2年)
- 経済・情報格差による搾取のような状態があるなら残念です。(39歳、不妊治療歴2年)
- 自分はしない。(41歳、不妊治療歴1年)
- 戸籍取得がむずかしい。信用出来ない。(37歳、不妊治療歴4年)
- 今は、そこまでしてという感じ。(33歳、不妊治療歴3年)
- 海外へ行ってまで(時間的余裕もないため)子供を欲しいと思っていない。夫婦2人生活を受け入れていくつもりである。(37歳、不妊治療歴4年)
- まだ国内での望みがあり、海外までとは思えませんし、世間の目を考えてしまい、断念すると思います。(44歳、不妊治療歴7年)
- 国内にも、親から養育を受けられずにいる子供がいる。自分の子供にこだわりたい気持ちもあるが、子供は授かりもの。海外へ行く経済力があるなら皆で養育していきたい。(33歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 倫理的問題が多いと思う。子供の将来のことを考えると、夫婦が子供を欲しいと願う思いだけで、決めるべきではないと思います。(39歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 子供は授かりものだと思う。国内で合法的に実施できる治療で授からない場合は、諦めることも必要だと思う。海外まで行くことは全く考えていない。倫理的問題が多く、行うべきではないと思う。(36歳、不妊治療歴1年)
- 個人の自由ですが、基本的にはしない方がよいと思います。(46歳、不妊治療歴4年)
- 結局は経済的に余裕のある人でないとできない。そこまで必要なのはわからない。(45歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 海外に行ってまで治療したくないです。(33歳、不妊治療歴3年2ヶ月)
- そこまでして子供を持ちたいと思いません。(お金がない人には選択肢はないわけですが)(39歳、不妊治療歴2年4ヶ月)
- 治療の種類によっては、子の戸籍問題があって利用が難しいと感じる。(36歳、不妊治療歴2年)
- 海外のイメージは、お金がある人がするという感じです。情報が少ないので、海外で不妊治療をしようとは思いません。以前テレビで、アジアでの代理出産を観たことがあります。代理出産母は生活のために仕方がないと言っていました。産んですぐに子供と引き離されて、とてもかわいそうでした。不妊治療も貧富の差が出ないように、代理母が一生生活していけるくらいの報酬を出してほしいです。できれば、臓器売買みたいなにはなってほしくないです。(34歳、不妊治療歴3年7ヶ月)
- 海外へ行ってまでしたいとは思いません。(35歳、不妊治療歴5年)
- 海外についてはよく分からないため治療を受けることはない。(37歳、不妊治療歴3年)
- 経済的・時間的に余裕のある人に限られたもの。どこまでも可能性があることは希望である一方で、できない人にとっては深い悲しみや後悔にもなりうるのでは。(32歳、不妊治療歴2年)
- 全く考えていません。(32歳、不妊治療歴10ヶ月)
- 時間的にも費用的にも無理なので考えられません。(42歳、不妊治療歴4年9ヶ月)
- 国内での治療に限界を感じたら海外での治療もやむをえないと思うが、金銭面・精神面の影響を考えると果たしてそこまでして子供が欲しいのかと疑問を感じる。(32歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 情報量が少なく、ハードルが高いと感じる。(39歳、不妊治療歴6ヶ月)
- あまり良いイメージはない。(41歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 先立つものは金銭的なものであることと、国内では許可されていないことを海外ですることによりまだまだ抵抗がある。(38歳、不妊治療歴1年)
- 海外への渡航は、経済的にも精神的にも大変だと思う。(35歳、不妊治療歴3年9ヶ月)
- 海外での治療は、時間や費用がかなりかかるので実質的には不可能です。日本でできる範囲で治療し、その結果、妊娠しなかった場合は子供のいない人生で良いと思います。(41歳、不妊治療歴18年)

○経済的に苦しかったが、両家の親の援助のもとで20年近く助けてもらった。このような環境に感謝しつつ、そうでない人の選択はどうなるのか…海外なんてもっと高いだろうから、私にとっては問題外。経済的余裕があれば考えたかもしれないが、諦めて別の人生を歩むラインがなくなってしまうのも心配。(41歳、不妊治療歴18年)

○日本とは法整備が違って、日本人の一般的な倫理観とは違うので、海外での不妊治療は日本人としては困難かと思う。友人のアメリカ人がレズビアンで、ホモセクシュアル(ゲイ)の方の精子を体外受精で妊娠し出産した。レズビアン同士で、その子供たちを育てているが、私は少し疑問に感じてしまった。レズビアンは個人の問題だとしても、ゲイの人との間に愛はないわけで、“子供が欲しい”という同じ目的だけのために体外受精はいかがなものか…と思った。(36歳、不妊治療歴1年)

○情報が少なく、治療の選択の一つにはなかなかならない。テレビで海外で治療を受けている人を観ても、どこかテレビの中で、自分の問題として考えて結びつけることができない。(32歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○今のところ、海外まで行って不妊治療しようとは思わない。(39歳、不妊治療歴5年)

○特にするつもりはないです。(39歳、不妊治療歴5年)

○日本での治療でも費用が高く、仕事も休み、休暇残日数が少ないのに、海外治療をしたいと思ってもなかなかできない。(39歳、不妊治療歴8ヶ月)

○国内での通常のIVFより先の方法は望んでいません。海外の治療は、情報の少ない現状においては、リスクやコストの面でのマイナスの方が大きいと感じています。(34歳、不妊治療歴3年)

○好ましくない(いろいろな面から)。(42歳、不妊治療歴8ヶ月)

○費用がものすごくかかるうえ、身体的な負担もさらにかかることを考えると選択肢にはないです。すでに子供が1人いますが、たとえ子供がいなくても国内での治療で授からなければ、夫婦2人の人生を歩むと思います(結婚=子供ではないと思うので)。(29歳、不妊治療歴1年)

○様々な考え方がありますが、私は海外まで行って行うことは、今のところ考えていません。現在のクリニックは、国内でのレベルは最高のところにあると思っていますので、全てそのドクターにお任せしています。もし、ドクターに「もう難しい…」と言われれば、後悔なく夫婦2人の人生を歩むことを選択します。(34歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○海外の医療技術が進んでいるのかもしれないが、国内の不妊治療でも満足しているし、資金的にも海外希望は持っていません。(31歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○お金があっても、海外に行っても治療をしようとは思いません。(36歳、不妊治療歴1年)

○海外での治療は考えたことがなく、そこまでしての治療は望んでいない。(43歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○私は海外の治療までは考えてない。いずれは、諦めて2人の生活も良いと考えている。(41歳、不妊治療歴17年)

○国内であれ海外であれ、子供の”これからの人生”を第一に考えるべき。母親の年齢にあまりにも無理があるのに、提供・移植は正直賛成できない。(31歳、不妊治療歴9年3ヶ月)

○国内の産婦人科との提携があり、国内での治療以上のメリットがあれば、個人的には検討するかもしれませんが、今現在は特に国内以上の魅力はありません。(41歳、不妊治療歴5年6ヶ月)

○国内での治療すら保険が効かずに働きながら通院しているような状況で、海外で治療なんて考えられない。(34歳、不妊治療歴4年)

○国内では倫理的・道徳的な観点から法的に規制されているのであり、日本で認められていない治療を海外に行っても求めるべきではないと思う。基本的に人の命に人為的に手を加えることには抵抗があり、自然に任せるのが一番良いと思っている。(31歳、不妊治療歴1ヶ月)

○海外に行っても治療しようという気持ちにならない。(32歳、不妊治療歴2年2ヶ月)

○不妊治療のおかげで、卵管に問題のある私にも子供を授かるチャンスに恵まれ感謝。なのですが、海外にまで広がるとキリがないような…。”夫婦2人の人生”を考える機会を逸してしまいそうな気がします。(37歳、不妊治療歴5年)

○私自身は国内での夫婦間体外受精まで、と不妊治療に関してはハードルがあるので、卵子・精子提供や代理出産は個人の自由ではあるが、そこまでするものなのかなと感じてしまう。また言語の壁も大きいので(使用する薬品や施設、衛生面でのギャップも)積極的にはなれません。(38

歳、不妊治療歴2ヶ月)

○私は海外に行ってまで治療はしないと思いますが、金銭的・時間的(夫も含む)に余裕があれば検討するかもしれません。現在は幸いにも1人子供がいるので考えないと思いますが、1人もおらず、夫がどうしてもと願わなければ、夫婦2人の生活を選んでいたと思います。(38歳、不妊治療歴6年)

○海外でどのような治療が行われているか知識不足なので、自分では海外に行ってまで治療しようとは思わない。(39歳)

○そこまでしての妊娠は望んでいない。(36歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○やらない。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○そこまでしなくてもいいと思う。親のエゴだし、国内の身寄りのない子供を養子として育ててほしい。キリがない。(36歳、不妊治療歴3年4ヶ月)

【海外での不妊治療は不安】

○まだ、全く考えてみたことがないです。ただ、経済面で難しいのではないかとというイメージがあります。そして、言葉が通じにくい中で不妊治療を受けるのは嫌だなと感じます。日本にいても辛いのですから。(31歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○言葉が通じないのでコミュニケーション面で不安。コーディネーターの方の同行があれば再考するかもしれない。(33歳、不妊治療歴8ヶ月)

○考えたことがない。不安な面が多いので選択肢にない。(40歳、不妊治療歴1年)

○海外では何かと不安です。そこまでしてまでは…と。(34歳、不妊治療歴2年)

○言葉の問題、金銭的な問題、不安が多いため踏み切れないと思います。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○コミュニケーションが取れない不安。お金の不安。体験した人が少ないので、情報不足が不安。芸能人が海外で代理出産をした時のバッシングがひどかったのも、もし出来ても、人に知られると子供がかわいそうと思う。でも欲しいとも思う。(31歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○良く知らないので不安が大きい。金銭的にも負担が大きいと思う。(31歳、不妊治療歴1年3ヶ月)

○経済的負担も多く、仕事に支障もでると思う。周囲の理解も得にくい。言葉が通じないのは不安。(39歳、不妊治療歴12年)

○適切な医療が受けられるか等、不安要素が多い。(40歳、不妊治療歴11ヶ月)

○衛生面があまりきちんとしてないイメージがある。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○情報が少なく不安が多い。(38歳、不妊治療歴3年)

○とても費用が高そうで、高収入の方しか縁がないようなイメージです。また、治療後のケアなども心配です。(35歳、不妊治療歴2年)

○言葉の問題に不安あり。(40歳、治療歴2年)

○考えたこともなかった。医師の腕がよほど信頼を置ける方でないと頼めない。費用が高そう、言葉の問題等。(25歳、不妊治療歴7ヶ月)

○安全な治療が受けられるかどうかがよく分からない。(28歳、不妊治療歴3年)

○情報が少ないことや言葉や費用の面でも、現実的には考えられません。もっとたくさん海外での治療のメリット等の情報があれば、もしかしたら考え方が変わるかもしれないです。(33歳、不妊治療歴1年8ヶ月)

○海外に行ってまでトライしてもダメだったら…障害を持って生まれたら…等考えます。(33歳、不妊治療歴6ヶ月)

○費用がかかるし、有職であれば仕事が休めない。コミュニケーションの問題もあるので、私は希望しないと思います。(33歳、不妊治療歴5年6ヶ月)

○海外の技術は素晴らしいと思うが、費用が高く、安全面で不安がある。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○日本より技術が進んでいる国もあるとは思いますが、日本より不衛生そうとか適当そうというイメージがある。情報をたくさん提供すれば海外でも安心だとわかり治療を受ける人はいるかもしれない。自分は興味はないが、海外で受けるかは個人の自由。(27歳、不妊治療歴3ヶ月)

- 短期間で確実に授かることができるのであれば、最終的には検討するかもしれませんが、その保証はないため、渡航中の経済的問題や帰国後にまた職に就けるかなど不安がたくさんあるため、今現段階では考えられません。しかし、今後日本の治療技術よりも明らかに優れているなど、リスクも覚悟で納得できる理由があれば、前向きに検討すると思います。(33歳、不妊治療歴6年3ヶ月)
- 多くの代理出産を知っていますが、お金が高いので無理だし、英語で話しをできないのがあります。(36歳、不妊治療歴17年1ヶ月)
- 海外では最先端の技術の治療も受けることが出来て良いとは思いますが、やはり金銭面や時間面や安心面で躊躇してしまうところが正直な気持ちである。(28歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 海外の方が日本に比べて技術も発達していて、薬も良さそうである。ただ言葉の問題や、日本人の体質に合う薬や治療が十分に揃っているか？母子とも安全なのか？本人の精神的フォローがされるか？など不安な面の方が多く、日本で最新の治療を受けられることが一番だと考えます。(44歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 金額と言葉、法律、習慣の違いから難しいと考えます。(40歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 衛生面、費用、技術等に不安がある。(28歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 今のところ全く意識していない。情報が少なく不安なことと後々トラブルになりそうで嫌だ。(39歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 言葉が通じない国だとどんなリスクがあるのかとか、説明を十分に理解できないかも…と不安に思う。海外のことはよくわからない。(28歳、不妊治療歴1年)
- 悪質な業者にだまされる人がいるのではないかと思います。(37歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 中東に住んでおりますが、宗教色が濃く女性が積極的に治療できるような環境が整っていない。血液検査を依頼しても血量が足りないのもう一度訪医しなくてはならなかったり、外国人ならではの雑把さが治療にも出るのではないかと不安が多い。特に受精卵の取り違いなども起きそうで怖い。医師が深い質問に答えられないなど問題も多い。(37歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 不安で考えられない。(43歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 情報も少なく言葉の面でも不安要素が多く今は必要と思っていないが、必要となる場合は言葉の面での不安解消。子供が生まれてからの状況も問題ないならば利用したいと思う。(41歳、不妊治療歴2年)
- 誰も知る人のいない海外では不安すぎる。(31歳、不妊治療歴2年)
- 海外のみでしかできない治療があるため、開花性での治療を希望する人がいてもしょうがないとは思いますが、数が増えてくるとトラブルも発生しそう。(31歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 子供は授かるものという考え方がるので、国内で体外受精するのでさえも少し後ろめたい気持ちがあります。でも、親や主人の事を考えると、やはり子供がいるのといないのでは違うだろうと思いつつ治療を続けています。海外では精神的に不安定な上に、言葉の壁は大きく、信頼してお願いしきれません。(40歳、不妊治療歴1年8ヶ月)
- コストや内容についてあまり知らない。言葉の問題などリスクが高そうなので考えてない。(34歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- オーストラリアで数回IVFをしましたが、日本と比較してクリニックの経験数が少ない。データが少ないように思われる。(43歳、不妊治療歴7年)
- 怖いイメージ。国籍とかもどうなるのか不安だし、外国の病院というだけで怖い。血液の病気とか感染症のイメージがある。(33歳)
- 海外へ行くには費用や語学等の不安ばかりで全く考えたことがなかったです。国内で自分たちが出来る治療をやりつくし、それでも恵まれなかったときは2人の人生を歩んでいきたいと思っています。(25歳、不妊治療歴1年)
- 全く考えたことがないが、国内での治療と海外との差(結果、実績)は大きいのか？言葉の問題や費用がかかるというマイナスイメージが大きい。(41歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 言葉が通じないのが不安なので、海外ではしない。(27歳、不妊治療歴2年)
- 言葉の壁から勇気がありません。(31歳、不妊治療歴1年8ヶ月)
- 国内で法的に難しいなら、海外でと考えるのは仕方ないと思う。しかし、情動的に乏しい

- ので色々な心配もあり、海外の治療に賛成というわけではない。(42歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 以前、海外(中国)で不妊治療を経験しました。その時は、タイミング法と人工授精しか実施はしませんでした。やはり、言葉の問題が大きいと思いました。通訳を通したり、日本語の話せる先生でしたが、納得のいく治療という感じになりませんでした。同じ治療、処方でも説明の仕方などでだいぶ違って来るものだと感じました。(34歳、不妊治療歴8年7ヶ月)
- 人種の差による考え方の違いや事故が起きた時の対応(人権的、金銭的…)が心配。(39歳、不妊治療歴4年6ヶ月)
- 言葉の壁もあるし、海外の病院の信頼性がわからないので不安。(42歳)
- 情報が少ない。費用がかかり時間もかかる。卵子提供してほしいが、高い費用や時間をかけて結果が得られるか分からないし、海外で問題が起きた時にどうしたらいいか分からないため、少子化対策を考える日本が国を挙げて情報を提供して安全に妊娠ができるようにしてほしい。少子化対策をすべきなら、不妊治療費を全て国でまかなってほしい。(39歳、不妊治療歴13年)
- 国内ではできない不妊治療に関しては、海外での不妊治療はやむをえないけど、知識・情報が少ないので不安ではある。(36歳、不妊治療歴5年)
- 本当に子供が欲しくて卵子提供・代理母を求めるのであり、日本国内でももっと扱ってくれるクリニックがあれば救われる夫婦がたくさんいると思う反面、貧しい人のお金稼ぎのJOBとして選択されることに、ものすごく不安があります。海外で良識ある人が提供しているとは限らないので、子供が生まれても発達段階でどのようなリスクが出てくるのか心配です。(45歳、不妊治療歴6年7ヶ月)
- 言葉の問題や何か問題が起こった場合の対応への不安。(35歳、不妊治療歴6年)
- 海外での治療は不安が多く、検討するつもりはありません。(32歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 不安が大きい。必ず授かるなら海外にも行くと思う。(33歳、不妊治療歴5年6ヶ月)
- まず一番は不安。自分は、タイミング方から人工授精にステップアップした時は、すごく不安でした。次に4回目の人工授精を行います、そろそろ体外受精のことも考えなければならなくなり、痛いのか?とか、本当にできるかな?とか、すごく不安です。海外でとなるとさらに不安が増して、お金の問題や精神的にまいってしまうと思う。(41歳、不妊治療歴4年)
- 海外には、できれば治療では行きたくないというのが本音。意思の疎通がきちんとできるか不安もあるし、海外に行っている間に何か起きたとして対処できるかどうか、スタッフ等、周りのフォローはあるのか等々、不安は多々ある…が、その不安と子が欲しいの気持ちを考えると、子が欲しい気持ちが強い。不安でも行かなければその先には進めないなら、前進すべきなのかと。(42歳、不妊治療歴2年4ヶ月)
- 不妊治療がどのように行われて、その後どのように対応したか(医師・看護師・患者自身)が不明で不安を感じる。(34歳、不妊治療歴3年)
- いろいろ手続きが大変だし、遺伝子の問題などが心配。私自身は考えたことはありません。(34歳、不妊治療歴6年)
- 海外では言語の不安、現状がわからず不安(自分の場合)。ただ、本当に子供を望んでいる方が、海外へ行かれることに関しては賛成です。(31歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 言葉が話せないため、無理だと思っています。(45歳、不妊治療歴2年)
- 海外での治療は、コミュニケーション、情報の少なさ、費用等により非常に困難であると考えます。(35歳、不妊治療歴1年)
- 言葉が通じず不安ですが、知っている人がいないということが安心できる。国籍はどうなのか?不安です。(45歳)
- 言葉の問題があるので、日本以上に安心感の持てる説明・紹介などをしてほしい。(37歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 海外に行つてまでの不妊治療は全く考えていません。考えられない。日本でも医療(不妊治療)の技術も高くなっているのではないかと思います。海外の治療は逆に不安があるし、リスクがあるのかと思います。(36歳、不妊治療歴3年)
- 言葉というより、細かなニュアンスが通じないであろう不安。飛行機で移動する金銭的・肉体的負担。日本人の体作り合った治療法なのか、わからない不安。(38歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 私に知識がないので怖い。(25歳、不妊治療歴1年)

- 海外に行って治療を行うということを全く考えていませんでした。言葉の問題や海外の病院の技術などの正しい情報を得られるのか？日本の病院の医師の紹介があるのか？などいろいろ考えてしまいそうです。でも私の場合、ただ「ちょっと怖いかも…」という心理的なものが一番大きく、海外での治療は望んでいません。(34歳、不妊治療歴3年5ヶ月)
- お金がかかる。言葉が通じないのではないかと不安。大変なイメージ。(31歳、不妊治療歴6年)
- システムが不明で、不安が先に立つため検討できない。(38歳、不妊治療歴4年)
- こんなに不景気の中で、子供が欲しくても費用を考えると行けない人達の方が多いと思う。海外は確かに新薬や新しい技術はあるかもしれないが安全性が心配。海外に行って危険や不安を抱いてまで治療しようとは思わない。海外で治療の今後のあり方を話し合う時間があるなら、日本の不妊治療のあり方について話し合ってほしい。(35歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 危険性があるので怖い。でも、どうしても子供ができない場合は考えてみたい。(41歳、不妊治療歴1年)
- 言葉の問題がなければ安心できるかも？(35歳、不妊治療歴6年)
- 費用がかかる。時間もかかる。手続きなど準備も大変そう。国内での不妊治療も不安なのに、国外だともっと不安や心配ごとが多いように思う。(40歳、不妊治療歴2ヶ月)

【費用が高い・手が出せない】

- 海外で治療をするのは現在の生活から考えると現実的でない。(30歳、不妊治療歴1年)
- 海外まで行かないと思います(金銭的理由)。(34歳、不妊治療歴2年8ヶ月)
- お金がある人しか、現実的にはムリなので不公平だと思う。(38歳、不妊治療歴2年)
- 金銭的にすごく余裕のある夫婦が行えるという条件がつくのは、少し納得できない。子供が欲しい(健康な)という気持ちは同じなのに。(32歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 海外まで行って代理を頼む…までの気力も経済力もない。日本での治療で子どもができないようなら、それで諦める。(38歳、不妊治療歴5年)
- 海外に行く費用(交通費+治療費)が高くて治療を受けたくとも受けられない。(45歳、不妊治療歴5年10ヶ月)
- 基本的に情報が少なすぎて、海外での治療に踏みきれません。もっと一般的に安心して挑戦できるような環境を！(25歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- お金が無い人にとっては、夢の世界だと思います。(37歳、不妊治療歴2年9ヶ月)
- 経済的負担が多く、大変なのではないかと思う。(37歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 現在国内での不妊治療中なので、まだ海外のことまで考える余裕はありません。(37歳、不妊治療歴8ヶ月)
- もっと金銭的に少ない額でできればいい。(27歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- あくまで自分たちに関しては、そこまで頑張る金銭的余裕も気持ちも今のところないです。(39歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 高い費用、法律で制限、時間と期間が必要。(29歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 子供を授かりたいと気持ちはあるが、海外渡航費、その他経費を考えると、今は全く考えていません。(32歳、不妊治療歴3年)
- 全く考えていないが、結局、金銭的に余裕が無いと考えることもできないと思う。(34歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 時間や金銭的に余裕のある方でないと現実的ではない感じがします。(37歳、不妊治療歴4年)
- 収入のある人のみが受けることを選択できる治療。(28歳、不妊治療歴1年)
- 信用できない。費用の面で考えられない。(28歳、不妊治療歴2ヶ月)
- すごく高い気がします(イメージ)。言葉もあまり通じなく1人で治療していくのは辛そう。(37歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 経済的な面で難しいと思います。(43歳、不妊治療歴4年)
- 金銭的に余裕がないとできない。(41歳、不妊治療歴3年)
- 経済的に余裕がないと治療できないと思う。法律も時代に合わせていくべきだと思う。(医学は進歩しているので)(35歳、不妊治療歴3年)

- 海外で治療するには高額な費用が必要なので、そこをもう少し考えてもらいたい。(30歳、不妊治療歴3年)
- 金銭的な面で自分たちには難しいと思うので、なかなか想像すらできない。(27歳、不妊治療歴11ヶ月)
- お金持ちにしかできない。(29歳、不妊治療歴2年8ヶ月)
- 本当に子供がほしくて頑張っているし、またその苦労も大変だと思う。でも結局、経済的に治療できるか否か、仕事の都合上長期休暇を取れるか否か、個人差があるのはかわいそうだと思う。(31歳、治療歴4年)
- ごく一部の収入の高い人が行う特別なものと感じています。日本では薬の面やその他でも限界がきているような気がします。不妊で悩んでいる人はたくさんいるのに、なかなか日本はもう一歩前進してほしいと思う時があります。病院でははっきりとした理由は分からないが、妊娠できないのは加齢のせいだと言えば患者は諦めるしかないと思っているのか…。諦められない人のためにももっと海外のように自由にできたら良いと思います。(40歳、不妊治療歴2年7ヶ月)
- 金銭的に高いイメージなので考えたことがなかった。(40歳、不妊治療歴6年)
- 裕福な人が受ける治療だと思う。(39歳、不妊治療歴1ヶ月)
- お金持ちでなければ考えられない。(40歳、不妊治療歴4ヶ月)
- やりたいけれど第一がお金(旅費等)の問題。代理母とお金のやり取りは良くないという人がいるが、以前テレビで、インド人の代理母をやった方がその後安定した生活をしていて私は良いと思いました。インド人の方も自分の家族のために頑張ったのだから。ただ遊ぶ金欲しさにやる人にはやってもらいたくない。(33歳、不妊治療歴3年)
- 仕事をしながら、不妊治療をはじめたところのため、海外での治療となると難しいのかなと感じます。海外赴任の場合は利用できたらいいなと思うのですが…また、海外での保険も絡めて考えるとコストもかなりかかりそうかなと思います。(36歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 今は気持ちも落ち着いていますが、3回体外受精を行い、受精卵が育たず失敗した時、海外での卵子提供を考えました。インターネットで情報を調べ、夫に相談し(快くは思ってくれなかったようです)、お金や自分、夫の仕事のことなど含め、本当に実現出来るのかシミュレーションしてみました。しかし、金銭面の問題や仕事の兼ね合いなどで、一歩踏み込めず、この頃、里親や養子もパンフレットをもらい、本気で考えました。今は卵子の質を高めるため、漢方薬やタンポポ茶を飲みながら、体外受精を行い、もし期間中に妊娠がかなわなければ、夫婦2名の生活を考えられています。(35歳、不妊治療歴4年)
- 経費がかかるため無理。言葉が伝わるか不安、そんな中治療するのはストレスになるような気がする。(31歳)
- 自由なイメージがある。高額?だとテレビで見た。(34歳、不妊治療歴5年)
- お金がすごくかかるので、考えることができません。日本で治療してダメでも海外で治療できるようにもう少し国とかで協力してくれたら助かるなと思います。(28歳、不妊治療歴2年)
- お金がないとできないこと。今のところ全く考えていない。(36歳、不妊治療歴2年11ヶ月)
- 海外で不妊治療を受けるのにはいろいろなハードルがあります。渡航について具体的に考えたことはありません。1番大きなハードルはお金の面です。不妊治療は高額です。多少お金がかかっても治療は受けたいですが海外での不妊治療はいろいろな面でまだ一般的でないと思います。(36歳、不妊治療歴1年11ヶ月)
- フランスなどでは体外受精の料金が、ほとんどかからない(無償)とフランスに住んでいる友人から聞き、とてもうらやましく思います。ただ、その場所に行こうとなると、渡航料金がかかりますし、何度も行くとなると結構な経費になると思われるので、ちょっと躊躇してしまいます。海外(特にヨーロッパ)の医療技術は高いと思うので、行けるものなら行きたい気もします。(38歳、不妊治療歴2年)
- アメリカで代理出産を受ける場合1000万以上、インドで代理出産を受ける場合400万円以上、長野の××で可能であれば100万程度。経済的負担が少なければ海外でも是非受けたいが、とても考えられる(検討できる)ような金額ではない。1回で確実に授かることが出来るのであれば検討するが何回分になるのかは誰にも分からない。(27歳、不妊治療歴4ヶ月)

- これ自体、お金のある人じゃないとできないという考えがある。一般的にそうでしょう。なので、まだメジャーでもない状態で多額の金を出して、たくさんリスク背負って挑むにはなかなか勇気がない。とにかく治療にはお金がいる。したくでも出来ない人がたくさんいる。(39 歳、不妊治療歴 6 年)
- 非常に高収入な世帯だけに許された治療。(44 歳、不妊治療歴 10 年)
- 国内でできないのならば仕方ない。しかし、費用が高すぎて現実には不可能。国内の治療でさえ高額すぎる。いくら海外まで行ってやりたい気持ちがあっても、金銭的に無理であれば考える余裕さえない。ただ、国として逆に外国人を受け入れるくらいのことをしたらどうかと思う。日本の不妊治療は、技術が高いのではないのですか？外国人をも受け入れるようになれば、国のビジネスとしても良いのではないのでしょうか？(39 歳、不妊治療歴 7 年 10 ヶ月)
- 費用が莫大であること。情報が少ないこと。医師とのコミュニケーションに不安がある。(34 歳、不妊治療歴 5 ヶ月)
- 金銭的にも時間的にも一般家庭の人が行うには、別世界の話のように感じる。(29 歳、不妊治療歴 1 年)
- 費用が非常に高く、利用したくてもできない。(37 歳、不妊治療歴 1 年 6 ヶ月)
- 関心はあるが経済的には無理。(33 歳、不妊治療歴 1 年 3 ヶ月)
- 海外まで行っている治療は治療費が高いと考えるので、今のところは考えていません。(32 歳、不妊治療歴 2 年)
- 今の段階では一部のお金のある人にもみ許された行為であり、自分たちの年収では、とても考えられない世界。また医師も自分の手に負えないと判断したとき、どこまで適切に患者に情報提供できるのか、これも問題だと思う。(40 歳、不妊治療歴 5 年)
- 今現在も飛行機&ホテルを使って治療している。金銭的にも大変だが、移動のための労力や時間が大変なので、いきなり海を渡るとなると難しい(生理周期や卵子の成長によって来院が決まるため)。(40 歳、不妊治療歴 8 年 2 ヶ月)
- 日本国内でできないのであれば、海外へ出てもいいと思います。ただ、一般社員の給料ではとても払えないので、金持ちしか次のステップへ進めないと思います。子供が欲しいのは同じ気持ちなのに、金の有無でチャンスを得られるかどうか分かるのが悔しい思いです。(31 歳、不妊治療歴 2 年)
- 海外での治療には費用がかかると思うので、受けたくても受けられない方は多いと思います。経済的に余裕がある方は、それで子供が授かるのであれば良いことだと思います。日本でも不妊治療対象者への補助金等をもっと増やしてほしいと思います。(32 歳、不妊治療歴 6 ヶ月)
- 金銭的に余裕がある人しか受けられない治療。(38 歳、不妊治療歴 1 年 8 ヶ月)
- 金銭的に余裕のある人のみが受けられる治療。(38 歳、不妊治療歴 5 年 10 ヶ月)
- 海外は遠い。お金がかかる。(38 歳、不妊治療歴 2 年)
- 姉が結婚してからアメリカに住んでいるため、アメリカの治療技術に関して少し知識があります。ただ、あまりに高額な治療となるため、今のところアメリカでの治療には消極的にならざるをえません。アメリカに関しては、治療自体(衛生面・技術面等)についての不安は持っていません。(36 歳、治療歴 2 年 10 ヶ月)
- 不安で、お金がかかる。(26 歳)
- 国内ではできないことが多いため、海外での不妊治療を選ぶ人がいるのは当たり前だと思う。ただ、国内での治療でも治療費が高いし、海外ではさらに高額になるため、高所得の人しか受けられないイメージです。(30 歳、不妊治療歴 4 年)
- もっと身近なものになり、金額なども下がり、誰でも治療が考えやすくなってほしいです。今は私自身にとっても、検討するには遠い治療手段に感じます。(29 歳、不妊治療歴 8 ヶ月)
- 経済的な余裕がないとチャレンジすらできないと思います。国内での治療でも多額の費用がかかっています。(40 歳、不妊治療歴 4 年 10 ヶ月)
- 卵子や精子の提供だけで授かれる人はもっといると思うが、すごくハードルが高いと思う。もっと身近に考えられるようになりたい。(33 歳、不妊治療歴 2 年)
- 費用がかかりすぎる。(45 歳)
- お金持ちの人ができること。治療費・サポート費含め、お金がかかる。(35 歳、不妊治療歴 1

年6ヶ月)

○海外での不妊治療は決して悪いとは思いません。日本で不可能なら、海外へ行っての可能性を求めるのは、子供が欲しい人なら考えると思います。しかし、現実には長期休暇を取ることは難しく、金銭的にも不可能です。不妊治療を海外で行える人は、時間とお金のある方のみだと思います。(31歳、不妊治療歴1年)

○お金がかなりかかる。(不妊治療歴3年)

○金銭的に余裕がある人しか受けられないのは仕方ない。養育にもお金がかかるので裕福な人は選択の余地があるが、そうでないならば無理する必要はないと思う。(41歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○海外での不妊治療は高額なお金がかかるため考えられない。自分に子供が授からなければ、海外での卵子提供や代理出産なども考えたと思います。現実問題、一般家庭からはできる話ではありません。渡航治療の情報も日本ではあまり耳にしないので、もっとオープンになれば…と思います。(37歳、不妊治療歴9ヶ月)

○教育と一緒に経済的に余裕がないと選択すらできない。休みも取れないし、まず海外など浮かばない。ごく一部の、不妊に時間を存分に使えるような人たちの問題と思う。(34歳、不妊治療歴1年)

○経済的・精神的負担が大きい。一部の富裕層にしかできない。(37歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○お金がかかる。仕事をしていたら休むか、辞めざるを得ないイメージ。(42歳、不妊治療歴8年)

○経済的余裕があるなら、今よりもっと積極的に検討すると思います。(38歳、不妊治療歴2年)

○チャンスは誰にでもあるべきだと思う反面、金銭で全ての解決が決まることの怖さを感じる(経済格差は学力格差のみならず、子供を持てるかどうか決めてしまう)。ただ子供を純粋に欲しい人々の気持ちを考えると、絶対的にNGとは言い難い心情はわかりすぎるくらい。(38歳、不妊治療歴1年5ヶ月)

○海外で治療となると金銭面での不安が強く、絶対に成功するわけではないし、妊娠しても正常に出産ができるとも限らないので、海外までとは考えられない。(31歳、不妊治療歴5ヶ月)

【国内で治療したい、保険や助成金の充実】

○安全で信用のおける治療をしてほしい。(41歳、不妊治療歴4年4ヶ月)

○お金と時間と周りの理解と精神的強さが必要な治療なので、受けたくても躊躇する人は多いと思う。特に有職者は今後の社会での自分の評価も気になり、長期休暇は難しいと思う。(26歳、不妊治療歴9ヶ月)

○海外での治療については現在考えていません。国内での技術が良くなることを願っています。(37歳、不妊治療歴2ヶ月)

○よくわかりませんし、考えてないです。お金もかかるだろうし、できるだけ無理なく治療したいです。(37歳、不妊治療歴4ヶ月)

○友人が国際結婚したため、詳細を聞いているが、とても「進んでいるよ」と聞いた。しかし、海外に行ってまで子どもを授かりたいかと聞かれると、居住地で良い先生に診てもらって、子どもを授かりたいと思う。(37歳、不妊治療歴2年2ヶ月)

○現在海外在住で、不妊治療をしています(Hong Kong)。公表している成功率は日本とほぼ同じですが、コストが高いこと(日本の2~3倍)、薬のdoseが日本よりはるかに多いので、不安になり、日本の治療を試して見ることにしました。言葉の問題もなくて、スムーズでよいです。(40歳、不妊治療歴4年)

○国内で十分な治療が出来る環境にすることが、最優先であると感じる。海外では不安も負担も大きい。(31歳、不妊治療歴1ヶ月)

○日本(とくに東京)で、十分な最先端技術の治療を受けられるため、必要性を感じない。きめ細かいケア、モラルなどに関しても。代理出産を考えたり、法による弊害がある治療の場合はしかたないのかもしれないが、個人的には選択することはありえない。(41歳、不妊治療歴2ヶ月)

○できるだけ日本で治療はしたいです。デリケートな問題の治療なので、外国に慣れている方なら抵抗はないかと思いますが、そうでない人も多いと思うし、金銭的にも難しいので踏み切れない

いです。(34歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○子供もいるので国内で治療したい。国内でも良い医師がいるので、ネットで調べなくても分かるように冊子を作ってもらいたい。(39歳、不妊治療歴2年9ヶ月)

○でき得る限り国内で行うのが現実的。(38歳)

○お金がかかるので今の時点ではとても考えられない。国内(今、通院している病院も含め)にも技術の高い病院もあると思うし、言葉の面でも安心して受けられる。(27歳、不妊治療歴5ヶ月)

○日本での不妊治療でも一定以上の収入があれば県や保険の援助・控除が受けられず、複数回チャレンジしても成功できない場合、金銭的精神的負担が大きい。不妊という病で治療を受けるのは、金銭的余裕がある人にもみ許される贅沢のような状況のため、国内外を問わず国を挙げてサポート体制を備えてほしい。子供を作ることは将来の国を支えることになるのだから。(35歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療は精神的・体力的・経済的にストレスがかかります。せめて国内で治療できたら少しは楽になると思いますが。(40歳、不妊治療歴2ヶ月)

○国の援助があったら考えたいです。(30歳、不妊治療歴3ヶ月)

○日本国内で十分な不妊治療が行えるよう、医師(技術)の向上が必要だと思います。(30歳、不妊治療歴4ヶ月)

○イギリスに住んでいるため、初めてのIVFはイギリスで行いましたが技術の遅れを特に感じました。ただ、日本で認められていない卵子提供などの問題に関しては現時点では海外での治療も考えなくてはならないこともあります。将来、日本でも出来るようになることを望みます。日本人ならではの丁寧な治療の仕方、安心感があるので治療はなるべく日本でしたいです。(35歳、不妊治療歴4年)

○着床前診断をできるようにしてほしい。不妊治療費の助成を充実させてほしい。

○日本の医療技術と日本スタッフのもとで、治療を受ける方が何よりも安心ゆえ、できれば日本で治療を受けたい。法律上の問題のせいで、海外で治療を受けざるを得ない現状はナンセンスと思う。お金や英語力のある人は、どんどん可能性に挑戦して海外で子供を作ることはよいことと思う。(43歳、不妊治療歴3年)

○全く視野に入れてません。金銭的にも余裕がありませんし、国内での治療希望。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)

○できるなら日本ですべての治療が行えるといいと考えます。(36歳、不妊治療歴9年1ヶ月)

○国内では代理出産はできませんが、子宮を摘出してしまうような病気、卵巣を摘出してしまうような病気の場合は、もう子供を諦めるしかありません。国内でも保険適用でできたら、たくさんの方の不妊治療をしている人に希望が持てると思います。(34歳、不妊治療歴10年)

○国内で超最先端治療(卵子の核移植)ができれば、海外での卵子提供等は考えない。日本国内で治療を第一に希望します。現状では、国内の治療(卵子提供)は不可能と思われるため海外での治療を検討するしかない。ただ、配偶者が他者からの卵子提供や海外治療に抵抗があるため断念せざるを得ない。(43歳、不妊治療歴5年7ヶ月)

○やりたいが、できれば国内でやってほしい。いろいろ不安。(39歳、不妊治療歴13年)

○日本で最先端治療をしてみて、ダメだったら検討する。できれば、職人気質の日本の病院で治療を受けたい。(41歳、不妊治療歴4年)

○自分は日本で子供を授かりたい。海外は怖い。(35歳、不妊治療歴3年)

○今まで知識も関心もなかった。というより、国内で治療したい(妊娠・出産したい)という強い希望がある。無理だった場合は、2人の人生を考える予定です。海外での治療について考えるお金も気持ちの余裕もない。(37歳、不妊治療歴2年)

○日本国内で本来治療すべきであると思います(費用・時間がかかりすぎる)。国内での治療費の保険適用を待っている時間もない人は、海外で治療するのは、やむをえないと思う。(34歳、不妊治療歴4年1ヶ月)

○もし、海外に住んでいたとしたら、不妊治療は受けていると思います。海外でIVFをされている日本人の方のブログを拝見すると、妊娠→出産に至っている人もいます。ただ、治療費が高い誘発が多いようなので、日本に住んでいる限り、海外で治療を受けることは考えていません。(36歳、不妊治療歴3年3ヶ月)

- 日本の医療のためにも日本で治療を受けるべきだと考えています。(35歳、不妊治療歴5年)
- 国内の治療に満足している。(37歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

【海外に行かなくても済むシステム作りを（規制緩和）】

- 可能な限り、海外と同程度の高度不妊治療が国内でも倫理的承認を受けられるようにしてほしい。仕事もありますし、海外では実際問題無理です。(32歳、不妊治療歴1年)
- 海外で受けられる治療は国内でも受けられるべきだ。(34歳、不妊治療歴1年)
- 国内でできないから、海外まで行ってした後、やっぱり妊娠出来なかった、だと、体の負担もあるけど精神的な負担が。国内で、同様のことをしたとして海外でしてダメだった方が大きいと思う。金銭面の負担もそうだけど、リスクが高い。内容はわからないし、深いからわからないけど、海外で出来るのであれば国内でも出来るようにしたらいいのではないかなと思う。ただ、海外までとなると少数だから、問題としてなかなか考えてもらえないのではないかなと思う。(41歳、不妊治療歴3年)
- 国内で十分な治療を受けれる医療機関が増えれば、海外へ行く必要はない。
- サラリーマン家庭の私たち夫婦において、経済的にも時間的にも更に未知である異国の地での治療は、全くといっていい程考えられません。不妊治療自体、未知であった世界であり、国内の治療ですらいっぱいいっばいで通院中の病院の治療方法に任せているだけでよいものか…不安な面もあり、何より国内治療の充実化が急務と思います。異国での治療が検討される理由が倫理面、法的な面からくるものであれば、これらの問題の国内解決、進展を望むばかりです。(35歳、不妊治療歴2年10ヶ月)
- 海外に行かなくても日本で同じ治療が受けられるようにすべき。期待よりも不安が大きく、とても海外で治療する気になれない。(43歳、不妊治療歴4年)
- 日本で治療できたら海外まで行かなくて済むと思う。(41歳、不妊治療歴6年6ヶ月)
- 個人がやりたければ、日本国内で出来るようにしたほうがいい。(38歳、不妊治療歴10ヶ月)
- 精子・卵子の提供や代理出産となってしまうと、それは不妊治療ではないと思う。法規制は必要だと思うが、第三者が関わる生殖技術でしか、子どもを授けられない夫婦にとって、その思いが絶たれないようにして欲しい。国として法規制し、方向性は示して欲しいが、サポートするシステムも創り上げてもらいたい。(36歳、不妊治療歴3年)
- 日本人夫婦には日本人遺伝子を持つドナーが望ましいと考える。国内で治療が出来れば良いと思う。(37歳、不妊治療歴2年7ヶ月)
- よく分かりませんが、海外にまで行くのには、技術と言うより日本では法的に認められていない等の関係で高額な費用をかけても治療するのだと思います。みんな出来るなら、国内で治療したいので、早く法整備をした方が良いと思います。下の問と重なりますが、例えば第三者卵子提供は既婚女性に限るとか、生涯で3回までとか、代理出産も既婚女性で出産経験者にするとか、制限付きで認めた方がこれからの治療技術が発展するのではないかなと思います。(39歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- かなりの勇気と予算がないと思切れないかなり高い壁が私にはあります。子供を授かる方法はいろいろあって、人によりいろいろな考え方があるが、もう少し国内での不妊治療に選択の幅があれば、一步踏み出しやすいのでは。(39歳、不妊治療歴1年)
- 個人の自由であり、“自己責任”の考えのもと実施すべきだと思う。できれば日本で同様の治療を受けれるように整備して欲しいと思う。(38歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 海外へ行きたくて行っている方は、そうたくさんいるわけではないと思う。自分が不妊であると思知らされ、様々な治療を試みてきたが、日本では「倫理上」という言葉がカベとなっている。少子化対策とか言っているが、そのあたりが政府は分かっていない。そうなると、海外でやっても子どもが欲しいと思う人がいて当然である。理解がなかったり、法整備などと言っている様では、海外での不妊治療を考えても良いと思う。(34歳、不妊治療歴9年3ヶ月)
- お金や時間があっても海外で不妊治療するという事は、女性にとってはとても大きな不安や勇気が必要なことだと思います。ただ、そうしてでも子供が欲しいという気持ちがあるということ周囲に理解してもらいたいと思います。私は一人子供がいますが二人目が欲しくて不妊治療を始めました。加齢もあり、多少のあきらめもありますが、女性で若くても体質的に不妊の人

には政府が手を差し伸べて、良い治療を受けれるべきと強く感じています。(40歳、不妊治療歴6ヶ月)

○TV や雑誌などでしか、情報が入って来ませんし、海外でというのは費用の面でも我が家の収入ではきびしい。国内でできない治療など出来るというメリットがあるのは知っているが、そこまでの勇気がない。国内で出来るなら国内の方が安心できる(金額面でも、術後ケアなどの面でも)。(26歳、不妊治療歴2年)

○国内でも同様の治療ができるといいと思います。(42歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○本来、国内でできるものならそうすべきです。海外でもその国の患者様がいるだろうし、海外に行くお金と時間の確保も大変です。“お金があれば子供が授かる”というようなことになりかねません。医療技術はすべての人に平等に与えられるべき。国内でも技術が進めばと思います。

(35歳、不妊治療歴3年)

○海外で不妊治療する方がいるなら、そのような人たちが満足できる医療に日本も改善すべきだと思います。(31歳、不妊治療歴3ヶ月)

○私は希望しないが、希望する人にとっては規制緩和もある程度必要かもしれない。でもビジネスがからんではいけないので難しい所かもしれないが…。(30歳、不妊治療歴13年3ヶ月)

○漠然とであるが、海外での不妊治療には不安を感じるため、法的規制の緩和により、国内での治療が受けられるようにして欲しい。(32歳、不妊治療歴1年)

○国内では制限がある治療も多いので、海外で不妊治療を受けることを検討せざるを得ない場合もあると思う。ただ、渡航費・滞在費・時間等、現実的には厳しい。海外に行かなくても、日本ですべて治療できるようになれば良いと思う。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○日本でも行えるようにした方が良い。(39歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○人権に関わる問題だと思うので一概に”賛成”とは言えない。けれども「不妊」という人生を左右する問題を放っておくことはできない。経済的に余裕のある人はその可能性にかけることも”あり”だと思う。その場合、日本でも正当に受け入れるべき。いずれは日本でも海外水準の不妊治療技術を獲得し少子化に対応すべきだと思います。(33歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○自分自身は海外での不妊治療は考えていないが、望む人がいるならば国内で海外と同様の治療、もしくは代理出産等が可能になればよいと思う。(38歳、不妊治療歴2年)

○海外で受けるのは受ける側の自由だと思う。ただ、本来なら日本で受けたい人がほとんどだと思うので、海外に行かなくても海外と同じような技術・費用で受けられるようになると良いと思う。(卵子提供・代理出産等、第三者が含む治療については除く)(33歳、不妊治療歴3年1ヶ月)

○卵子提供などもっと日本で行えると良いと思う。(41歳、不妊治療歴6ヶ月)

○日本国内できちんと整備し、国内で行うべき。(35歳、不妊治療歴2ヶ月)

○一人産んでいるので(体外受精)海外までは考えていないが、一人目もまだならどこまでも可能性があるならばと求めてしまうかもしれない。子供を持つことを選択肢を増やしてほしいと思う。国内であればまだ金銭的にもかからないと思うから。(40歳、不妊治療歴8ヶ月)

○私自身は体外受精にも少し抵抗を感じているので、卵子提供や代理出産をしてまで子供を持ちたいとは思いません。でもそれは個人の自由ですから、そのような治療が受けたい人は国内で受けられるようになればいいと思います。(36歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○日本で希望の治療は検討されるべき。(35歳、不妊治療歴2年)

○海外での治療には抵抗がある。全て国内でできるようになれば良いと思います。(38歳、不妊治療歴2年8ヶ月)

○時間とお金がある人がやるように思える。海外まで行って治療したい人がいるのだから、国内でもできるように考えるべきことだと思う。(35歳、不妊治療歴1年)

○どのような手段を使ってでも子供が欲しい気持ちはわかる。やむを得ず海外で治療を行なっている現状を考えると、国内で治療ができるように体制を整えるべき。(36歳、不妊治療歴1年)

○海外に行かなくても、日本国内で全てできるようになれば良いと思います。(33歳、不妊治療歴3年)

○自分たちは、国内のICSIで無事に出産できましたが(現在は2人目希望中)、妊娠と出産できるかの保証はどこにもないので、もしこのまま子供が出来なかったら…と養子や海外の手段が

頭をよぎることは何回もありました。そもそも自分たちの精子・卵子がNGな場合、どうしても費用もかさむし、スケジュールも大変なので海外よりは国内で同等の施術が出来る方が望ましいです。つくづくパワーが必要なことなので、段階を踏まないとならないなら、まず海外からその道をひらいてもらえたら良いと思います。夫婦にとって子供の有無は重要で切実な願望です。

(44歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○海外では卵子提供が割と簡単に？できるようなので、日本でもある程度の規制をかけつつでも可能性が出てくれば良いと思う。(45歳、不妊治療歴3年)

○日本での治療が可能になればいいと思っている。(30歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

海外で受けられる治療なら、全て日本でできるようにしてほしい。(24歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○金額と時間次第です。夫は会社を長く休めないで、国内でもっとできればと思います。(47歳、不妊治療歴1年10ヶ月)

○海外でやるくらいなら、日本でできることを増やすべき。(33歳、不妊治療歴6ヶ月)

○子供を産むことが生きがい、夢である人もいますので、国内でも認めるべき。(28歳、不妊治療歴3年)

○日本での治療に限界があるなら、海外での治療を受けるしかない。子供を欲しいと思う人は、どんな方法でも試してみたいと思う。日本でも海外の治療と同じことができるようになればいいと思う。(33歳、不妊治療歴6ヶ月)

○既婚、不妊原因、治療歴に対する条件を明確にしていれば、精子バンク・卵子バンク・代理母も日本で認められてもいいと思う。海外に行かなければならないとなると費用の面で諦めざるをえないから。(29歳、不妊治療歴1ヶ月)

○海外で治療を行うことは個人の自由であると思う。しかし、なぜ海外なのか。海外での選択肢を考える前に、まず国内での治療環境を整えるべきだと思う。(30歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○国内でできれば国内で卵子提供を受けたいです。(44歳、不妊治療歴4年)

○国内でできないことは海外でやるしかないが、国内でできるほうがよい。(32歳、不妊治療歴6ヶ月)

○海外での治療は言葉の壁や費用などとてもハードルが高く、一般的な収入の家庭ではなかなかできないのが現状と思うが、代理母や卵子提供など必要としている夫婦は多いと思うので、もっと身近に治療できるようになればいいと思う。(36歳、不妊治療歴3年)

○病気等でどうしても子供ができない場合に限るなど、国内での治療を整備すべき。既に痛みを持っている人が大金とリスクを負って海外に出るのも、できる人は良くて不公平だと思う。でも、親の勝手な希望で海外へ行く人は今まで通り認めない等、線引きが必要。ハンデを負った人が安心・安全に治療を受けられる国になってほしいです。(41歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○経済力がないので考えたことはないが、お金があったら考えていたかも。国内でできることが望ましいとは思っている。(39歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○病気や様々な理由で海外でしかできない治療を受けるのに、他の人が批判する権利はないと思います。日本でも代理出産など積極的に受けられるよう希望します。私もガンで一時は子宮摘出も言われましたので、気持ちはよくわかります。(38歳、不妊治療歴3年)

○お金や時間に余裕があり理解できる人は海外で治療を受けても良いと思うが、私はそこまでしてという気持ちがある。そもそも海外に行かなくても、国内で同じような治療ができるようにしたら良いと思う。(36歳、不妊治療歴4年)

○国内でできるようにすれば、海外へ行く必要はないと思う。(37歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○受けたい気持ちはあるが、金銭面、時間的に余裕がないため、国内でもっと治療の範囲が広がればと思う。(39歳、不妊治療歴7年2ヶ月)

○自分は海外に行つてまでと思うが、子供が全くいない方にとっては切実な治療である。国内でできるようになるとよいですが…。(42歳、不妊治療歴2年)

○切に願っているご夫婦にとっては考える選択肢だと思われそうですが、国内での法整備が進めば渡航しなくても国内でできることになると思い、そのために一日も早く国内のより安全・安心の妊娠ができる環境を整えてほしい。(39歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○国内での研究も進めて、政府として法改正により、より医師が治療として携わり病を治すとい

- う観点で考えていただければ、海外と同様のことができると思うが、現状を考えると高額であろうと不安があるかと合法でなかろうと、できるものなら金銭的なものを我慢してでも行きたいと思うものと思う。自分には、ハードルが高くて無理だが。(38歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 国内でも同レベルの治療ができるようにし、不妊に悩む夫婦に選択肢を増やすべき。(34歳、不妊治療歴2年)
- 代理出産を国内でできるようにしてほしい。(41歳、不妊治療歴4ヶ月)
- コミュニケーションの問題、時間的問題、金銭的問題などを考えるととても抵抗があるので、私は受けるつもりはありません。ただ、それぞれ価値観は違うと思うので、本当に受けてほしい方がより安楽に受けれるように(国内で)なるとよいと思います。(33歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 海外での治療を求める人が増えているのは、国内で卵子提供や代理出産が事実上できないため。この傾向は止められないと思うので、国内でももう少し自由に行えるようにすべきだと思う。逆に、アメリカのように法的に認めて、海外の医療ツーリズムを受けるくらい積極的に先端の医療を世界に示し、国策とすべきだと思います。(45歳、不妊治療歴3年)
- 一度、妊娠・出産をしているので、海外での治療(ステップアップ)を考えるまでには至っていない。しかし、そういうことをせざるをえない人がいるということは、第一には、日本では卵子提供が不可であること(精子は可能にもかかわらず)が問題である。政府は検討してはいても、根拠を明確に示さないままリスクが存在するというようなスタンスをとる。それは不安をあまり、無力感をうみ、方法がないことから、海外に頼らざるをえない構造を作っている。(35歳、不妊治療歴3年9ヶ月)
- 1人子供ができたので、他の方に比べると思いもそこまで重くはありませんが、子供が全くいない人生と1人でもいる人生、全く違います。欲しくて欲しくてたまらない人は、どんなことをしてでも授かりたいと思うものです。海外で授かれる技術があるのならば、日本でもぜひ実現してほしいと思います。(35歳、不妊治療歴6年)
- 海外に行ってまで治療したいとは思わないが、海外に行かずとも国内でできれば選択肢は増える。(44歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 海外で行うことを否定はしないが、本来は、日本で十分な治療が受けられるようになるべき。(45歳、不妊治療歴3年)
- 子供を欲しいという気持ちを尊重するので、経済的理由で断念することがなくなるようなシステムにしてほしい。(36歳、不妊治療歴9年)
- 芸能人や政治家など、お金がある人にしか受けられないというイメージがあります。海外に行かなくても、同じ治療が日本でもできるような制度になれば、子供を授かる人が増えると思います。いろいろな考え方や問題があるとは思いますが、選ぶのは個人なので選択できるようになれば、私は嬉しいです。(41歳、不妊治療歴9年)
- 日本でできるなら海外へは行かない。(43歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 国内でできないことができて、それによって子供を授かることができるようになるなら、可能性が1%でも上がるなら、そして費用も負担してくれるのなら、絶対チャレンジしたい人は多いと思う。私は、まだ国内での治療を全て試していないので考えてはいないけど、他に可能性がないとわかれば検討すると思う。でも何より、国外でできることが国内でできないではなく、1つでも多い治療法を日本で増やしてほしいと思う。(27歳、不妊治療歴3年)
- 身体・心の不安など、海外に行くことになると増えるので、全ての不妊治療を国内で認めるべきだと思います。(40歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 海外で受けられる治療が、国内で受けられるようにしてほしい。(41歳)
- 政治家の方がされたことで、興味を持ちました。だけど、お金があるからできるんだろうな…くらいの気持ちでした。国内で、費用も手が出せる範囲であれば、自分もやってみたいと思います。(28歳、不妊治療歴3年)
- 日本は、まだまだ遅れていると聞きます(法整備で)。私は、できれば全ての不妊治療が日本で受けられるようになればと願うとともに、体外受精も保険(や補助の充実)が効けばいいと思います。(37歳)
- 現在、海外でしか行われていない不妊治療が、国内でもできるようになってほしい。(そうあれば、わざわざ海外にまで行って治療したいとは思わない)(43歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○海外に行ってまで治療したいと思わないし、時間もない。本当に必要としている人もいると思うので、日本である程度のことまではできるようになってもよいのではと思います。(38歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○妻の子宮摘出や卵巣摘出など、子を持ちたくても持てない若い夫婦が国内に選択肢がなく海外に渡るのには、不妊治療を体験した者として理解できます。海外に渡らずに済むよう、国内でも環境を整備してほしいと思います。(36歳、不妊治療歴4年)

○それしか選択肢がないのならやむを得ないが、戸籍などの問題を耳にすると1日でも早く国内でもできるようにするべき。親も子供もかわいそう。(38歳、不妊治療歴5年)

○かなりの強い意志および経済的余裕がないとそこまでは踏み切れないので、やはり国内でもっと治療(卵子提供など)の幅が広がればよいと思う。(ただ、海外で治療せざるをえない人々が好奇の目にさらされたり非難されるのは、一つには日本の学会が否定することにあると思われ、彼らの正当な治療する権利を侵害するものである。野田聖子さんなどは一番良い例で彼女の頑張る姿は痛々しい。)(45歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○超先端技術を早く日本に導入してほしい。このままでは、人口がますます減少してしまうと思う。(42歳、不妊治療歴2年)

○私自身は治療を始めて間もないため、まだ海外で…といった意向はありませんが、希望するご夫婦がいるとすれば、国内でも一定の規定を設けて行えるような治療方法があっても良いのではないかと考えております。また、安全性や生まれる子供が成人してから(するまでも)の健康状況データの情報・収集・開示…と統計的にも情報が乏しく、海外となると余計に素人には思いが錯綜してしまいます。(32歳、不妊治療歴1年)

○子供を希望してもどうしてもできない場合がある。卵子提供や代理出産など日本でもできるようになれば、わざわざ海外まで行く必要がなくてもいいようになればいいと思う。(36歳、不妊治療歴3年)

○どこで治療を受けるかは個人の自由だと思いますが、費用がなるべく生じないよう自国で十分な治療を受けることが最良だと思います。(30歳、不妊治療歴4ヶ月)

○国内でもできるようにしてほしい。(41歳、不妊治療歴1年)

○良いと思うが、海外に行かなくてもいいように国内でできるようにしてもらいたい。(34歳、不妊治療歴1年)

○インドでは2回程の体外受精の費用(70~100万程)で代理出産ができる、というウワサを聞いたことがあります。情報が少ないのと安心・安全面からチャレンジすることはありませんでした。海外で治療された方は、本当に勇気があると思います。今の国の方針では、今後もっと増えるのかも…と思います。それほど不妊で悩んでいる夫婦にとっては、最後の希望なんだと思います。でも、なぜ海外に行かなくてはいけないのか。国内でもっとできるようにしてほしいです。(42歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

【第三者の関わる生殖技術に賛成、容認】

○結婚前に体外受精についてTVで知ったときに、すごい技術だなとも思いましたが、そこまでして欲しいものなのかな、とも思ってしまいました。しかし、自分がいざ子供ができないと、方法があるかぎり試していきたいという気持ちがあります。代理出産など、子供が欲しいと思う自分のわがままで生まれてきた子供はどう思うのかという気持ちもあります。しかしお金をかけても出来るわけではないし、毎日治療で気持ちが暗くなるのも事実で、そのことを考えると否定だけする気持ちにもなりません。難しいことだと思います。(26歳、不妊治療歴2年)

○本当に子供が欲しい夫婦のために、日本でも代理出産など認めるべきだと思う。(41歳、不妊治療歴2年)

○出来れば日本で卵子提供が受けられるようにしてほしい。(36歳、不妊治療歴2年)

○代理母出産には賛成です。(37歳、不妊治療歴3年)

○自分で不妊治療をしてみてわかったことは、赤ちゃんがほしいと思っても、なかなか授からない。努力しても報われないなど、とても苦しい体験だったので、日本で許されていなくとも、海外ならチャレンジできることがある場合にチャレンジする人がいるのは私は賛成です。代理母出産においても、子宮がない方であったり事情があって自分自身での妊娠が難しい場合、日本で

も受けられるようにして欲しいです。今、採卵をしている私としては、採卵が出来るのであれば、1回でもチャンスはムダにしたいと思ってしまうので。(31歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○日本国内で違法である代理出産が海外で合法であることなど、日本はもっと臨機応変になるべき。(42歳、不妊治療歴3年)

○本当に子供ができなくて、長い時間をかけ不妊治療代は金銭面だけではなく体と心も大きな負担です。自分たちの子供が欲しいという願いを叶えるなら、海外での不妊治療と代理母も認めて欲しい。難しいことかもしれないが、国として真剣に決まりを考えて欲しいです。(42歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○とてもお金がかかるイメージがあり、一般の家庭ではなかなか利用できない。今、国内での卵子提供は許されていないため、人種を越えても子供を授かりたいと考えている方々には大変負担になっていると思います。私個人としては、もし卵子提供を受けるならやはり日本人が良いと思います。(37歳、不妊治療歴3年)

○なぜ日本国内だけでのルールで全てを考えなければいけないのだろうかと思います。外国での卵子提供に踏み切らなければいけない年代にさしかかった時には、もう最後の手段になってしまうのではなく、色々な選択があれば体力・気力ともに若い時に決断できるのではないのでしょうか。(37歳、不妊治療歴9ヶ月)

○向井亜紀さんのテレビを見て、悪いものではないと思いました。お金がかかるだろうし、沢山の心配があります。生まれてからの戸籍等、法が厳しすぎてオープンに出来ない人も多く、情報が少なすぎるような気がします。私は夫婦間の受精卵で、国内で3人授かり、ある意味幸せな方なのかもしれません。子供を授かれなかった期間、治療期間は5~6年あり、本当に苦しかったです。正確で安全な情報を知りたい夫婦に提供し、少しでも多くの方々の不安や苦しみを取り除いていけたらと思います。(38歳、不妊治療歴4年)

○妹からの卵子提供を検討したが、面談や審査に時間がかかりすぎることと費用が高いことなどが理由で断念した。晩婚なうえ少子化にもなっているのも第三者間の日本での卵子提供を強く望む。特に日本は判断に時間がかかりすぎるので、海外での治療を検討する人は増えると思う。(42歳、不妊治療歴4年)

○余り上手に答えられず、参考資料になったのか…海外で現在産み分けのため高額を支払い妊娠を望む人がいると聞いたことがあります。私はそれに対し、生命の冒涇と考えています。本当に子供が欲しくても出来ない人が、日本で認可されていない代理母出産や治療を受けるのはあって良いことと思っています。子宮を失った人や、私のように体外受精しか頼れない人のための突破口であっても良いのでは…ただ高額(滞在日等考えると)なので、私には無理ですが…(43歳、不妊治療歴3年)

○不妊の原因が妻の私にあり、34歳から8年間不妊治療を受けていて現在42歳です。体外受精には13回挑戦しましたが成功せず、これまで約500万円強を治療につぎ込んでしまいました。ここ数年は年齢的にみても、成功率が1%もないのだろうと思いつつ治療を続けてきましたが、助成金を使い切るあと1回で治療をやめるつもりです。主人も主人の父も長男で、なんとか主人の子を授かりたいのですが今の日本の現状のままでは叶いそうになく、私は周囲に対して、本当に申し訳なく思い、離婚がいつも頭をよぎります。自分との血の繋がりは諦めても、せめて主人の子を授かる方法はないかと、不妊治療の情報を集めています。日本でも数年前から卵子提供による不妊治療が認められる方向にはあるようですが、実際に誰でも受けられる状況ではなく、42歳の私にとっては大変厳しい現実です。以前、卵子提供をしても良いという知人がおり、仙台の病院に相談しましたが、治療以前に、医療の専門家や弁護士さんとの面談だけで約半年の期間と100万円程度の費用がかかると聞き断念したいきさつもあります。もし卵巣が正常で、子宮に問題がある方がいらっしゃるなら、卵子をもらう代わりに、私が代理出産をするというマッチングをどこかでしてくれれば互いに成功率その他のメリットが大きいのではないかと考えたこともあります。韓国での卵子提供は200~300万円もかかるようで、もう少し安く一般的になることを祈るばかりです。日本では姉妹や友人からの提供が無理な場合、無報酬のボランティアに限っている点に無理があると感じます。薬や処置による心身への負担があり、自分もその経験をしてきていますから、とても無報酬でお願いする気にはなりませんし、見ず知らずの他人のために引き受ける人はいないでしょう。ぜひ、いくらかの報酬を支払って提供を受けたいと思います。日

本で安心安全に、広く卵子提供が行われればムダに長年に渡って成功率の低い治療を受けずにすみます。日本での事情が変わらないとすれば、日本での治療に早めに見切りをつけ、たくさんの患者が海外に向かうのは自然な流れだと思います。(42歳、不妊治療歴8年6ヶ月)

○お金があれば是非受けたいと思います。受精卵が得られてもなかなか着床にもつながらないので、代理出産が頼めれば良いのに…と考えます。費用面で無理ですが。(40歳、不妊治療歴4年)

○卵子提供は、身近なこととして情報を収集している。国内でも実施できるようにしてほしい。(40歳、不妊治療歴1年)

○代理出産、卵子・精子提供については、日本は遅れているように感じます。さまざまなデメリットも考えられますが、不妊治療を何年もしている人はメリットが大きいです。子供がいない女性は肩身が狭く、友人の妊娠を横目で見ています。どうか積極的に考えてください。(33歳、不妊治療歴8年)

○海外在住の日本人も多い今、普通に海外で不妊治療をしている人も多い。わざわざ日本から海外へ治療に行くのはよっぽどのことと思いますが、代理出産や他人からの精子・卵子提供以外は海外に行く必要はないのではないかと思います。(36歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○国内で不妊治療ができずどうしても子供が欲しい場合、代理出産という選択ができるなら海外での不妊治療をしてもいいと思います。(41歳、不妊治療歴10ヶ月)

○国内では治療に行きつき海外でしか可能性がない方々には、精子・卵子提供や代理母の門戸を広げて良いのではないかと思います。(39歳、不妊治療歴2年)

○日本で認められていないことを海外で行うのは仕方ないと思うし、日本も代理出産を認めてほしい。(25歳、不妊治療歴6ヶ月)

○海外で卵を売る人がいると聞きました。国内で使用できる(もちろん法整備をちゃんとして)ようになってほしいです。今現在できていれば、主人と家族で相談して、その方法で授かりたいです。(45歳、不妊治療歴3年7ヶ月)

○国内でも安心して、第三者が介入する治療ができるようにすべきだと思う。(35歳、不妊治療歴9ヶ月)

○代理母出産には、とても関心がある。(39歳、不妊治療歴2年4ヶ月)

○どうしても旦那との子供が欲しいが、何らかの理由でできない場合、海外での治療はしょうがないと思います。向井亜紀さんの代理出産について、私は良かったと思っています。私も我が子に出会いたいです。(40歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○海外ではなく国内で代理出産などできるようにすべき。(28歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○現在、卵子提供を受けることは海外でしかできないので受けてみたいが、費用面や渡航にかかる手間(渡航日数)等、難関が多く、実現できるか不透明。(43歳、不妊治療歴4ヶ月)

○国内で卵子・精子提供を受けられるようにしてほしい。私たちのような、子供がどうしても欲しくてもできない人たちの治療の可能性を広げてほしいです。(50歳、不妊治療歴3年)

○本当は産み分けもしたいけれど、それは法で禁じてもいいと思う。しかし、卵子提供を国内で合法的に受けられない理由は納得できない。採卵方法によっては、ほとんど負担にもならないので、是非認めてあげてほしい。(自分としては、卵子・精子提供を受けようとは思いません)(36歳、不妊治療歴6ヶ月)

○国内での治療で顕微授精を始めたばかりで、そこまで考えていない。日本でも第三者からの卵子などの提供ができるようになったら、わざわざ海外まで行く必要がないと思う。(39歳、不妊治療歴4年)

○私は、野田聖子さんや高田夫妻のように自由な意思で不妊治療を海外に展開していくのは賛成です。ただ、実子として高田夫妻の子を登録できないのは疑問を感じます。(39歳、不妊治療歴1年)

【第三者の関わる生殖技術に反対・遺伝的つながりを重視】

○子どもが欲しい気持ちはとてもよく分かる。でも、子どもが将来、自分の出生(例えば、卵子・精子の提供)を知った時、「幸せだ」と思うかどうかは疑問。子の立場でもよく考えて臨むべきではないか(私は希望しません)。(40歳、不妊治療歴4ヶ月)

○費用がとても高くて手が出せないイメージ(詳しく調べたことはないですが)。基本、他人様の精子・卵子を用いてまで子どもは望んでいない。自分と夫の受精卵であるなら、実母であれば代理出産自体に(全くではないが)抵抗はない。(32歳)

○海外での不妊治療は、希望される方はしたほうがいいと思います。卵子・精子提供・代理出産は反対です。目に見えない部分でも心配があるからです。例えば、「性格、お父さんそっくりね」、「お父さん、胃がんだったから遺伝ね」、「家柄はいいけど、ご先祖様が武士で沢山殺しているから」などの影響。子供はものすごく欲しいですが、子供に分からないものを背負わせたくないの。(43歳、不妊治療歴3年8ヶ月)

○同じ不妊同士で仲間ではありますが、それでもそこまでして子どもが欲しいの?という気持ちがあります。自分がやっている顕微授精でさえ、神の領域に踏み込んでいるのかも…と葛藤を感じているくらいなので、第三者が関わる妊娠には少し抵抗を感じます。(30歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○そこまでする必要はないと思います。が、もし余裕があるなら、若い時の卵を凍結しておくのも良いかなと思います。しかし、年をとってもよい卵がとれることもあるので、そこまでしなくても、それはそれで人生かなと思います。(43歳、不妊治療歴1年)

○自分も不妊治療をしていて、上手くいかず、他に子どもを授かる手段があるのなら、頼りたくなる気持ちも理解できるのですが、代理出産や卵子の提供までして、自分たちの子どもを得ても良いのだろうか…と不安になるので、私は検討するつもりはありません。男女の産み分けのためだけに渡航している人が増えていることを知り、腹立たしく思いました。(40歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○身近な人の中には、経験した方はいないが、TVに出ている方(卵子提供の事)で、そのような経験後、無事出産された方はいたが、やはり問題になったのを見ると、気持ちはわかるが、自己満足のような気もする。今はいいが、大きくなって自分の出生の秘密が分かったときにどう思うか。やはり経済的に余裕のある人しかできないのも何か、と思う。(31歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○夫との子供が欲しいので、第三者の関わる治療は検討していない。夫婦間の体外受精であれば、日本で十分な治療が受けられると思っている。海外で治療するには費用も莫大になるだろうし、卵子や精子の提供者、代理母にお金を支払うということにも抵抗がある。しかし、子供が欲しいという気持ちはよくわかるので、他人が海外での不妊治療を行うことに関しては、全面的に反対とは言えない。(31歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○海外に行っても不妊治療をするのは自由だが、私自身は他人の卵子や精子と自分または夫の卵子や精子を一緒にすることは考えられない。自分の妹に代理出産は依頼する可能性があるため、国内で親族に限ってできるようにしてほしい。代理出産等をビジネスにすることは倫理に反してると考えます。(31歳、不妊治療歴3年)

○夫婦間の体外受精で技術的に高い治療を受ける。夫婦間の受精卵での代理出産。この2つはしてもいいと思う。私の中で不妊治療の考えの基本はあくまでも夫婦間の精子、卵子で最大限できる範囲です。(45歳、不妊治療歴4年)

○日本で体外受精まで行い、授からなければ諦めようと思っている。夫婦の卵子・精子でできないのであれば提供を受けてまでは望まない。日本の体外受精でこれだけお金がかかるのに、海外でのそれ以上のステップは恐ろしくて考えられない。(28歳、不妊治療歴2年4ヶ月)

○個人の問題であると思うが、夫婦間以外での妊娠に果たして意味があるのか甚だ疑問です。他人の子供だと配偶者の存在の意味がなくなるようで…。ただ「子供が欲しい」という思いは、子供、生命をブランド品や何かと勘違いしてしまっているんじゃないかと思ってしまいます。愛している人との間に授かる生命だからこそ私は大切にしたいと思います。(33歳、不妊治療歴7ヶ月)

○子供が欲しくてしかたがない気持ちはとても理解できるが、受精卵・卵子・精子の提供や代理母の実施は生まれてきた子供にどう影響するのかを考えおくべき。少なくとも親は先に死ぬわけなので、子供の人生をずーっと守ってはあげられない。覚悟をもって臨むことが必要。(私は自信がないです)(43歳、不妊治療歴1年)

○夫婦間での治療なら問題ないが、第三者が関わる生殖治療や生命を選ぶような男女産み分けには賛成したくない。(35歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○国内で産むことができなければ考えるが、そこまでして本当に授かった時、将来子供が大きくなつ時にどう話せばいいか考えてしまう。まだ具体的には考えていないが、海外まで行き自分の遺伝子を受け継ぐことのできない子供を授かって育てる自信がない。どこかでしっかりかわいと思えない自分がいると思う。それならあまり進んではできないように思う。(35歳、不妊治療歴3年3ヶ月)

○日本の法律的に認められていない治療は子供が将来かわいそう。親のエゴだと思う。自分の子供は自分の卵子と配偶者の精子によって、自分の体で産むべきだと思う。(44歳、不妊治療歴2年)

○自分たちの子どもを育てたいので第三者の関与は一切検討していない。(39歳、治療歴11ヶ月)

○精子提供や卵子提供、代理出産などは考えていないので、海外にまで治療に行くメリットが無いので、特に考えていない。(35歳、不妊治療歴2年2ヶ月)

○何が何でも子どもが欲しければ、海外に行って治療するのもいい。その方が望むのであれば。私自身、精子、卵子提供を受けて、子どもが授かって代理出産しても、その子を愛する自信がない。(43歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○お金がある人だけができる治療だと思います。それに代理出産で子供を授かる親は、どこまで親になれるのか不安です。(32歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○治療費も高そうだし、言葉も通じそうにないので、出来れば国内で頑張りたい。卵子の提供、精子の提供を受けてまでは妊娠を望んでいないので、海外へ行く気はない。代理出産は法的に認められていないので、子供が自分の子供ではない様な扱いになってしまうので、海外で暮らさないうなら、家族みんなつらい思いをしそう。(30歳、不妊治療歴1年)

○特に代理出産は反対です。母体に何かあった時の責任や、子どもに障害や病気が見つかった時どうするか、受け容れられるのかそこまで考えられているのか…と思います。海外にまで行かれる方だとそこまで覚悟があつてのことかもしれませんが…でももし、もっと簡単にできるようになったとしたらどうなるのかと思います。自分で妊娠しても病気が見つかったら…と不安で自信が持てないし、自分はそんなことは起こらないとなぜか思ってしまうのですが、検査したときに急に実感わきました。障害が見つかったらどうするか…。(42歳、不妊治療歴4年)

○この先も検討するつもりはないです。抵抗があります。ほかの国の人々の治療時間、診療時間を割いてまで、日本人が治療(不妊)するのはとても残念だと感じています。(35歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○海外での不妊治療＝「卵子・精子・受精卵提供、代理出産」というイメージがあります。子供を授かるうえで、どこまで人の手を入れてよいのかと考えますが、自身はICSI・ETを現在も行っていきます。ただ「卵子・精子・受精卵提供、代理出産」の治療に関しては、国内でのことだとしても抵抗があり、更にそれが海外でとなるとそこまでして子供を授かる意味は何だろうと考え、行いたいとは全く思えません。私の中で、子供は誰かのために授かったりするものではないという考えがあるようで、しかし、ICSI・ETは許容の範囲で、「卵子・精子・受精卵提供、代理出産」は親となる私たちのエゴなのでは…という思いがあるからだと思います。どこまでが許容の範囲なのかは、かなり個人差があるようですね。(37歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○そこまでして子供を欲しいという人を止めるつもりは全くありませんが、遺伝子が違う赤ちゃんを何をもってして自分の子供だと言えるのか、なんとも言えません。生まれてくる子に絶対的な安心感を与えてあげられるのか不安。(33歳、不妊治療歴4ヶ月)

○国籍が異なるドナーから精子・卵子提供を受けることや代理出産に伴う倫理トラブルを抱えることに積極的にはなれない。しかし、何らかの理由でその手段を選ぶ人がいることは理解するものの、後々、彼らだけの問題ではなく社会的な問題に発展するように思えてならない。(39歳)

○現在、国内での治療に納得し満足しているので、海外での治療は考えていません。主人と私の子供を望んでいるので、精子・卵子提供も希望しないのが現状の感情です。万が一、子供を授からない人生だったとしても受け入れるべきだと考えているので、養子や里親制度にも今のところ関心を持ってない状況です。(37歳、不妊治療歴2年2ヶ月)

○情報が少ないので良くわからないが、海外での治療のうち、精子提供・卵子提供・代理出産については否定的な考えです。そのようにして授かった命は、本当の自分たちの子供と言えるのか

私にはわかりません。(47歳、不妊治療歴3年2ヶ月)

○子供が欲しいという気持ちは理解できますが、トライしたい治療の限界は人それぞれなので、私は海外に行くという選択肢を持っていません。自分とパートナーの間で解決できないこと以上のことは別次元のことのような気がして、そこまでして子供をととは思えません。夫婦二人でどうやって生きていくかを前向きに考えたいと思います。(39歳、不妊治療歴6ヶ月)

○まだ国内の治療をはじめたばかりなので考えられないが、海外の治療はお金がある人がすることというイメージがあります。どうにもこうにも子供ができなかったときに、果たして他人の卵子や精子での子供が欲しい気持ちになるのかも疑問です。(37歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○やりたいという人を止めたり良くないというつもりはないが、自分としてはやるつもりはない(遺伝子的につながりのない子を授かるつもりがない)。(31歳、不妊治療歴4ヶ月)

○代理出産・卵子提供の双方とも不妊治療をしている私たちではなく、代理母・卵子提供者の人たちに体の負担をかけることになります。その方々が、十分な知識(危険性 etc)を受けているのが確認できない限り(確認できたとしても)、第三者にその負担をかけたくはありません。(41歳、不妊治療歴4年)

○子供を授かりたいと思う背景は人それぞれ違うので、海外での治療もあって良いと思います。しかし、倫理的など日本で禁止されていることでも海外で治療すればOKというのは、違う気がします。技術が進歩すると大きな可能性もありますが、怖いことでもあると思います。(36歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○基本的に、海外どうのこうのは問題ではなく、自分の卵と夫の精子の範囲であれば、国外問わずあっても良いと思う(逆に海外に行かないとならないのは不憫)。ただ、卵子提供や精子提供が本当に病でどうしようもない人以外は、考えるまたは許すべきではないと思う。夫婦で妊娠可能なのに…というのはもつてのほか。(44歳、不妊治療歴4年3ヶ月)

○第三者が関わる不妊治療には抵抗があるので、海外に住むことになった場合にのみ、IVF、ICSIまでは国内と同様に受けたい。(44歳、不妊治療歴6年)

○卵子・精子提供、代理出産ともに他人(血縁がない)外国人に依頼するのは、信用性の問題、トラブルなどが心配。(38歳、不妊治療歴3年)

○自分たちの卵子と精子が望みなので、興味はない。(46歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○妊娠・出産は、母体の生命を脅かすリスクのあるイベントである。そのため、夫婦間で解決できる範囲での不妊治療は良いと考えるが、第三者の介入が必要なものは基本的に良くないと考える。夫婦間の不妊治療は国内で可能であるため、自分は国内で可能な範囲で行う。(33歳、不妊治療歴1ヶ月)

○海外で治療するメリットが見つからない。夫婦2人の治療で子供ができなければ意味がないので、卵子・精子を提供してもらうことは考えられない。(38歳、不妊治療歴5年)

○夫婦間の体外受精であれば前向きに考えられる。なぜなら、できる限りやるだけのことやっ、て、もしも授かることができないのであれば、それも人生、夫婦2人と愛犬の生活を楽しくしていきたいと思うから。子供を授かる授からない、で離婚はあり得ない。可能性が広がってよいと思うから。(35歳、不妊治療歴2年)

○海外に行ってもまだ出産する気はあまりない。私が早発閉経で原因がわかっている。私は海外も少し考えたこともあるし夫も考えたようだが、私以外の卵子の提供ということで、自分たちの子供として育てる自信がないようだ。でも、海外に行っても…ということでも本当にどうしたいか、きちんと夫と話したことはない。夫の兄弟の子を養子に…とは少し考えたようであったが、どう考えてもその場合、兄弟が手放さない。(45歳、不妊治療歴15年)

○最近、インドでの代理出産の話聞くことが多くなったので興味はあるのですが、主人が国内海外を問わず代理出産には反対。(40歳)

○一夫一婦制の倫理に基づくものであるべき。(40歳、不妊治療歴1年)

【渡航治療に関心がない】

○今まで一度も考えたことがないため、今回のアンケートに答えることが大変難しかったです。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○現在、海外での不妊治療を考えていないので、特別な意見を持っていません。(31歳、不妊治

療歴3年)

- 関心を持っていません。(43歳、不妊治療歴2年)
- 特に興味がない。(38歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 考えていません。(35歳、不妊治療歴5年)
- 考えたことも…。(25歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 興味なし。(36歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 特に考えていません。娘が一人いるので、そこまでしなくて良いと思います。(妊娠できると思います)(30歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 海外での治療は今の所考えておりませんのでありません。(35歳、不妊治療歴2年)
- あまり興味、関心がない。世の中においてメジャーでない。(25歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 考えていない。(41歳、不妊治療歴10年10ヶ月)
- 今現在関心がない。(31歳、不妊治療歴3年2ヶ月)
- 私自身、現在の治療に満足しているので、海外で治療ということは考えたことはありませんでしたが、もし国内でどうにもできない状態になったとしても海外は選択肢にないと思います。(30歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 検討したことがなかった。(44歳、不妊治療歴2年)
- 野田聖子さんがアメリカで不妊治療を受けられましたね。それぐらいの遠い話です。自分に置きかえて考えることはできません。(37歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 海外の不妊治療についてはよくわからない。(日本との違いが詳しくわからない)なので特に考えていない。(30歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 全く考えていなかった。言葉や費用、時間的労費など負担が大きいイメージがある。野田聖子さんの出産報道を見ても残念だが成功しているイメージがない。(43歳、不妊治療歴2年)
- 考えたこともなかった。そこまで諦めずに治療をする自信はない。心身ともに辛くなって追い詰められたくはない。(33歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 関心がない。ただ、不妊治療の可能性が広がった結果、結婚した人に子供がいないという状況が社会的に許されない風潮になるとしたら恐ろしいことだと思う。(38歳、不妊治療歴6年)
- 知識がないのでまだよく分かりませんが、欲しい子供のためなので精神的・金銭的にも少しでも各国が考えてほしいと思う。特に一人も子供がいない人や不妊治療を長くしている人にやさしい環境であってほしい。(28歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 海外で治療するというのは、あまり考えたことはありません(費用、言語、安全性の面から)。(30歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 今のところ海外での不妊治療は考えていません。(31歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 興味はありません。(34歳、不妊治療歴1年)
- 考えたことはありません。(38歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- あまり情報が無いので、考えたことがなかった。(32歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 現時点では検討していない。(34歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 考えたこともなかった。子供は欲しいが近くの病院で無理なら諦めると思う。(30歳、不妊治療歴3年)
- 海外での治療は考えていない。(37歳)
- 今まで考えたことはありませんでした。(31歳、不妊治療歴9ヶ月)
- テレビで海外での不妊治療についての特集を観たことはあります。その時は、自分の身になって考えたことはなかったと思います。自分も不妊治療を始めて一年が過ぎました。年齢的なことでもありますので正直焦りのようなものもあって、一日でも早く妊娠を希望していますが、今の段階では現在の治療に集中したいので、海外の治療については考えたこともありません。(38歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- まだ不妊治療を始めて一年も経っていないため、そこまで考えたことはありません。(34歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 特に関心を持っていない。(33歳、不妊治療歴3年)
- まだそこまで考えていない。費用面で考えられないと思う。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 海外は特に考えていません。(36歳、不妊治療歴2年)

- 考えてないです。(40代、不妊治療歴4年)
- 考えていません。(29歳、不妊治療歴2年)
- 帰国後の現在は海外での不妊治療を考えていない。(39歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 海外には興味ない。(28歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 深く考えたことはないが、海外で治療する気はない。(35歳、不妊治療歴1年)
- 全く考えておりません。(40歳、不妊治療歴13年)
- 海外で治療を受けるつもりはないです。(35歳、不妊治療歴6年)
- 国内でムリなら諦める。海外は考えていない。(38歳、不妊治療歴5年)
- 今は子供が1人いるので、海外で不妊治療をする気はない。1人目がまだできなかった場合は、考えたかもしれない。(38歳、不妊治療歴5年)
- 考えていない。(41歳、不妊治療歴1年)
- あまり考えたことはありません。(33歳、不妊治療歴3年)
- 海外では考えない。(43歳、不妊治療歴2年)
- 海外での不妊治療は考えていない。(41歳、不妊治療歴3年)
- 知識がなかった。(41歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 海外に行ってまで治療することは考えなかった。(33歳、不妊治療歴2年)
- 考えてない。(39歳、不妊治療歴5年)
- 利用することにはならないと思います。(37歳、不妊治療歴10年9ヶ月)
- 正直、海外での治療なんて、このアンケートに答えるまで関心を持っていませんでした。(40歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 海外での治療は考えたことがありません。日々の治療で精一杯ですし、外国での医療などは未知の世界で今一つピンときません。遠い異国の話のようです。(39歳、不妊治療歴3年)
- 情報が少ないので考えたことはありませんでした。(32歳、不妊治療歴5年)
- 考えたことがありませんでした。(34歳、不妊治療歴1年)
- 考えたことが今までになかった。(29歳、不妊治療歴1年)
- 現実味が乏しい。国内の治療に関してもそうだが、実際にその治療が必要と思われる状況にならなると、なかなか想像するのが難しい。(32歳、不妊治療歴6ヶ月)
- アンケートをみるまで考えたことなかった。(39歳、不妊治療歴8ヶ月)

【その他】

- 新聞での情報は偏っていると思いますが、途上国での代理母のフォローに問題があると聞きますが、各国での問題を正確に把握していないため意見を述べることはできません。より多くのメディアで取り上げられることを望みます。(29歳、不妊治療歴1年)
- 特になし(よく分かりません)。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)
- あまり情報がなく、調べたことが無いので分からない。(42歳、不妊治療歴2年)
- 特になし。(43歳、不妊治療歴9ヶ月)
- 今回のアンケートで、無関心と言うか、視野に入れていなかった部分があることに気づかされた。可能性の一つとしてこれから情報収集していきたい。(32歳、不妊治療歴1年)
- 良く知らない。(35歳、治療歴2年6ヶ月)
- 特になし。(32歳、不妊治療歴2年)
- 特になしです。(36歳、不妊治療歴2年)
- 自分には必要ないですが、個人によって考えが大きく違うことだと思うので、良い悪いの判断はできません。(39歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 情報が無いのでよく分からない。(33歳、不妊治療歴1年7ヶ月)
- 海外での不妊治療の情報がもっと手に入りやすければ、検討する余地が出てくる。現在では、情報がなかなか入ってこない。(35歳、不妊治療歴2年)
- 現在は特にありません。(29歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 海外で治療は全く考えていませんでした。メリット・デメリットも全く分かりません。でも個人の考えはさまざまですから、海外で希望の方…もちろん国内での治療の方を国や医療機関でのバックアップは絶対に願いたいところです。もっと個人の意思を尊重し、海外だろうと国内だろう

- うと治療を受けたい場所で受ければ良いと思います。(38歳、不妊治療歴2年10ヶ月)
- 情報が少ないので正しく判断できない。国内であっても不妊治療の理解や知識が乏しいのに、海外というと現実的ではない気がする。お金がかかりそう。(30歳、不妊治療歴5ヶ月)
 - 情報量が圧倒的に少ない。(33歳、不妊治療歴2年)
 - 情報が少なすぎる。(42歳、不妊治療歴4年)
 - 国内ですぐにできるが、どうしても海外での治療でないとダメな人もいます。なので、どちらがいいか選ぶのは難しい問題だと思います。(36歳、不妊治療歴2年)
 - 情報不足です。(44歳、不妊治療歴4年)
 - よく分からない。(36歳、不妊治療歴3年)
 - 国内で子に恵まれず悩む方はたくさんいるはず…。国外での治療内容料金をもっとオープンすべきだと思う。不安がありすぎて、年ばかりとってしまう悪循環。(36歳、不妊治療歴7年)
 - 特になし。(41歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
 - 実態がわからないので、何とも言えません。(39歳、不妊治療歴3年)
 - 海外での不妊治療の情報がないので、情報をもっと発信してほしいです。(35歳、不妊治療歴4年3ヶ月)
 - よくわからない。難しい問題である。(30歳、不妊治療歴7ヶ月)
 - もっと情報がたくさんあると選択が多くなり、一人一人が自分の意思で決められるので良いと思います。いろいろなことが不透明で分かりにくいので難しい問題です。(46歳、不妊治療歴13年)
 - 自分が直面してしないため、知識・情報とも浅く、はっきりした意見・考えが正直いってない。直面している方に本当に申し訳ないと思うくらい、よく分かっていません。(39歳)
 - 特になし。(30歳、不妊治療歴2年)
 - 特になし。(36歳、不妊治療歴5年)
 - 海外では不妊治療が日本より充実していると聞きます。実際、日本では病院を探すのも大変です(都市部でない地方では)。ここからスタートで探し方もわからないし、こういった情報を提供する場所もありません。(33歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
 - 少子化が進む中、子供が欲しくてもできない夫婦はたくさんいると思います。不妊治療には、まだまだ理解されないのが現状です。お金も時間もかかり、夫以外の親族に隠しながらの治療は辛いです。(43歳、不妊治療歴5年)
 - 若いうちに(独身であっても)卵子や精子を保存しておける病院がほしい。(48歳、不妊治療歴6ヶ月)

問 25：不妊治療にかんして、あなたは国内の医師・医療院もしくは政府に何を望みますか。
回答数 1275 全て掲載

【不妊症に関心を持ってほしい】

○不妊治療と言うと好奇の目で見られ、ぜいたくだ、身体に悪い、自然に逆らうなどと言われます。でも不妊治療でしか子供が授からない夫婦はたくさんいます。自分達ではどうすることもできず、先生方の力にすぎない夫婦がいるのです。不妊症のこと、不妊治療のこと、世の中の女性が不妊治療に頼る可能性だってたくさんあること、もっと理解を深める活動をしてほしいです。また、経済的なことも不妊治療の精神的な苦痛に拍車をかけているように思います。他の病気と違って、妊娠しなければ全て振り出しに戻り、治療にかかったお金も水の泡です。今いる子供大切ですが、これから生まれてくる子供にも補助があればと思います。(41 歳、不妊治療歴 8 ヶ月)

○子供を授かるための可能性あることは、何でもやらせて欲しい。不妊治療は保険治療に 1 日でも早くして欲しい。欲しくても子供が出来ない人たちが、こんなにいるんだと、不妊治療をしている病院を回って、政府の人たちには現状をしっかりと認識していただき、少子化問題の NO.1 の課題である事を託児所などよりも優先して直ちに理解し、保険が効くようにして欲しい。(43 歳、不妊治療歴 10 年)

○少子化と言われているのだから、もっと不妊治療の方にも力を入れて欲しい。保険がつかえるように…とか。(30 歳、不妊治療歴 3 年)

○海外に比べて、不妊治療の助成金が少なすぎる。「不妊」についてもう少し、社会的に認知されるべき。それがないと会社や周囲からの治療についての理解が得られにくい。(34 歳、不妊治療歴 1 年)

○妊婦がいたわってもらおうその反面で、不妊治療をしている女性は、自分のことを隠して生活していたりする。この辛さをもっと多くの人に知ってもらいたい。(29 歳、不妊治療歴 3 ヶ月)

○女性の高学歴化が進み、結婚も出産の機会も遅くなっています。私は 20 代のうちに、結婚よりも出産の重要性(いつでも妊娠可能ではないこと)を知るべきだったと思います。女性に出産の素晴らしさ、時期を教育して欲しいです。また、私は運良く妊娠しましたが、不妊治療に高額な費用がかかりました。世帯収入に関係なく、自治体・政府は助成すべきです。社会のために仕事をしている女性が、さらに不利益を被るなんておかしいと思います。(38 歳、不妊治療歴 4 年 4 ヶ月)

○晩婚増加のため、不妊治療も増加していると思います。医師を増やして頂きたいのはもちろんですが、政府も日本国民一人一人が「子孫繁栄」、「日本人本来のものを継承していく事」がいかに大事かよくお考えになられた方がいいと思います。愛情豊かな日本を希望するものより。(43 歳、不妊治療歴 3 年 8 ヶ月)

○費用の助成はあるが、それ以上にかかる費用が高額であり、かなり負担となっている。また薬の副作用や連日の投薬などで治療をしながらの就労が困難であり、さらに負担となっている。自己注射を認めてもらえたり、社会的にも不妊治療に対する理解を広めて頂きたい。(31 歳、不妊治療歴 2 年 5 ヶ月)

○自分の周囲だけでも、子供ができにくいという人がたくさんいるということは、日本中にするとうすごい人数だと思う。少子化問題で、欲しくても出来ない人がたくさんいるという認識をもっと持って欲しい。そして、金銭的にも社会的(治療に対する周囲の認識、例えば休みを取りやすいなど)にもやさしい国になるようにして欲しい。(35 歳、不妊治療歴 3 年)

○保険適用範囲の拡大、助成範囲の拡大・拡充。どれだけの人が不妊治療に通院しているのか、現場をみて欲しい。現場でしか分からない空気、この周期に夢をもち期待をふくらませ、必死に先生やスタッフに治療法の確認や、助言を聞いている姿を理解して欲しい。1 年後には我が子を抱いていたいと願う気持ちを支えて欲しい。不妊治療の認知度を社会的に高めて欲しい。高まれば仕事も休みやすくなり、親・親戚の期待もやわらかくなり、ストレスが減って治療に専念できます。(30 歳、不妊治療歴 2 年 10 ヶ月)

○子どもが授かれない人の気持ちは、本人達にしか分からない。医師の説明不足や、毎回違う先

生なので、毎回話が違っていきわかりづらい。少子化と言いつつ、子どもが授けられない夫婦に対しての市や国からの援助が少なすぎる。世間の方々も理解がない。産める人だけたくさん産めばいいのでしょうか？(29歳、不妊治療歴3年)

○20代で出産することが体にとっては望ましいことをもっと訴えていくべき。これで少しは変わるような気がする。高齢で出産した事ばかり報道されていると年齢が上がっても産めると思いこんで、結婚や出産の時期を逃している人が多いと思う。加齢が原因＝不妊なのか？と疑問に思う。保険がきくようにしてほしい。(40歳、不妊治療歴8ヶ月)

○子供ができるのは当たり前のことではないという事実をもっと世間一般に広まっていったならば、特別な人たちのことではなくなるのではないだろうかと思えます。普通の病気のような対応にはなれないのだろうかかと考えてしまいます。(37歳、不妊治療歴9ヶ月)

○私は、高齢出産について、不妊治療(卵巣年齢など)の事は知りませんでした。知識は保健体育レベルです。女性の社会進出により、晩婚化が多くなっていると思う。高校の保健体育授業内容で、卵巣年齢や卵の質のことを学んで欲しい。海外の不妊治療よりも、国内での不妊治療(経済面・メンタルケアなど)もっと患者が受けやすい環境を作って欲しい。“授かるための子ども手当”にもっと目を向けてください。(40歳、不妊治療歴4ヶ月)

○私は結婚が遅かったので、仕方ないのですが、受診して初めて卵子にも加齢というものが大きく関わってくることを知りました。もっと早く卵子のことを考えたら手を打つべきだったと思えます。20歳の成人の時や、高校生の時にでも、妊娠することの難しさを知る機会があればいいと思えます。また、不妊治療はお金がかかり、いずれ治療を断念せざるを得なくもなります。もっと助成金があれば助かります。(40歳、不妊治療歴1年8ヶ月)

○治療で困ったことは多すぎて、先生もつまらないことをいちいち聞かれていたら沢山の患者さんをかかえ、大変だと思えます。ブログ等、患者さん目線の情報は、本当にためになりました。私の通っていた××クリニックは、淡々としていましたが、分からないことも連絡して待てば全部教えていただけました。沢山の不妊で困っている方々がいて、優秀な病院も限られていて、患者さんも分からないことが多い方は、とても戸惑うと思えます。仕事をしていて治療を両立している方もストレスがたまると思えます。私は助成金が共働きでおりなかったこともありました。不妊は本当に深刻な問題です。とても苦しいことです。まとまりませんが、直面している人たちの気持ちが少しでも伝わればと思えます。(38歳、不妊治療歴4年)

○治療には気力も時間もお金もかかります(の病気も同じ事ですが…)。生まれてからの子供に対して国がお金をかけるのも大切だと思えますが、不妊治療へも目を向けて欲しいと考えてしまいます。(31歳、不妊治療歴9ヶ月)

○少子化問題からいつまでたっても「不妊治療」だけが取り残されたままだと思っています。確かに自費診療であることがストッパーになり、人間として考えるべき倫理の欠落を防いでいるのかもしれませんが、保険診療になることで出生率は間違いなく上がります。未だに政府は不妊の深刻さを認知していないのでしょうか。なぜ先進国ほど不妊が多いのか？途上国の出生率が下がらないままなのはなぜか？現代日本の問題に早く引き上げて欲しいと思っています。今は個人の問題、個人の努力のままであり、出産がいつまでたってもボランティアのままです。(このようなアンケートが実施され嬉しく思います。これからも研究のご発展をお祈りします。)(35歳、不妊治療歴5年3ヶ月)

○治療は自費で助成金が出るようになっていくが多少収入が多いと出ないのが現状です。ですが、少子化の現状、子どもを授けたい人に特例はないのでしょうか？自費は本当に厳しいですよ。正直、自分が治療を受けるとは思っていませんでした。今後、婚期が遅くなると同じ状態の方が増すのではないのでしょうか。もっと公に情報を公開すべきです。(36歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療に関して、もっと関心をもってもらいたいです。治療費の助成金の金額の上限や、保険適用など。子供が欲しい人のバックアップをしてほしいです。(36歳、不妊治療歴11ヶ月)

○日本での法整備が進まないまま、年月が過ぎていくことを受け容れられない多くの方が海外へ流出してしまっているのは日本の恥だと思う。学生時代の性教育では避妊の大切さは学べても妊孕性は20歳代前半が最も高いということは教えてもらっていない。女性の社会進出が当たり前になっている現代、30歳代後半～40歳になっても「まだまだいつでも妊娠できる」と思っている人が多すぎる。10代から、タイムリミットについての知識をうえつけて欲しい。(27歳、

不妊治療歴4ヶ月)

○社会全体が不妊治療に多少なりとも知識・意識がもてるよう、政府・メディア等がより取り上げて欲しい。中学生・高校生など若年層にも積極的に関心がもてるようにして欲しい。子ども手当の財源確保に子どものいない専業主婦の税金上げる(詳しくは忘れましたが)となっていた時、悔しくて涙が出ました。好きで専業主婦になってる訳じゃない。欲しくても子どもができないんだ、と。虐待の記事を見るたび悲しくなります。不妊の夫婦に生まれてくれば、こういうことにならなかったんじゃない…。(36歳、不妊治療歴3年)

○基本的に信頼のおける先生に出会えれば安心だと思います。ただ、女性が働く時代、不妊治療患者はこれから確実に増えてくると思います。その時に病院が少なかったり、治療費が高かったりでは困ります。少子化を止めるべきならば、まずは、こういった現実を政府は受け止めてほしいと切に願います。少しでも参考になりますように研究頑張ってください。(31歳、不妊治療歴4ヶ月)

○不妊治療をしている人をよく見てください。悲しみや不安と闘いながら、諦めよう、諦めたくない、繰り返し頑張っています。子供が欲しい、その気持ちを持った人がどれだけいるのか、ご存知なのでしょうか。病院に行き、現状を見ていただきたいです。よろしくお願いします。(40歳、不妊治療歴1年)

○加齢に伴う不妊・出産のリスクといったことを(初潮の時期だけでなく)成人に達する年齢の女性たちに啓発する機会を作ってほしい(意外と知らない人も多いようなので)。(39歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○法整備、保険の適用、治療休暇をつくる、偏見をなくす努力。まだまだ他人事だと思う人が多いので、情報をどんどん出してほしい。(36歳、不妊治療歴6年6ヶ月)

○年金を支払うが、実際給付していただけないかもしれないという状態ならば、子供を増やさねばいけない。なので、国はもっと不妊治療に目を向け、サポートすべきだと思います。国内での規制を緩める、治療費免除など。(47歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○不妊治療は金銭面にしても精神面にしても、かなり自分に負担になるものなので、それをわかってほしい。毎月生理が来た時の落ち込みは、不妊治療している人にしかわからないと思う。(34歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療は辛い、大変だな～というイメージがあるような気がします。私は、いろんな発見があり、いろんなことに気付くことができます。マイナスなイメージから、ポジティブなイメージを持ってもらえるよう、キャッチフレーズ等を考えてポスター等(パンフレット)でアピールした方がいいと思います。(40歳、不妊治療歴4ヶ月)

○不妊というと暗いイメージがあり、病院や治療について知りたくても周囲の人に聞きにくい感じがあります。少子高齢化が進んでいく中、保育園等の整備だけでなく、不妊に対する社会のマイナスイメージをなくすような取り組みをしてほしいです。治療についての情報をもっとオープンにしたり、助成金を増やすなど子作りがしやすい社会を作ってほしいです。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)

○保健体育の性教育、家庭科の家庭生活等の分野で、「不妊」も取り上げてはどうでしょうか。「パートナーを得る→妊娠する」ということが一般常識として、固定観念としてありすぎて、そのことが「不妊を口にする」ということを非常にタブーにしてしまっている気がします。「必ずしも子供を授かることができるわけではない」「こうした理由で不妊がある」「治療について」なども知識として得ることで、まず「自分が不妊だ」という衝撃を受けすぎでしまう、というロスが軽くなるような気がします。なぜなら、自分自身が体外病院に初めて出向いた時、あまりの患者数に驚き、なのに、このありさまが全く世間に認知されていないということが衝撃だったので。政府には、何かしらの補助をより求めたいと思います。少子化対策の一環として、補助が少なすぎることは、上記のとおり世間的な認知度が低すぎるからだと思う。病気がある場合、また第一子に限りなど全面的な補助があってもいいと思います(金銭面です)。(42歳、不妊治療歴5年2ヶ月)

○社会的に認知度が低くて、子供を望む夫婦にとっていろんな不利益があると思う。不妊治療でかさむ治療費を頑張って払っている人がたくさんいる。子ども手当の政策目的に「子育ての経済的負担を軽減し、安心して出産し、子供を育てられる社会をつくる」とありますが、子供が欲し

くてもできない人たちにとっては、あまり納得できないと思う。社会がもっと不妊治療を理解するべき。税金の使い道など本当にもっともっと考えてほしいです。(26歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○今、本当に多くの方が不妊に悩み、精神的・金銭的に苦しんでいることをちゃんと理解してほしい。そして、この苦しんでいることに対して精神面で支え共感し、また、医療ができるだけ高額にならないor負担にならないよう助けていただきたい。まして、これからどんどん人口も減り少子化が進む予想が立てられるので、せめて、妊娠・出産したい、子供を望む女性(男性)にできるところまでの最大限の可能性を与えていただきたいです。どうぞお願いいたします。(37歳、不妊治療歴7ヶ月)

○政府の方に不妊にもっともっと関心を持ってほしいです。不妊で悩んでいる人々はたくさんいるので、不妊の方々の気持ちをわかってほしいです。保険適用にしてくれたら本当に助かります。まだまだ高額なので、なかなか踏み出せません。でも、少しでも控除ができるようになったので、ちょっとだけ嬉しいです。もっともっと政府には助けてほしいです。(36歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療はまだまだ理解されていなくて、「望んでいても授からない」ということが、まだ認識されていないと思います。「少子化」と言われているのに、子供を望む人への政府の援助や保険適用など、全く進んでいないと思います。経済的に治療に進めず、欲しいのに諦める…ということも多いことを知ってほしいです。もっと世の中に不妊治療の情報を発信してほしいです。

(38歳、不妊治療歴6年)

○まだ初めのほうなので詳しくはよく分かりませんが、不妊で悩む夫婦は多いので国で不妊治療について力を入れるべきだとは思っています。子育て支援の政策も必要ですが、少子化の今、子育て支援と同様に不妊に悩む人への理解を広めてほしいです。(24歳、不妊治療歴5ヶ月)

○こんなにも不妊治療を受けている方が多いのが、病院(クリニック)やセミナーに行き驚かされました。少子化と言われる中、子供ができなくて治療して、この中から何人の人が出産できるのだろう…。もっと知識を持っていれば早く子供ができたかも…。手遅れになる前にもっと今の声を聞いてほしいです。(39歳、不妊治療歴10ヶ月)

【保険適用、助成金などの金銭的援助】

○金銭的支援。企業の休暇制度の普及に努めるなど。(30歳、不妊治療歴1年)

○助成金がほしい。所得制限をもっと緩くしてほしい。(33歳、不妊治療歴1ヶ月)

○保険が効かないことで金銭的な部分で、治療を受けられる人とそうでない人の差が生じてしまうことが悲しい。少子化である今、国としてどんどんフォローしてほしいと思う。人口減は大きな問題で、子供を心から望む夫婦はきっと素晴らしい子育てをしてくれると思う。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○保険適用にしてほしい。金銭的に治療回数を調整して減らさなくてよくなるとチャンスが増える。たくさんの方が安心して体の限界まで治療できる。(41歳、不妊治療歴4年4ヶ月)

○可能性のあることなら何でも試してみたいが、現実問題として費用に自己負担が大きいう理由で断念せざるを得ないことが多い。保険適用できる範囲を広げてほしい。(30歳、不妊治療歴2年8ヶ月)

○助成金がありフォローしていただいています。不妊で悩む私達よりも、現に子供がいる家庭ばかりに目が向けられ援助が多くあるように感じています。自費での治療は限界があり、治療を断念する人も多いのではないのでしょうか。子供が欲しいのに授からない…。もっとフォローしていただければと強く思っています。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○不妊治療助成金はあるものの、もっと考えてほしいと思う(政府に)。通院が長くなると時間も労力も使うので、通院+自宅での治療(今も注射などあるが)がもっとできればいいと思う。(37歳、不妊治療歴4年)

○費用負担を減らしてほしい。(35歳、不妊治療歴5年)

○治療費がかさむので、もう少し補助を広げてほしい。(33歳、不妊治療歴3年7ヶ月)

○すべて保険で対応できるようにしてほしい。補助金の収入制限をなくしてほしい。治療の可能性(海外へ行くことも含めて)情報提供をどんどんしてほしい。(40歳、不妊治療歴4年7ヶ月)

○助成金について、一回目は〇円、二回目は〇円という区切りがある場合が多いと思いますが、不妊治療はその時々で治療にかかる金額が違うので、一組の夫婦につき～年間で〇円と言うふうにトータルの金額にしてもらえればもっと助かると思います。(40歳、不妊治療歴5年6ヶ月)

○政府に最も求めるのは、不妊治療に対する保険適用の拡大をしてほしいということです。これだけ不妊に悩み苦しんでいる人達がたくさんいるのに、経済的な援助がほとんどない現状ではおかしいと思う。少子化というのであれば、その対策に「子ども手当」ではなく不妊治療の経済的負担、免除を考えてほしいと心から願っています。(もっと私達が動かないといけないのかな…と思いますが)(31歳、不妊治療歴3年)

○治療に関する助成金額を増やしてほしい。(36歳、不妊治療歴3ヶ月)

○少子化だと言われ早十年以上、なぜ保険適用にならないのか？高齢な私達は厳しい状況の中で辛い治療に耐えているのに、金銭的なことで諦められている方はたくさんいます。保険適用をお願いします。治療費が高すぎます。(45歳、不妊治療歴5年)

○治療費をもっと安くしてほしい(政府へ)。(32歳、不妊治療歴3年)

○治療費が高く、治療に積極的になれない。精神的よりも経済的に負担が大きい。(38歳、不妊治療歴2年)

○医療費の補助など。(29歳、不妊治療歴8ヶ月)

○費用面の負担が多すぎる。少子化と騒ぐなら、子供を望んでいる人の治療費をもっと安くするべきだと思う。逆に中絶費用はもっと高額でも良いと思う。(38歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○高齢で結婚する人が今後増加すると思われるので、未婚であっても30代半ば～後半であればもっと専門的な検査を受けられる状態があれば良いと思う。治療も長引くと費用がかさむので、保険適用部分をもっと増えれば良いと思う。(40歳、不妊治療歴3ヶ月)

○治療費をもっと安くしてほしい。不妊治療の情報をもっと全国に広げてほしい。(29歳、不妊治療歴1年)

○少子化だと騒ぐなら、欲しくてもできない人もたくさんいる実態を把握して不妊治療も保険適用にすべき。高額すぎる体外受精を前に諦めなければならない人もいるはず。子ども手当なんかよりずっと意義があると思う。あと、働きながら通うのは非常に辛いところもあるので、もっと不妊休暇を制度的にポピュラーにしてほしい。(26歳、不妊治療歴9ヶ月)

○治療費の補助をもっと増やしてほしい。周りの理解がほとんどなく…。(38歳、不妊治療歴3年)

○出産は女性としての当たり前の変化の一つと考え、保険の適用外なのはわかります。けれどその当たり前の変化(妊娠・出産)ができないのは、一つの障害・病気と考え、保険の適用を不妊治療にも変えてほしいです。お金をかけ治療を繰り返し辛い恵まれた我が子は、将来の日本を支える大切な子です。少子化対策でもあります。あまりにも自由診療になりすぎ、情報を得ても判断が難しい(治療内容、成功率等の基準が一定でないため)。また保険適用の病気と違い、説明等が不十分。(41歳、不妊治療歴4年)

○保険適用にしてほしい。既に子供がいる人に「子ども手当」や税金優遇するのなら、産もうとしている不妊治療患者にも助成が欲しい(収入に関わらず平等に)。少子化対策の一つに、不妊の人達をまず優遇したら出生率は上がるはず。(32歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○保険が全てに適用されて欲しい。(33歳、不妊治療歴2年)

○費用をもっと安くできるように。(40歳、不妊治療歴1年)

○子供がいない私が言うのはおかしいですが、子ども手当は生まれている子供の手当であって、私のように子供が欲しいけど出来ない人たちはたくさんいると思います。でも、頑張って病院に行き、望んでいるので、私達にも不妊手当があれば、もっと不妊に積極的に行く人が増えるのではないのでしょうか。少子化の今、頑張っている私達にも、もっと補助して頂けたらいろんな治療もしてみたいと思います。(35歳、不妊治療歴11ヶ月)

○不妊治療の経済的負担を軽減して欲しいと思う。また、もし子供が授からなかった場合に里子や養子をとれる制度をもっと利用できるような考えて欲しい。今のままでは仕事や自分の人生を捨てて“母”としてのみ生きると覚悟できなければ、養子は望めない。親を必要とする子供たちと、たくさんの子供を望む夫婦を結びつける制度を新たに用意して欲しい。それが、不妊治療に

絶望した時の希望となるので…。(40 歳、不妊治療歴 4 年 6 ヶ月)

○不妊治療するに当たり、治療費の補助の拡大をして欲しい。また、女性は、不妊治療をしなから仕事するのにかなりのストレスがかかります。不妊治療を優先しないといけないと分かっている、理解してくれる職場環境でないと仕事をやめざるを得なくなり、そうすると経済的負担が大きくなり難しいです。(37 歳、不妊治療歴 2 ヶ月)

○少子化を問題視するならば、もっと保険適用治療を増やすなど経済的にバックアップして欲しいです。(31 歳、不妊治療歴 1 ヶ月)

○不妊治療費を何とかして欲しい(主人の収入の額がギリギリ規定外になり援助が受けられない)。現状、人工授精では妊娠の可能性がほぼゼロに近いと分かっている、治療費が高く、体外受精・顕微授精をしたくてもできない。誰でも安くとはいかなくても一定の条件(不妊原因)を満たしている場合とか…少子化対策を唱えるなら考えて欲しい。(35 歳)

○少子化とよく言っているが、子どもが欲しくて不妊治療している人たちに冷たいと思います。不妊治療は保険診療外で高額です。私含め治療費が払えず、不妊治療を途中で中断しなくては行けない人や治療できない人が大勢います。働かなければ治療費を作れない。が、治療するには仕事を休まないといけないなど、悪循環です。保険診療にしてください。(37 歳、不妊治療歴 7 年)

○子どもがいる家庭に支援するのと同じように、不妊治療にももっと支援が欲しい。避妊等の教育も大事な事ですが、加齢に伴いどれだけ出生率が低下するか等の教育も必要だと思います。(39 歳、不妊治療歴 6 年 3 ヶ月)

○不妊で本当に悩んで苦しんでいる人がとても多いことを、自分が通院しはじめて、改めて(というより初めて)知りました。経済的、心理的、身体的にとっても負担があるので、不妊治療費の保険適用を強く強く希望します。(40 歳、不妊治療歴 4 ヶ月)

○通院するのにとっても交通費がかかるので、少しは援助して欲しいです。(34 歳、不妊治療歴 2 年 8 ヶ月)

○治療技術の進歩はすごいと思っています。その分、かかる治療費の負担は大きくなっています。政府には、もっと治療を早くから受けられる補助をもっと良くして欲しいです。(44 歳、不妊治療歴 9 年 5 ヶ月)

○治療費用がかかるため、助成金給付を年齢に応じていただけたら助かります。現在、初年度 3 回、1 年度当たり 2 回を限度に通算 5 年間助成いただけるのですが私の場合 40 代での治療開始でしたので、初年度 4 回等回数を変更できたら助かります。晩婚化の現在、不妊に対しての教育など、もっと行なって欲しいです。私も現在の病院に通院することによって不妊のことを知りました。「後悔先に立たず」的な気持ちでした。(43 歳、不妊治療歴 2 年)

○負担を軽くして欲しい(金銭的)。学生の中に、不妊についての学習も必要だと思う。働くのも良い、勉強するのも良い、でも妊娠できる、産める時期には限りがありそれを見極めて人生を計画すること。(44 歳、不妊治療歴 4 年)

○できれば助成金をもう少し多めに…(せめて半額位は)。また、特定不妊治療でなくとも、通常の不妊治療も申請制で助成金が出たら皆助かると思う。(32 歳)

○治療費の助成金について、世帯年収を引き上げて欲しい。夫婦で共働きの場合、一般的な年収でもすぐに上限に該当すると思う。(32 歳、不妊治療歴 1 年 4 ヶ月)

○保険の完全適用。経済的負担の軽減。(38 歳、不妊治療歴 7 ヶ月)

○とにかく保険が効くようにして欲しいです。少子化と言いながら、なぜ子ども手当を出して保険が効かないのかよく分かりません。そして、保険が効かないと、会社に勤めているときには休みなどが必要になりますが、珍しい病気と言うか口に出しにくいです。(26 歳、不妊治療歴 2 年)

○政府に対して、子供支援より不妊治療費に力を入れて欲しい。好きで子供がいないわけじゃない！差別です！(35 歳、不妊治療歴 5 年)

○少子高齢化のニュースをよく聞くのですが、もっと子供の数を増やしたいと思っているならば、不妊治療も保険適用にしてもっと治療を受けやすくして欲しい。今のままだと高すぎて、いつまで治療を続けられるかわからない。たくさんの方が不妊で悩んでいるのを国は本当に分かっていないと思う。(35 歳、不妊治療歴 2 年 6 ヶ月)

○政府には、体外受精など高額の不妊治療の無料化援助など。(34 歳、不妊治療歴 2 年)

- 少子化と言われているが、不妊に関しての治療費の助成が少ない。(38 歳、不妊治療歴 2 年)
- 保険適用にしてほしい。少子化を食い止めるには本当に必要なことだと思う。1 回の治療に 40～50 万もかかり、何度も治療を受けるにはかなり生活に余裕が無いとムリ。ややこしい手続きをとらないと補助が出ないなら、そのようなものは意味が無い。(39 歳、不妊治療歴 2 ヶ月)
- 保険が効くようにして欲しい。そうすれば(我が家も含めて)もっと多くの人が何度も治療にチャレンジできると思う。(35 歳、不妊治療歴 3 年 9 ヶ月)
- 保険適用していただきたい。治療費が高額で長く続けられないし、治療を始めるのに躊躇して年齢が高くなってしまふことが多々あると思う。(43 歳、不妊治療歴 1 年 2 ヶ月)
- 不妊治療を始めたばかりですが、本当にお金がかかります。来月は、腹腔鏡手術も控えております。不妊の原因が次々と分かり前に進んではおりますが、いつまで治療が続けられるのか…どこまで続けられるか不安です(経済的に…)。病院に行き、こんなにも多くの人が不妊治療を受けているのかと驚きました。積極的に治療が出来る環境を整えていただきたいです。(29 歳、不妊治療歴 3 ヶ月)
- 晩婚化によって不妊治療の必要性が高いと思うので、もっと補助をして欲しい。加齢による不妊まで健保で扱ってはキリがありませんので、すべて健保扱いにしるとは言いません。ただ、1 回の体外受精でかかる費用は大変大きいです。我が家も車が買えてしまうほど出費しました。もう少し費用を抑えられる方法がないのでしょうか。これから治療を受けたいと思う若い人達のためにも。(43 歳、不妊治療歴 3 年 4 ヶ月)
- 費用の助成。相談機関の充実。(44 歳、不妊治療歴 16 年)
- 治療費の保険適用。(31 歳、不妊治療歴 3 ヶ月)
- 助成をもっともっと充実して欲しい。15 万が限度額では少なすぎる。もしくは保険適用にすべき。(41 歳、不妊治療歴 1 年)
- すべての治療を保険適用にして欲しい。特定治療に対して助成を受けられますが、まだまだ金額が少ない。もらえる回数や期限が決められているのも納得できない。(34 歳、不妊治療歴 2 年)
- 保険適用を望みます。(32 歳、不妊治療歴 1 年 1 ヶ月)
- 市による助成金の差がありすぎてので、統一してもらいたい。(38 歳、不妊治療歴 5 年)
- 治療費を保険にして欲しい。(43 歳、不妊治療歴 2 年)
- すべての治療に、保険が効くようにして欲しい。エコー 3 回目までしか保険が効かないのはほんの少しだけど、積み重なると痛い。1 ヶ月は 4 週あるのに、3 回では足りません。人工、体外受精などは少子化を何とかするというので全額補助、何回でもになれば私にもトライできます。年間、1 回だけの補助では、補助がないのと同じです。その 1 回で妊娠できると思えません。年齢的にも年 1 回では無理なので…何年か後の方たちのためになんとかかなればいいですね。私には何年か後では遅いです。(39 歳、不妊治療歴 2 ヶ月)
- 治療費の負担が軽くなると次のステップへ取り組みやすい。少子化なので、子どもが出来やすいように体外受精、人工授精など、国の保障体制、保険適用にして欲しい。(30 歳、不妊治療歴 8 ヶ月)
- 保険が効かない治療に対しても効くようにして欲しいです。(31 歳、不妊治療歴 1 年 6 ヶ月)
- 保険診療にして欲しい。(35 歳、不妊治療歴 4 ヶ月)
- 体外受精治療を保険適用化。もしくは、低所得者でも体外受精が受けられるように金額を収入によって固定。本当に子供が欲しくても、低所得者では体外受精を受けたいけど、金額の面で諦めている方がたくさんいます(私もその 1 人に過ぎません)。(27 歳、不妊治療歴 2 年)
- 技術の向上、病院を増やす、助成金の増額、プライバシーの保持。(43 歳、不妊治療歴 1 年 7 ヶ月)
- 全てにおいて費用がかかりすぎる。断念せざるをえない子もたくさんいる。(38 歳、不妊治療歴 2 年)
- 費用があまりかからないように国で負担して欲しい。(34 歳、不妊治療歴 1 年)
- 保険診療。
- 治療費や関わる費用(交通費等)の多大なる助成。(30 歳、不妊治療歴 6 ヶ月)
- もう少し補助のようなものが欲しい。金額が安いものではないので少し生活に影響がありません。(29 歳、不妊治療歴 2 年)

- 不妊治療助成金の金額の up。注射、内服の保険化。体外受精、顕微授精の保険化。(38 歳、不妊治療歴 4 年)
- まだ、検査が始まったばかりですが、費用が…。インターネットで調べて行ったが、言われた検査以外のことも一緒に行われたりするので、金銭的に心配になる時がある。出来れば、補助金等の手続きをある程度病院で手伝ってもらいたい。(37 歳、不妊治療歴 2 年 2 ヶ月)
- 結婚してからも、正社員で働いていたが、不妊治療のためやむなく退職した。体外受精となれば、通院回数が増えるので仕事を続けることは難しいこともあったが、何よりも助成金が 720 万未満の世帯収入の人だけということが大きかった。夫婦ともに正社員で働けば 720 万でおさまらない。見直して欲しい。最大 5 年で 10 回しか助成してもらえないのもおかしい。仕事もなく、子供もいない。何も良くない状況がつづく。これでも出来なかつたら、海外治療に step up するにしても、お金が無い。助成金を見直して欲しい。(31 歳、不妊治療歴 3 年 6 ヶ月)
- 不妊治療の助成(体外受精でも収入制限があるのでなくしてほしい)。(39 歳、不妊治療歴 4 年)
- 不妊治療の費用が高すぎる。子供が欲しくてもお金がかかりすぎてステップアップが出来ない人がある。ただ安すぎてもダメな気がする。ただ、子供が出来ない人の気持ちは本当に本人にしか分からない…すぐ子供が出来ても、自分の子供を殺す人もいる。本当に子供を大切に出来る人のところに生まれて欲しい。不妊でできた子供は、きっと大切に育てられる気がする。(31 歳、不妊治療歴 3 年)
- 収入が少なく、子供をつくるのを断念している夫婦は実際にいるかもしれませんが、それ以上に、欲しくても出来ない人がたくさんいると思います。精神的な負担は仕方ないかもしれませんが、せめて金銭的な補助があると助かります。年収制限されるとつらいです。政府がもっと不妊に関して関心を持って欲しい。(36 歳、不妊治療歴 1 年 4 ヶ月)
- 治療費の負担を減らせるようにして欲しい。(35 歳、不妊治療歴 2 年)
- 保険適用にして欲しい。すでに 500 万くらいはかかっている。少子化が問題になっていて、高齢出産が進んでいて、不妊の人も増えているわけだから、国も検討して欲しい。(38 歳、不妊治療歴 5 年)
- せめて、保険適用にして欲しい。治療費が高くて、治療を諦めることがないようにして欲しい。(37 歳、不妊治療歴 1 年)
- 自費負担が多い。もっと安くして欲しい。(31 歳、不妊治療歴 1 年 3 ヶ月)
- どこの病院も患者が多く、混み合って待ち時間が長く、働いている人は通いにくいと思います。けれど、高額医療のため、働かざるをえない人も多いでしょう。保険診療の枠組みを見直し、治療費が低額になることを望みます。(30 歳)
- 人工授精を保険適用にして欲しい。1 回に 2 万かかるので…。(33 歳、不妊治療歴 7 年)
- 経済的な支援(保険適用の範囲を広げるなど)。(39 歳、不妊治療歴 10 年)
- 保険適用にして欲しい。(39 歳、不妊治療歴 10 年)
- 助成金の拡大、保険適用。(37 歳、不妊治療歴 4 年)
- 体外受精を保険適用にして欲しい。金額が高いです。(33 歳、不妊治療歴 10 ヶ月)
- 自分も治療を始めてみて、不妊で悩んでいる夫婦の多さに驚くとともに、家計を圧迫する治療費に苦しんでいます。もう少し患者の負担(金銭的な)が少なくなればいいなと思います。(41 歳、不妊治療歴 3 年)
- 治療費がもう少し安くなれば…と思います。(45 歳、不妊治療歴 3 年)
- 不妊治療費の経済的援助(体外受精くらいまでは保険適用内にして欲しい)。(38 歳、不妊治療歴 3 年)
- 金銭的な補助をお願いします(年収の制限なしで)。(38 歳、不妊治療歴 3 年)
- もっと負担額を減らして欲しい。(32 歳、不妊治療歴 3 年 9 ヶ月)
- 体外受精の助成金だけでなく、すべての不妊治療を保険適用として負担が少しでも軽くなるようにして欲しい。政府は、少子化対策をするなら不妊治療の助成をもっとした方がよい。赤ちゃんを望んで授けられない人がこんなにたくさんいるのに。(27 歳、不妊治療歴 1 年 7 ヶ月)
- 治療費が保険適用になること。(41 歳、不妊治療歴 6 年 6 ヶ月)
- 不妊治療の費用は出来れば無料にして欲しい。北海道のある市では無料になっていると聞いたことがある。お金がなくて治療ができない人もたくさんいると思う。(39 歳、不妊治療歴 4 年)

- 不妊治療には沢山のお金がかかります。保険内で治療ができるようにして欲しいです。(36歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 費用と時間がかかるので、せめて費用だけでも負担の減るようにして欲しい。(36歳)
- 政府に対して…最新の治療を受けようとするとは非常に高額なため、不妊治療のすべてを保険の対象にしてもらいたい。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 保険を適用して欲しい。(35歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 助成金額の引き上げ。不妊治療の治療費の保険適用、費用の低金額化。女性の妊娠適齢期について伝えていくこと(女性はいつでも妊娠できる、というわけではないことを伝える場みたいなものを学校教育なりで教えていって欲しい)。(37歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 治療費の自費払いを改善して欲しい。安くして欲しい。(38歳、不妊治療歴10ヶ月)
- 保険での治療ができる。補助金の支給制限を上げて欲しい。(38歳、不妊治療歴3年2ヶ月)
- 経済的な負担を軽くしてもらいたい。保険適用にして欲しいです。(37歳、不妊治療歴5年)
- IVFは自由診療が高すぎて、何回もチャレンジできないし妊娠する率も少ない。政府が助成金15万を負担してくれるが、30万くらいにして欲しい。(43歳、不妊治療歴9ヶ月)
- 治療費の高額負担(自己負担)が経済的、精神的に苦痛である。保険で対応できるようにして欲しい。(41歳、不妊治療歴2年4ヶ月)
- 費用の負担を軽減して欲しい。(31歳、不妊治療歴4年8ヶ月)
- 子供を欲しいと思っても、治療費が高いと経済的に断念する方も多いと思います。不妊治療中の方が多く世の中、もう少し治療費の是正を行なってもらいたい。誰もが平等に治療を受けられるような体制づくりをしてもらいたい。(39歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 保険適用にして欲しい。切望します。禁煙外来は保険が効くのに、不妊治療が自由診療というのは納得いかない。あと、妊娠に関して、女性のライフプランを考える上で加齢のリスクも教育すべき。(39歳、不妊治療歴3年11ヶ月)
- 不妊治療の保険適用化。助成金の給付回数を増やす。(43歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 人工授精、体外受精等、高度医療の保険適用。(37歳、不妊治療歴1年4ヶ月)
- 治療は進んでいるので、不妊治療にも保険が効くようにして欲しいです。(40歳、不妊治療歴5年)
- 病院ごとに金額が違うのが、まちまちで困ります。あと、自費負担を少なくと言うか、3割にして欲しい。(37歳、不妊治療歴2年9ヶ月)
- 高額医療の際の助成金。(32歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 保険が効かなく高額で、金銭的にも負担がかかるので、もっと保険が効くようにして欲しい。(33歳、不妊治療歴2年9ヶ月)
- 政府には、治療費の負担をお願いしたいです。少子化対策ということで、子供がいる家庭には“子ども手当”があるのに、欲しくても欲しくてもできない人の治療には保険も効かないというのは不公平であると思う。また、所得制限を不妊治療助成金に設けるのも疑問です。欲しくて欲しくて病院に通っている夫婦に手を差し伸べれば、少しは少子化対策にもなるのではないのでしょうか。もっと不妊治療についても目を向けて欲しいです。(31歳、不妊治療歴1年9ヶ月)
- 少子化が進んでる中、子供を望んでる夫婦は多いと思うので、体外受精のみならず、不妊治療に関する医療費にももう少し助成金があれば助かります。(31歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 保険適用(3割負担)にしてほしい。自費での治療は、金額的に限界があり、ただでさえ精神的負担が多く、先が見えない中、皆、努力している。これからの政府に期待している。(42歳、不妊治療歴7ヶ月)
- ただでさえ、子供の数が減ってきているこの世の中で、子供を欲しくても医療費があまりにも高額すぎて、諦めざるを得ない人たちもいると思うと矛盾している世の中だと思う。不妊治療している人たちに対して、援助して欲しいし、力になって欲しいし、いろいろ悩みとか聞いてもらって気持ちは楽になるけど、最終的にはお金が無くては何も出来ないし、お金のある人たちには出来る治療じゃなくて、一般の私達にも同じくらいの治療ができる日本になってほしいと思う。不妊治療している人たちは心から本気で子供を授かる日を待ってるんです、夢見てるんです。(34歳、不妊治療歴5年8ヶ月)
- 病院、大変けどもう少し遅い時間もやっていたらと思う。体外受精などに対する補助。労働

時間短縮、労働人員を増やして欲しい。それでも普通に暮らせるようにして欲しい。(37歳、不妊治療歴2年7ヶ月)

○日本は保険が使えないため(妊娠も必ずでなく)金銭的に生活が苦しい。市の補助金も年2回と制限がありもう少し検討をしてもらいたい。(40歳、不妊治療歴2年)

○保険診療(全てでなくてもよい)。(39歳)

○助成金をもう少し、検討して欲しい。自己負担が多いので保険診療を検討して欲しい。(35歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○費用軽減、保険適用、ほんとに切実です。(25歳、不妊治療歴7ヶ月)

○不妊治療の全てに保険が適用されること。社会的に不妊治療は保育・その他の病気治療に比べて立場が弱いので、格差のなくなること。男性の患者さんももっと積極的に治療に臨めるような病院が増えること。(26歳、不妊治療歴5年6ヶ月)

○治療費の保険適用。(31歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○国に 保険治療の適用。子ども手当以前に、どのくらいの方が子供を望んでも得ることが難しく、時間的、金銭的努力をしているか認識して欲しい。(43歳、不妊治療歴8ヶ月)

○ある程度までの治療費の保険適用を望みます。不妊治療を一つの病気としてとらえてほしいです。助成金の制度などがありますが、これではまだ限られた人しか助成が受けられないです。(37歳、不妊治療歴3年)

○不妊で悩んでいる夫婦はとても多いと思うので、保険診療が出来るようにして欲しいです(IVF・ICSI・AIH・ET)。それか助成金を増やして欲しいです。他人の精子や卵子、代理出産というのは後々問題が生じると思うので、それは賛成できません。それなら養子を取ったり里親になった方が良くと思います。金銭的にも余裕が無いので採卵は1度だけの計画ですが、保険適用になれば積極的に考えたいです。(34歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○保険診療にして欲しいです。(35歳、不妊治療歴7年2ヶ月)

○助成金額を増やすか、不妊治療にも保険を適用させる。多くの不妊治療者が望んでいると思います。肉体的ストレス、精神的ストレス、金銭ストレス。不妊治療はストレスが多いです。(38歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○保険適用にするべきです。不妊治療のために働かなくてはならない女性もいて、経済的な理由で不妊治療を諦める方が多いと聞いています。(40歳、不妊治療歴5年8ヶ月)

○保険適用して欲しい。補助金の所得制限を無くして欲しい。(38歳、不妊治療歴5年)

○治療費が高すぎる(保険適用にならないものが多すぎる)。不妊治療には各自自治体から助成金が出るが、不育症治療には助成金がない。適切な不育症治療をすれば80%以上の方が出産できるというデータがあるのだから、そちらにも助成金をお願いしたい。(34歳、不妊治療歴3年7ヶ月)

○金銭的な面での補助をしてもらいたい(現在は収入などの面で制約がある)。子供がいる人に対する手当てばかりではなく、欲しい人への補助の検討をしてもらいたい。(34歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○不妊治療に対しての理解。医療費の軽減・助成。(38歳、不妊治療歴10ヶ月)

○不妊治療の全てにおいて保険適用にして欲しい。(29歳、不妊治療歴6ヶ月)

○治療は高額で、何年も続けるとなると負担が大きくなります。年収による助成がありますが、不妊治療を行うすべての人を対象にして欲しいと思います。(41歳、不妊治療歴5ヶ月)

○政府に 不妊治療の補助金をもっと出して欲しい。15万上限を計10回より、50万円×3回にしたら、体外受精にチャレンジできる人が増えると思う。子を増やすことは国にとっても重要。決して個人のためだけではない。(29歳、不妊治療歴1年)

○費用が高い。もっと多くの方が可能性にかけられるよう費用の面での負担を少なくするべき。(41歳、不妊治療歴6ヶ月)

○所得制限が低すぎるのももう少し上げて欲しい。(40歳、不妊治療歴1年)

○高度不妊治療に対しての保険適用。(28歳、不妊治療歴4ヶ月)

○もうちょっと金額的に優しくしていただけると良いです。保険適用までとは言わないが、助成制度をもっと充実していただけると助かります。(28歳、不妊治療歴2年)

○不妊治療の制度を拡大して欲しい。費用の負担が大きいので、助成金などもらえるようにして

- 欲しい。少子化は進んでしまうと思う。(30歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 不妊治療費用負担の軽減。(35歳、不妊治療歴11ヶ月)
- 不妊治療費の助成枠を広げて欲しい。(39歳、不妊治療歴9年)
- 不妊治療はお金も時間もかかり、働かなければ出来ないのに働いていると時間がなかなか取れずつらい。もう少し補助が出ればと思います。(33歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 不妊治療にはお金がすごくかかるので安くして欲しい。少子化なのに…。(27歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- 子供がいる人に対しての給付や補助はあるが、不妊治療に対する補助が少ない。人工授精(AIH)は希望できても、体外受精や顕微授精になると、金銭面的に断念せざるをえなくなる。少子高齢化を改善するためにも、子供を1人→2人に増やすことも大切ですが、子供が出来やすい環境づくり、医療補助、治療へのサポートを手厚くして欲しい。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 世帯収入の高い低いに関係なく、助成をして欲しい。(42歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- 自分が不妊治療を受けていて、医師の方々は本当にいろいろと手を尽くしてくれます。しかし、法律的な事などから、規制がかかったり、費用がかかったり、時間がかかったりと思うようにはいきません。補助もありますが、長期に渡る治療となつては、全くと言っていい程足りません。少子化対策で、子ども手当など増額したり、生まれている子供に対して行なっている補助と同じように、産もうとしている不妊患者に対しての補助をもっと充実させてもらいたいです。(34歳、不妊治療歴9年3ヶ月)
- もっと保険適用して欲しい。助成を多くして欲しい。(30歳、不妊治療歴4年)
- 子ども手当など、親に対しての金額面での補助などあったが、少子化というならば、これから生まれるであろう子供に対する補助があっても良いと思う。毎月、不妊治療費として1万円～3万円という金額が確実に出費されます。県や市からの補助があるそうですが、実際に手続きをどうしたら良いなど、大変わかりにくく、もっとわかりやすくなれば嬉しい。(26歳、不妊治療歴2年)
- 治療費には、費用がかなりかかっています。保険を適用してもらいたいです。(36歳、不妊治療歴1年7ヶ月)
- 治療に対しての費用を助成してもらいたい。(45歳、不妊治療歴3年)
- 政府には、可能であるなら、少子化対策としてももう少し助成金を出して欲しいと思います。(40歳、不妊治療歴1年4ヶ月)
- 不妊治療は経験してみないと、精神面、金銭面の辛さが分からないと思う。私がかかっている医師は本当に一生懸命でいろいろなケアやアドバイスをしてくれています。しかし、金銭面は国で動いてくれないとどうにもなりません。もっと不妊治療を理解していただき、金銭面(国からの支援)の見直しや検討を望みます。(32歳、不妊治療歴1年)
- 保険のきかない治療・検査が多い。補助対象に人工授精も入れて欲しい。(38歳、不妊治療歴4年)
- 治療費の助成対象を広げて欲しい。治療の内容によって、かなり経済的負担が悩みの大きなウェイトをしめている。自治体によって異なるので、政府としてあらかじめのラインを設けるなど、もっと治療しやすい体制を作って欲しい。(39歳、不妊治療歴2年8ヶ月)
- 保険適用の枠をもっとひろげてほしい。金銭的に苦しく、子どもを望む夫婦は多いはず、しかし金銭的問題で断念される方もいるはずです。(39歳、不妊治療歴1年)
- 体外受精に関する費用が保険適用になればうれしいです。(41歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 皆が幸せに子供を育てられるよう整えて欲しい。子ども手当には断固は反対で、不妊の人には援助すべきだと思う。(35歳、不妊治療歴1年)
- 医師ではなく政府に対して、金銭的な面での援助を求める。少子化問題と連動することなので、それに準じて子供をつくらうとしている人たちにも支援をしてくれても良いのでは？(32歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 国は少子化を減少させるためにエンゼルプラン等を立ち上げていますが、子どもが生まれてからのステージにしか支援を行なっていません。生まれる前からの支援を望みます。また、不妊治療はどうしても高額になってしまうため、世帯収入がある程度確保できなければ行えません。もっと金額面で政府が対策をとっていただければ、もっと若い世代や、収入が低い方も積極的に

治療が受けられるはずと思えてなりません。(35歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療にかかる費用を政府がもっと補助するべき(少子化対策のため)。(31歳、不妊治療歴3ヶ月)

○私は不妊治療をしています、体外受精は少し高いので政府で少しだけ出してもらえると聞いたけど、収入によっては無理なものもあると聞いています。収入に関係なく援助して欲しいです。(36歳、不妊治療歴17年1ヶ月)

○不妊治療も保険適用して欲しい。治療代が高くて受けられない人もたくさんいると思う。不妊の夫婦が増えている今、保険が適用になればもっと治療を受けることが出来る人が増えたり、治療の範囲も広がり、子どもを授かるチャンスが増えるはず。(28歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○保険の適用拡大。助成金の年収枠の見直し。(42歳、不妊治療歴2年1ヶ月)

○体外受精の保険適用。(27歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○不妊治療にも保険適用として欲しい。少子化という前に、妊娠を望んで治療している人の気持ちも理解して欲しい。(28歳、不妊治療歴1年)

○生まれた子どもだけでなく、不妊治療している人(今後子どもを産むかもしれない人)にも手当、費用の負担をして欲しい。(34歳、不妊治療歴2年)

○子どもを望んでる人たちに、もっと経済的負担を少なくして欲しいです。体外受精の金額も少なくして欲しいです。チャンスを増やして欲しいと思います。子供が欲しくて頑張ってる方たちに少しでも負担を減らしてください。(32歳、不妊治療歴1年)

○治療に対する助成金を望みます。少子化は非常に深刻な問題だと思います。本気でこの問題に対処するつもりであれば、政府は決断して欲しいと思います。個人で負担するには限界です。(39歳、不妊治療歴8ヶ月)

○費用に対してすごく高く感じている。高齢なので自分が悪いのかもしれないが、一生懸命仕事をしてきて、ようやく結婚ができてこれから子づくり…収入があっても、自分のため世の中のために勉強しようとお金も時間もつぎ込んできた。730万以上の収入があればという理由で助成がきかないので、不公平に感じる。ICSIも1度でうまく行かないことも多く、費用も体もしんどい。出産費には多額の税金をつぎ込んでいるのに、少子化対策の方にはあまり助成してもらえない。結構辛いけど子供の為に頑張る。(39歳、不妊治療歴1年)

○夫婦間の体外受精の経済負担をもう少し軽くして欲しいです。少子化の対策はもっと若い方の意見を反映させるシステムを作って欲しいです。実際に政治に携わっている方と、本当の「一般市民」の間には、世代的にも経済的にもものすごく大きなギャップがあるように感じます。(40歳、不妊治療歴2年10ヶ月)

○IVFも保険が効くようにしてほしい。病気が原因で不妊なのに自費はおかしいと思います。不妊症も病気だと思います。(32歳、不妊治療歴7ヶ月)

○もう少し治療負担を軽くして欲しい。人工授精も体外受精も保険が効くようにして欲しい。体外受精の助成金も年齢を40歳までと定めなくて欲しい。(38歳、不妊治療歴6ヶ月)

○子ども手当の前に不妊治療の保険適用をするべきでは。(35歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○私の場合、不妊治療を初めてまだ6ヶ月ですが、思った以上に費用がかかるので今後が不安です。もう少し、金銭面での負担を軽減していただけるとうれしいです。(28歳、不妊治療歴6ヶ月)

○経済的なことだけです。保険が適用でない。病院に行って、こんなに治療されてることが多いことを知りました。(34歳、不妊治療歴3ヶ月)

○とにかく保険を使わせてほしい。毎月高い保険料を払っているのに不妊治療は自費では辛い。3割負担でも通院は負担なのです。政府は少子化問題を本当に解決したいのなら法整備をして下さい。病院、医師については不妊治療を受けている患者の心情を本気で考慮してほしい。ビジネスにはしないでほしい。上から目線をやめてほしい。「イヤならやめればいい」という考えを持たないで下さい。やめたくてもやめられないのです。その気持ちをわかって下さい。(31歳、不妊治療歴3年)

○年2回程、全額治療費を負担してほしい。せめて採卵した月など全額負担があったら助かります。(37歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○治療費が高く経済的にとても苦しいので安くなったら助かります。今の医院にはとても満足

しています。(43 歳、不妊治療歴 4 年)

○少子化が問題となっているのに不妊治療に対して保障等の改善・対策はあまり問題にならないのが不思議に思う。子供のいる家庭のことだけでなく、子供がほしくても不妊治療に多額の費用をかけられない夫婦がいるという事ももっと考えてほしい。(34 歳、不妊治療歴 6 年 3 ヶ月)

○自費ではなく保険適用になることを望む。体外受精など高額であり不妊治療を継続することも難しくなる。(37 歳、不妊治療歴 7 ヶ月)

○保険適用してほしい。(26 歳、不妊治療歴 3 年 2 ヶ月)

○保険適用になりますように。(41 歳、不妊治療歴 3 年)

○治療費が高いし保険のきかないものがあるって何年も治療するには経済的に厳しい。(42 歳、不妊治療歴 1 年 4 ヶ月)

○治療費の負担が軽くなるよう国から補助等が出るようになってほしい。(33 歳、不妊治療歴 1 年 6 ヶ月)

○経済的支援。もっと治療費を安くしてほしい。どこの産婦人科でも不妊治療が受けれるといい。不妊治療の専門のところに行くと周りからの目や不妊治療している人ばかりで行くたびに憂鬱になる。(31 歳、不妊治療歴 3 年)

○所得が低ければ補助金(県・市からの助成金)をもらっても金額的には全く足りず治療できない人もいるはず。保険治療を可能にする。もしくは補助金の額をあげてほしい。そうすれば不妊治療にしっかり取り組める人も増えて出生率の増加につながり、少子高齢化の対策になると思う。(44 歳、不妊治療歴 5 年 6 ヶ月)

○保険適用にしてほしいです。(35 歳、不妊治療歴 1 年)

○政府に対し、少子化対策をしたいのなら子育て支援よりも不妊治療支援をもっとすべきである。私自身を含め、同世代の間でも「子ども手当がもらえるから子供を産む」という人は正直でない。そんなものは”後付け”であって、子供を増やす”後押し”ではない。むしろ、不妊治療を助成した方が確実に子供は増える。事実、もっと助成があれば何度でも体外受精にチャレンジしたいし、金銭的理由で治療を断念した人も大勢いる。おそらく不妊治療者の多くが子ども手当がなくても子供を望んでいると思う。経済的余裕のある人だけが治療を受けられるという事実は今の時代に合っていない。政府に不妊治療に対する支援を切に願います。このような発言ができる機会をいただきありがとうございます。どうか、私たちの苦しみ、辛さが少しでも軽減できるよう、よろしく願いいたします。(33 歳、不妊治療歴 1 年 7 ヶ月)

○不妊治療全般、保険内診療にしてほしいと思います。(39 歳、不妊治療歴 6 年)

○体外受精の金額が高いと思います。2 人目がほしくて通院していますが…1 人育てるのにも多くのお金がいります。もっと金額が安ければステップアップを考える人も多くなるのでは…と思います。(34 歳)

○不育症の治療に健康保険の適用が認められることを望みます。理由として、不育症でさらに不妊症の場合、働き続ける事が非常に難しく収入が少ない中での治療は長く続かないと思うので…いつかは断念する時が来てしまうのでは…と不安に思います。(36 歳、不妊治療歴 1 年 6 ヶ月)

○治療費用の負担。(35 歳、不妊治療歴 2 年 4 ヶ月)

○保険診療など助成が幅広くあれば、もっと行きやすくなると思います。(43 歳、不妊治療歴 3 年)

○助成を！精神的な苦痛と金銭的な苦痛、世帯収入での条件付き、共働きなら収入が上がって当たり前、専業主婦の時代は終わったのに基準は主人だけの働きでしか考えていない。フルタイムで 2 人で働けば 750 万ぐらい超えてしまう。(43 歳、不妊治療歴 1 年 6 ヶ月)

○治療費の負担がもう少し少なくなるようにしてほしい。(32 歳、不妊治療歴 4 ヶ月)

○受け入れ体制、補助に関して協力的であってほしい。(33 歳、不妊治療歴 3 ヶ月)

○治療費の助成。(30 歳、不妊治療歴 2 年)

○保険適用にしてもらいたい。(23 歳、不妊治療歴 1 年)

○治療の保険適用。(42 歳、不妊治療歴 4 年)

○治療費の保険適用。(38 歳、不妊治療歴 4 年)

○助成金額をもっと増やしてもらえるといいなと思います。(32 歳、不妊治療歴 5 年)

- 補助金の金額をあげてほしい。(42歳、不妊治療歴4年)
- 保険の適用。保険適用外なら、すべての市内・区内に一律の助成金を適用すべき。(35歳、不妊治療歴1年5ヶ月)
- 不妊治療が保険適用になってくれると有り難いと思う。せめて、混合治療が可能になるといいと思う。(34歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 不妊治療は金銭的負担が大きく助成金対象の所得が高い。治療のために働くと所得がオーバーしてしまい対象者となれる人は少ない。私は専門職だが、治療のためフルタイムで働く事ができずもどかしく感じる。世間に不妊治療の辛さを理解できるような働きかけと、助成金の金額・対象内容の見直しを検討していただきたい。助成金だけでなく自己負担の治療等が多く金銭的にきつい。治療を躊躇してしまう気持ちがある。もう少し保険適用の幅が増えると嬉しいです。(32歳、不妊治療歴3年)
- 不妊で悩んでいる方はたくさんいらっしゃいます。もっと国が援助してくれると金銭的に諦めざるを得ない人が治療に戻れると思います。人工授精についても援助金があると助かります。少子化とばかり言いますが、私達は子供がほしいと頑張っているのですから。(32歳、不妊治療歴8年5ヶ月)
- 子供が欲しくても治療費等が高く長期治療が困難である。そのため、諦める方向に行ってしまうため国で補助金を増やしてほしい。(38歳、不妊治療歴2年10ヶ月)
- 治療費が高くて今後が不安。保険適用外の項目を減らしてほしい。助成金対象の幅を広げてほしい。FTやAIHも回数を重ねると高額になる。(29歳、不妊治療歴2年8ヶ月)
- 治療の保険適用(体外受精などもすべて)。(32歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 保険適用にしてほしい(体外受精時の注射など特に)。特に私は、もともと卵子ができず注射が必要であり(原発性不妊)、病気のような不妊だと診断される場合の注射は保険適用してほしいです。(35歳、不妊治療歴4年)
- 不妊治療には本当にお金がかかります。国からの助成が少なすぎます。もっと治療の保険適用を広げてほしい。TESE手術をして精子がいなければ全額実費も変です。男性不妊の助成にももっと力を入れてもらいたいです。(30歳、不妊治療歴2年)
- 治療費の負担を軽減してほしい。体外・顕微授精になると実費になり、お金の負担が大きくせめて保険をきかせてほしいと願う。そして子ども手当を充実させるより、少子化の問題は子供を望まない家族より子供を望むけどできない夫婦がたくさんいることを政府、国、自治体ははっきりいって分かっていない。子供を増やすことを望むのであれば不妊治療の現場や声をもっと聞いてほしい。(34歳、不妊治療歴2年1ヶ月)
- 不妊治療に保険を早く適用してほしい。体外受精の助成金支給に所得の上限を決めないでほしい。(34歳、不妊治療歴2年1ヶ月)
- 不妊治療に対する補助金をもっと手厚くしてほしい。(28歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 金銭的補助制度の整備。子づくり政策やサポート体制の充実。子育て以前に子供を作ることにお金をかけていることに、もう少し支援してほしい。(35歳、不妊治療歴3年)
- お金がかかるので援助があるといい(体外受精までいなくても)。(28歳、不妊治療歴1年)
- 健康保険を適用して欲しいとは言わない(現実的には難しいと思う)。地方自治体では治療費の一部を補助してくれるところが多いが、補助金の申請は治療が一通り終了した後に行うので、治療の最中は金銭面の不安がつきまとう。(短期間にまとまったお金が必要になるため)せめて補助金は病院が受けとる型にして、病院は患者に補助金を相殺した残額を請求して頂けると助かる。(38歳、不妊治療歴6年)
- 保険適用にしてほしい。(37歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 子供を望んでいるにもかかわらず、費用の負担で諦めてしまう人が出ないような制度作りを望みます。(35歳、不妊治療歴2年)
- 保険を適用してほしい。適用が無理なら助成をもう少し増やしてほしい。(29歳、不妊治療歴1年5ヶ月)
- 私だけではなく不妊に悩む人全員の願いだと思いますが、特定不妊治療に関しての保険適用です。少子化などいろいろ言ってますが何より先にお願いたいことです。経済的な理由で治療を諦めている夫婦もたくさんいると思います。私達夫婦も決して楽じゃない生活の中で高額な

治療に限界を感じています。(38歳、不妊治療歴2年)

○少子化だと言われているのだから、不妊の治療などに助成金だけでなく保険の対象にしてほしい。治療費にお金がかかりすぎる。(30歳、不妊治療歴1年)

○保険が効いてほしい。治療費がもっと安くなってほしい。→不妊治療をしたくても金銭的に余裕もなく将来に備えて貯金もできない。(年金がもらえるかわからないので不安)(40歳、不妊治療歴6年)

○不妊治療の費用負担が少し軽くなるような法案が出れば助かると思います。(40歳、不妊治療歴1年)

○金銭的負担の軽減。個人の意思の尊重。(36歳、不妊治療歴5年)

○世帯収入に関わらず、体外受精の場合の金銭的補助が必要だと思います。(32歳、不妊治療歴9ヶ月)

○昨今の少子化問題の解決の糸口であると思います。子供を欲しいと望んでも何らかの原因で妊娠しない。生殖器の障害であると思います。かと言って安価での提供にも医師不足を招く要因にも成りかねないので、保険の適用の範囲を広げていただだけでも治療の範囲が広がり、もしかしたらもっと体外などをする夫婦も増えると思う。子ども手当も必要でしょうが、もう少し治療への国策を望みます。(33歳、不妊治療歴7ヶ月)

○全ての治療に保険適用してほしい。体外受精やAIHをもっと受けやすく、検査費や治療も(保険が効き随分安くなったと聞きますが)もっと安くしてほしい。お金のために子供を諦めたくないです。(36歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○治療費が高い。保険適用にしてほしい。(33歳、不妊治療歴4年)

○政府に助成金というか不妊治療全額負担を検討してほしい。経済的に余裕がないから治療できないケースは多いと思う。少子化なんだから子供がいる人ばかりに手当するのではなく、できない人にも援助を。(35歳、不妊治療歴2ヶ月)

○治療を受けたくても金銭的に諦めざるを得ない人がたくさんいる。少子化と言うなら、もっと不妊治療を積極的に受けれるように、金銭的な理由で諦めなくてもよくなるよう補助金や助成金をもっともっと拡充してほしい。(35歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○補助金をもっと充実してほしい。治療に専念したくても治療費のために働かなくてはならない。働きながらの治療はストレスが多く悪循環。(40歳)

○行政の助成金などがあるが、1,000万円以上の収入のある世帯でも実際はとても金銭的負担が大きいので、一部でも保険診療にするか助成金を利用できる年収を多くするなど金銭面でもっと改革してほしい。(27歳、不妊治療歴1年5ヶ月)

○通院回数も多いので金銭的に負担が大きい。もっと軽くなれば、あと1~2人は子供が欲しい。(38歳、不妊治療歴3年)

○政府に対して…少子化対策としての取り組みがいつもの外れだと思う。少額をばらまくより保育園や小児科の充実を優先すべき。子供ができた後のことも大事だけど子供を授かるまでの不妊治療への助成ももっと力を入れるべきだと思う。(29歳、不妊治療歴3ヶ月)

○補助金制度の充実。保険適用。(35歳、不妊治療歴6ヶ月)

○もっと助成金を。(31歳、不妊治療歴2年3ヶ月)

○不妊の検査を気軽に受けれるようになればいいと思う。本当に子供が欲しい人はたくさんいるので、体外受精等の助成を増やしてもらえると早い段階でステップアップも考えやすいと思う。(お金や年を考えてしまうから)(34歳、不妊治療歴5年)

○保険治療にしてほしいです。(38歳、不妊治療歴5年)

○少子化問題の一環として、金銭的な面で高度な治療をもっと受けやすくなるように取り組んでほしい。(40歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○子供がいる人には手厚い保護が多いが、不妊治療者への補助が全く足りてないと思う。安心して不妊治療ができれば少子化問題も解決できるのと思う。実際にこの立場になれば、大変さや望むのに授けられない辛さが理解でき、早く対応してくれるはずと思う。(41歳、不妊治療歴2年)

○少子化がこれほど大きな問題になっている中、不妊治療を受けている人の数は増える一方です。不妊治療には金銭的負担がかかり、長期化し、精神的にもとても辛いものです。せめて保険の適用範囲をもう少し広げ、負担を軽くしてもらいたいと思います。(36歳、不妊治療歴3年8

ヶ月)

○不妊治療の金額が高すぎる。みんなが公平に治療を受けられるようにしてほしい(金額の面で受けられない人がたくさんいる)。少子化社会なのに、なぜもっと積極的に不妊治療について政府で考えてくれないのか。子供がいる人にしか優しくない世の中。女性議員があんなにいるのに…。

(31歳、不妊治療歴2年)

○保険適用にしてほしい。(36歳、不妊治療歴4年8ヶ月)

○夫婦間の体外受精にチャレンジしたいと思っています。治療代が高額であるので、低額でできれば良いなあと思います。(41歳、不妊治療歴5ヶ月)

○不妊の方は年々増加していると聞いている。未来のためにも、補助金増額や保険適用など病気だというぐらいに認めてほしいと思います(禁煙治療は保険適用あるのに、不妊治療にはまだまだ適用されないのはおかしいと感じる)。(42歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○少子化と言われているが、子供が欲しくても出来ない夫婦は多いと思う。体外受精も最終段階として考えているが、費用の自己負担が厳しい。それまでも費用がかかり大変です。不妊治療の費用の補助があれば、できることも多くなると思います。(30歳、不妊治療歴2年3ヶ月)

○保険適用にしてほしい。もう少し価格が安かったら、もっと早く検討していたかな?って思います。(35歳、不妊治療歴7年2ヶ月)

○少子化といって対策を練るのならば、不妊の治療に対して補助金を年2回とか、年収で区切るのではなく、もう少し回数と金額を増やすべき。年収も芸能人じゃないんだから700万とか(共働きで)の区切りはありえない。1回で月収が飛ぶ。その事実を知るべき。また、保険をもっと使える範囲を広げて欲しい。先にも書いたが月収が1回のIVFでなくなるので1/2に減るだけで助かります。ドクターにしてみたら収入が減るので嫌かもしれないですが。(41歳、不妊治療歴3年)

○政府に対して、経済的負担の軽減を望みます。不妊治療全てを保険診療とすることは、多くのお金が必要となるので難しいでしょうが、1年間に2回までとか制約をもうけるか、補助金の拡大(所得制限を2000万/年とか、所得に関係なく1年間に何回かまでは補助金を出す)。(35歳、不妊治療歴2年)

○まだ病院に通い始めたところですが、1つ1つの費用がかなりの負担。はじめて病院に行き、あまりの人の多さに正直驚きました。不妊治療にかかる負担を軽減させるような制度を作らない限り、民族の繁栄は衰退していくのだと思います。(36歳、不妊治療歴1ヶ月)

○治療費を安くして欲しいです。(34歳、不妊治療歴1年)

○治療費をもう少し手頃な値段にして欲しいです。患者がやりたいと思うことは、日本国内でやってほしいです。(33歳、不妊治療歴3年)

○保険の適用。少子化を問題視するなら、健康保険を適用して欲しい。経済的に限界がある。(44歳、不妊治療歴2年)

○不妊治療費用を減額する。(40歳、不妊治療歴1年)

○不妊治療にはとにかくお金がかかるので、現在の助成金ではなく、保険適用にしてほしい。また、生殖医療の法整備を進めて欲しい(超先端治療も受けられるようにして欲しい)。(43歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○すべての不妊治療の無料化、もしくは保険適用を強く望んでいます。“子ども手当”などを考えるよりも、まず不妊治療に関して、政府に考えて欲しい。子供が欲しくても、授かることができない人がたくさんいます。不妊治療は、身体的、金銭的だけではなく、精神的に負担が大きいです。(31歳、不妊治療歴3年)

○少しでもいいので、補助金を希望します。収入によって受けられないのが現状ですが、収入があるからすべてを犠牲にして不妊治療をするのは難しいです。子供をつくることを望むなら、政府が不妊治療にもう少し関心を持って欲しいと思います。(40歳、不妊治療歴4年)

○不妊治療を受けて、こんなにコストがかかること、患者さんが多いことを知った。世の女性(男性)は不妊に大きな負担がかかっている。少子化をなくすと言っているが、不妊治療の低コスト化にすればもっと少子化ではなくなると思う。(34歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○自費診療の負担が大きく、そのために治療を諦めなければならない時がくると思うと心配である。治療費補助事業を拡大して欲しい。(40歳、不妊治療歴2年)

- 政府に、健康保険で診療が受けられることを望みます。(38歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 治療費を安くして欲しい。(32歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 不妊治療をしている私たちは肩身が狭いです。悪いことをしているみたいです。治療代もかかるし保険適用にしてください。子どもが欲しい気持ちは一緒です。(30歳、不妊治療歴1年4ヶ月)
- 自費診療費が高額になるため、保険適用化。現在、市町村において助成金額が異なるが、全国統一し、助成を受けられる回数と金額増額を望む。(40歳)
- 経済的に負担が大きい。保険適用して欲しい。(34歳、不妊治療歴9年)
- 不妊治療全てにおいて早期保険適用。政府は少子化対策を提唱するなら、子ども手当の前に子どもを授かりたくて頑張っている人達を考え、不妊治療にお金を使うべきだと思う。(34歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 不妊治療は費用がかなりかかり、助成金も年2回しか受給されません。受給されても、自己の払い出しが多いのが現状です。現在、日本では子どもが減少している中、欲しくても授からない人に対し、もう少し助成金を出していただければ、費用の問題で不妊治療を受けられない人や、人工授精のチャンスがあるのに何度も費用の関係で諦めなければならない人のために、考えて頂きたい。(36歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 収入に関係なく、保険が使えるようにしてほしい。(37歳、不妊治療歴2年)
- 医療費の負担が大きく、長期的な治療が難しいです。現在の助成金ではまかなうこともできません。根本的な助成制度の改善がなされればありがたいです。(33歳、不妊治療歴1年8ヶ月)
- 国には少子高齢化だけに目を配るのではなく、子どもを欲しくても持てない人間が多く日本にいる現状を理解して欲しい。もっと国からの援助が必要だし、老人ばかりでなく、それ以上にこれからの日本を担うためにも金銭面での協力を望みます。(43歳、不妊治療歴9ヶ月)
- 不妊も立派な病気だと思うので、自費で行うには治療の選択肢が限られる。保険適用をして欲しいです。結婚年齢がどんどん遠くなるのに治療できる時間は限られているので、少しでも多くの方が子どもを授かるために、国は、その手助けをしてあげるべきだと思います。体も心も疲れ頑張っていると思う。(36歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 保険対象にして下さい。(38歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 保険の適用を早急にして欲しい。毎回30万～では、少子化に歯止めがかかるはずありません。(43歳、不妊治療歴8年1ヶ月)
- 金銭的な補助。(36歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 少子化問題で政府は子ども手当を出すことで、少子化が改善されると考えていますが、子ども手当が出るから子どもが増えるという考えは間違っていると思います。不妊治療にお金をかけることこそが少子化を改善できるのではないのでしょうか。不妊治療を受けられずに諦めている人も多くいると思います。(37歳、不妊治療歴4年)
- 少子化対策のためにも、特に第一子目の治療に関しては全国的に補助をお願いしたい。(43歳、不妊治療歴7年)
- 県や市町村などの自治体では不妊治療(体外受精)への助成金はあるものの、全額ではなく回数も年に2回までなど限られていて、まだまだ経済的負担が大きい。国からも助成するなど助成金を増やして欲しい。また、体外だけでなく一時的な不妊治療(AIHまで)にも助成があれば不妊治療を受ける人が増えるはずだと思う。少子化を深刻な問題ととらえるなら、政府にはもっと不妊治療に対する助成をすすめてほしいと思います。(35歳、不妊治療歴2年2ヶ月)
- 不妊治療の保険を全面的に使えるようにして欲しい。費用が高すぎ。(27歳、不妊治療歴4年)
- 国内のドクターはとても勉強熱心で、この3年の間にもかなり治療も進んだと思います。この調子で1人でも多くの不妊の人が幸せをつかめるよう頑張りたいです。ただ考えるのは政府…子供の人口が減って…という割に、こういった現状を知らなすぎ。子供が欲しくても出来ず、治療を受けるにも高額で、諦めた人を何人も知っています。将来を考えたらもう少し助成金の事、検討した方が良くないのでしょうか。読んで頂きありがとうございました。(43歳、不妊治療歴3年)
- 不妊治療全般、保険適用をお願いしたい。治療代が嵩めば、子どもを諦めることもあるかも…。(39歳、不妊治療歴3ヶ月)

- 治療すべての保険適用(負担軽減)。会社等に、通院しやすい配慮が欲しい。遅刻、欠席等が多くなるため。(30歳、不妊治療歴3年)
- 政府が少子化対策について本当に考えているのであれば、治療費(高度)になぜ保険適用にならないのかと思う。国も財政が厳しいのであれば、AIHやIVFの回数を決めて、少しでも、お金の面での改正を望みます。(30歳、不妊治療歴1年11ヶ月)
- 人工、体外、顕微授精等にかかる処置、医療行為の保険適用。少子化というならば子どもを産みやすいような環境を整えるべき。高齢者に対する医療は充実しているのに、まだ見ぬ命への法律等の対策などがなさすぎる。このままでは人口減少し続けるのは当たり前と思う。(25歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 治療費が保険適用になればいい。専門医がもっと増えて欲しい。(43歳、不妊治療歴1年7ヶ月)
- 不妊治療、人工授精、体外受精を受けると、治療費が高額なので、もう少し助成金を出して欲しい(今は体外は助成金が出ているようだが)。まだまだ不妊治療する施設が少ないので、もっと増えたら良いと思う。(34歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 配偶者間の治療に関しての保険適用。(35歳、不妊治療歴2年)
- 子どもを増やせというなら、全面的に保険適用か、助成金(全治療費)でまかなえるようにして欲しい。精神的に追い詰められているのに、金銭面まで追い詰められる人の気持ちを理解すべき。そもそも言い値ってないだろー。(33歳、不妊治療歴3年)
- 金銭的に厳しいため、助成制度をしてほしい。(34歳、不妊治療歴4年)。
- 高度生殖医療、保険の適用を望みます。(36歳、不妊治療歴8年7ヶ月)。
- 体外受精の保険適用。(34歳、不妊治療歴3年)
- 不妊に悩む人は多いと思います。体外受精の補助をもう少し多くして欲しい。不妊治療も地域により大きな差があるので、利用しやすいようにして欲しい。体外以外にも妊娠に向けての腹の手術の補助など。(33歳、不妊治療歴1年7ヶ月)
- 不妊治療の助成金補助(自治体からの)を世帯年収の多少に関わらず受けれるように出来ることを望みます。(33歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 治療の保険適用。共働きですが、両親の介護も必要な年齢となり、家計は厳しいですが、今しかできない治療なので頑張っています。(39歳、不妊治療歴3年)
- 費用をもう少し安くして欲しい。お金がかかり過ぎる。(30歳、不妊治療歴4年)
- 少子化を問題にする割には、助成してもらえない現状をどうにかして欲しい。子供は欲しいが不妊治療が長引けば長引くほど、お金で買っているようなイメージが浮かぶ。そういう心情は周りの人には理解してもらえない。(37歳、不妊治療歴5年)
- もっと助成金を出して欲しい。または不妊治療全般を保険適用にして欲しい。(34歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 保険適用範囲の拡大。(37歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 保険適用(費用負担の軽減)。(33歳、不妊治療歴4年2ヶ月)
- 第一にやっぱりお金のことです。子供を望んでもできない。望んでもない人ができることのくやしき…お金がもう少し安ければ、もっと治療できる人が増える、少子化じゃなくなる。(28歳、不妊治療歴2年)
- 不妊治療は、本当にお金がかかります。日本全体の平均年収が400万くらいなのに1年間で150~200万はかかります。もう少しみんなが受けやすくして欲しいです。子供が欲しくても経済的に諦める人もいますし、お金がたまるのを待っていたら年月だけが過ぎてチャンスを失います。(32歳、不妊治療歴1年9ヶ月)
- 助成金の手続きなど簡単に分かりやすくして欲しい。保険適用内の治療を増やして欲しい。(36歳、不妊治療歴2年11ヶ月)
- 半年前まで仕事をしながら不妊治療を受けていましたが、今は仕事を辞め治療に専念しています。ここ数年の不景気に、治療にいくらまでお金をかけて良いのか不安に思います。保険が効くように補助金を多くして欲しいです。(36歳、不妊治療歴1年11ヶ月)
- 保険診療が適用されると、負担が少なくて助かります。今は続けたくても、お金を貯めてからになりますので、どうしても連続しての治療が難しいです。なので、ある程度の時期(期間)でし

か行えないのが現状です。(38歳、不妊治療歴4年)

○「少子化」と言われる中、治療費の負担が多くなり、何度も治療したくても高額な治療費は払えず諦めるしかありません。お金が無い人は、治療が受けられない。子供を授かることができない。「少子化」と言うのなら、もっと国が不妊治療を援助して欲しいです。お金が無いなら子供が欲しいのに諦めるなんてくやしいです。(25歳、不妊治療歴1年)

○治療費の負担がとても大きく、保険の適用を検討して頂きたい。(38歳、不妊治療歴5年)

○保険を適用できるようにして欲しい。(44歳、不妊治療歴3年)

○費用が高いので今まで以上に国や自治体の負担を希望する。(33歳、不妊治療歴3ヶ月)

○少子化と言いながら、子供が欲しいと思えない人にとって政府は大した「力」になっていない。不妊原因があるのであれば体外受精などは全額助成してもいいと思う。子ども手当を出すより、子供の数は増える。金銭的に諦める人、多いから。(34歳、不妊治療歴4年)

○金銭的負担の軽減。(31歳、不妊治療歴3ヶ月)

○費用についての補助金増額。(30歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○体外受精も保険が効くようにしてほしい。県の助成しか受けられないので、国や市、町などからも助成金が出たり、「年間何回の何年まで」のしほりがなくなれば、もっと気軽に挑戦できるのと思う。人工授精も保険が効かないし、毎日注射に通うのも経済的にも大変だし、お金がかかるから仕事を辞めることも出来ないのがつらい。もっとたくさんの不妊に悩む人が、より多くの可能性にかけられる環境が欲しいです。(30歳、不妊治療歴1年)

○少子化というなら、国内の不妊治療をもっと受けやすいものにして欲しい。経済面ももう少し保険の効く治療を増やしてもらえるとありがたいです。(42歳、不妊治療歴10年)

○IVF・ICSIに関しては無償化にしてほしい(年齢制限や回数 etc. を条件として)。日本は少子化ですが、今は医療も進んでいるので、無償になることで子供が増え、国のためにも夫婦のためにもお互いのためになると思います。(38歳、不妊治療歴2年)

○自分も××クリニックに通って初めて、不妊で悩み IVF にチャレンジする人の多さを知りました。が、そこまで踏み出せずに悩む人を沢山知っています。多分近い将来そうなると思うのですが、不妊治療、IVF が普通の病気の時のように堂々と告白できる日が来ると良いと思います。費用も安くなってほしい、保険が効くと助かります。(44歳、不妊治療歴7年)

○早急に保険適用にして欲しい。(37歳、不妊治療歴2年)

○保険の適用。(42歳、不妊治療歴4年10ヶ月)

○医療費をもっと安くして欲しい。負担が大きい。(31歳、不妊治療歴2年4ヶ月)

○助成金の増額。(29歳)

○不妊治療の経済的負担を減らして欲しい。肉体的・精神的にも大変な治療なので、経済的な負担だけでも減らして欲しい。経済的なことを理由に治療が続けられない人がいてはいけないと思う。不妊治療にはタイムリミットがあるので、治療できるように最大限の治療がしたい。助成金を増やす、保険診療にするなどの負担軽減を望みます。(29歳、不妊治療歴1年5ヶ月)

○不妊治療はとにかくお金がかかりすぎて治療に限界があります。子どもが欲しいのにできない。でもお金もなく治療もできません。せめて保険が効くようにして欲しいです。このままだと人口は減る一方だと思います。(33歳、不妊治療歴2年)

○助成金額を増やして欲しい。(32歳、不妊治療歴3年5ヶ月)

○すべての不妊治療について、保険適用になってほしい。妊娠を希望していても、なかなか治療が思うようにいかず、ストレスがたまるのに、その上、金銭面での負担が大きくて、余計な心配ごとが増えるのが辛い。助成金は少なすぎて、トータルしても1回分の治療費にもなりません。(37歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○保険適用 (33歳、不妊治療歴1年)

○保険の適用。治療をもっとしたくても、金銭的にできない。(41歳、不妊治療歴5年)

○保険適用の対象、または準ずる金額で治療を受けられる制度に修正してほしい(少子化対策の基本だと思う)。治療していることは職場に伏せている方が多数だと思う。休みづらい→仕事を辞める→金銭的に限界がある→時間が経つ=妊娠しづらくなる (41歳、不妊治療歴4ヶ月)

○早急な保険適用を望みます。(38歳、不妊治療歴10年)

○費用がかかるので(金額が高い)国の政策で援助して欲しい。(42歳、不妊治療歴5年)

○私は東京都民ですが、伊豆七島の住民です。主人の仕事は有給休暇がなく、主人だけでなく、島内では公務員や郵便局員、信組などに携わる職の人以外は日給月給で、雨で休みになれば給料も減ります。離島からの不妊治療は本当に本当に大変です。仕事をしていては体外受精に臨むことも、土地柄むずかしいです。そもそも費用を稼ぐための仕事がありません。仕事しながら本土へ不妊治療へ通うには、職場の人にカミングアウトして理解を得なければ、指をさされ、精神的に参ります。都内に上京するたびに、毎回ホテルを利用し、指定された日に必ず受診するには、海上の様子次第では2日も前に上京し、待機しています。病院へ払うだけでなく、交通費と宿泊費でパンクします。高齢化が進む島からの不妊治療にもっと援助を！（42歳、不妊治療歴3年8ヶ月）

○保険対象としてもらいたい。金銭的補助金制度。（27歳、不妊治療歴2年）

○政府は、子どもを産んで欲しいと欲しているのなら、助成金の受け取れる方法をもっと簡単にしてほしい。助成金額が少ないと思うので、上げて欲しい。（32歳、不妊治療歴1年9ヶ月）

○保険の適用を早期に検討して欲しい。（39歳、不妊治療歴5ヶ月）

○低所得者には厳しいです。（33歳、不妊治療歴2年6ヶ月）

○保険適用をして欲しい。経済的負担が大きい。（30歳、不妊治療歴2年）

○とにかく、子どもが欲しくてもできない。というのは、そうなりたくてなったわけではない。未来を担う子どもを増やす唯一の未来でさえも潰しかねない。もっと補助金の制度を負担のないよう考えて欲しい。（39歳、不妊治療歴6年）

○多くの不妊患者がいて、年々増加している状況で、保険適用外というのは、少子化社会としても矛盾しているのではないかと思う。助成金での負担軽減が行われているが、政府としては再検討が必要なのでは？（28歳、不妊治療歴1年10ヶ月）

○保険適用（全額でなくてもよい、少しでも良いので…）。（39歳、不妊治療歴12年）

○保険適用を望みます。（40歳、不妊治療歴8ヶ月）

○政府の費用の補助。（39歳、不妊治療歴4年10ヶ月）

○補助金を、不妊の治療をしている全てに出して欲しい。子ども手当とかがあがあるなら、不妊の方も、もっと助けて下さい。よろしくおねがいします。（32歳、不妊治療歴2年）

○不妊治療の費用を保険内にしてほしい。家計に余裕のある人だけの特権と感じている友人がいるので、不妊の夫婦は誰にでも選択肢の一つになれるようにしてほしい。（34歳、不妊治療歴4ヶ月）

○経済的に大変なので、治療費を全額援助して欲しい。（27歳、不妊治療歴2年）

○お金がかかってしまうことなので、もう少し経済的負担を軽くして欲しい。女性が仕事をしている場合、妊娠出産となると、それだけで収入が減ってしまう。その上で治療にまで100万以上のお金をかけているので、経済的に負担になる。（35歳、不妊治療歴6ヶ月）

○不妊治療を保険適用にしてほしい。収入や経済力とは関係なく、誰でも平等に治療を受けられるようにしてほしい。（33歳、不妊治療歴1年10ヶ月）

○高度の不妊治療だけでなく、人工授精でも妊娠に関わるものは保険が使えるといいなと思います。もしくは補助金。（42歳、不妊治療歴1年）

○政府へ→治療費がすごくかかるため、助成金の制度はあるが、助成金は少なく制限もある。もう少し保険適用になるとか、助成金の額を増やしてほしい。（31歳、不妊治療歴2年5ヶ月）

○今は少子化で、政府も子供をたくさん産んでくださいと言いますが、欲しくてもできない人がたくさんいます。産めと言うのなら、高度な不妊治療でも保険が効くようにしてほしい。経済的に苦しく高度な治療を受けられずに、子供を持つことを諦めた方もいると思う。自分も経済的に苦しい状況で、この先どのくらい治療が続くのか分からないため、とても不安です。（30歳、不妊治療歴7ヶ月）

○助成金を増やす。保険適用する。政府には経済的な支援をお願いしたい。長期間かかることで負担が大きい。経済的に余裕がなく、不妊治療を受けられない人も多くいる。（36歳、不妊治療歴1年）

○体外受精などの保険適用。（28歳、不妊治療歴3年6ヶ月）

○保険の適用。もしくは全額国庫負担。（24歳、不妊治療歴1年6ヶ月）

○助成金をもっと増やしてほしい。（41歳、不妊治療歴4年）

- 金銭的に治療を続けるのが厳しい。子供が欲しいが、保険が効かないので辛い…。どうして保険対応にならないのか、切実に困っている。お金がなくて治療を諦めた知人がいるが、近い将来の自分の姿なのかもと思うと恐怖すら感じる。(38歳、不妊治療歴5年10ヶ月)
- 金銭面。病気ではないと一蹴されてしまうのは、少し違う気がします。もう少し考慮してほしい。(33歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 不妊治療に通うようになって、病院にたくさんの患者さんがいることを知りました。自分の身近なところ(友人・親類)には、そういう例がなかったため、自分ぐらいだろうと思っていたのです。でも自分よりもはるかに若い方が多く、それにも驚かされました。自分もそうですが、やはり高度な治療になるとどうしても経済的負担が大きくなってきます。県・市レベルで補助金制度もありますが、実費のほんの一部しか援助がありません。国レベルでもっと援助があっても良いと思います。(38歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- AIHまでは金銭的な問題はあまりないと思うが、それ以上の治療のレベルアップは高額で自治体の補助があってもキツイのではないかと思うので、もう少し補助金の増額があればチャレンジする方は増えるのではないのでしょうか。(33歳、不妊治療歴7年)
- 保険外であることが非常に大きな負担となり、続けたくともなかなか続けられない。少しは補助があるが、通院費用全体からすれば非常に少ないと思う。また、不定期で急な診療も多いため仕事にもつけないので、金銭的に更に困る状態になることも勘案してほしいと思う。(39歳、不妊治療歴2年)
- 少子化といっているが、もっと不妊治療をしている夫婦に対して目を向けてほしい。一日でも早く治療費が保険適用になるようにしてほしい。助成金の金額をあげてほしい。女性の体が7の倍数で、男性の体が8の倍数で変化していくことを学生の時に教えてほしい。(44歳、不妊治療歴12年7ヶ月)
- 助成金支給の期間が5年間は短い。保険適用の治療にすべてしてほしい。(39歳、不妊治療歴3年)
- 不妊治療は病気ではないため保険診療が適用されないのも分かっていますが、もう少し保険診療が適用できるようにしてほしいです。(33歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 医療費の助成。(43歳、不妊治療歴2年)
- 不妊治療に対するストレス・時間スケジュールの調整・仕事の調整は本当につらく、その上高額な治療費がかかってしまい、子供が少ない、産まないのか、と社会(他人)に言われるのは悔しい。治療すべき問題があるならば、治療費を無料にしてほしい。(35歳、不妊治療歴4年)
- 不妊に悩み苦しむ女性が大勢います。少子化対策のためにも、国・自治体は助成制度をもっと拡充していただきたい。現在、所得制限で助成を受けられません。しかし、莫大な治療費がかかっています。(39歳、不妊治療歴4年)
- 政府に助成金を満額負担。(40歳、不妊治療歴2年)
- 国からの不妊治療助成金支給を要望したいです。財政が貧しい市町村では、支給金額も少なく通算〇回まで等、制限があります。県によっては所得制限もあります。子供を授かる権利(子供を授かりたい女性)に不平等があってはいけないと思いますので、例えば、夫婦の婚姻期間が3年以上で、かつ不妊治療期間が3年以上の夫婦に特定不妊治療費の一部(10万)を国から補助するなど助成金について検討していただきたいです。(32歳、不妊治療歴5年10ヶ月)
- 不妊は病気だと思います。病気として保険での治療を望みます。(45歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 保険適用にしてほしい。(36歳、不妊治療歴3年)
- 政府へ、補助金の増額を望みます。または、夫婦間体外受精も健康保険が適用されることを望みます。(34歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 保険が効いたり補助金が出たりしないと、少子化は改善しないのでは。(43歳、不妊治療歴2年)
- 金銭的に厳しいと思います。保険適用、もしくは助成金のupを望みます。自治体で助成金が違うのもおかしいと思います。(42歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 治療費の補助をしてほしい。(37歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 体外受精の保険適用化。もしくは、補助金申請の際の世帯収入制限の撤廃。(33歳、不妊治療

歴4年10ヶ月)

○保険適用にしてほしい検査や治療がある。体外受精の助成金を増やしてほしい。(33歳、不妊治療歴3年2ヶ月)

○医療費(保険適用できないなら、補助金の金額を上げてほしい)。(33歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○少子化防止のためにも、病気ではないけど、せめて半分でも保険が適用できればありがたいです。働かなければ費用が工面できない。働けば補助対象の上限を超えてしまう。働くに通院、安静が難しい場合もある。ご理解いただけると幸いです。(39歳、不妊治療歴2年4ヶ月)

○助成金の拡大。(34歳、不妊治療歴2年)

○金銭的な補助をもう少ししてほしい。自治体ではなく、国として保険扱いにしていきたい。少子化に歯止めをかけたいなら子がいる家庭だけでなく、欲しくてもできない、治療したいけど仕事や金銭的なことで先に進めない人にも、もっと目を向けてほしい。(29歳、不妊治療歴1年)

○不妊治療はお金も時間もかかります。仕事をしたくても、注射や診察などで時間を取られてしまうのでできません。できれば、もう少し医療費を考えていただければと思います。(37歳、不妊治療歴3年)

○ドクターの収入に見合う形での保険適用になっていただけると嬉しいです。金銭面が一番大変です。(39歳、不妊治療歴5年)

○少子化を救うのに、不妊治療の助成金をもっと考えるべきだと思います。政府は、子供が欲しくても出来ない夫婦がたくさんいることを知るべきです。(47歳、不妊治療歴1年10ヶ月)

○治療費負担の軽減をもっと増やしてほしい。現状、我が家の場合は、夫の年収によって補助が受けられない状況ですが、いくら年収が条件を上回っていたとしても、体外受精を2回3回と繰り返す場合はさすがに負担が大きくなります。お金が払えないから、チャレンジを諦めなければならないという現実があるのも確かなので、できる限り改善を希望しています。(37歳、不妊治療歴2年2ヶ月)

○世帯収入制限をなくし、特定不妊治療費補助を支給してほしい。現在、不妊治療患者が何百万人いて、どれだけ苦しんでいるか考えて補助金を支給してほしい。少子化は不妊が原因だと思いますので、海外でできるような治療を望む。(37歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○子ども手当に充てる予算があるのなら、不妊治療の方にも予算を充てていただきたい。体外受精チャレンジしたくてもできない。(33歳、不妊治療歴1年3ヶ月)

○政府に対しては、助成金のことをもっと考え直してほしいです。やはり、納得のいく治療を受けたい、もう1人子供が欲しいと考えても費用の負担が重荷になってしまいます。(34歳、不妊治療歴8年7ヶ月)

○治療費の負担を軽くしてほしい。(38歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療も保険にしてほしい。不妊治療中、治療費のことが大きなストレスになります。必ずしも結果の出るものではないので辛いです。(39歳、不妊治療歴7年)

○費用の補助。保険が効くようにしてほしい。(34歳、不妊治療歴7ヶ月)

○金銭的補助を望みます。働きながらの通院は大変だと思います(病院の診療時間・待ち時間を考えると)。主人の収入だけでは、体外受精にステップアップするのに不安です。今も補助はあるようですが限度があり、やはり個人の負担が大きいです。(34歳、不妊治療歴5ヶ月)

○治療費が高い。不妊治療がもっと身近なものになってくれたらいいと思う。(32歳、不妊治療歴2年)

○費用の負担が大きく、助成金等、金銭的負担を減らす制度を求めます。(36歳、不妊治療歴2年)

○保険が効くようにしてほしい。金銭面で途中で諦めざるを得なくなる人がたくさんいると思います。代理出産なども国内でできるようにしてほしい。(39歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○金銭的な援助。個人負担の軽減。(33歳、不妊治療歴3年)

○体外受精を保険適用にいただきたい。(36歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○治療が高度なものになっていくと保険が適用されなくなり、経済的に治療を断念せざるを得ない。子ども手当も必要かもしれないが、望んでもできない人を補助する制度を作してほしい。

- 費用はかかるのに病院に行くために仕事もできない。(26歳、不妊治療歴3年)
- 政府へ…市町村の補助金(助成金)の支給において、収入制限はつけないでほしい。(44歳、不妊治療歴3年)
- 体外受精(顕微含む)の費用助成をより手厚くしてほしい。(40歳、不妊治療歴5年)
- 保険適用にしてほしい。もしくは、助成金の金額・回数を増やしてほしい。(44歳、不妊治療歴1年9ヶ月)
- 子供は欲しいが治療となるとお金がかかる。仕事を続けながら治療するとストレスが加わり、あまり良くないことがある。治療するのに体力的にも負担である。少子化となっている今、なぜ保険を効かせてもらえないのか？(40歳、不妊治療歴8年)
- 不妊治療のため仕事を辞めました。金銭面での不安も大きいので助成金を強く望みます。(41歳、不妊治療歴1年)
- 金がなくても保険でチャンスを広げるべき。少子化を問題にしているのに、金は子供のいる家庭にばらまいて、不妊で苦しんでいるところには手を差し伸べてくれない。田舎へ行くほど不妊治療を専門にやっているところが遠い病院で、通いたくてもなかなか通えず、出口の見えない道をひたすら走っている感覚。もっと保険で人工授精までやれるように望みます。(31歳、不妊治療歴2年)
- やっぱり治療費が高すぎます。少子化と騒がれていますが、治療費が高くて治療できない人がたくさんいると思います。保険適用お願いしたいです。でも、できれば一番は無償にしてください。(30歳、不妊治療歴11ヶ月)
- もっとしっかり治療できるように、助成金の枠を広げてほしいです。(40歳、不妊治療歴4年)
- 不妊治療費が高額。助成金の回数をもっと増やしてほしい。(6回まで)(41歳、不妊治療歴6年)
- 保険の適用。不妊治療はお金がないとできません。子ども手当より、不妊治療の保険適用が先と考えます。(33歳、不妊治療歴8年)
- 不妊治療は精神的にも肉体的にも金銭的にも大変。子ども手当があるのなら、不妊治療手当もないとおかしいと思う。治療にお金がかかるのがストレスで、余計不妊体質になりそうだ。(33歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 不妊治療の保険適用。(33歳、不妊治療歴5年)
- 高度な技術や設備を利用しているのでお金がかかるのはわかるが、それにしても治療費が高くて払いきれない。病院に通う回数も多くストレスがたまる上、薬の影響で体の調子もすぐれず、おまけに治療費のことを考えるとなおさらしんどくなる。助成金は一部しか出ないので、出るだけでも助かりはするが安心して治療を受けられるところまでではない。少子化で子供がどんどん減っていく日本で、これからの社会を支えていくことを考えるなら、子供を産もうとする人にもっと安心して出産・治療ができる環境を作ってもいいのではないかと思います。(36歳、不妊治療歴4年)
- 不妊治療に対するイメージが、一般的に悪いもの、暗いイメージがあると思います。たくさんの方が悩み治療している現状をもっと他の人にも知ってもらいたいと思います。経済的に大きな負担です。ぜひ、保険適用を検討してもらいたいと思います。(35歳、不妊治療歴2年)
- 着床前診断の希望者は容易に受けられるようにして下さい。助成金は世帯収入でもらえるか、もらえないかに分けるのではなく、段階的にしてほしい(ギリギリでもらえる人ともらえない人の差は何なのか?)。収入500万までは年間○で、収入600万の人は○で、収入700万の人は…的に。(43歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 助成金が受け取れる条件を緩和してほしい。(28歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 政府…少子高齢化を防ぐために、不妊治療に対する助成金をもっと手厚くしてほしい。初年度は3回、2年目は2回までというのは理解できない。国の宝を一人でも多く得られるのであれば、安いものではないでしょうか。(32歳)
- 生まれてきた子にはたくさんの補助があるのに、生まれる前というか妊娠する前に、精神的・身体的・金銭的にもっとバックアップしてくれる環境が必要だと思います。(38歳、不妊治療歴3年)
- 治療費が高額である。改善してほしいです。(37歳、不妊治療歴8ヶ月)

- 体外受精や人工授精などお金がかかるので諦めざるをえない人もいます。日本の将来、現実の不妊治療者の数の多さ、深刻さを考え、保険適用または助成金の増額を望みます。精神的にかなり追い込まれています。周囲にはなかなか言えず、会社を休む回数が増えたり、親からのプレッシャー、様々な苦しい思いが皆あると思います。採卵できなかつたときは、女性として否定された思いで泣くしかありませんでした。HP「ジネコ」の不妊治療の広場で皆さんのことを見てみてください。(37歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 不妊治療費の保険適用、助成金の充実。(少子化対策の一環として)(32歳、不妊治療歴11ヶ月)
- 費用をもっと出してほしい(補助)。(35歳、不妊治療歴3年)
- 体外受精については、1年に1回だけでも保険適用を希望します。(37歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 気軽に治療が受けられるように保険をもう少し見直すべきだ。(30歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 保険適用にしてほしい。(33歳、不妊治療歴4年)
- 県や市から助成金が出ていますが、年数や回数の制限があり今後も助成金がもらえるならば続けたいが、一人目の時から助成金を受けているので二人目も考えたいが、助成金がもらえないので諦めざるをえない。回数や期間の制限を設けないでほしい。(35歳、不妊治療歴5年)
- 高額な治療費のため諦めなくてはいけない人に対して、保険適用がととのうことを願っています。(39歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- このまま回数を重ねてしまうと(IVF)金銭面で諦めることになりそうなので、保険内になってほしいと考えます。(36歳、不妊治療歴9年1ヶ月)
- もっと治療しやすい環境と金銭的援助を望む。少子化対策の大きな柱だと思うので(不妊治療)。(45歳、不妊治療歴3年3ヶ月)
- 政府に対して、不妊治療費の助成金引上げ、もしくは保険適用。(40歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 金銭的負担の軽減。これは誰しもが思っていると思う。(32歳)
- 助成金の体制を十分にしてほしい。子供が欲しくても経済的に難しい。普通に妊娠できる人は検診しかお金がかからないのと同じような助成制度を確立してほしい。(36歳、不妊治療歴1年9ヶ月)
- 保険診療にしてもらいたい。(38歳、不妊治療歴1年)
- 近年、不妊治療を受ける人は増加しているのだから、ある程度の補助があると助かるのではないかと思います。年数を重ねればそれだけ負担も大きくなりますので、金銭面の問題は切実かもしれません。(39歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 不妊治療が保険適用となるよう保険制度に特例を作ってほしい。治療費がないために子供を諦める人が本当に多い。(39歳、不妊治療歴2年10ヶ月)
- 子ども手当と同じように不妊治療をしている女性にも助成金等を出してほしい(体外以上の治療ではなく…)。(28歳、不妊治療歴3年4ヶ月)
- 体外受精に保険が適用されるとよい。経済的負担の軽減。回数に制限をしなくてもよいかも。不妊治療にかかる助成金があればよい。(体外受精の年2回の助成だけではなく)。(36歳、不妊治療歴3年)
- 保険適用の範囲を広げてほしい。体外受精を続けることは経済的に本当に厳しい。それによって精神的にも苦しくなることもある。少子化対策というならば、私たちのような子供が欲しくてもなかなかできないと悩む多くの人たちのいろいろな負担を軽くしてほしいです。(41歳、不妊治療歴3年1ヶ月)
- 保険適用。(38歳、不妊治療歴1年8ヶ月)
- 不妊治療が保険適用とならないことに疑問を感じる。保険対象とすべき。子供を産めるようにしてほしい。(32歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 経済的な負担が大きすぎるので、少子化が問題であるならもっと本当に子供が欲しいと願う人たちに支援できる法を作ってほしい。(41歳、不妊治療歴3年)
- 体外受精に関しても保険の適用をしてほしいです。私の周りにも不妊治療をしている人がたくさんいますが、金銭的に体外受精に踏み込めないで子供が欲しくてもできないとよく聞きます。少子化を止めたいなら、子供を欲しがっている人にお金を使って子供の数が増えるようにした方がいいと思います。(33歳、不妊治療歴6年)

- 不妊治療の費用を安くしてもらいたい。(43歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 料金をもう少し安くして負担を減らしてほしい。(政府へ)(37歳、不妊治療歴3年)
- 保険の適用や助成金などもっと不妊治療に専念できる環境を作してほしい。お金がかかるため断念する夫婦がいると思うので、一人でも多くの子供が生まれるようにしていただきたい。(36歳、不妊治療歴3年)
- 金銭的負担がかなり大きいので、少子化対策の一つとしてもっと助成してほしい。子供が欲しいのに経済的理由で諦めている方はすごく多いと思います。現に私も年一回チャレンジできればいい方です。もっともっと治療費が安ければ何回もチャレンジできるのに…と思っています。(34歳、不妊治療歴5年6ヶ月)
- 保険対象にしてほしい。いつまでかかるか分からないのに高額なのでとても不安。と言いつつも、早く(若いうちに)安心して子供が産みたいと思える社会にすれば、加齢による不妊治療は本来必要ないとも思う。35歳までの出産をもっと推奨するキャンペーンや取り組みを強化してはどうか。20歳代で産んだら特典がある等でもよい。とにかく不妊のリスクを知らない人が多い気がする。(41歳、不妊治療歴1年4ヶ月)
- 政府…北海道では助成金100%のところもある。15万等の助成金では足りない。せめて半分負担してほしい。不妊治療をバックアップするもの(針治療など病院と連携するなど)に対しても金銭的援助してほしい。(41歳、不妊治療歴2年2ヶ月)
- 保険適用。(29歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 不妊治療にかかわる医療費を全て保険適用、もしくは給付金等で補助してほしい。(29歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 不妊治療を受けなければ子供を授けられない夫婦が増えていると思うので、その原因究明と経済的援助を望みます。また、不妊治療への理解、生まれてくる子供の健康状態を調査し、より安心して治療が受けられるような世の中にしてほしいです。(42歳、不妊治療歴1年)
- 大変費用がかかります。そのために仕事を続けられないとけなくて、それがまたストレスです。週に何度も通院しなければならず、仕事を持ってはできない治療です。でも、お金がかかるので働かなければ治療できません。この矛盾は一体何なのでしょう。少子化というなら、こちらにもっとお金を使うべき。産む気になっているのに産めません。(40歳、不妊治療歴10ヶ月)
- もう少し医療費が安くなればいいと思います。(41歳、不妊治療歴10ヶ月)
- 医療費の保険適用。(38歳、不妊治療歴6年)
- 保険適用。(38歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 不妊治療の保険適用。(39歳、不妊治療歴4年4ヶ月)
- 医療費の軽減(全て健保の対象に)。不妊治療で悩んでいる人は多くいます。どこのクリニックでもいつも人が多いです。少子化が問題となるのなら、不妊治療にもっと積極的に取り組めるように、子供を産む可能性を金銭面で貧富の差で諦めることがないようにしてほしい。私も働いた貯金で何とか治療していますが、そういうこともストレスの一つとなり治療に悪影響です。せめて、保険適用にどの治療もしてほしいです。(38歳、不妊治療歴5年10ヶ月)
- 費用のばらつきを統一してほしい。治療費を保険の効くようにしてほしい。(32歳、不妊治療歴10ヶ月)
- まずは保険対象にしてほしいです。子ども手当があるなら、不妊治療の方の手当も考えてほしいです。高額な治療費を使っていることをわかってほしいです。(37歳、不妊治療歴2年5ヶ月)
- 体外受精等にも保険が適用になることを望みます。(39歳、不妊治療歴2年)
- 保険適用にして治療費を安くしてほしい。(33歳、不妊治療歴3年)
- 不妊治療は金銭面ですごく負担がかかります。医師は何回も体外受精をすすめますが、お金に余裕があれば私もやりたいです。しかし、一般市民では限界があります。病気が進行する前に赤ちゃんを授かりたい。しかし、お金がないから治療ができない、病気が進行するという状態です。一日も早く保険適用にしてもらえたら、私たちにも希望が持てます。技術はどんどん進歩しても、一般市民では受けたくても受けることができないというのが現実だと思います。(34歳、不妊治療歴10年)
- 費用がかかることに配慮してほしい。(42歳、不妊治療歴4年)

- 国内での保険診療を希望します。(43歳、不妊治療歴5年7ヶ月)
- やはり費用が膨大で諦める方が多いので、資金的援助(保険適用等)をできるよう改革してほしいです。(42歳、不妊治療歴4年9ヶ月)
- 子ども手当よりも不妊治療の補助をもっと増やしてほしいです。自治体で出る補助金も年数も、もっと増やしてほしいです。(36歳、不妊治療歴7年)
- お金がものすごくかかるので補助などを充実してほしい。保険が効くもの、効かないものの混合治療を可能にしてほしい。(44歳、不妊治療歴5年)
- 保険の適用。(41歳、不妊治療歴7年)
- もっと保険や国の補助をきちんと増やしてほしい。今のままでは、子供が欲しくてもお金がないと不妊治療を続けるのは無理だと思う。(36歳、不妊治療歴1年)
- もっと安くしてほしい。(48歳、不妊治療歴5年)
- 助成金をしっかりしてほしい。高額のため補助金もしくは保険適用を望みます。病気ではないが「治療」が必要なから。(32歳、不妊治療歴10ヶ月)
- 保険診療にしてほしい。(46歳、不妊治療歴6年)
- もう少し不妊治療の助成の枠を広げてほしい。年収に関係なく、ある一定の助成金を回数に応じて出してほしい。(39歳、不妊治療歴8年)
- 高度生殖医療(体外・顕微授精など)の保険適用化。(33歳、不妊治療歴10ヶ月)
- 保険適用、助成金増額。仕事をしながらの通院は難しいので金銭的な負担が大きい。(31歳、不妊治療歴2年)
- 保険適用。体外受精等、給付金所得上限なし。着床前診断の容認。(40歳、不妊治療歴1年8ヶ月)
- 不妊治療は費用がかかるので保険治療適用を望みます。もしくは補助金、助成金をもっと充実してほしいです。(40歳、不妊治療歴6年)
- 補助金を増やしてほしい。(40代、不妊治療歴4年)
- 保険対象としてほしい。(ただ不妊治療の診察で月数回通うだけで月に7万前後かかっています。このまま何年も不妊が続くと金銭的に通うのが困難になってしまいます。)(28歳、不妊治療歴4ヶ月)
- お金がかかるので無料にしてほしい。本当に大変です。(40歳、不妊治療歴4年)
- 今の政府の少子化対策は、子ども手当をはじめ、すでに子供がいる家庭中心であり不妊に悩む夫婦には冷たい気がします。不妊治療時の助成金の条件の緩和(所得制限・年間回数等)をぜひ実現していただきたいと願っています。(40歳、不妊治療歴1年)
- 健康保険の対象になるとありがたい。(44歳、不妊治療歴4年)
- 助成金を増やしてほしい。(38歳、不妊治療歴2年)
- もっと金銭面のサポートを強化してほしい。(32歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 所得にかかわらず治療費を支援してほしい。(41歳、不妊治療歴7ヶ月)
- 保険の適用等。不妊治療の助成を政府に望む。(39歳、不妊治療歴1年)
- 治療費を保険適用にしてもらいたい。(37歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 子供は国の財産です。治療費の助成金をどの家庭にも支払われるようにしてもらいたい。(42歳、不妊治療歴2年)
- 「産めよ増やせよ」と国は提言しながらも不妊治療は保険治療にはならないという矛盾。ゆとりのある人がするものにならないためにも、産みたいと願う夫婦には保険診療で是正していただきたい。金持ちの道楽ではなく、どんな夫婦にも適用すべきだと思います。(39歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 補助金。(33歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 高額治療費のため高度な治療を諦めている方々もいるはず。倫理的問題もあるけど助成金ではなく全額補助にするなどできないものか。少子化問題も子供を預けるところがなく産まない人はまだ恵まれていて、それ以前に費用等で諦め、授かれる可能性をダメにしている方々もいることを理解してほしい。(38歳、不妊治療歴2年)
- 少子化の問題で、今現在の子供たち・親への支援も必要ですが、不妊治療費の補助がもっとあっていいと思います。経済的な問題で治療を諦める人も多いと思います。(34歳、不妊治療歴

4年8ヶ月)

○保険の適用。(39歳、不妊治療歴10年)

○治療費の補助(助成金の増)、保険適用。(29歳、不妊治療歴3年8ヶ月)

○不妊治療費が高いので安くなるように検討してほしい。例えば、保険が適用される、補助金が出るなど。(36歳、不妊治療歴5年)

○お金の負担。(41歳)

○保険が効かないので経済的負担が大きい。また、必ず妊娠するとも限らないので、失敗だった時にも代金を支払わねばならず、矛盾している気がする。助成金のシステムを作ってほしい。助成金がないと結局、お金がある人しか不妊治療の継続ができないと思います。子供の数が多い方が国が豊かになることを信じて、ぜひ、政府には検討してほしいです。私は、自分が今行っている不妊治療が成功し見事出産できたら、不妊治療を行う夫婦の助けを何らかの形で行うよう、生涯のライフワークとして努めていきたいと思います。(32歳、不妊治療歴7年)

○いつ妊娠するかわからず、不安もある中で治療しています。不妊治療専門の病院は、とても治療費が高額で経済的に大変で、治療を続けたくても断念する人もたくさんいると思います。もっと政府(国)としても、治療しやすい環境(助成金等)を整えてほしいです。(32歳、不妊治療歴9ヶ月)

○費用負担の軽減を求めます。(40歳、不妊治療歴5年)

○子ども手当などではなく、年収に関係なく不妊治療を援助してもらいたい。(40歳、不妊治療歴4年)

○保険適用を望みたい。補助金の収入上限条件の引き上げ。(31歳、不妊治療歴4ヶ月)

○保険適用にしてほしい。(32歳、不妊治療歴2年)

○できる限り経済的な負担を軽くしていただきたいと思います。(33歳、不妊治療歴2ヶ月)

○政府に、すべての不妊治療費を助成してほしい。(39歳、不妊治療歴6ヶ月)

○年収にかかわらず、補助金を支給してほしい。(48歳、不妊治療歴3年)

○治療が自己負担なことが経済的にも大きな負担である。柔道整復師の受診や特定保健指導でさえ3割負担なのに、なぜ不妊治療には認められないのか。また、助成金は所得制限があるため受けられないため、この制限を広げてもらいたい。子ども手当の支給があるなら、この治療に関しても手当が欲しいと思う。(36歳、不妊治療歴5年)

○少子化対策の点でも金銭的助成制度を設けるべき。(34歳、不妊治療歴2年)

○不妊治療の保険適用を早期に希望します。まだ生まれていない子供(生まれないかもしれない子供)だからといって、不妊で苦しんでいる何万人という人々を救済してもらえないのは辛いです。30代で金銭的に苦しくて治療を諦めた友人もいます。(45歳、不妊治療歴6年7ヶ月)

○助成制度の拡大(体外受精までの治療も助成してほしいです)。(32歳、不妊治療歴2年)

○高額医療なので健康保険を適用してほしい。(42歳、不妊治療歴4年)

○治療費を保険適用にいただきたい。(32歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○子供を多く産む家庭には子ども手当がつくが、出産できない家庭に何も手当が出ないことに不満を感じます。また、補助金をいただいても婦人科の医療費は高く感じます。(33歳、不妊治療歴4年)

○政府に…不妊治療に保険が使えるようにしてほしい。金銭的にもとても大変で治療を諦める場合があります。少子化対策として無料で治療できることが最も良いです。(43歳、不妊治療歴6年)

○不妊治療の助成金をもっと高くしてほしい。何回も挑戦できない。経済的に厳しい。(41歳、不妊治療歴4ヶ月)

○病気や怪我と同じく、保険3割の扱いにしてほしい。(40歳、不妊治療歴8年6ヶ月)

○保険診療になってほしい。(これだけ少子化が言われているのにおかしいと思います)(40歳、不妊治療歴4年)

○自費ではなく保険診療にしてほしい。(35歳、不妊治療歴1年)

○経済的負担を軽くしてほしい。高すぎる。(36歳、不妊治療歴3年)

○保険適用にしてほしい。補助金も地域によって出してくれるところと出してくれないところがある。公平にしてほしい。(45歳、不妊治療歴3年)

- 保険の適用。(38歳)
- 保険が効くようにならないと、子供が欲しくても不妊治療ができない人が多く、少子化になってしまうと思う。もっと積極的に法の整備をしてほしい。(34歳、不妊治療歴4年)
- 保険が使えるようにしてほしい。お金がかかりすぎる。(37歳、不妊治療歴1年)
- 医療費の助成。(44歳)
- 治療費の助成金の額・回数の拡大、または診療・投薬を保険対象範囲にする。(40歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 政府に対して、少子化を進めないためにも、授かりたくても授けられない不妊治療を受けている人にもう少し金銭的援助を。治療を受けているとフルタイムの仕事を辞めざるをえず、今まで貯めた貯金を切り崩して、正直3回も(IVF)行くと、もし妊娠しなかった場合、引き続きできるか考えます。もう少し十分な手当をする or 保険適用にするなどしてほしいです。(36歳、不妊治療歴2年)
- 保険適用にしてほしい。(33歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 金銭的補助(助成金)をもっと増やしてほしい。子供が欲しくても何らかの理由でできず、そのために通院している人にとっては、高額医療で続けられない状況も出てきてしまう。それをいづれなくしてほしい。少子化であるこの世の中、国を挙げて考えていただきたい。(38歳、不妊治療歴1年)
- 体外受精の費用負担を軽減してほしい。(41歳、不妊治療歴1年7ヶ月)
- 保険適用。助成金の金額、もしくは回数を増やしてほしい。助成金を受ける条件である夫婦の年収枠を広げてほしい。(44歳、不妊治療歴5年3ヶ月)
- 不妊治療(IVF・ICSI等)にも保険適用(本人3割負担)してほしい。そうなると、金銭面で諦める方がかなり少なくなると思う。少子化対策にもいいと思う。(43歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 不妊治療は保険が効かず、経済的負担が非常に大きい。不妊治療したくても、経済的に諦めている人は多いと思う。ぜひ、保険でできるようにしてほしい。(35歳、不妊治療歴3年9ヶ月)
- 助成金の受け取り回数を増やしてほしい。もっと保険適用部分を増やしてほしい。(36歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 不妊治療を始めるのに勇気が必要でしたが、専門クリニックに行くところなのに多くの人が悩んでいるのかと驚きました。なかなか周りに悩みを相談できる人がいません…。仕事も続けたいですが、時間に余裕がありません。もっとオープンにできる環境であれば…と思います。全ての治療が保険でまかなえるようにしてください。(36歳)
- 少子化時代の中、子供を産みたくても産めない人のために、もう少し金銭的な援助を求めたいです。(37歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 保険適用。(40歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 以前に比べ、助成金が出るので後半は本当に助かった。(41歳、不妊治療歴18年)
- 保険適用にしてほしい。(30歳、不妊治療歴10ヶ月)
- 景気を良くするためには、やはり子供が増えることが一番の近道と思いますが、政府は少子化に全く力を入れてないと感じます。治療に保険が適用されるようにしてください。治療のために仕事を辞める女性も少なくないのでは？ダムをつくるお金をもっと助成金にまわしてください。(36歳、不妊治療歴9ヶ月)
- 不妊治療費の保険適用。(41歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 費用がかかるので補助してほしい。(34歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 許可して、もっと子供を増やせる努力とお金について何か保障してほしい。(26歳)
- 助成金の金額を増やすか、期限や回数を定めるのをやめてほしい。金銭面の負担が大きく、ストレスになる。また、病院によって治療費に差があったりグレーな部分が多いので、一定の基準を設けてほしい。(37歳、不妊治療歴2年)
- 治療費については、もっと援助してもらいたい。(49歳、不妊治療歴3年7ヶ月)
- 不妊治療について、踏み込んだ教育を受けたことがないまま大人になった。(高齢になると妊娠しにくくなるということ以外に、どのような不妊要因があり、それらについてどう対処しうるか)男女ともに高校等での教育を進めるべきでは。一定の世帯収入があると不妊治療の助成をほぼ受けることができないが、共稼ぎの世帯収入は別に考えるか、そもそも収入による制限を撤廃

してもよいのでは。現在、自治体による助成だが、政府・国会も積極的に少子化対策の推進を国全体でどうしていくか真剣に考えるべき。子ども手当を出せば子供が増えるという安直な考えに安住するべきではない。(36歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○治療費の負担を減らしてほしい。国や県・市町村でも一部請け負ってほしい。(36歳、不妊治療歴7年)

○政府へ、体外受精の保険適用。(33歳、不妊治療歴3年)

○治療費を安くしてほしい。(34歳、不妊治療歴3年)

○保険適用にしてほしい。(36歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○一番問題だと思う点は金銭面と考えます。余裕がない家庭は積極的に治療が受けられず(躊躇してしまう)、子供を持つ可能性が低くなってしまったり、治療を諦めざるをえない。今後の人生にも大きく影響することなので、その点、何とかならないものかと思います。(37歳、不妊治療歴3年)

○助成金の充実。(33歳、不妊治療歴3年)

○自費診療はとても負担が大きい。(33歳、不妊治療歴3年)

○保険診療にしてほしいと思う。費用がかかりすぎる。(40歳、不妊治療歴5年)

○保険が適用され、治療費が安くなってほしい。(37歳、不妊治療歴4年)

○もっと資金援助をしてほしい。(42歳、不妊治療歴3年4ヶ月)

○現在は不妊の方が増えているので、金銭面でのサポートがあれば、もっと不妊治療をする方も増えて少子化も改善されると思います。(43歳、不妊治療歴8年)

○治療の保険適用。(41歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○不妊治療全般を保険適用にしてほしい。少子化を防ぐには、それが一番だと思います。子供ができた後の保障はあるのに、子供を作ろうとしている人に保障がないのはどうかと思う。市の助成金だけじゃ全く足りません。(25歳、不妊治療歴6ヶ月)

○通院のたびに仕事を休むことはできないので、仕事(正社員)を辞めました。でも、治療にお金がかかり、治療が進むにつれ保険も使えなくなり、次のステップに進めずにいるというのが現状です。もう少し補助や保険の適用があれば、負担が減り治療しやすくなると思います。(29歳、不妊治療歴2年)

○治療には多くの費用もかかるし、精神的な面でダメージを受けやすい。治療しやすい環境やより一層の支援(子ども手当ばかりでなく、子供を授かりたい人に対しても)を望みます。(33歳、不妊治療歴5年6ヶ月)

○治療費が高すぎるのを何とかしてほしいです。精神的・肉体的・金銭面と苦しいです。(35歳)

○保険の適用。(38歳、不妊治療歴5年)

○不妊治療の助成金を年収に関係なく交付してほしい。全額負担してほしい。(37歳、不妊治療歴2年)

○やはり治療費が高いので、もう少し軽減してほしいです。できれば、保険適用内にしてほしいです。(40歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○保険適用にしてほしい。(38歳、不妊治療歴5年)

○保険適用。(33歳、不妊治療歴8ヶ月)

○保険適用。(43歳、不妊治療歴5ヶ月)

○保険対応の治療をもう少し増やしてほしいです。(40歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○不妊治療全般に保険適用されることを希望します。(38歳、不妊治療歴7年)

○保険が使えるようにしてほしいです(自費ではなく)。(40歳、不妊治療歴4年)

○体外受精の補助のみならず、不妊治療(検査)にかかる費用や交通費の面でも控除の範囲に入れてほしいと思う。(41歳、不妊治療歴4年)

○体外受精なども保険が適用されること。(29歳、不妊治療歴1年10ヶ月)

○政府…治療費(自費)を全て保険適用にしてほしいです。なかなか授からない上に費用がかかるので、本当に大変です。(40歳、不妊治療歴10年)

○不妊治療の無料化。(44歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○治療費が高すぎると思います(特に体外受精など)。保険の適用項目を増やしてほしい。(33歳、不妊治療歴5年)

- 費用に関して、もう少し手軽に試せる額にしてほしい。少子化対策にもなるので、望んでいる夫婦への助成を考えてほしい。(35歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 治療費を保険適用にしてほしい。(35歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 私の場合は年齢(42歳)と金銭面で、今回の胚凍結をした残り2つを移植した時点で、すごく長かった、すごく辛かった不妊治療を終了します。もっと早いうちに治療すれば…。情報と、政府には金銭面の助成をお願いしたい。(42歳、不妊治療歴8年)
- 結婚が遅かったので、卵子が悪いと思っています。体外受精をしたくても、採卵する日や人数に限りがあったり、専門医が少なく費用も高く時間がかかるため(通院や診療)、会社に言いづらく就職できなかつたりです。国の助成が必要となります。子供を授かりたいと思って通っている人には、もっと助けが必要だと思います。本当に欲しくて通っている人たち(私も含めて)だからです。(45歳、不妊治療歴3年7ヶ月)
- 保険対象にしてほしい。国のサポートを充実してほしい。(31歳、不妊治療歴2年10ヶ月)
- 少子化と言われている今、子供に対しての手当はあるが、不妊治療や妊婦に対しての手当(助成)が少なすぎると思う。治療費や出産費用等は、保険適用内にしてほしいと思う。(34歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 高額であることと、有職者には通院回数が厳しく続けていくことができない。私が通院している病院は、半日に500人が来院するため、待ち時間が多く医者との会話はほとんどない。しかし、一人一人にかかる時間は数分であることは仕方ないとも思う。もう少し治療費が低いとうれしい。(41歳、不妊治療歴1年)
- 費用の負荷が大きいので、ステップアップに躊躇してしまいます。(42歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- 医療費が高い。(36歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 人工授精や体外受精の保険適用。不妊治療費助成の所得制限の撤廃。(31歳、不妊治療歴1年)
- 保険が使えるようにしていただきたい。(34歳)
- 保険を適用してほしい。子供が欲しくても授からない人たちのことを少しは考えてほしい。(40歳、不妊治療歴9年)
- 保険適用にしてほしい。もしくは、補助金を拡充してほしい。コスト面で治療を諦めている人も多いと思います。(34歳、不妊治療歴3年)
- まずはお金。やはり、4ヶ月通っていますが金銭面は苦しいです。あとは周りの理解。子供を産めと世の中は言うけど、授かり婚が当たり前のようになり、できない人が増えている現実を理解してもらえない。それがかなり苦しい。(32歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 保険適用(3割負担)で治療ができるようにしてほしい。お金がない人は子供を持てません。子供が欲しいと思っている夫婦に1回15万ではなく、50~70万ぐらいの援助を求めます。(38歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- ある程度、回数トライしている(高度医療を)人には、お金をさほど(今ほどは)気にせず治療にトライする、できる日本であってほしい。育てられても産めない人の多いこと。治療が容易にできれば、日本のため、本当に育てられる人が子供を願って産み育てられる国となる。私も、まさかこういう治療をする人生になるとは。普通の人は、金銭感覚が合わないほどに。諦めれば済むのですが、もう少し額が下がれば、まだまだ先は見えず、沼に入っているかのよう(もちろんめげずトライしますが)。(44歳、不妊治療歴4年3ヶ月)
- 不妊治療に通っている人が増えているのに保険が効かず、高額な治療が多いので、今後、保険が効くようにしてほしいです。子ども手当よりも不妊治療にプラスしてほしいです。何度、人工授精・体外受精をしたら子供ができるということがわからないので、悩んだりもしていますが、子供の欲しさの方が強いので今後も通います。早く保険を効かせてください。よろしく申し上げます。(33歳、不妊治療歴1年5ヶ月)
- 助成金を上げてほしい。回数を制限しないでほしい。(30歳、不妊治療歴1年7ヶ月)
- 治療費が保険でまかなえるようになってほしい。我が家はある程度の収入がありますが、それでもかなり苦しかったです。今のままでは、子供を望んでも収入の高い人だけが受けられ、そうでないと諦めることとなり、とても不公平です。みんな望んでいることは同じなのです。(46歳、不妊治療歴6年)

○高額な体外受精を保険適用としてほしいです。金銭面がネックとなり、治療を諦める夫婦はかなりの数だと思います。現に私たちも人工授精並みの費用なら、まだ治療を継続したいのですが、限界が近づいてきています。(42歳、不妊治療歴3年)

○政府に…とにかく医療費が高すぎる。保険が適用されたらもっと安心して治療ができるが、家計を圧迫され、もう少し頑張りたいが諦めなければいけないのかなという状況です。費用が問題で治療を続けられず諦める人が多いです。(41歳、不妊治療歴9年)

○少子化と騒いでいるなら、なぜ保険扱いにしないのか、それが不思議で仕方ありません。(36歳)

○もっと治療費を国で負担してほしい。働きながらの治療は、心身ともに辛いところもあり、辞めてしまうと生活できなくなる。今の不妊治療費は、全て両親が負担してくれているが、それも心苦しいものもある。もし、両親がお金を出してくれていなかったら、私たちは子供を授かるチャンスももらえないことになる。それで治療を始められない夫婦も少なからずいると思う。これでは少子化も何も…。辛い思いをしている人は本当にたくさんいます。(27歳、不妊治療歴3年)

○経済的に援助がもっとあれば助かる。(36歳、不妊治療歴2年1ヶ月)

○高額なので助成金の回数を増やしてほしい。また、1年に2度までではなく、5年で〇回としてほしい。アラフォー患者は1年に2度では無理。(41歳、不妊治療歴1年3ヶ月)

○世帯収入の額に関係なく、不妊治療の補助金を出してほしい。(39歳、不妊治療歴2年2ヶ月)

○超先端治療は県などで補助が一定ですが、不妊治療の市町村の補助はバラバラです。みんな同じに治療をし、妊娠を望んでいます。上限額があること、財政の問題も市町村で違うこともわかりますが、何万円も補助額が市(となりの市)で違っているのはびっくりさせられます。同じになればと思います。(29歳、不妊治療歴8ヶ月)

○不妊治療の医療レベルが違いすぎるため、私のような地方から都内の病院にかかる患者の経済的・肉体的・精神的負担は増すばかりです。地方は病院数も限られるため、助成制度の更なる充実、申請の簡便さも考慮していただけたらと切に願います。(40歳、不妊治療歴4年10ヶ月)

○治療でかかる費用を保険対象にしてほしいし、もしくは、すごく安くしてほしい。(40歳、不妊治療歴3ヶ月)

○不妊治療費を不妊治療が受けやすい額にしてほしいです。不妊期間が長くなると、だんだん費用を払うことがしんどくなってしまいます。(40歳、不妊治療歴5年)

○卵管造影の時に油性の造影剤を使ったために子宮内に残り、それをきれいにするために腹腔鏡手術をした。早く水性の造影剤を保険適用にしてほしい。(33歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○保険適用にしてほしい。お金を貯めている間に歳は取り、卵子の老化が避けられない。私の友人たちも、健康保険が使えるくらいでもIVFしたいという30代はたくさんいる。少子化にはまず、IVFを保険適用にすることだと思う。高すぎます。毎回30~50万かかるのは。(38歳、不妊治療歴2年7ヶ月)

○何よりも不妊治療が高額なこと。少子化と言うけれど、子供を望んで治療している人はたくさんいます。中には、経済的な面で断念する人も多いのです。無料とは言いません。せめて、保険扱いにしてほしいです。あと、「不妊治療は早めにスタートした方が良い」と、もっと宣伝？してください。病気や加齢で、こんなに妊娠率が低くなるとは思いませんでした。もっと早く知っていたら、もっと若いころから治療していたらと残念でなりません。(44歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○費用の負担への協力。(45歳、不妊治療歴2年)

○政府に対し…体外受精するには高額な支払いをしなくてはならないので、もっと助成金を出してほしい。または、保険適用できるよう、法改正してほしい。(49歳、不妊治療歴5年)

○30代で不妊治療を始めたかったが、時間的にも経済的にも余裕がなく、40歳半ばから不妊治療を行っています。政府に対し、少子化対策として、不妊治療費の個人負担軽減、助成金等を検討してほしいです。(49歳、不妊治療歴5年)

○子供のための不妊治療にも保険を適用してほしい(人工授精・体外受精)。(35歳)

○助成金。(32歳、不妊治療歴4年3ヶ月)

○治療費が高額。半額でもいいので、保険適用になってほしい。(41歳、不妊治療歴1年)

○体外受精の治療に関しては、保険外で費用負担が大きいので、一部でも保険適用になればあり

がたいです。少子化ですし…。金銭面で諦めている夫婦も多いはずです。(27歳、不妊治療歴9ヶ月)

○不妊治療にかかる費用に対し、保険の対象になってほしい。(30歳、不妊治療歴9ヶ月)

○不妊は様々な原因がありますが、体外受精について。体外は実費になりますが、明らかな原因があつて、体外しか方法がない夫婦(卵管がない、無精子など)に関しては、保険適用にしてほしい。年齢制限と回数を決めて。原因不明、加齢、その他については、助成金もあるし、今まで通りで良いと思います。不育症のへパリン注射についてニュースが出ましたが、とても良いことだと思いました。(39歳、不妊治療歴4年)

○保険適用にしてほしい。(41歳)

○助成金→1年に2回は少なすぎだと感じます。集中的に治療ができるようにしてほしいです。金銭的な面でのストレスも大だと思えます。(42歳、不妊治療歴2年)

○人工授精・体外受精を保険適用にしてほしい。(31歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療は金銭的にも厳しかったりするので、少子化の日本にとって、不妊治療を受けやすくできるような制度があれば幸いです。(31歳、不妊治療歴9ヶ月)

○不妊治療にも保険適用できるようにしてほしい。収入にかかわらず、補助金が出るようにしてほしい。(37歳、不妊治療歴4年)

○不妊治療は健康保険外の部分が多く、治療費が高額になります。しかも、1、2回で結果が出る保証はなく、この先どこまで続くのか、また続けられるのかという不安は大きいものです。少子化対策で子ども手当もわかりますが、まずは産みたい人が産んで、子供を増やすことにも目を向けていただき、不妊治療が保険適用になることを望みます。治療費が軽減することにより、治療を受けられる人、継続できる人が増えると思われれます。自分たちの意思で受けている治療ではありますが、様々な負担が大きすぎます。せめて、治療費の負担だけでも、国で考え軽減していただきたいものです。(39歳、不妊治療歴3年)

○うちは採卵1回にして、幸い子供を1人授かりました。助成金も利用させていただき、ありがたく思っています。不妊治療の情報はインターネットから収集していましたが、何回も採卵されても妊娠に至らない方もいらっしゃると思います。助成金の回数、年数を増やしてもいいのでは?と思いました。今は2人目を考えていますが、助成金制度は本当にありがたいです。(31歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○体外受精等、助成金の金額を上げてほしい。(43歳、不妊治療歴6年)

○政府に対して…少子化対策というのなら、なぜ不妊治療を全面的にバックアップすることをしないのか。子ども手当を出して、働けない扶養家族の手当を減らすなんてひどすぎます。(32歳、不妊治療歴3年)

○治療代の補助(収入に関係なく)。(45歳、不妊治療歴4ヶ月)

○保険や助成金等の改善。(37歳、不妊治療歴4ヶ月)

○子ども手当もいいが、人口減少が問題となっている日本で、まず、子を産みたいと思う人が、負担なく産める世間にしてほしい。保険治療の範囲が狭すぎ、また助成金も全く足りない状況で、不妊に悩んでいる夫婦は山ほどいる。その状況をわかってほしい。まず、保険治療で体外受精までできるようにしてほしい。(29歳、不妊治療歴2年)

○治療費については、もう少し補助(保険の適用・助成金等)を手厚くしてほしい。(29歳、不妊治療歴1年)

○治療費のことです。この治療をしていると働くことも難しいですし、保険も効かず高額な費用がかかります。補助金もありますが、ありがたいですが、年に2回まで1回分の治療費にも満たないのです。私はまだ夫婦の貯金で続けられていますが、お金がなく治療ができない夫婦もたくさんいると思います。私の通っている病院の患者数の多さには、最初本当に驚きました。これだけ不妊に苦しんでいる人がいるのに、政府は少子化と言っても、産みたくても産めない人がたくさんいることをどう考えているのでしょうか?(37歳、不妊治療歴7年)

○不妊治療費用をもっと安くしてほしい。補助金などの制度も、もっと多く検討してほしい。(41歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○保険でIVF等、治療ができればよい。せめて、IVF注射料金が保険使用できるとよい。料金が高すぎて、何度も治療が不可能。(41歳、不妊治療歴3年)

- 治療代が高すぎて、金銭的にも諦めなければならなくなるので、国がもっと援助するべき。(28歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 治療はとても金銭的に負担が大きいので、もう少し保障してほしい。子供が減ってきている今、不妊で悩んでいる人たちに、国はもっと力を貸すべきだと思う。子供がいない人は治療でお金がかかるのに、子供がいる人には子ども手当があって、平等ではない気がするし、もっと不妊で悩んでいる人に目を向けてほしい。(28歳、不妊治療歴3年)
- いろいろな面での緩和、および保険適用。(43歳、不妊治療歴3年4ヶ月)
- 不妊治療費の保険適用。禁煙外来など、年齢的に早急に必要でないものが保険適用になるのが腹立たしい。障害者認定の人の(働ける人もいるのに)医療費控除・交通費、生活保護者の不要な受診・交通費の助成をするなら、無駄を省いて不妊治療や研究にまわしてほしい。(38歳、不妊治療歴3年)
- 補助金では、収入の少しの違いで受けられず困っています。不妊治療している人は、意味もなく安易に通院する人はいません(内科 etc と違って)。「保険を全面的に適用」することが、少子化問題の好転に役立ちます。今、子供がいる人への対応ばかり。選挙目的か？(39歳、不妊治療歴6年2ヶ月)
- 体外受精も保険(や補助の充実)が効けばいいと思います。(37歳)
- もう少し助成金額を増やしていただくか、保険適用にしていっていただきたい。(38歳、不妊治療歴4年)
- お金がなく体外受精に進めない人、または、回数に限りを持たないと経済的に厳しい人がたくさんいると思うので、助成金に年何回とか限らず、何度でもいけるようにしてほしい。もっと助成金を増やすや保険が効くようにしてほしい。(33歳、不妊治療歴2年)
- 国は少子化問題をあげるのならば、不妊治療を保険扱いにするなど、もっと金銭的負担をとにかく減らすべきだと思います。高額のために治療を諦める人もいれば、治療費にストレスを感じながら治療を続けるという悪循環の人も少なくないはず。(42歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 政府には、やはり治療費の補助というか、保険適用の幅をもう少し増やしていただけたら、生活が少し楽にはなるのですが…。(34歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 保険の適用する検査(不妊)を増やしてほしい。子供ができなくて困っている人に対して、もっと優遇してほしい。不妊治療が特別なことでなく、風邪を引いた時みたいに、当たり前の治療が受けられるようにしてほしい。(30歳、不妊治療歴4ヶ月)
- やはりお金がかかることなので、補助金を増やして期間は設けず補助してほしい(保険が効くようになれば、負担が少しでも少なくなります)。(40歳、不妊治療歴4年)
- 体外受精や顕微授精にかかる費用を保険適用にしてほしい。または、補助金を無制限にしてもらいたい。(27歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 治療の負担が大きいので、助成金を増やしてほしい。または、保険が使えるようにしてほしい。(39歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 助成金制度をもっと整備してほしい。(31歳、不妊治療歴4年6ヶ月)
- 不妊治療の費用が高い。もっと国がバックアップすべき。自治体によっても助成の制度も違いがある。どの県に住んでいても、助成が同じように受けられるようにしてほしい。(37歳、不妊治療歴3年)
- 費用が高く、いつまでもチャレンジできることではありません。(33歳、不妊治療歴3年)
- 治療費を補助していただきたい。(33歳、不妊治療歴3年)
- 保険適用。(37歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 保険の適用。少子化が問題になっているわりに、何万といる不妊治療者に対して、積極的に助成しようという動きが見られない。たださえ身体的苦痛を伴うのに、経済的・精神的負担も強いられている。特に男性不妊の場合、女性にとっては最悪。本来不要な投薬・連続注射により、副作用に悩まされ、問題のない体も弱ってきてしまう。女性不妊は取り上げられやすいが、男性不妊での女性の苦悩も世間に知ってほしい。そして男性不妊は、男性を治療する方向にいてほしい(女性が犠牲になりすぎなので)。未婚でも子供を産んでくれる女性を優遇してどんどん産んでもらおう、という話が政府から出ていたが、全く納得できない。簡単に産んで虐待して事件になっているケースが多々あるのに、助長するような案。治療に来ている真剣に子供が欲しい人

にこそ、援助していただきたい。(40歳、不妊治療歴2年)

○不妊治療は月経により通院する日が決まるため、不定期なスケジュールとなり、結局きちんと治療をするために仕事を辞めざるをえなかったのに、かなりの高額な治療費がかかるので、もっと保険がすべてに使えるよう、経済的負担がないようにしていただきたい。(37歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○金銭面での補助(保険適用)。(31歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○金銭的負担を軽減する措置の導入。負担が大きく、家計を圧迫しており、5年ぐらいが限界だと思う。出産後の子供の支援をするなら、子供が欲しいと思う家庭も支援してほしい。(34歳、不妊治療歴3年)

○顕微授精、凍結胚移植、透明帯除去法での治療を行っています。年間100万円以上かかり、通院も月6回通うこともあり、メンタル的にも限界です。世帯収入750万以上なので東京都の助成も申請できず、費用(資金)も限界です。少子化と言われ、子ども手当という前に、不妊に政府はもっと目を向け、不妊治療に力を入れるべきだと思う。これでは子供ができたころには、預金も底をつき生活が苦しくなる。助成も所得制限をなくすよう、もっと予算を検討すべきである。

(41歳、不妊治療歴3年)

○今や10組中1組が体外受精をしている。にもかかわらず、政府としては対策がなされていない。採卵～移植まで1回に50万と高額であり、1回で妊娠できる人は少なく、子供ができたころには預金も底をついて、心から喜べなくなってしまう(今度は子供を育てるお金が心配になってくる)。少子化対策を本当に考えるのであれば、所得制限を設けるべきではないと思う。高額なため不妊治療を諦めざるをえない状況にある。(43歳、不妊治療歴3年)

○助成金制度(30歳、不妊治療歴7ヶ月)

○治療費が多くかかるので大変で、治療がいつまで続けられるかと考えてしまいます。もう少し治療費が下がるとうれしいですし、助成金には収入制限をされるのですが、子ども手当にはかなりお金を使っており、そのあたりのことを考慮していただきたいです。(46歳、不妊治療歴13年)

○治療費が保険適用されると、経済的に少しは楽になります。治療中は時間や休みに融通がつけば良いけど、なかなか仕事も就きづらいです。(40歳)

○助成対象を拡大してほしい。(30歳、不妊治療歴7ヶ月)

○不妊治療費の助成制度の見直し。年収制限を今以上に低くしてほしい。(40歳、不妊治療歴2年)

○不妊治療は金銭面でも精神面でも負担が大きいため、金銭面だけでも改善されるよう助成金をもっと増やしてほしい。(35歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○費用負担が重すぎる。もっと医療面を政府として(国として)、援助・保護・支援・推進すべき。(39歳)

○不妊治療に保険が適用されるといいです。(40歳、不妊治療歴1年11ヶ月)

○不妊治療費助成金支給について、支払い対象者が年収に応じて支払いされるのではなく、医療費が多くかかった人を対象にしてほしいものです。少子化と言われている時代に、子供に国がお金を支給することよりも、子供を作るために支給していただけたらと思います。自分中心な考え方もかもしれませんが、たくさんの方が不妊治療に来ていて本当にそう思いました。(40歳、不妊治療歴2年9ヶ月)

○金銭面での補助。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○不妊治療の助成金をもっと増やしてほしい。または、保険適用にしてほしい。子ども手当とかいう前に、子供ができない人の立場をもっと考えて、いろいろ補助すべきだと思う。(30歳、不妊治療歴2年)

○治療費が高すぎるため、生活の負担が大きすぎる。私自身そのことで、治療を続けたくても続けられないという思いがある。金銭的負担を軽くしてほしい。(43歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○不妊治療に必要な検査は、全て保険適用にしていただきたい。(30歳、不妊治療歴3ヶ月)

○助成金の対象を広げてほしい。今は前年度または前々年度の世帯収入に対してだが、前年または今年(今月)にしてほしい。結婚のため昨年退職し現在は無職なのに、この条件では助成金の対象にならず、金銭面が大きな負担になり不妊治療を続けることができない。(42歳、不妊治療歴

7ヶ月)

○保険の適用。(42歳、不妊治療歴6年)

○不妊治療の費用が高すぎる。税金を上げることや高校無償化等(私たちは子供ができないのに)で税金負担が増えるばかり。その分、不妊治療費を下げしてほしい。治療費が必要なため共働きするも、治療で会社を休んだり迷惑をかけることでストレスも溜まる。不妊治療に専念できる環境づくりをしてほしい。(35歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○自己負担(自費)が多いため、保険適用してもらいたい。(不妊治療歴3年)

○少子化というわりに、不妊治療の国の補助が少ない。晩婚化がいかに進んでいるかは、不妊治療に来ている患者を見ればわかる。子供を望む人たちの補助をし、産む政策をすべき。(41歳、不妊治療歴2年)

○金額が高すぎます。少子化と言われているのに、治療費がかかりすぎて諦めている夫婦は多いです。実際、自分も限界に近いです。両親の助けがなければ治療も進められません。もう少し金額が低ければ、若い夫婦でも治療がしやすいと思います。(33歳、不妊治療歴7年)

○保険適用。治療に専念したくても、いつ終わるかわからないため、仕事との両立は大変だが辞められない。(34歳、不妊治療歴5年)

○健康保険適用。(36歳)

○少子化と言っているなら、もっと助成金を増やしてほしい。(38歳、不妊治療歴9年)

○高度医療に対する保険の適用。(46歳、不妊治療歴4年8ヶ月)

○金銭面の支援。(38歳、不妊治療歴1年)

○費用の援助。(38歳、不妊治療歴3年)

○子供ができた人には子ども手当など十分な助成があるが、不妊治療の助成は金額が少ない。保険も効かないし仕事も制限されるので、安心して治療できるようにしてほしい。(39歳、不妊治療歴4年)

○体外受精などを保険適用にしてほしい。費用が高く、なかなかチャレンジできないので…。(31歳、不妊治療歴2年)

○不妊治療費がかかりすぎる。保険が使えるようになれば、もっと治療を受けられる人が増え、少子化の問題も良くなるのでは?私も、もう治療費を出す余裕がなく、治療を終わらせなければなりません。すごく悔しいです。(41歳、不妊治療歴17年)

○政府に…治療費を無料にしてほしい。治療費を貯めるために治療を休む→年齢が高くなって妊娠率が低くなる。子供を諦める人もいて、少子化なのだから子供を授かりたい人たちを積極的に援助すべき。今の助成制度だと役所に知り合いがいると申請しにくい。(38歳、不妊治療歴5年)

○不妊治療は、助成対象以前の検査などにも高額な費用が必要です。超高齢社会を目前に出生率の低下は、女性の社会進出や高学歴化により晩婚化が進んだ点も明らかに一つの要因であり、社会のためにこれまで働いてきている女性たちに、もっと経済的援助が必要だと思います。一部の自治体にもありますが、全国一律に不妊治療費無料、あるいは低額にすると出生率はぐっと上がるものと思われます。また婦人科疾患については、小学生のころから教育が必要だと思います。長い目で見ると、それが出生率の上昇にもつながると思われます。(36歳、不妊治療歴3ヶ月)

○助成金の金額を増やしてほしいです。現在は、ほとんどの自治体で収入制限があります。夫の年齢が高い場合、瞬間的に見れば高収入でも、若い世帯よりも将来働ける期間が短くなるため、その後の育児などを考えると多額の治療費は負担が大きいです。また、年齢が上がれば妊娠が難しくなることが、もっと周知されたらいいと思います。生理があれば妊娠できると思って先延ばしにする方が多く、心配になることがあります。(38歳、不妊治療歴5年)

○不妊治療は高額なため、今の助成金だけではいつまで治療できるのか不安です。治療費が払えなくて諦めている人も多いようです。不妊症は病気ではないので保険が使えないのが辛いです。いっそ病気扱いしてもらった方が楽です。私たちは子供がいないわけではない!子供を産んで将来が不安なわけではない!子供を望んでいるのです。それでもできないのです。この苦しみ分かりますか?少子化対策を考えているのであれば、不妊のことももっと考えてもらいたいです!!不妊(婦人科検診)に対して学校でも教えるべきだと思う。少しでも同じ思いをしないように…。(36歳、不妊治療歴6ヶ月)

- 不妊治療費が高額なため、経済的理由で治療を積極的に受けられない。(34歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 日本の政府に対しては、不妊治療の保険適用を求める。不妊治療は保険が効かない治療があるので、注射1つにしても高額です。体外受精をしたいと思っている人でも経済的に断念する人もいると思うので、少子化の今、もっと金銭面で助けていただきたいと思う。(35歳、不妊治療歴2年)
- 保険適用にしてほしい。経済的に大変です。(35歳、不妊治療歴5年)
- 不妊治療はタイミングもあり仕事を続けることが難しい。しかし、治療費を稼ぐためには共働きをしないと経済的に難しい。また、多くの不妊クリニックはそれに特化しているので、時間・休みがきっちり決まっており、受診日を決められることによって、受診するためにどのくらいの人が経済的に苦しくなっているかと思う。もっと経済的支援と病院受診の門戸を広げてほしい。技術的なことはそのあとだ。だって、それぞれに特化した不妊の中でも専門があるのだから、経済が支えられればそこに受診に行ける。(45歳、不妊治療歴15年)
- 治療に関して全面的な保険の適用。助成等(費用が主)の充実。(35歳、不妊治療歴1年)
- 幅広いフォローと保険の適用。助成金の年度内回数と5年の縛りを外して、計10回としてほしい。(31歳、不妊治療歴9年3ヶ月)
- 体外受精・人工授精および不妊治療にかかる検査への保険適用、もしくは助成金制度の充実化。(35歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 意味のない治療は時間とお金のムダです。保険を適用できるようにしてほしい。国の未来を考えるなら、不妊治療は大きな事業です。もっとお金の負担を減らし、不妊治療を隠さなくてよい社会づくりをしてほしい。(36歳、不妊治療歴4年)
- 地方、地域によって助成金などのサポートに差がありすぎ、国として一律に費用をサポートしてほしい。(36歳、不妊治療歴3年3ヶ月)
- 保険適用を望みます。(33歳、不妊治療歴1年9ヶ月)
- 助成制度の充実(少子化の抑制のために)。(34歳、不妊治療歴1年)
- 不妊治療をして子供を得たいという夫婦はたくさんいるのに、保険が効かないという理由で子供を産めないという夫婦は多いはず。子供ができてからの手当とかではなく、まず子供ができるように少しでも助けてもらえればと思う。(37歳、不妊治療歴4年6ヶ月)
- 今の助成金制度でもありがたいが、保険適用にしていたら、もっとたくさんの子供を望む方が治療に挑戦できると思う。(33歳、不妊治療歴2年)
- 治療費の保険適用。(37歳、不妊治療歴4年)
- 保険診療適用。不妊治療(不育症含む)の啓蒙活動。(41歳、不妊治療歴5年6ヶ月)
- フルタイムで働いてもらった給料やボーナスも治療に消え、助成金は年収で引かかってももらえず、精神的・肉体的な負担や苦痛は我慢できますが、経済的な問題で治療ができなくなりそうです。そんな気持ちが政府の方たちに理解してもらえるのか不安です。(34歳、不妊治療歴4年)
- 全ての不妊治療に保険が適用されること。不妊治療費の助成金増額。(38歳、不妊治療歴3年7ヶ月)
- 治療の助成に収入の制限があるため、助成が受けられず経済的ダメージが大きい。収入制限をなくしてほしい。(39歳、不妊治療歴5年)
- 体外受精を含め不妊治療は自由診療のため、かなり高額になる。保険適用になれば、もう少し生活が楽になると思います。(41歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 治療費の保険適用。(29歳、不妊治療歴2年2ヶ月)
- 経済的にも余裕がない中、全ての貯金を使い果たし、限界が近づいてきている。助成金の金額アップと、年に使用できる助成金の限度回数をなくしてほしい。(39歳、不妊治療歴2年5ヶ月)
- 保険適用。(28歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 少子化というわりには保険の適用がなく、その点で日本は遅れていると思います。もっとたくさんの方が治療を受けられる環境整備を早急にすべきだと思います。(37歳、不妊治療歴10年9ヶ月)
- 体外受精なども保険適用にしてほしい。経済的負担が大きすぎ、何度もチャレンジできず諦め

ざるをえない。(不妊治療歴 4 年)

○治療費の保険適用。(40 歳、不妊治療歴 1 年 9 ヶ月)

○金銭的補助。(37 歳、不妊治療歴 1 年)

○少子化対策の範囲を広げてほしい。つまり、不妊治療も含めて考慮してもらいたい。保険の適用を望みます。自治体の補助だけでは限度があって経済的に辛い。(46 歳、不妊治療歴 2 年 2 ヶ月)

○とにかく保険適用にしてほしい。少子化を騒ぎ立てるなら、子供が欲しくてもできない人をサポートすべきだと思います。子ども手当は、自分に子供がいらないのに税金を支払わなければならない、金銭的・精神的に苦痛です。子供がいる人だけではなく、治療を受けている人にも援助してほしい。助成金も対象外なので、高額な治療を受けるには限度があります。(40 歳)

○高度不妊治療に健康保険の適用を望みます。(40 歳)

○まずは保険適用。高額なので、回数を重ねることにモチベーションが下がり、ストレスがたまる。(38 歳、不妊治療歴 4 年 6 ヶ月)

○病気ではないと線引きされ自費扱いが多いが、自然に妊娠しない時点で通常の通院と同様、全て保険適用にしてほしい。妊娠を望む女性にとって、妊娠するまでの過程は非常に負担にもなるため、理解を望みます。(38 歳、不妊治療歴 3 ヶ月)

○保険外診療になるので金銭的に辛いです。早く保険適用されることを望みます。(43 歳)

○助成金制度の充実。現存のものよりもっと充実すべき。お金のために治療を諦めるのは、とても辛いです。保険適用ではなく、あくまで助成金という形で。(29 歳、不妊治療歴 10 ヶ月)

○1 回 50 万の体外受精なんて、正直何回もできるもんじゃない。1 回 3 万の人工すらキツキツ。これだけ高齢化なら、不妊治療をタダにしてとことんバックアップしてくれればいいのにと思う。(34 歳、不妊治療歴 1 年)

○保険適用にしてほしい。無利子で不妊治療の費用を貸し出す制度とか作ってほしい。(31 歳、不妊治療歴 2 年 8 ヶ月)

○金銭的な面での援助がもっとあればと思う。(35 歳、不妊治療歴 4 年)

○子供をどんどん産んでほしいと言うわりには、不妊治療に関して援助がほとんどないし、体外や顕微授精など高額だと思う。ゆえに、なかなか子供が欲しくても治療に踏み切れない。(30 歳、不妊治療歴 6 ヶ月)

○不妊治療、不育症検査 etc ほとんど保険が効かないので、助成金など制度があればと思います。(30 歳、不妊治療歴 6 ヶ月)

○保険が効くようにしてほしい。(治療が長引くと金銭的にきつくなり諦める人も出てくるため。少子化の原因の一つだと思う。)(31 歳、不妊治療歴 3 年 6 ヶ月)

○不妊治療の際の検査費用やタイミング法の治療でも保険適用か助成金を出していただきたいと思います。(37 歳、不妊治療歴 6 年)

○少子高齢化対策を強化するのであれば、助成などの充実を求めたい。生産年齢減少による国力低下が心配。(40 歳、不妊治療歴 1 年)

○初期の不妊治療に関しても金銭的な補助をしてほしい。(33 歳、不妊治療歴 1 年)

○不妊治療で悩む人はすごく多いと聞き、年月もかかって金銭面・精神面できついので、せめて法律で全額負担してもらえるようにしてほしい。金銭面で子供を諦めないといけないのは辛い。(33 歳、不妊治療歴 2 年)

○「不妊」という言葉が嫌いなので「未妊」にしてほしいです。不妊はいかにも病気という感じがします。でもこれだけ治療を続けても結果が出ないと、自分は病気だと思ってしまうのは仕方ないと思います。ならば逆に「不妊＝病気」と捉えて、完全保険適用にしてほしいのです。色々な問題が起こるやもしれませんが、今よりずっとましです。不妊治療の費用を保険が効くようにし、暗いトンネルの中で頑張っている私達を助けてください。お願いします。(39 歳、不妊治療歴 3 年)

○体外受精を試みたいのですが、金銭的に難しく諦めております。もう少し治療に対しての援助をしていただけたら、治療する人も増えて子供が増えるのではないのでしょうか。(38 歳、不妊治療歴 2 年)

○政府に対して、援助額を上げてほしいです。私達夫婦の場合、幸いなことに夫の勤務先からか

なり補助があります。それがなければ20代での体外受精は実行できなかったと思います。卵子・精子共に若いうちに体外受精へ取り組んだ方が良いとわかっているにもかかわらず、大多数の若い夫婦には経済的な障壁が高すぎます。(29歳、不妊治療歴1年)

○自治体の助成を受けるにしても年収制限があるため、撤廃してほしい。(収入の多寡と不妊はそもそも無関係であるのに)(31歳、不妊治療歴1ヶ月)

○できれば少し費用を抑えてほしい。政府、国に援助してもらえると経済的な負担が減らせるので助かる。(25歳、不妊治療歴1年)

○治療にかかる費用が高い。お金がなければ子供を望んでいても治療ができない。少子化を問題と言うなら、政府は子供を望んで治療している人達に配慮すべきでは…。(40歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○周りが自然妊娠していく中、不妊治療を行わないと子供を授からないというのは精神的苦痛である。それなのに毎回高い治療費、保険適用外等で二倍もの痛手。病気ではないかもしれないが、政府には不妊に対してもっと協力的になってほしいと思う。(27歳、不妊治療歴7ヶ月)

○一番は費用。どの県でも補助があれば良いと思う。(34歳、不妊治療歴3年5ヶ月)

○医療費の負担を減らしてほしいです。(38歳、不妊治療歴2年)

○日本国内で保険治療できるようにしてほしい。禁煙外来が保険でできるのに、不妊はできないのは納得できない。少子化対策の一つとして考えてほしい。(37歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○晩婚に伴う少子化を考えると女性のほとんどが不妊治療を受けるようになります。IVFなどの高度治療費がもっと下がってほしいと思います。(39歳、不妊治療歴1年)

○治療費の援助。(もう少し安くなると助かります。精神的にも経済的にも追い詰められます。)(36歳、不妊治療歴1ヶ月)

○不妊治療をしなければ子供を望めない人が晩婚化の結果、ほとんどになっているにもかかわらず、保険が効かず高額な費用を払わなければならないのはおかしい。政府は少子化対策の根本である不妊治療に関して勉強し、保険適用にするべきだと思う。(39歳、不妊治療歴1年8ヶ月)

○保険適用にしてほしい。(37歳、不妊治療歴4年)

○助成金制度の回数を増やしてほしい。県や市によって制度が違うのもおかしいと思う。県や市ではなく、国が助成金の上額限度を上げて手助けしてほしい。一人も授かってない人には、もっと考慮してほしい。保険内での不妊治療の項目を増やしてほしい。(31歳、不妊治療歴6年)

○子供が欲しくてもできない人がたくさんいるのに、少子化だと言われていて、なら不妊治療の費用を国から負担する制度がほしいし、あるのなら病院から説明があると良いと思う。体外受精は高額すぎて、行いたいと思うが人工受精までしか考えられない。(36歳、不妊治療歴8ヶ月)

○不妊治療はステップアップすればするほどお金もかかってくるので、地方からの補助金をもう少し増やしたり、働く会社からの補助がおきる等の制度を工夫してほしい。(26歳、不妊治療歴2年3ヶ月)

○治療中の費用等を免除、もしくは保険が使えるようにしてほしい。自費だと毎回の人工授精代が高く、諦めてしまおうになる。(35歳、不妊治療歴1年)

○助成の拡充。治療費の保険適用の拡大。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○不妊症も病気と認めて保険適用を認めてもらいたい。少子化のためにも、金銭の問題で治療を断念する夫婦が減るよう助成金なども拡大してほしい。医療機関には、最高水準の治療をしてもらいたい。患者の心のケアにも力を入れてもらいたい。(33歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○保険治療ができるようにしてほしい。(42歳、不妊治療歴8年)

○不妊治療を始めて多くの方が苦しんでいる現実を見ました。治療にはお金もかかるが、精神的・肉体的にも大変で両立は難しい。子ども手当のように子供がいる人ばかりに手当をするのではなく、助成金などをもっと手厚くしてほしい。金銭面がネックで諦めている人にもチャンスを与えることで、少子化対策にもなるのではないかと思います。(34歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○数十万単位の経済的負担が重すぎる。治療が幸運にも成功した場合、その先の教育費を考慮すると、治療費に貯蓄の全てを使い果たすわけにもいきません。負担がもっと軽ければ子供は何人でも欲しいので、もっと積極的に治療を行うのに…と思います。(38歳、不妊治療歴2年)

○治療費用の問題。子供ができなくて苦しいのに、お金の心配までしなくてはならない。また顕微授精チャレンジしたいのに、もうお金がなくてできない。大体1回で40万~かかる。助成金

- は助かるが年2回までなので少ない。とにかくそれだけ。(36歳、不妊治療歴3年)
- 治療に高額な費用がかかります。健康保険が適用されるよう強く望みます。(38歳、不妊治療歴4年)
- もっと不妊治療費の補助があってもいいと思います。(33歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- AIH、IVF、ET等の不妊治療に保険が適用されるようになってほしい。(40歳、不妊治療歴9年)
- もう少し補助金を出してほしい。(34歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 体外受精が高額だと聞いています。望んでも子供ができない夫婦のために、そして日本の少子化を食い止めるために、国(地方)からの補助の増額をお願いしたい。でないと、日本に未来はありません。(30歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 保険適用を希望。不妊治療には年収制度があるのに、子ども手当には制限がないのは不平等すぎる。治療中は病院に行く日数が多く、働きたくても日程の都合がつかず仕事ができないのが実情。お金の工面が大変。不妊治療に対する認識が少ない人が多いので、周りに話せず精神的に辛い。技術など地域格差が大きいので、もっと全国的にすすめてほしい。(北関東以北に病院が少ない)(32歳、不妊治療歴3年)
- 政府に望むこと…不妊治療にも保険を適用するか、もっと補助をしてほしい。(38歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 子供ができない不安プラス、治療費の不安もあります。望んで治療する人には保険適用等の補助を望みます。なかなか人には言えないことだし、デリケートな部分をさらけ出しますので、先生やスタッフの方は精神的な配慮も期待します。(27歳、不妊治療歴2ヶ月)
- 全額保険診療にしてほしい。(38歳、不妊治療歴5年2ヶ月)
- 政府に不妊治療の費用をもっと拡大してほしい。(37歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 助成金や保険の適用。(38歳、不妊治療歴4年)
- 北欧？ヨーロッパでは保険の適用が認められていて、安く治療ができると聞いたことがある。少子化が進んでいる中、子供が欲しい人達を見捨てず、政府には経済的支援をしてほしい。(35歳、不妊治療歴4年)
- 少子化を食い止めなければならぬし、子供が欲しくてもできない夫婦がこれだけ大勢いるので、もっと補助を増やすべきであると思う。(37歳、不妊治療歴4年)
- 自由診療で自費の部分が多いので、補助の制度を確立してほしい。(39歳)
- 全ての治療に保険適用。不妊治療にもっと関心を持ってほしい(特に政府)。補助金を増やしてほしい。(35歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 治療費がかかるので保険適用にしてほしい。(32歳、不妊治療歴5年)
- 経済面の支援。(36歳、不妊治療歴1年7ヶ月)
- 体外受精も保険適用にしてほしい。(31歳、不妊治療歴1年)
- 経済面での負担を少しでも軽くしてほしい。(35歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 体外受精など全部保険診療になってほしい。家計の貯蓄が無くなった時点で、子供を諦めないといけなくなるので。(30歳、不妊治療歴3年)
- 医療費の補助を政府に望みます。(35歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 不妊治療の補助の幅を広げてほしい(収入があっても負担)。保険治療と認めてほしい(ICSIまで)。少子化と言うばかりで不妊治療をしている人への配慮が足りない。産みたくて高額な治療費を出している、産む前の人へも平等に。こんなに技術が発展しているから「不妊」を早くなくしてほしい。(41歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 子ども手当だけではなく、不妊治療代をタダにしてほしいです。治療代を稼ぐために働き、体外受精で妊娠したのに流産した方、たくさんいます。(35歳、不妊治療歴6年)
- 収入の少ない世帯でも不妊治療ができるよう、補助金を増やしてほしい。(34歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 不妊治療全般に対して、政府からの補助金がもらえると嬉しいです。金銭問題で治療をためらう人も多いと思います。子供が欲しいと思っている人の力になってください。少子化の歯止めになるのではないのでしょうか。(31歳、不妊治療歴2年5ヶ月)
- 治療費の保険適用。(44歳、不妊治療歴18年)
- 体外受精でも保険適用してほしいです。(45歳、不妊治療歴2年8ヶ月)

- 経済的負担を軽減できるようなシステムを作ってほしい。(40歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 金銭的援助。(32歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 少子化だと言うのなら、不妊治療への助成金を増やすべき。世帯収入で区切られることなく、全員へ等しく援助されるべき。また、医師・NSは患者の気持ちに沿った対応ができるよう日々努力してほしい。(36歳、不妊治療歴2年)
- 治療が長引くほど経済的負担も大きくなるので、不安感も大きくなる。保険の適用を認めてほしい。(35歳、不妊治療歴1年4ヶ月)
- 治療費の助成金をもっとしてほしい。(41歳、不妊治療歴6年6ヶ月)
- 不妊治療の費用の助成がもっとあればいいと思います。先が見えなすぎて…。(36歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 将来を担うものだから、もっと充実した助成を。所得制限は段階をつけるべき。一生懸命夫婦で働いて、ちょうど制限で引っ掛かって助成受けられなくて、働いてる方がしんどい思いしてるのに馬鹿らしくなる。専業主婦ばかりが得をするのはおかしい。(36歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 費用・安心・安全面のリスクを負って、なぜ海外に希望を託しているのか、もっと深く考えてほしい。日本の医療はそんなに遅れているのですか？海外でできるのなら法整備さえ整えば、国内でもできるのでは？と思います。ただし不妊治療する中で一番の悩みは、高度医療治療ではなく体外受精費用の高さと助成金の少なさの気がします。代理出産も素晴らしいですが、まずは体外受精の保険適用 or 助成金と年回数 up をお願いしたいです。(42歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 保険が適用されていないため治療費が高く、おそらくもうそろそろ不妊治療を止めようと考えています。やはり、経済的な負担が大きいのも患者にとって辛いことだと思います。(39歳、不妊治療歴1年10ヶ月)
- 多くの方が子供を授かりたくて不妊治療を受けていると思いますが、大きな問題となっているのが高額な治療費です。少子化対策の一環として、治療費の保険適用・治療費助成等を政府に望みます。(39歳、不妊治療歴1ヶ月)
- 保険の適用。(38歳、不妊治療歴3年9ヶ月)
- 不妊の方がたくさんいることを知ってほしい。もっと「不妊」について重要視されるべき。補助金等、国の援助が必要であると思う(今以上に)。(29歳、不妊治療歴1年)
- 保険適用にして、もっと治療を受けやすくしてほしい。子供が減っているのだから、増やしていく努力を国で考えて行っていくべき。(37歳、不妊治療歴3年5ヶ月)
- 治療は身体的にも経済的にも負担がかかるので、補助金を増やしてほしい。(38歳、不妊治療歴1年4ヶ月)
- 不妊治療の保険適用、もしくは補助金制度の充実。学校教育で、将来不妊になる可能性・リスクを勉強させる。(40歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 費用負担を減らしてほしい。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)
- 不妊治療の自己負担金額を改善してほしい。もっと多くの治療を受けられるようになるので。(30歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 保険適用を強く望みます。少子化対策の原点だと思います。(36歳、不妊治療歴3年4ヶ月)
- 少子化だという前に、治療のチャンスを少なくとも数回は全員に分け与えるべき。その一方で、着床前診断や障害を持つことへの不安などからくる出生前診断に関しては、十分な議論をもっと慎重になるべきだという気がします。(38歳、不妊治療歴1年5ヶ月)
- 保険診療。(41歳、不妊治療歴3年7ヶ月)
- 保険が効かないのが金銭的に辛い。(41歳、不妊治療歴3年7ヶ月)
- 少子化と言われているが、私は欲しくてもなかなかできない、望んでもできない人が多いと思う。もっと補助金を国として出してくれれば、経済面も安心し不妊治療がすすんでいくと思う。(35歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 子供が欲しくても金銭的理由で断念する方もいると思うので、補助(今もあると思うが期間を設けないでほしい)が必要だと思う。(31歳、不妊治療歴5ヶ月)
- 治療に必要な費用を全面的に助成してほしい。金銭的な面で考えてしまうと満足のいく治療が行えない。(29歳、不妊治療歴8ヶ月)
- 費用がかかるので、自己負担治療についても医療保険を適用してほしい。費用などをあまり気

にせず、最良の不妊治療をして子供が欲しい。病院までの交通費もかかります。(船に乗って行かなければならない。場合によっては、前日から一泊しなければならない時もあります。)(29歳、不妊治療歴8ヶ月)

○治療費が全て保険診療だと助かります。(34歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○保険適用もしくは助成金制度の見直し。(収入制限をなくす、全額負担等)(38歳、不妊治療歴1ヶ月)

○治療に保険を適用する。(39歳、不妊治療歴3年)

○所得制限ギリギリぐらいで助成が受けられませんでした。どこかで線引きが必要なのだとは思いますが、体外受精は金銭的負担が大きいです。精神的・肉体的負担も大きく、女性がほぼ全て引き受けていることを知ってほしいです。(35歳、不妊治療歴3年)

○自己負担を少なくしてほしい。男性不妊専門の病院を増やしてほしい。(27歳、不妊治療歴3ヶ月)

○治療費のお金の補填がもっとほしい。(41歳)

○不妊治療をしながら仕事をしていくには時間的余裕がない。労働していく上でも不妊治療をしているとは職場で言い難いため、もっと理解してもらえるようにしてもらいたい(診療時間の延長等)。AIHにも金銭的な負担があるため、国や県、市町村で保障(一部)するなど検討してほしい。(32歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○国、自治体に対し、経済的サポートをして欲しいと思います。世帯収入により不妊治療の補助金が下りず、家計をやりくりしながら治療を続けています。何度トライしても結果がついてこない現実があり、せめて金銭面だけでも悩みが軽減されれば、もっと前向きに治療に臨めると思います。医師・病院に対しては、正確な情報を多く提供して欲しいと思います。また、治療自体を断念する時期も、患者に任せきりにせず、アドバイスを欲しいと思います。次の治療、次の治療に駆り立てられているような気がします。(35歳、不妊治療歴3年)

○保険が効くようにして欲しい。夫婦別姓でも助成金をもらえるようにして欲しい。(38歳、不妊治療歴3年)

○補助金をもっと増やして欲しい。負担が多い。子ども手当なんてやっている場合ではない。子どものいない人のためにもっとお金を払うべき。(31歳)

○少子化対策の一つとして、不妊治療も一定の助成を収入に関係なく認めて欲しい。(40歳、不妊治療歴2年9ヶ月)

○政府へ 保険診療にして欲しい(すべての治療)。(34歳、不妊治療歴5年)

○治療費が高いので保険が効くようにして欲しい。(37歳)

○不妊治療費用の助成金の増額をお願いしたいです。(45歳、不妊治療歴2年)

○不妊治療は保険適用外の支払いが多く、経済的にも厳しい。私は夫の協力もあり、治療をすることができるが、経済的な理由でできない友人も少なくない。全ては無理なのかもしれないけれど、保険適用になれば助かります。(33歳、不妊治療歴3年)

○子育て支援が叫ばれているが、その前段階の不妊治療に対する助成の枠を広げる努力をして欲しい(政府に)。(43歳、不妊治療歴3ヶ月)

○政府に、不妊治療(IVF・ICSI・ET)の保険適用。子供を授かることを望んでいるが、治療費が高額すぎて、続けていくことが困難な状況です。同じ状況の人、高額なためIVFに踏み切れない人も多いはずなので、保険適用を是非お願いしたいです。医師へは、現在かかりつけの所では良くしてくださっているので、特にありません。(45歳)

○保険診療にしてほしいです。体外受精の費用が下がることを望みます。(35歳、不妊治療歴1年)

○Dr に対する要望は今のところありません。政府に対しては、体外受精等の保険診療への変更もしくは助成金の増額を求めます。(34歳、不妊治療歴10ヶ月)

○65人に1人の子供が体外受精により出産されている時代、多産の時代の法律のままではなく法から見直し、是非、ある程度までの治療を保険で行えるようにしてほしいと政府に望みます。医師・病院には、精一杯の治療(費用・技術)をさせていただいていると思います。(36歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○医師・病院は、とても良くしてくれています。政府は、高額な治療費の負担を少しでも軽くし

てほしいです。助成金の受けられる回数を増やす等。(36歳、不妊治療歴1年)

【第三者が関わる生殖医療(卵子提供、代理出産)ができるような法整備】

○個人の考えや価値観を尊重し、不妊治療の方法は自由に選択できるようにして欲しいが、プライバシーや人権の保護は守られるよう法規制を検討してほしい。また、提供する側やされる側のメンタル面にも配慮されるような治療を実施して欲しい。(39歳、不妊治療歴10ヶ月)

○海外でしかできないということが、ハードルになっているのであれば、国内での治療の進歩は必要なことだと思います。(32歳、不妊治療歴2年)

○日本に住んでる不妊治療人口は増えているはず。なので、早急に規制の緩和をして欲しい。妊娠・出産は限られた期間がありますから。私も精子提供の病院が少なく、県外へ出向いています。でも、まだ恵まれたほうだと思います。不便な思いをしている人がたくさんいます。これからの日本のためにも、不妊治療の幅を広げて欲しいです。(37歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○国内でも卵子・精子提供、代理出産を認めて欲しい。不妊治療にも保険が使えるようにして欲しい。子供を授かりたくて頑張っているのを認めて欲しいです。子供を授かりたくても金銭的に難しいです。子ども手当を税金でとられるなら自分の子づくりに使いたいです。(43歳、不妊治療歴5年5ヶ月)

○もう少し、卵子提供・代理出産等に積極的になってそういう病院を増やして欲しいです。助成金の額を増やして欲しいです。(42歳、不妊治療歴2年)

○不妊治療は出口のないトンネルをさまよっている思いをしながらのもの、金銭的負担をもう少し無くしてほしい。治療の上でのストレスとなる。あと、卵子提供と代理出産を国内で行えるようにしてほしい。体外治療から次への治療へ進むシステムが日本にはない。倫理的な問題はあっても、選択肢がないのは、崖から最後につきおとされる気分がする。(37歳、不妊治療歴2年)

○国内でAIDの治療をするにあたり、体外受精ができれば、もっと子供ができやすくなると思うのでできるようにして欲しい。海外のように、もう少しだけ提供者の特徴など情報がわかれば良いと思います。(26歳、不妊治療歴6ヶ月)

○不妊治療にかかる費用がもう少し保険がきくようにしてほしい。卵子提供を国内で受けれるようにしてほしい。(46歳、不妊治療歴3年)

○法の整備。技術力。倫理感。(35歳、不妊治療歴2ヶ月)

○不妊治療は多額のお金がかかるのでもう少し保険でカバーされるといい。治療内容に関しては卵子提供・代理出産等々、前から議論がされてもいいと思う。何年たっても少しも進んでいない。(42歳、不妊治療歴6年)

○少子化少子化と問題にする割に、全く不妊治療に対しての補助や規制が変わらないことは非常に残念です。補助を受けられる期間の見直しや第三者が関わる治療を患者が自由に選択できる環境になるとよいと思います。(32歳、不妊治療歴6年2ヶ月)

○治療費の保険適用。姉妹からの卵子提供。(41歳、不妊治療歴4年)

○海外で認められている治療は条件などを厳しくして、国内でも認める方向でしっかり話しあって法整備を進めて欲しい。結局、本当にやりたい人は海外へ行ってしまふのだから、海外の不妊治療で生まれた子どもに不利益になるような事態は避けて欲しい。(31歳、不妊治療歴3ヶ月)

○国民健康保険の適用、高額な医療費の負担をして欲しい。卵子提供、代理出産を国内でも可能にして欲しい。(イギリスでは初めてのIVFは国が負担してくれます。2回目から有料、35万くらい。)(35歳、不妊治療歴4年)

○子どもが欲しくても身体的理由で授からない人もいる。国内でも施設内倫理委員会の監視のもと、姉妹間の卵子提供が行われている現状を考えると、早急に法整備を行う必要がある。(36歳、不妊治療歴1年)

○第三者の精子や卵子で授かった子どもが、事実を知った時のことを思うといたたまれないが、望まれて生まれたことを時間をかけて説明する等、方法はあると思うので、日本での早期の第三者間卵子提供の合法化を願います。この審議の最中にもどんどん時間は過ぎ、不妊で悲しむ人たちは増えているのですから。(42歳、不妊治療歴4年)

○保険適用。子宮のない方が、国内でも代理出産が堂々とできる環境づくり。(44歳、不妊治療

歴 6 年)

○保険適用にして欲しい。毎月の治療費が高すぎます。お金を持っていない人たちは子どもを諦めなくてはならなくなります。妹から卵子提供をして欲しいと考えていますが、そのへんも難しく思います。少子化？だとか言われていますが、子どもがいる人達には色々と手当など出ていますが、子どもが欲しくても出来ずに悲しんでいる私達にはあまり関心がないように思います。不公平だと思います。(37 歳、不妊治療歴 3 年 7 ヶ月)

○高額な治療なので、助成金の上限の引き上げや、回数を増やす。費用の負担を少なくして欲しい。海外での治療も、もっと身近なものになるようにするか、日本の法規制の見直しを考える必要もあると思います。(30 歳、不妊治療歴 3 年 6 ヶ月)

○卵子提供などは、血縁者内では可能にするべき。子供が欲しくても、出来ない人がたくさんいるのに、これではますます少子化が進んでしまう。海外に比べて遅れているので、1 日も早く法改正を望みます。(46 歳、不妊治療歴 10 年)

○高田延彦さん、向井亜紀さんご夫婦のように、お子さんが日本人として認められない、というのがないように。お二人のお子さんはまだ宙ぶらりんのままなのかな？と思うと心が痛みます。(32 歳、不妊治療歴 6 ヶ月)

○余剰受精卵、精子バンクの設置。(41 歳、不妊治療歴 2 年 4 ヶ月)

○国籍や実子として認めてあげて欲しいです。もう少し費用を安く出来れば良いです。(35 歳、不妊治療歴 2 年 3 ヶ月)

○学会の倫理規定ではなく、早く法整備をしてほしい。助成金の幅を増やしてほしい。(最高 10 回を年に 2 回という制限をなくしてほしい。)(34 歳、不妊治療歴 11 ヶ月)

○法規制でがんじがらめにしてほしい。不妊治療は時間が大切。すぐに出来なければ時期を逸してしまうかもしれない。ほかにも高額な治療費が精神的ストレスを増幅している。収入によっては治療で授かれる人にもチャンスがない、ということもある。総額 10 万ぐらいで受けられるようにしてほしい。私は既に 1000 万超使っていて、このまま授からなければ不毛なこの金額に押しつぶされそうになる。主人にも申し訳ない。肥満やタバコ(禁煙)のような自己管理不足による治療に保険が効いて、不妊のような自分にはどうにもできないことに効かないとは理不尽極まりなく腹立たしく思う。それと国内で精子提供が認められ、卵子提供は認められないというのも違和感を感じる。採卵の安全性は十分に確立されているのではないのか？(39 歳、不妊治療歴 7 年 10 ヶ月)

○当事者が病院や国の対応で、さらに傷ついたり悩むことがないように、国としての考えをまとめ、法整備すべき。(39 歳、不妊治療歴 4 年)

○政府に対しては望むことばかり。どんなものにしても許可のスピードが遅すぎる。もっと海外でできる技術を日本でもやるべき。国民の税金を先端医療などに使うべき。治療の助成ももっとすべき。(49 歳、不妊治療歴 6 年 10 ヶ月)

○問 24 とほぼ同じ。不妊治療の上で代理出産に関して、いろんな道徳論はあると思うが、子どもを産んでも子育てを放棄して母親になりきれない人が存在していて、子どもは産めなくても母親になれる人が存在できないというのはおかしい気がする。子育てすることで母親になっていくのだから、代理出産や精子提供はもっと認められるべきと思う。日本の人口も増えて、良いことなのではないか。(43 歳、不妊治療歴 3 年)

○法整備を早くしてもらえれば、子どもを持つ夢を実現できる人が増えるので考慮してほしい。(40 歳、不妊治療歴 1 年)

○代理出産等の不妊治療制度の制定。育児金よりも不妊治療の補助金の増額。(28 歳、不妊治療歴 3 年)

○①法的整備をしてほしい。例えば、結婚していなくても可能なようにする。②着床前診断は母体を考えると行えるべきではないか、途中で流産すると精神的・身体的ダメージが多い。③収入に関係なく補助金を出してほしい。税金をたくさん払っている人が補助金をもらえないのはおかしい。もしくは保険適用にして少子高齢化の対策としてほしい。(41 歳、不妊治療歴 1 年)

○不妊治療を始めて 6 年、国内での AID ができる病院が減少している中で今も治療を続けています。晩婚→少子化の傾向が強くなる中で、今後、ますます私のような患者が増えていくと思います。であればなおさら、医療分野の拡大をしなければ日本の将来が見えません。私の通院して

いる病院は、日本全国から母になりたいと希望を持ってこられる女性たちで待合室はいつもあふれています。倫理面からは難しい問題ではあると思いますが、(大げさかもしれないですが)人がいなければ「国」は成り立ちません。どうか私達のような患者が少しでも希望を持って治療ができるようになることを望みます。宜しくお願いします。(39歳、不妊治療歴6年)

○AIDの治療をずっと続けていますが、全く妊娠に至りません。同じように悩んでいる人がたくさんいます。提供精子での体外受精、顕微鏡受精を認めてください(国内での)。どうしても子どもが欲しいのでお願いします。また、そういった治療ができるようになったら、積極的に先生方の方からお話ししていただければ助かります。(26歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○不必要に海外での不妊治療等が増えないためにも、規制の緩和、社会保険の適用(一部だけでも)を早く検討するべきだと思う。(36歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○倫理的問題を厳しくしすぎず、もっと許容範囲の広い法整備や国内医療体制に改革すべきだと思います。日本は不妊治療に関し助成が少なすぎです。健保を使えるようにすることが、まず第一歩だと思います(妊娠中も含め)。少子化と言われ、税制も扶養控除をなくし子ども手当も削減…子育て世代を苦しめているとしか思えません。不妊治療・妊娠・出産・子育てのすべてに手厚く保護してほしいですが、不妊に関してはお金面とともに海外でできること(医療)は日本でもできるようにしてほしいです。(38歳、不妊治療歴6年)

○卵子提供に関して、政府は未婚女子ではなく既婚・出産済の女性に協力を呼び掛けてほしい。また、経費に対しても10~20%程度でも補助があると治療する側の気持ちのストレスが少し軽減されると思うので、法を整えてほしい。ゲノムインプリンティング異常症(凍結保存)の調査も早急に進めてほしい。(44歳、不妊治療歴3年)

○健康保険内の診療費。もしくは助成金の増額。子ども手当とか子育ての支援をお金で援助するよりも、多くの不妊治療をしている既婚者に援助した方が少子化対策になると思う。日本は産んだ人が母親という見解が強いが、産んだ人も、卵子=DNAが同じでもどちらも認めれば、病気で諦めていた人も希望が持てると思います。(39歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○卵子提供が国内でできるようにしてほしい。受精卵の凍結基準を選べるようにしてほしい。なかなか胚盤胞にならないので桑実胚で凍結可能とかにしてほしい。受精卵をムダにしたくないので。(42歳)

○国内海外問わず、自由に治療できる法律に改善すべき。働く女性も多い世の中、晩婚女性が子を授かるチャンスをもっと高い確率で持たせてくだされば…と思います。(43歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○国内での卵子提供および代理出産の法律の緩和。世界のレベルに合わせていくべきではないかと思う。(39歳、不妊治療歴7年2ヶ月)

○高齢初産が増えてきている現状を踏まえ、体外受精治療に対する政府からの援助枠をもう少し広げてほしい。そのほか法律についても、もう少し多様化したケースに沿えるよう柔軟に法改正を望みます。(39歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○なぜ、日本で認められないことが多いのか。法律を整えて守ってほしい。不妊治療をしている人の気持ちを真剣に話し合っていないのではないのか。やっぱり不妊治療は、当事者でなければ辛さがわからないのでしょうか？(29歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○国内で卵子提供・代理出産をできるようにしてほしいと思う。今後、法的な規制がされるべきであり、なされるよう行動していただきたい。(39歳、不妊治療歴6年)

○日本ももっとオープンにするべき。海外で行っていることは、(安全性確認のうえ)日本でも取り入れていくべきだと思う。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)

○国内での卵子提供を認めてほしい(血縁のないドナーから)。(43歳、不妊治療歴2年4ヶ月)

○問24にも関連するが、卵子提供および代理出産について、具体的にどのようなリスクを想定して認められないのか(提供者との関係等について、症例が少なくリスクが確認できない、未知であるというだけの根拠は不十分である)、はっきり説明すべきである。これらは科学的というより、むしろ文化・社会的な要因に大きく左右されるのであるから、タブーではなく、何が焦点で何がネックであるかを明らかにするのだという姿勢を政府や有識者会議が見せることが、一般の人々の関心を上げ議論できる環境を作る。(38歳、不妊治療歴5年)

○海外での治療を国内の病院と連携して、もっと選択の幅を広げてほしいと思う。海外でできる

- 治療を国内でもできるように願いたい。(36歳、不妊治療歴7年)
- 着床前診断や卵子提供に対する対応の緩和。(42歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 倫理的な問題があるのはわかりますが、受精卵の提供や代理出産など国内でできるようにしてほしい。顕微授精に関しても、保険が効くようにしてほしい。年齢が若いほうがチャンスは多いのに、費用がかかりすぎて、若いと金銭面が追い付かない。(30歳、不妊治療歴4年)
- 法律の整備。金銭的なサポート。(39歳、不妊治療歴2年)
- 国内でも卵子・精子の提供を認めてほしい。倫理的な問題はあると思うが、少子化を問題視しているならば、もっと視野を広げてもいいのではないかと思う。実際、心より望み、悩み、励まし合って頑張っている夫婦の現状をきちんと見てほしい。あるいは、我が身なり我が子のことと思って、その立場になり考えてほしい。(42歳、不妊治療歴2年4ヶ月)
- 不妊治療を保険適用にしてほしい。医療費を援助してほしい。国内でも代理出産ができるようにしてほしい。(28歳、不妊治療歴5年)
- 着床前診断を受けるのに、治療を始めるまでに1年近く倫理委員会の許可が下りるのにかかりました。時間が限られているのに治療が始められないのは大変辛く、早く法整備をして様々な治療が受けられるようにしてほしいです。(38歳、不妊治療歴3年)
- 姉妹からの卵子提供を望みます。補助金制度の充実。国外での治療成績の情報提供、紹介。(35歳、不妊治療歴9ヶ月)
- 少子化対策のためにも、アメリカのように代理母・卵子提供等、いろいろな治療ができるようにしてほしいです。(44歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 日本での代理出産・卵子提供・戸籍の問題を解決してほしい。不妊治療している人は、欲しくてもできない人たちなので、ここを何とかしてもらえれば少子化対策になると思う。(31歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 国内でも代理出産ができるとうれしいです。国から援助金が出ますが、もう少し金額が安くなると助かります。(40歳、不妊治療歴5年7ヶ月)
- 子どもが少ないと言うなら、本当に欲しい人たちに優しい社会になってほしい。まずは、不妊治療を保険適用にし、第三者間の体外受精も認めてほしい。本当に受けたい治療を望む人すべてが、受けれるようにしてほしい。金銭面で諦めざるをえない人をたくさん知っています。弱い者が泣くような社会であってはいけない。(34歳、不妊治療歴6年)
- eggドナー、代理母を認めてほしいです。また、養子に対する偏見をなくすべきだと思います。少子化対策を進めるならば、直ちにeggドナー、精子ドナー、代理母を認め、法整備をお願いしたいです。(41歳、不妊治療歴9年)
- 少子化が問題なのであれば、子どもを授かりたいと希望している人に、海外で行われている治療を取り入れられるようにし、支援してほしい。(43歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 少子化だというわりには、不妊治療に関しては何もしてくれない。もっと情報を発信したり、金額を減らせるように努力してほしいです。子宮の奇形があって、子どもを諦めなくてはならない人もいるので、代理出産とか認めてほしいです。国内であっても、いろいろな治療を受けられるようにしてほしいです。(35歳、不妊治療歴4年3ヶ月)
- 卵子提供の法整備をしてほしい。(45歳)
- 卵子提供や精子提供や代理母が可能になったらよいと思う。(41歳、不妊治療歴1年1ヶ月)
- 卵子提供など海外では受けることのできる治療について、法整備をするなどして国内でもできるようにしてほしいです。また、受精卵の着床前診断の基準を緩和してほしいです。流産によって女性が受ける心身の負担は、多大なものであることが理解されていないように感じます。不妊治療に関する会議等に、不妊治療者や流産経験者が多数参加することを望みます。(41歳、不妊治療歴3年5ヶ月)
- いかなる方法で生まれた子ども、普通に生まれた子と行政上の待遇で違いがあるのは問題だと思う。法整備の必要を感じる。(40歳、不妊治療歴3ヶ月)
- 代理出産による子どもも実の子として戸籍登録できるようにしてほしい。日本で第三者が介在する治療が認められないのであれば、安心して医療を受けられる海外の施設を公表してほしい。保険適用についてもデータがないから云々言っているので、国にいろいろ求めても無駄な気がします。(33歳)

○不妊治療に通う人に対する助成金の枠を広げ、金銭的な理由で治療を諦めざるをえない人たちが、もっと積極的に治療に取り組めるようにしてほしい。子どもを望む夫婦に対して選択肢が広がるよう(卵子提供・代理出産など)、国の法整備を進めてほしい。同様に、それに対する病院側の受け入れ態勢も整えてほしいと思う。「少子化」と言われる日本だけれど、子どもができた人への補助ではなく、できない人への配慮が「少子化」改善につながるのでは、と思います。(45歳、不妊治療歴3年)

○卵子提供・精子提供・代理母等、望む人には行えるように法整備をお願いします。現状では、お金のある人のみ海外で行えます(禁止しても実際は、お金さえあれば可能ということです)。不公平です。(41歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○米国では合法的に行われている代理出産が、なぜ日本では認められないのでしょうか。病気があり代理出産でしか子どもが望めない人たちは、子どもを持つことを諦めなくてはならないのでしょうか。是非、検討していただきたいです。せめて、体外受精などにかかる医療費の負担をもっと軽減していただきたいです。(33歳、不妊治療歴1年5ヶ月)

○国内でも卵子提供できる制度を検討してほしい。(43歳、不妊治療歴3年8ヶ月)

○海外へ行かなくても、色々な治療が国内でできるようになることが必要だと思います。健保の適用をもっとしてほしいです。(35歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○健康保険の適用。費用の高額化への対策。不公平のない料金システム。卵子・精子提供、代理母の実施、システム作り、法整備。病院には、採卵スケジュール等のフレキシブルな時間対応、メンタルケアを望みます。(40歳、不妊治療歴2年3ヶ月)

○日本で合法的に認めてもらうのは難しいと思いますが、普通の病気のように保険が効き、本人が望めばもっと気軽に不妊治療ができるようになってほしいです(体外受精、卵子・精子提供、代理出産も含めてです)。どうしても、どんなことをしても、自分の子供が欲しいです。倫理の壁や世間の意見は、私にとって邪魔でしかありません。せめて海外での精子・卵子提供、代理出産を日本の医師や政府が認め、協力してくれるようになれば良いと思います。(35歳、不妊治療歴4年)

○日本でも卵子提供が法的に認められれば良いなと思います。その場合、ドナーのプロフィールを見て選べ、さらに子供との面会を求めず実子として育てられる環境がほしいです。(幸運にも私は医師に生まれ、イヤな思いをしたことがないので望むことはありません。)(45歳、不妊治療歴5年)

【不妊治療のための休暇制度の導入などによるバックアップ】

○保険適用の範囲を広げて、もっと安く治療を受けられるようにしてほしい。不妊治療を受けながらも、働ける職場を増やしてほしい。職場の理解が欲しい。(31歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○政府へ 不妊治療を行うには仕事との両立が難しいため、不妊治療休暇または短時間年休(有給)などの制度を作って欲しい。不妊治療の費用を安く、または保険適用にして欲しい。不妊が病気ではないのは、今の世の中には合わない考えだと思います。少子化がさらに進むと思われる。(28歳)

○保険の適用にして欲しい。不妊治療休暇など企業に配慮を求めて欲しい。(32歳、不妊治療歴3年)

○治療費用がかかるので、仕事をして収入を得たいのですが、体のリズムで治療の日程が決まるので、正規の職員として働くのが難しい現状です。子ども手当も必要かもしれないけど、政府がもっと不妊治療に対するサポートを進めて欲しいです。助成金だけでなく。(36歳、不妊治療歴2年8ヶ月)

○世帯の収入が補助金受給対象の限度額をぎりぎり超えてしまっているため、補助金がもらえない。不妊治療は大変高額のため、保険対象にして欲しい。働きながら不妊治療を続けているが、休みをとるのが大変だ。産休、育休のような制度があるとありがたい。(31歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療をどこでやめるかを経済的な理由以外になるように、仕事や自治体などで確実にサポートされる世の中になることを願います。助成金もまだまだ少ないと思います。仕事をしながらの不妊治療は本当に無理だと感じました(内容にもよりますが)。(39歳、不妊治療歴4年)

○私はフルタイムで仕事をしているので、一番大変なのは、治療のために頻繁に会社を休まなけ

ればならないことです。不妊治療をしているとはとても言えないので、何かと嘘の理由をつけて休みました。気持ち的に辛かったです。また、お金もかかるので援助していただくとありがたいです。(42歳、不妊治療歴2年)

○条件付で保険適用として欲しい。法的に、会社を休むことが出来るようにして欲しい。(41歳、不妊治療歴3年8ヶ月)

○保険適用にしてほしい。職場での休みを取りやすくしてほしい。(35歳、不妊治療歴8ヶ月)

○仕事をしながら不妊治療を受け、子が得られれば出産率上昇や社会的にも生産性は保たれる。そのためにも軽減措置・制度を作ってほしい。(30歳、不妊治療歴1年3ヶ月)

○仕事をしながらの不妊治療は、休みを取りづらいなどの大変さがある。国として、もっと子供を育てたり成長させたりなどのケアをもっとしてほしい。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)

○不妊治療は働いていないとチャレンジできないので、もっと国で不妊治療を受けている方々の負担を減らすことが重要だと思う。お金がなくチャレンジできなく、子供を諦める人達もたくさんいる。保険適用で体外受精ができたりしてほしい。社会全体で不妊治療の方の仕事なども支援する体制を作ってほしい。(不妊治療は時間とお金が必要で働きながらの通院はなかなか難しい)(39歳、不妊治療歴9年)

○保険適用、仕事との両立できる環境づくり、助成金。(33歳、不妊治療歴1年)

○もっと不妊治療しやすい環境を整えて欲しい。職場では理解してもらいにくいし、女性の負担がものすごく大きいということを理解して欲しい。心置きなく仕事を休めたり出来ればいいのですが、心も体もボロボロになりそうなのを全く分かってもらえない。ただのわがままとか迷惑がられていると思う。あと、金銭的にもっと助けて欲しい。仕事をやめて専念するなんてことができないくらい高い。本当は仕事やめて子供をつくることに専念したいのに…。(33歳)

○体外受精の治療費の保険適用。仕事を続けながら、不妊治療を続けられる環境の整備(費用がかかるため)。(34歳、不妊治療歴5ヶ月)

○金銭的な援助。会社への理解の要請。(30歳、不妊治療歴5ヶ月)

○不妊治療に専念できるように、仕事をしている場合は長期休暇を取っても復職できるようなシステムを作ってほしい。(40歳、不妊治療歴1ヶ月)

○費用の軽減。仕事しながらの治療に対してのサポート。(30歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○少子化対策の一環として、労働問題とも合わせて充実させてほしい。(37歳、不妊治療歴6年)

○保険適用。職場での休暇・遅刻・早退への理解。(法令で決めてほしい)(37歳、不妊治療歴3年)

○少子化を止めるため、子の手当は盛んに言われているが、不妊の人の手当がほとんどない。不妊の悩みは皆おもてに出さないし、治療費が高く共働きでなければとても治療はできない。また、治療は体の周期に合わせるの、計画的に休まず勤務先に迷惑をかける。子がいる人には子の看護休暇があるが、不妊治療のための休暇制度がなく、年休を使わざるを得ない。不妊治療の休暇制度が必要です。不妊治療は人には話せず、職場の理解も得にくい。(39歳、不妊治療歴8ヶ月)

○フルタイムで夜勤もしながら不妊治療をしています。その中で頻回に通院することはとても大変で、仕事を辞めなければいけないかと考えています。子育てしながら仕事を続けられるように、様々な工夫がされてきていると思いますが、それと同じように仕事をしながら治療が続けられるような制度のものがあればよいと思います。病気ではないので病休を使うことはできず年休でお休みをもらっていますが、忙しい中、仕事を抜けるのがいつまで続くかと限界を感じます。(39歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○仕事を持ちながらの治療は、現実には非常に難しく会社にも打ち明けられる風潮がない。しかし、治療には高額な費用もかかるため、これからは不安を感じます。産休があるなら、不妊治療休暇やもっとカミングアウトできるようなシステムを広めていただければ幸いです。そして国内・海外問わず、あらゆるデータを素人にもわかりやすく開示してほしいです。(32歳、不妊治療歴1年)

○不妊治療は身体的・精神的に辛いですが、特に経済的な負担は大きく、やむを得ず治療をやめなければならない方も多いと思う。助成金をより厚い手当にしたり、公的に貸し付けができればいいと思う。また、職場でも不妊治療に対する理解はあまりないところが多く、休暇を取りやすいように定めてほしい。(29歳、不妊治療歴1年5ヶ月)

○治療費が高く受診も多いため、仕事をしながらでないとい経済的に厳しいも休みが取りづらい。助成金や不妊治療への理解をすすめてほしい。(33歳、不妊治療歴7ヶ月)

○自由診療ではなく保険診療にして欲しい。仕事を休んだりしなくてはいけない状況等あるし、女性が仕事を続けながらは負担がかかる。法整備でこの休暇の部分も整えてくれるとありがたいと思う。(36歳、不妊治療歴1年3ヶ月)

○保険適用にしてもらいたい。不妊治療に伴う通院も病休として認めてもらいたい。また妊婦同様、勤務に関する配慮を法的に認めてほしい。治療のために仕事を辞めざるを得ない現状を踏まえて。治療に関して相談できる人をどこの病院にもおいてほしい。(医師はあまりにも忙しそうに聞きたくても聞けない)(32歳、不妊治療歴2年)

【移植胚の個数などに関する規制緩和】

○晩婚であり、排卵は出来ても、着床までに至りません。婦人科の病気は無いといわれているだけに残念な思いでいっぱいです。他人の卵子提供はまず考えられませんが、核移植といった自身の卵子を有効に活用してもらえる治療の具現化に向けて、認可も含め早急に進めてもらいたいと思います。また、この年になるまで出産適齢期が23~33歳であることを理解していませんでした。職場でも未婚者の間では“47歳くらいまでは出産できる”と認識している状況。今、不妊治療の地道さを知り、もっともっと就学中から女性の出産について教えてもらえる場面が欲しかったです。国をあげて、女性の出産について情報を提供して欲しいと思います。また、1年間で治療費が300万円以上かかり、この先、費用面で治療も子どもも諦めなくてはならないところまで来ています。保険適用の検討も政府に望みます。補助金だけでは対応しきれません。(35歳、不妊治療歴2年10ヶ月)

○高額な治療費負担軽減。受精卵を以前のように3個戻せるように。(36歳、不妊治療歴6年)

【政府に対しその他】

○申請がもう少し早く承認されてほしい。(32歳、不妊治療歴1年)

○20代の頃から子供が欲しくて婦人科に行きましたが(生理不順などかなりきつい生理痛)、先生は、子供が出来れば生理痛とかも良くなる、としか言われず、そう言われ続けて10年以上過ぎてしまいました。国で無料の検査を実施して欲しい。そうしたら不妊も少なくなるかな。あと、籍が入っていないと不妊の検査ができないと言われました。それも変だなと思いました。(39歳、不妊治療歴3年9ヶ月)

○なし。不妊治療の補助金を、と言っている人が(テレビで)いましたが、自分の生活レベルに合わせる治療でいいと思う。(40歳、不妊治療歴10ヶ月)

○倫理的に正しく行われるのであれば、患者が求めることができる限りのことができる環境。(29歳)

○入籍後2年経過しないと不妊治療(検査?)ができないと(保険上)以前行った病院で言われたが、高齢の場合は2年という期間を排除した方がよい。(42歳、不妊治療歴4ヶ月)

○補助金制度がどうなっているのかわかりません(あるのか、ないのか...)。詳しい情報がどのように知ることが出来るのか分からないので知らせて欲しいです。(40歳)

○法改正。離婚の裁判がはじまっても成立しないと配偶者として認められないので体外受精はできないという点。誓約書でも書きますので体外受精したかったです。配偶者間に限るから子どもが生まれないのでないですか？(39歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○様々な選択肢を準備し、少子化をストップさせるべき。(46歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○加齢による卵子の質に関する説明を教育で指導すること。費用の一部負担。(39歳、不妊治療歴11ヶ月)

○海外での不妊治療を認めないのならば、日本でできるよう考えていかなければならない。低所得でも子どもは欲しいと思うから、そういう方が不妊治療できるよう国内で安心して治療できるようにして欲しい。どうせやるなら、世界の人が、「日本で受けたいな」と思うトップレベルの治療を提供できる体制にしてほしい。(31歳、不妊治療歴4年)

○里親や養子縁組を身近にして欲しい。(33歳、不妊治療歴1ヶ月)

○一番の望みは、自然に授かる社会・環境・政府の方針です。不妊治療を行う者にとって、治療の安全性はもちろん治療費の重さが、授かりたい子供の命を考える元になっているのが(悲しい

ですが)現実です。治療費を安くして授かるチャンスを増やしてもらいたい気持ちと、高度医療に対して、ただ安くしてほしい、政府に補助を求めればそれでいいのかと言えば違う気がします。気持ちは難しいです。今できることは、不妊治療を受けずに済む予防や生活があれば、早めに啓発していただきたい。(36歳、不妊治療歴5年2ヶ月)

○少子化対策というならば、「子供が欲しいけどできない」人に対してすべきである。子供を「持つ」「持たない(できない)」で、国民として受けるサービスや制度に差があるのはおかしい。(40歳、不妊治療歴8年2ヶ月)

○治療の選択肢を学会で制限しないようにしてほしい。(36歳、不妊治療歴2年)

○子宮や卵巣を若いうち(10代後半~20代前半)にチェックしておくように意識づける教育というか風潮があったらいいなと思います。歯医者や眼医者にかかるように、婦人科に行くことが当たり前になれば不妊治療予防(?)に繋がるのではないかと。不妊という名称がマイナスイメージなので、もっと前向きなネーミングがあってほしいです。(30歳、不妊治療歴7ヶ月)

○北海道札幌は保育施設が少なく、働きたくても子供をみてくれる場所がなく困っている方が多いので、子供を産んだ後も育てやすい環境づくりをしてほしい。治療費の助成金の制度ももっと増やしてほしい。(32歳、不妊治療歴6ヶ月)

○不妊治療専門病院に通院して思うことは、病院が大変混んでいるので先生に質問すると「そんなこと聞くのか」というような顔になり説明を詳しくしてくれないので、国で相談窓口を作してほしい(病院でのカウンセリングは無料ではないので)。少子化対策で体外受精費用を保険適用にしてほしい。(39歳、不妊治療歴10年)

○不妊で悩んでいる人が大勢いる中、子供の虐待死などのニュースをみるとがっかりする。子供をつくることをもっと真剣に考えてほしい。自分の勝手に中絶したり殺したりする人は、もっと重い罪を科すべきだ。(36歳、不妊治療歴4年)

○少子化を叫ぶ前に、女性が働きながらも子供をつくり、育てやすい社会環境をまず考えるべきだと思います。(28歳、不妊治療歴1年)

○妊娠・出産は可能であったかもしれないが、長い間病気で育児が身体的に困難であった場合、自分の卵子を採取して保存することができていたらと思います。どんな理由であれ、将来、妊娠・出産を望む人が若いときに自分の卵子を保存することが、もっと一般的にできるようになればいいなと思います。(不妊治療歴3年)

○少子化問題が大きく取り上げられる中で…たくさんの不妊治療を受けている人がいるという矛盾を感じています。子供を作りたいと願う方々が、もっと情報を得ることも大切と考えます。政府に関しても、生まれた子供にお金をかけるより、産みたいと願う方への最善・最良の環境(システム)を作っていただきたいと願います。(43歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○少子化なのに国はどうして見直しをしていかないのか…と思います。(35歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療をしている夫婦が体を壊さないように、安全・安心な治療をできる病院を増やしてほしいです(現在行っている病院のように、××クリニック、××クリニックなど)。政府には補助金を出してもらっているので感謝していますが、不妊治療が特別ではない環境、国になったらいいと思います。(33歳、不妊治療歴3年)

○これからは高齢妊婦も増えると思うので、ある程度までは保険でカバーできるようにしてほしい。また、高齢出産のデメリットはまだあまり知られていないので、若い人には教育として広めてほしい。日本はまだ、妊娠出産を含めた性教育が足りなさすぎると思う。少子化をくい止めたいのであれば、早急にこれらの手を打つべきではないか？(43歳、不妊治療歴5年)

○政府へ…不妊治療サポート世帯収入730万ということは、専業主婦に子供を産んでほしいということだろうか。働いて税金を納めている女性にこそサポートしてほしい。結婚していなければ子供が産めない、今の状態を変えてほしい。(43歳、不妊治療歴1年3ヶ月)

○不妊治療をしても、どうしても恵まれない人がたくさんいます。なるべく金銭的な面でのサポートをしてほしいです。また、辛い治療の末に恵まらなかった人に、社会的に子供たちとかかわったり、社会全体で子供を守り育てるということを実感できるような繋がりや活動を促すような動きをバックアップしてほしい。(42歳、不妊治療歴10ヶ月)

○終わりの見えない長期間の不妊治療をしていると、だんだんと感覚がマヒして、初めは自然な形で妊娠したいと思っていたのが、体外受精も平気になってしまいます。保険外の診療でも止め

られない治療…。「不妊治療」を看板に掲げる病院も多く、結果が出ないと次々に病院を変える人も多いはず…。まずは、保険適用の不妊治療を拡大してもらいたいです。何よりも、生まれてきた子供が差別を受けることなく、平等な権利を持てるような法律の整備をお願いしたいです。「政府認定不妊治療病院」とかあると安心して通院できるかも。(38歳、不妊治療歴3年)

○結婚が高齢化していることもあり、若いときに卵子を採卵・凍結できるような制度があれば良いと思います。(46歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○問18の1は知らなかったもので、どうしたらいいのかわからない。もっと前にわかるように教えてもらいたかったです。2は、ずいぶん意地が悪いんだなと思った。外国でやっても(体外受精とか)日本で病院がないのでは、どうしたらいいのか、すごくひどいです。こういうことを変えてもらいたいです。(47歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○もう少し子供を安心して産める環境がほしい。少子化なんだから、女性に優しい環境を。(40歳、不妊治療歴2年)

○海外に行かなくても自分の住んでいるところで、自分の思う治療が受けることができれば良いと思います。(38歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○特にない。(33歳、不妊治療歴1ヶ月)

○女性の社会進出はもう避けられないと思うので、もう少し世の中が女性は若いときに出産した方が良い、という情報を流してほしいと思いました。気が付いてからでは遅い。優秀な方も多いので、その女性たちにもっと情報を提供し、危機管理させてあげたい。そして、不妊治療にかかる時間、経費はかなり家計を圧迫するので保険適用を強く望む。(38歳、不妊治療歴1年)

○私が国や医師に望むのは、妊娠教育(性教育とは異なる視点の)を早い時期(高校生・大学生など)に行ってもらいたいと思います。女性が気付いた時に手遅れの年齢になっているというのは、不幸なことだと思います。その結果、40代・50代の方が卵子提供を受けて母になったりするのは、生まれてくる子供にとっても複雑な問題を背負わせると思います。母になることをどこで諦めるのか。医療が高度化する中で線引きは難しいですが、若い人にきちんと知識を与えたいので、年齢で区切ることも一つだと思います。(36歳、不妊治療歴4年)

○不妊で子供がいない夫婦はたくさんいます。政府は人口を増やしたいと思うなら、もっと不妊治療している人たちに援助すべき。後々税金を払うのは、この子供たちです。実際に治療していて1カ月の間に保険で賄えるのはごく一部、それを超えるとほぼ全額実費となり、負担は莫大な金額となります。これでは子供が生まれてくる前に貯金を使い果たし、生活なんて考えられない。私たちの年代は学校時代に性教育というものが乏しかったこともあり、40歳を超えても子供は産めると思っていました。周りからも”今は医療が進歩しているから大丈夫!”と言われ、42歳まで何もしないでいました。病院へ行けば何とかなる、というのは大間違いでした。若い人たちには、もっと早い年齢から教育の一環として教えるべきです。IVFに関しては「肺移植後絶対安静1週間は寝ること」と、アメリカ人の看護師の方に言われました。しかし、日本では「普通に生活してよい」と言われますが、この違いは何でしょう？治療成績を上げるには、海外での治療の仕方・アフターケアを見習う必要があるのでは…と思います。(44歳、不妊治療歴2年10ヶ月)

○倫理的なことは個人によって違うのだから、早く超先端の技術を使えるようにし、日本を医療においても最先端の国にしてほしい。(42歳、不妊治療歴2年)

○小学生からの生殖学習(性教育含む生理年齢等)、男女の性差など勉強の時間を増やし、知識を深めさせる。できるだけ補助(金)。子供が増えないことには、国は成り立っていけないので。老々介護の問題も多々出てくる。(38歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○不妊治療が保険適用になってほしい。国が保険治療の研究に援助をしてほしい。たくさんの方が妊娠・出産できますように。(37歳、不妊治療歴4年)

○最初に通った病院は、産婦人科兼不妊治療を行っている病院でした。通っているうちに知識がなくても医師に疑問を感じる治療をされていました。その後、その医師が不妊治療について知識がないと分かりました。多額な治療費と時間をムダにしたと思います。もっと政府が厳しく決まりをつけてほしい。(32歳、不妊治療歴3ヶ月)

○もっと早い時期からの不妊治療・子作りの認識。(年をとると妊娠が難しくなる)→学校では教えてくれない。基本的な性教育だけで不妊についてはない。婚期が遅くなっている。→妊娠が

難しい。(43歳、不妊治療歴5年)

○可能性のある(高い)治療について認可して欲しい(幹細胞治療など)。(45歳、不妊治療歴3年)

○問 24 の答えに準ずる。国内の医師・病院は、現状で精一杯してくれている。うれしく思う。しかし、治療として認めていても年齢問わず増える不妊に対する政府の意識のなさが悲しい。男女ともに辛い思いの人が多く、高額と無関係な成功率についての研究・関心を示してほしい。(38歳、不妊治療歴1年3ヶ月)

○幸い私のかかっている病院の Dr・看護師の方々・スタッフの方々は、とても患者側の思いに寄り添ってくださるので救われています(精神的に)…。国に対しては、海外での治療をもっと前向きに見ていただき、同等の治療を”国内で”受けられるようにしてほしいです。治療の可能性を広げていただきたいです。苦しんでいる人、悩んでいる人がたくさんいます。それと女性に対して学校でもいいので、妊娠にリミットがあることや受精(着床)しにくくなっていく年齢など、きちんと”公に”教育してほしいです(私は恥ずかしながら知りませんでした)。それを知っていれば、(病気以外で)不妊治療を受けなくてもいいカップルがたくさんいるはずで。女性が仕事と結婚(出産・育児)を若くてもきちんと両立させられるよう、一部の会社だけでなく社会全体で応援してほしいです。家庭と仕事が安心して両立できれば晩婚化にもならないし、住居費なども優遇していただければ、そもそも結婚後、女性は働かず複数人ちゃんと育てられると思います。不妊治療のことを考える前に、まず、治療に通わなくてもよい社会を作ってほしいです。もし授かれたとしても、高年齢で育てる不安は大きすぎます。何とか若い世代に…。不安と少し期待も込めて書かせていただきました。よろしくお願ひいたします。(41歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

【診療日や開院時間の拡大、不妊治療専門病院・医師の増加】

○保険が使えるようになってほしい。治療費を安くしてほしい。補助金の充実化など。男性不妊治療の充実化。病院の設備や技術力の高いスタッフの整った、通いやすい範囲にある年中無休の病院を増やしてほしいです。(39歳、不妊治療歴4年)

○AIDしか今は選択できないので、通院していますが、私が住んでいる近くでは行なっている病院が無いので、毎月(月に3~4回)片道3時間以上かけて新幹線で通院しています。排卵日に合わせることも難しく、宿泊することも度々あります。高度な不妊治療には助成金がありますが、私の場合は受けられません。もっと施設や助成が幅広く備わっていたらと思います。(28歳、不妊治療歴2年2ヶ月)

○不妊治療を行う医師の育成(病院が少ない、診てくれる先生が少ない)。不妊治療を行う人への助成(AIHなども回数が多くなると経済的負担が大きいと思う)。不妊で悩む人はとても多いと思うので、多くの国民に実状をわかってもらえるようにデータや治療に対しての知識を広めてもらえるように働きかけて欲しい。フルタイムで働く人は職場にも気を使い、肩身の狭い思いをしている人も多く、通院時間も限られるため、なかなか治療がうまく進められないと思うので。(30歳、不妊治療歴1年)

○仕事をしながら、不妊治療を行うことはすごく時間的に難しく、診察時間を伸ばしてもらったり、土日休日診療を行なって欲しい。(32歳、不妊治療歴3ヶ月)

○保険適用にして欲しい。通いやすい立地・距離に病院があると良い。説明をして欲しいし、良いかもしれないことを教えて欲しい。予約診療なのに、待ち時間が長い。地方だと扱える病院が限られて、3件しかないので、病院を選べない。もう少し、専門の病院が増えると良い。不妊治療は悪いことのイメージなので、精神的に参ってしまう。自分が悪いから人並みになれないとネガティブになるので、治療は当たり前で考えることができると良いと思う。(41歳、不妊治療歴3年)

○専門病院の充実。保険の適用。(39歳、不妊治療歴12年)

○国へ、早い年齢での妊娠への知識を学ばせる(不妊や高齢出産のリスク等。自分もそうだが気づいたときには遅すぎることはないように)。不妊治療への補助金制度の充実。女性の就労、保育園整備等、産める環境づくり。国と病院へ、産婦人科の数増。不妊治療の病院は365日開院。病院の都合でタイミングを逃す。(40歳、不妊治療歴11ヶ月)

○少子化対策として無償で不妊治療を受けさせて欲しいです。今後ますます高齢出産が増える

と思いますので、帝王切開ができる病院を増やして欲しいです。(40歳、不妊治療歴2ヶ月)

○国内の医師へ 海外で技術研修を受けたりして、もっとグローバルな知識を持って欲しい。病院へ ××レディースクリニックのような充実した設備を積極的に設置すること。政府へ 不妊治療、不育症治療、完全保険適用。(42歳、不妊治療歴3年)

○費用の軽減。診療日、時間を働いている(仕事を持っている)患者に合わせる。(39歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○仕事をしながらでも通院できる時間帯にして欲しい。金銭的に治療が出来ない人がたくさんおられます。診療時間を長くして、日曜・祝日も開院してほしい。(41歳、不妊治療歴10年10ヶ月)

○補助金制度、専門病院の増加、一般者に不妊について情報提供(男性や年配者へ)。(31歳、不妊治療歴3年2ヶ月)

○もっと不妊治療専門の病院を地方にも増やして欲しい。(42歳、不妊治療歴7ヶ月)

○不妊治療が受けられる病院の増設。今は少ないし、でも患者は多いので、待ち時間が長いのが大変。今の私の先生は、とても頑張ってくださいっていると思う。(31歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○もう少し検査料、注射料の補助金を出してもらいたい。待ち時間も長いので、医師を多く配属してもらいたい。検査内容を詳しく書いてある冊子も作って欲しい。(39歳、不妊治療歴2年9ヶ月)

○個人的な意見ですが、AIDを学会の指針で行う病院が増えて欲しいです。現在、2病院しか行っていないそうですが、私にとっては唯一残された治療法です。是非病院の選択肢が増えるよう望みます。また、非配偶者間の体外受精も認めて欲しいです。(38歳、不妊治療歴2年3ヶ月)

○少子高齢化が問題視される現在において、一般家庭の収入が減る一方、子供を産み育てるのが難しいのになかなか授からず治療費がかさむのは負担が大きすぎる。国の将来に関わる事であるので、不妊治療費については国が負担してほしい。また地域によっては治療が受けられる病院が限られているため、医師の数を増やしていただきたい。(31歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○不妊治療よりも今生きている人が優先されるのは当たり前のことですが、まだまだ無駄なこと(ムダづかい)が多すぎる。子宮内膜症が原因で不妊など、病気が原因で不妊という人に対して保険適用されてもいいのではないかな? また、高額な治療費のせいで治療を断念せざるを得ない人もたくさんいるので治療費を低額にしてほしい。本来なら、国内で治療したい人が海外に行ってしまうまで治療をするということは、日本医師の技術不足、治療成績が低いからだと思うので見直すべきだと思う。また、治療する側は一日一日で左右されるので休みが少ない方が望ましい。もっと年中無休体制の病院が増えてほしい。(33歳、不妊治療歴3年1ヶ月)

○夜間診療をしている病院があると仕事をしながらの治療がしやすい。不妊治療に関する医療費が高すぎるので限られた回数以上受けられない。無償もしくは保険がきくようにしてほしいです。(44歳、不妊治療歴6年)

○医療機関を増やし患者や医師の負担を軽減して欲しい。メンタルケア。助成金の条件を緩和し増額または保険治療対象に。(44歳、不妊治療歴5ヶ月)

○病院の診療日・診療時間。働いていると通院するのがなかなか難しい。(39歳、不妊治療歴1ヶ月)

○働きながらの治療は職場にもとても迷惑をかけているので、不妊のための診察がスムーズに進むように医師の人数が増えるような制度を作してほしい。治療の費用がとても高額で負担。夫婦の収入が700万以上になると市でも県でもお金を保障してくれないが、少子高齢化を心配しているのに、産めるためのそして育てていくための保障制度が全く整っていない。産みたければ自分で頑張らないといけない今の制度にとても不満。お金が続かなくて諦めなければいけないことが、本当に情けない現状だと思う。心から制度改革をお願いしたい。(35歳、不妊治療歴3年3ヶ月)

○専門でない医療機関を無くしてほしい。中途半端な知識で時間とお金の無駄になるので…。(40歳、不妊治療歴4ヶ月)

○①費用援助…友人からのできちゃった婚の報告など素直に喜べません。子供を授かるのに何の負担もない人達がいるのに、自分の場合は高額な費用がかかると辛いです。お金をかけたからといって必ず授かるわけでもない。時間もかなりかかり仕事の調整も難しいし、精

精神的にも行き詰るし、肉体的にもかなりきつい。せめて金銭面の不安だけでも減らしたいです。

②対応できる病院を増やしてほしい…待ち時間かなり長いです。注射 1 本のために 2 時間以上かかったり…。また、なかなか成果が出ない時に妊婦さんと一緒に診察待ちするのは嫌になる時があります。(32 歳、不妊治療歴 4 年 2 ヶ月)

○日本は少子化で悩んでいるようなのに、子供が欲しくても授からない人が非常に多くいる。国の政策により、子供をもうけて育てられる人が、治療により子供を望むなら無償化や治療時間の延長などを配慮してほしい。有職者でいい治療を受けるためには、診療時間が限られすぎている。(育てられない環境の人との差別化は難しいが)(39 歳、不妊治療歴 1 年 6 ヶ月)

○病院では忙しそうで相談しにくかったりするが、遠くまで通うことができず近くの病院にかかっている。妊婦と一緒に病院は辛いとしか思えず、不妊専門の病院へ行ったが数が少ない。(35 歳、不妊治療歴 1 年)

○不妊専門医院の増設、すべての治療の保険適用。(36 歳)

○助成金を増額して欲しいです。移植のみの際にも出れば嬉しいです。あと、病院もいつもすごい待ち時間で、医師がもっと増えれば良いと思います。(40 歳、不妊治療歴 4 年)

○医療費を、体外受精・顕微授精等も、保険適用にして欲しいです。不妊治療の病院が少ないので、どこの病院も混み過ぎていて、不妊治療を希望する人の多さに驚いています。政府に、もっと病院に、診療報酬を多くして、病院の件数を増やしていただければと思います。少子化が叫ばれている中、子どもを希望している夫婦に、子どもを産むチャンスをいただきたいです。(44 歳、不妊治療歴 3 年 10 ヶ月)

○治療費が高額。働きながらの治療は時間的に無理。夜間(時間外)の病院があれば…と思う。(45 歳、不妊治療歴 10 ヶ月)

○地域によって差がある(不妊治療のできる病院があること、またはレベル差)ので、遠いから、時間・費用面から子供を諦める人もたくさんいる。もっと不妊治療が当たり前でできる環境が整ってほしい。(42 歳、不妊治療歴 2 年 6 ヶ月)

○少子高齢化がこれだけ問題となっているのだから、助成金の要件を和らげる、専門医療機関を増やすなどしてほしい。(31 歳、不妊治療歴 1 ヶ月)

○そもそも不妊治療を行っているお医者様が少ないのでは…。そして、とても高額な医療費がかかります。どうして保険適用でないのかと思います。不妊も病気が原因ではないのでしょうか？不妊治療は病院に頻繁に通わなくてはならないですが、仕事と時間的に両立させるのが難しいです。かといって、仕事を辞めると高額な医療費を払えません。子供がいる人は、子供がいることを理由に残業しなくても良いし、子ども手当も出るし、ケアをしてもらえるのに、私達は残業はしなくては行けないし、残業すると病院にも行けなくなるし、税金を払いたくなくなります。(37 歳、不妊治療歴 2 年)

○AID をする病院を増やしてほしい。AID は人工授精しかできないが、体外・顕微もできるようにしてほしい。(29 歳、不妊治療歴 6 ヶ月)

○治療費の軽減。不妊治療専門病院を増やしてほしい。(25 歳、不妊治療歴 2 ヶ月)

○体外受精までは保険適用にしてほしいです。もう少し不妊治療病院があつたらいいなと思います(人が多く、待ち時間が長いので)。タイミング～人工授精までは産婦人科で、体外～不妊専門病院とかにすると人も分散していいと思います。(34 歳、不妊治療歴 3 年 7 ヶ月)

○自己負担の軽減。少子化対策で、子ども手当みたいな”子供に対するお金”を出すのでは、子供が欲しくて出来ない人は救われない。病院や担当医が増えて、もっと時間的に余裕を持って治療できるようになれば共働き夫婦は助かります。(29 歳)

○年収に関わらず、もっと積極的に助成金制度を普及していただき、世帯収入に関係なくどの家庭でも公平に治療が受けられるよう、環境整備をしてもらいたい。夜間診療(19:00 以降)を行える施設を増やしていただきたい。(33 歳、不妊治療歴 2 年)

○海外と比べると日本はまだまだ認知度が低い。女性の社会進出が当たりの今、働きながら治療を受けられる病院の増加。(36 歳、不妊治療歴 4 ヶ月)

○政府に対しては、現在子供のいる家庭ばかりに助成を考えるのではなく、不妊治療の助成をもっと増やすことで少子化が減るのではないかということも考えてもらいたい。全国に高度不妊治療を安心して安全に行う病院が増えればと思います。(36 歳、不妊治療歴 3 年)

○まずは、高額な費用について保険が使えるようになること。今、計画的でない妊娠、いわゆるできちゃった婚が増加し、無計画な出産、やっぱり離婚というのが多くある。そのような無計画な人たちは、一人親の補助が税金を使って行われる。それなのに、子供が欲しくても叶わない人たちは高い金額を支払い、病院も度々行かなくてはいけないため、フルタイムで働きながら治療を行うのはとても困難だ。子供は欲しい、働けない、お金はかかるという悪循環を何とか断ち切ってもらいたい。また、注射のためだけに毎日病院に行く必要もあり、病院の数も少ないので提携する病院も増やしてもらいたい。ともかく、少子高齢化の時代に子供を産みたいと思う人に関してのサポート体制は不十分すぎる。(30歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○政府へ…子供が欲しいという希望をかなえられる選択肢を用意してほしい。(卵子提供や養子縁組、里親制度など) 選択肢がないので確率の低い高額な治療を長く続けなければならない。性教育だけでなく不妊症や不育症、加齢による受精率の低下、卵子・卵管采等、妊娠のメカニズムなど教育カリキュラムに入れてほしい。病院へ…仕事と治療が両立できるよう時間を短縮してほしい。(44歳、不妊治療歴4年)

○ある程度は保険診療してほしいです。皮膚科で働いていますが、生保や母子の人が美容でシミの薬などタダでもらっていくのはおかしいと思います。不妊治療専門病院も増やしてほしいです。時間とお金がかかりすぎて大変です。(34歳、不妊治療歴5年)

○健康保険を適用して費用負担軽減をはかり、不妊治療に取り込みやすくする。働く女性でも不妊治療を続けていける環境作り(早朝・夜等、営業時間拡大)。身体へ負担の少ない薬の開発。(40歳、不妊治療歴3年3ヶ月)

○病院→受診のしやすさ、予約のしやすさ 政府→金銭面での助成制度の充実(29歳、不妊治療歴2年)

○保険が効くようにしてほしい。自費だと経済的に苦しく、治療が続けられない場合や再治療もすぐに考えられないため(人口がどんどん減ることも今後わかっているから) もっと不妊治療費を安くするべき。子供を得たい人のことをもっと政府は考えるべき。病院をたくさん日本中に作ってほしい。(33歳、不妊治療歴3年)

○保険診療にしてほしい。少子化対策として。とにかく病院が混んでいるので、医師や病院を増やしてほしい。(37歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○保険の適用、実費が多い。不妊治療専門病院を増やしてほしい。助成金の増額。不妊治療の実態の把握を政府にはしてほしい(患者数、治療歴、治療費など)。(27歳、不妊治療歴1年7ヶ月)

○不妊治療を20年近くやってきて、あまりにも患者数に対して、高度な技術を持った病院の数が少なすぎると感じています。治療費の保険適用を望みます。あまりにも高額なため、子供を諦める人が多くいるのは、日本の発展のためにもとても残念なことです。(49歳、不妊治療歴16年)

○仕事をしながらの通院は大変なので、クリニックを地方にも増やす。クリニックの開業時間の拡大などを望みます。クリニックのスタッフが私たちのために頑張ってくださっているのは、とてもありがたいことです。(37歳、不妊治療歴1年8ヶ月)

○不妊治療に関して、専門的な医療機関をもっと増やしてほしい。費用的な面でも、産める環境・授かれる環境を整えてほしい。(32歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○専門にしているところが少なく待ち時間が長いので、専門病院を増やしてほしいです。医療費の軽減(保険の適用)。(43歳、不妊治療歴3ヶ月)

○もっとたくさんの方が、いろんな治療を受けられるようにしてほしい。(金額、時間)(38歳、不妊治療歴10年)

○自己負担の金額がとても多いことの改善。不妊治療を行っている病院を増やしてほしい。(39歳、不妊治療歴5年)

○優良な病院を増やしてほしい。(36歳、不妊治療歴9年)

○不妊治療は高収入でないと続けられない→政府はもっと補助すべき。政府…子供を増やせるような労働環境の改善、街の整備を積極的に行ってほしい。医師・病院…ステップアップ時間をかけるよりもICSIにダイレクトに進める病院をもっと多くつくるべき(高齢で、この先時間のない人が多いため)。(33歳、不妊治療歴2年)

○全ての治療に対して、保険適用にしてほしい。子供が欲しくても、金銭的理由で諦める場合も多々あると思うので。田舎でも高度な治療を受けられる産婦人科を増やしてほしい。私の住んで

いる町では、産婦人科医が1人もおらず、お産すら町外へ行かなければならない。私は、1日おきに高速を使って片道1時間かけて通院しています(7年間も)。(37歳、不妊治療歴7年5ヶ月)

○もっと助成してほしい。私の場合、不育症なので、そちらにも助成やもっと詳しく調べてもらえる、しっかりとした施設をもっと増やしてほしいです。(42歳)

○体外受精ができる病院数が増えたらよいと思います。(31歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○産婦人科の医師が減少している中で、不妊治療の専門病院を増やすことは難しいと思うが、住んでいる地域によって十分な治療が受けられないことがないようにしてほしい。(田舎に住んでいるので通院にも時間がかかり、病院の選択肢が都市に比べれば少なすぎる。)(40歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○健康保険が使えるようにしてほしい。治療できる病院を増やしてほしい。(37歳)

○保険適用にしてほしい。病院処方(保険適用)の漢方の種類増加(薬局自費払いは15日5000円と高価なため)。ヨガ、鍼、お灸等、不妊専門の施設の増加、また保険適用等。不妊夫婦の養子縁組等手続きの簡素化。(36歳、不妊治療歴5年)

○少子化を防ぐと言っている、実際の治療費は高額です。1回治療してお子さんができる方は少なく、何年もかかり治療のためにも定職につけず、夫の収入だけでは十分な治療も受けられない。もっと治療費を下げ、治療できる病院も増加してほしいです。(45歳)

○私自身、現在満足のできる治療を受けていますが、できることなら不妊治療において、もっと専門の医師が増えていただけてほしいと思います。そして、何より政府に保険適用とはいかなくても、せめてもう少し多く助成をしてほしく思います。治療は精神的に辛いこともあり、さらに経済的な不安が加わると将来的に大変心配になります。夫婦で乗り越えるべきかもしれませんが、不妊に悩む人が増えている現状では、個人の問題では済まなくなっていると考えています。(32歳、不妊治療歴1年3ヶ月)

○不妊治療費助成額の拡大。クリニックはいつも患者さんでいっぱいなので、もっと医師が余裕を持って診療できるよう専門医や産婦人科医が増えると良いのに…と思います。(32歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○不妊治療専門の病院で治療したいです。もう少し増やしてください(地方に)。(33歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○不妊治療を受けている患者・家族への負担(経済・心身・時間・仕事等)を知っていただき(本人の身になり)、もっと安心して治療を受けられるようにしていただきたい。十分な治療を受けられる病院がまだまだ不足しています。(34歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○保険診療にしてほしい。働いている女性にも通院しやすい時間で開業してほしい。(例 夜10時まで診療とか)(41歳、不妊治療歴6年)

○通院回数が少しでも減るように、排卵のチェック(注射等も)がもっと自宅で正確にわかる技術を開発してほしい(正社員には頻繁な通院は難しい)。全ての検査や治療を保険適用にほしい。少子化で不景気だからこそ、もっと子供を若い世代が産みやすい環境を作ってほしい。お産に休みがないように、不妊治療病院にも時間短縮や交代制でもいいから年中無休にしてほしい。そもそも「不妊」というネーミングを変えてほしい。それだけで重い気持ちが少し楽になる。例えば「未妊」など…。(35歳、不妊治療歴2ヶ月)

○今通っている病院は人気があるので、連日、大変混雑しています。こんなに不妊で悩んでいる人がたくさんいるのだと痛感させられます。もっと不妊専門のクリニックが増えることと、少子化対策で生まれてきた子たちの制度を整えるのも大事ですが、不妊治療に対する国の手当がもっと手厚くても良いのではないかと思います。(37歳、不妊治療歴4年)

○助成金制度の改善。通算5年は短すぎる。不妊治療ができる医師・医療施設を増やしてほしい。(34歳、不妊治療歴6年)

○金銭的なことは、治療をして初めて知りました。やはり負担を軽くしてほしいです。TESE-ICSIでこんなにもかかるんですね(私達の場合、約100万円)。仕事をしているので、病院が20時くらいまで開いていたらいいなと思いました。早く終わらせて行かなければという気持ちでいると結構疲れます(注射のみでも)。(34歳、不妊治療歴1年)

○体外受精など費用がかかりすぎる。安くしすぎると生命に対する重みが薄くなるのも困るので、今より負担を少なくしてほしい。女医さんが増えてほしいです。相談しづらいこともありま

す。(31歳、不妊治療歴5ヶ月)

【高齢者の診療拒否をしないでほしい】

- 治療費に保険が効くようにしてほしい。治療に年齢制限を設けないで欲しい。(某大学病院は40歳以上は受け付けない)(43歳、不妊治療歴4年)
- ある年齢に達してからの診療拒否をする病院がよくみられる。高齢だと妊娠が難しいのは本人が一番わかっている上の受診希望なので、どの病院も普通に受け入れて欲しい。治療費の補助(県や市)をもう少し増やして欲しい。(44歳、不妊治療歴2年8ヶ月)
- 誰もが悩むことですが金銭面。ステップアップできない人がたくさんいます。助成をお願いします。医師には、高齢者にも同じように対応してほしいです。今の病院の先生は優しいですが、医師によっては他の人と全く違う対応をされひどく傷付いたことがあります。差別があっているのでしょうか。(41歳、不妊治療歴6ヶ月)
- 費用を安くして欲しい。できれば保険適用部分を多くして欲しい。年齢で差別しないで欲しい。どうしても授からなかったら(見込みがなかったら)、「もう治療はやめましょう」と言って欲しい。(40歳、不妊治療歴6年)
- 問24と同じ。ネットで読んだが、クリニック・病院によっては、年齢が上の(女性)患者は断るそうです。サービスの回転を上げ、成功率を高めるためでしょうか?そのようなことがないようにしてほしいです。医療機関も積極的に数字と現実を政府に提示してほしい。これが現状に合った制度や決まりを作るのに役立ち、国内でさえ十分高価な治療への補助につながればよい。さらに大事な点は、この治療を受ける患者で労働者に雇用者から休暇が認められる法を作してほしい。(43歳、不妊治療歴4ヶ月)
- 健康保険で全てができるようになり、治療が続けられるようにすること。患者が自己責任で行うのであれば、超高齢の人でも門前払いしないでほしい。また、受け入れてはくれても体外はやらないと拒否せず、チャレンジぐらいはさせてほしい。(47歳、不妊治療歴9年)

【男性不妊治療の充実】

- 体外受精などの特定不妊治療に対する費用面はまだ高額であり、保険適用にならないか。また、女性側因子における技術は進歩しているが、無精子症に対する治療・技術は進んでいない。AIDの妊娠率も低いのが現状なので、不妊治療に対する政府の協力・治療の進歩に期待します。(27歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 男性不妊について、女性不妊と同じくらい情報が欲しい。そして、原因や治療についてももっと進化させてほしいです。(37歳、不妊治療歴8ヶ月)
- どの地域の人でも、地元で水準の高い治療が受けられると良いと思います。不妊というと、女性側の問題と捉えられがちですが、男性因子もあるということをさらに発信して欲しいです。また、男性因子の場合、同じ病医院で夫も治療を受けられる、または泌尿器科等への橋渡しをしていただけるとありがたいです。(夫も自分のこととして積極的になってほしいと思います…) (35歳、不妊治療歴9ヶ月)

【病院の治療成績を公開してほしい】

- 治療データの公表(情報提供)。安全性のガイドラインの構築。(43歳、不妊治療歴2年2ヶ月)
- 専門病院に至るまで私は2回転院しました。1つ目は普通の街にある産婦人科。治療が可能とのことで人工授精もしましたが、設備も不十分だし、何よりも医師の知識が低かったように思います。本格的なデータや知識のない病院は治療可能だと言わないで欲しいです。余計なお金と時間を使ってしまったようで悔しいです。2つ目は規模は小さいけれど体外受精までやっている病院でしたが、結局いい結果が出ず、現在の××クリニックにしました。もっと早くこの病院を選んでいれば、無駄なお金と心配をしなくてよかったのかもしれませんが。現在もお金の工面をしながらの治療で、そのことがストレスにもなってしまいます。もう少し助成金の年間回数を増やして欲しいです。(34歳、不妊治療歴3年2ヶ月)
- 不妊治療仲間の間で、医師が治療することばかりに目が行っていて、個人個人の排卵周期や、治療の回数等、把握しないままに治療を進めていることに不満を感じている(クロミッドは半年

間の使用なのに、こちらから言わないと気づかない)。治療成績を公表して欲しい。病院間での治療成績の差を少なくして欲しい。治療方針に一定の基準が欲しい(使用している薬が病院によって違うことが不安)。(35歳、不妊治療歴2年10ヶ月)

○まずは保険適用を望みます。××クリニックでは、作業のみお願いする傾向になってしまうので、妊娠に成功した方の話ですとか、実践されたこと、効果が上がったことなどを教えていただきたいかったです。(43歳、不妊治療歴1年)

○保険適用にしてほしい。実践を公開してほしい。専門でもないのに診療項目に不妊治療も診れると掲げないでほしい(時間とお金のロス)。仕事をしているので体外受精を受けるためには休みを取る必要があるが、病欠扱いにならないので休みを取りにくい。(28歳、不妊治療歴3年)

○保険適用にして欲しい。治療成績を統一規格で開示して欲しい。(39歳、不妊治療歴2年)

○国内の中でも病院や医師によって、技術格差が大きいと思う。もっと体外受精や受精卵の培養技術などの格差をなくしてほしい。データなどの情報公開も義務付けてほしい。政府に対しては、助成金の収入制限をなくしてほしい。生まれた子供への子ども手当と同じぐらい、'産みたい親'への金銭的フォローが大事だと思う。(41歳、不妊治療歴4年)

○病院によって受精卵が成功することが違うということを聞いたので、どの病院も同じにしてほしい。お金が保険の効くようにしてほしい。(44歳、不妊治療歴1年)

○情報の公開。例えば、この病院は年に何回体外受精したか、などの成績。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)

【治療内容の説明、リスクや薬に関する情報を伝えてほしい】

○今、自分の体がどういう状況で妊娠できないのかをはっきりと言ってもらいたい。そしてそれに対して、どんな治療法があるのか、またプラス面、マイナス面も含めて教えてほしい。(40歳、不妊治療歴1年8ヶ月)

○Drへ 患者が多くて大変だと思うが、必要な情報はしっかり教えて欲しい。政府へ 高齢者の健康保険の援助は大切だとは思いますが、次世代を担う若い人たち(生産適応年齢やその子)のためにも、不妊治療費を保険適用にするか、不妊治療の助成費の上限を無くして欲しい。(33歳、不妊治療歴8ヶ月)

○不妊治療は長期化すればするほど治療も高度になり、経済的負担が大きくなります。もちろん、肉体的にも精神的にも。もっと保険が効くようになってほしいです。あと医師にはもっと説明を詳しく分かりやすくしていただきたいです。(40歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○情報がたくさん欲しい。(39歳、不妊治療歴2年)

○医師へ ネットなどで情報もたくさんあるけど、先生からもっと詳しく聞きたい。お忙しいのはよくわかるけど、ゆっくり聞ける空気でもなく、空気で質問を拒否されている気がして聞けない。政府へ 金銭的なことです。人工授精・体外受精など、失敗しても大金を払うのは失敗した時ダブルのショック。ギャンブルにお金を使っているようなもの。授かりものとはいえ、精神的にかなりくるので、カウンセリングまでお金が回らない。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)

○治療費が高く、経済的に負担を感じています。自費による部分が多いので3割負担の保険が使えるようにして欲しいです。また、専門医が少なく、病院が選べないため、今受けている治療が良いのかどうか分かり難い。治療について(海外も含め)情報を入手しやすくして欲しいです。(36歳、不妊治療歴1年8ヶ月)

○不妊治療に関しての"リスク"の詳しい説明を書面で知りたいです。不妊治療の薬での体重増加やむくみを感じています。また、生まれた子どもの障害。詳しくまとめた(できれば確率でパーセンテージが解かるもの)を書面で知りたいです。体外受精からの不妊治療に関しては、政府からの補助金がほしいと思います。(40歳、不妊治療歴6ヶ月)

○医師・病院にはより詳しい説明と、政府には金銭的な面の援助。(38歳、不妊治療歴2年1ヶ月)

○医者はもっともっと患者の気持ちを理解して説明してほしい。政府は少子化と騒ぐなら助成金を上げるか保険適用にしろ。(38歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○詳しい説明(治療に関して)。助成制度の充実。(29歳、不妊治療歴1年)

○分かりやすい説明(Drへ)と情報提供。助成金の金額をあげてほしい。(37歳、不妊治療歴2年)

6ヶ月)

○治療に関しては、医師からはもっと説明と情報がほしいです。政府には金銭的な支援がほしいです。(46歳、不妊治療歴4年)

○選択肢のメリット・デメリットや法的な観点から許容される治療の範囲などを一覧表にしていただけると分かりやすいと思います。(39歳)

○自分の治療に関して、医師に言われるがままの状況。説明が不足しているように感じます。また、不妊治療のスケジュールは働きながらはとてもストレス。でも、働かないと治療費が払えないという葛藤があります。子ども手当もいいですが、子供を授かることを望む夫婦への手当をより厚くしていただきたいです。(31歳、不妊治療歴1年8ヶ月)

○大きな病院だと治療がどうしても「流れ作業的」になるので、パーソナルな質問などを医師にぶつけづらい。治療に関する質問をいつでも受け付けてくれるようなホットライン、またはカウンセリングルームのようなものをできたら設置してほしい。(46歳、不妊治療歴6ヶ月)

○ステップアップの際、経過途中でも先生方の方から私たちが疑問・不安に思うであろうことを推測し、アドバイスをしてほしい。今、通院しているクリニックは、自分が質問しない限り、流れ作業のように治療が経過します。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)

○不妊治療の説明をもっと詳しくしてほしい。メンタル面のケアもしてほしいです。晩婚化が進んでいますが、学生時代の性教育の時に加齢とともに妊娠しづらくなるリスクを十分に説明するよう働きかけをしてほしいです。子供は欲しいときにいつでもできるという認識があるので、妊娠率についても詳しく教育してほしいと思います。(41歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○費用の抑制と治療についての詳しい説明、あるいはインターネットでの問診や説明開示。(43歳、不妊治療歴7ヶ月)

○何度も体外受精を行い、数回妊娠しましたが出産には至っていません。加齢もあると思いますが、もう少し確率の上がる別の方法も提案してほしいです。海外の情報もしてもらいたい。海外の治療によっての出産も実子としてほしい。(44歳、不妊治療歴4年)

○忙しいのはわかるが可能性を提案。金が安くなること。もし、ならないなら助成金を増やしてほしい。(27歳、不妊治療歴5ヶ月)

○不妊治療は時間もお金も精神的にも大変です。医師には、患者は頼るしかないので患者の気持ちをよく聞いてあげてほしいです。あと、わかりやすく説明もして患者自身が納得する治療が受けられるようにしてほしいです。政府には、不妊治療に対する金銭的援助を増やしてほしいです。(36歳、不妊治療歴2年)

○保険適用をある程度まではしてほしい。もう少し詳しく説明していただきたいです。流れ作業的で長時間待って3分程度で診察が終わるので聞きづらいです。(45歳、不妊治療歴7年11ヶ月)

○適切な情報提供とサポート。(39歳、不妊治療歴6ヶ月)

○もっと詳しく説明してほしい。「若いからまだ可能性がある。」みたいに軽くみないでほしい。(28歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○多くの患者さんを抱え大変忙しいかとは思いますが、もう少し説明していただきたいからです(現在の状態や今後の展望など)。(33歳、不妊治療歴3ヶ月)

○分かりやすい説明。保険適用範囲の拡大。(36歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○情報提供をもっとしてほしい。(44歳、不妊治療歴5年)

○子供が欲しいというのに費用面で諦めなくてはいけない現実があります。もう少し政府からの援助等があれば救われる人も多いと思います。あと、先生方は、もう少しわかりやすく一人一人に説明等をしてほしいと思います。(39歳、不妊治療歴2年1ヶ月)

○詳しい説明。体外受精をもっと安く受けれるようにする。(38歳、不妊治療歴1年)

○保険内が無理なら、助成金を増やしてほしい。一人一人に合ったアドバイスを。(様々な症例も教えてほしい)(32歳、不妊治療歴5ヶ月)

○政府には、あまり望んでいないというか期待してない。医師・病院に対しては、より良い方法・経費を詳しく教えてほしい。今は言われるがままに治療を受けているが、どうしたい、どうしたらいいか、何かしたら確率が上がるとかアドバイスがほしい。(35歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○患者のことを考えて、前向きなアドバイスがほしい。政府に対して、補助金の充実性。(44歳、

不妊治療歴1ヶ月)

○不妊治療の方法のわかりやすい説明を継続して行ってほしい。相談窓口がもっと身近だとよい。生まれてくる子供の人権を考えた不妊治療の範囲を、政府として、広く意見を集めて決めて行ってほしい。(35歳、不妊治療歴5ヶ月)

○金銭面。治療しやすい環境。話をじっくり聞いてくれて説明してくださること。外来は子供連れ禁止にしてほしいです。気持ちが落ち込んでいるときはとくに…。(30歳、不妊治療歴6年)

○現在の状況を詳しく、その都度、説明をいただきたい。治療費の補助があるだけでも助かりますが、もっと国が応援してくれる体制をとってもらいたい。(36歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○医師…待ち時間の緩和、一人一人丁寧に話を聞く。政府…治療費の保険適用。治療に伴う労働条件の対策。治療している人にとって、子ども手当は何の意味もなかった。子供のいる人、いない人、共に優しい社会にしてほしいです。(34歳、不妊治療歴4年1ヶ月)

○保険が適用されてほしい。大きな病院だから仕方ないのかもしれませんが、1人の担当医にずっと診てもらいたい。書面ではなく、いろいろ説明してもらいたい。(41歳、不妊治療歴3年11ヶ月)

○もう少し情報があれば良いと思う。治療に関しては、いろいろと試して可能性のあるように検査・投薬してほしい。自分で情報を集めなければいけないので、もう少し一般的なこととして、不妊治療を統一してほしい。(34歳、不妊治療歴6ヶ月)

○政府は、不妊治療への助成金をもっと増やしてほしい。医師・病院は、もっと説明を丁寧にしてほしい。(39歳、不妊治療歴2年4ヶ月)

○詳しい(分かりやすい)治療法が知りたい。確実に妊娠できるような治療になることを望んでいます。金額も安くなるとうれしいです。年に2回の助成金だけだと、毎回チャレンジしたくてもできません。女性は、歳もあるので考えてほしいです。(35歳、不妊治療歴2年)

○医師・病院に対して…正確な情報の提供。患者の要望に沿った治療をすること。医師・看護師が患者ときちんとコミュニケーションをとること。一人一人の患者に対して、その人に合った治療方針を考えること。政府に対して…不妊治療に対しての公的助成金を増やすこと。治療や各病院の正しい情報が多くの人に行きわたるように努めること。不妊治療中の女性の休職や有休などの法整備。(35歳、不妊治療歴2年)

○田舎に住んでいるせいかもしれないが、“不妊治療”という女性の方に何らかの欠陥があるのでは…と見られる風土を感じます。そんな中で産婦人科へ通う、不妊治療を始める、ゴールの見えない治療を続けるということは勇気のいることで、つつい先延ばしにしたり、何が正しいのかわからず一人悩んだりしてしまう。早い(若い)段階でも気後れすることなく相談できるような、産婦人科にかかる前のステージを充実させてほしい(治療の途中でも利用できると助かる)。例えば、地方においてもプライバシーに十分配慮された、時間的にも利用しやすいカウンセリングが受けられる場所の確保。段階をおった治療方法や専門用語の説明をしてもらえる(不妊治療の今がわかる)。正しい情報を発信してくれる機関の情報が知りたい。新しい薬や治療方法、検討がなされている事案、倫理観なども。第三者の関わる治療について議論する際には、いわゆる赤ちゃんポストや里子とか養子の制度とも併せて議論されることも必要だと思います。生まれてくる赤ちゃんが両親はもちろん、社会の宝、国の宝と感じる温かい日本でありますように(制度も温かくありますように)。(41歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○不妊治療はお金がかかります。しかし、仕事をしながら通院するのは決して簡単ではありません。「不妊治療です」と言葉にして休むをもらう。相手の目を見ると、「またか…」とか「かわいそうに…」みたいな目です。しかし、生理や排卵に合わせると、前もって休みを取るのとは不可能です。労働基準 etc…少し考えてほしい。子供を産んだ人や家庭には給付金が出るのに、子供が欲しくて高い医療費を払い通院する人間に、政府いや国は救いの手を差し出してくれません。なのに少子化と…。病院や医師も毎日のことだし専門だから仕方ないのかもしれないが、専門用語で説明する医師が多すぎて、理解できずに治療…の繰り返し。分かるように話してほしいです。

(31歳、不妊治療歴1年)

○自由診療でなく保険の対象にしてほしい。投薬、服用薬の説明をしてほしい。結果的に体の機能を低下するような投薬はしないでほしい。(41歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○安全や説明をきちんとしたうえで、窓口を広げてほしい。本当に望む人が安心して前に進める

ようにしてほしい。(37歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○体外受精をしてうまくいかなかった場合、説明をしてもらいたい。今後の治療をどうしたらよいか教えてほしい。私一人では治療費の支払いはとても大変なので、助けてもらえる制度があると良いです。(41歳、不妊治療歴1年)

【医療技術の向上】

○治療費の国の補助。患者に応じた的確な治療と培養の技術。(44歳、不妊治療歴7ヶ月)

○妊娠率の向上。(41歳、不妊治療歴2年)

○先が見えない治療なので、早くももっともっと不妊にならない体づくり、もしくは時間のかからない治療を望みます。(44歳、不妊治療歴8年)

○卵子の若返りできる技術があるといいですね。若い時に卵子の凍結が可能だと良いと思います。助成金という素晴らしい制度があるにもかかわらず年収制限のため使用できないのはおかしい。治療するにはお金に余裕のある人しかできないのが現状です。保険適用になってほしいです。時間が無いので早く改革をしてほしいです。(45歳、不妊治療歴5年10ヶ月)

○私の治療はICSIなので、先生と言うより胚培養士さんの技術の向上？や、先生とは別で、治療の相談に乗ってくれる人材がいればと思います。(39歳、不妊治療歴1年10ヶ月)

○技術の向上。費用負担の軽減。補助金や保険適用など。情報の開示。(40歳、不妊治療歴4年)

○私は、原因が分からず、可能性を信じてタイミング法を続けてくださいという治療を一年以上受けて不信に思い、他の病院で精密検査後、体外受精という方法しかないという結論に達しました。医師のレベルに差があるようなので、全体のレベルアップを望みます。(42歳、不妊治療歴3年)

○今、少子化とよく聞きますが、欲しくてもできない人というのが増えていると思います。もう少し不妊治療に対しての補助や医療負担を考えて欲しいです。精神的にも病んでしまうことの多い中、金銭面でもまた負担に思うことが減ればと思います。ホルモンサポートといって注射を打ちに行きますが、病院はいつもよく混んでいるし、遠方から行くのはかなり負担なので、注射ではなく、薬や腕に貼るシールのものが出来れば嬉しいなと思います。不妊専門の病院が少ないのか、不妊治療を受ける人が多いのか分かりませんが、日本ももっともっと充実した治療が受けられるようにして欲しいです。(35歳、不妊治療歴7ヶ月)

○不妊治療中は職場に迷惑をかけることも多く仕事がかたくなるので、金銭面の補助をもう少し充実させてほしい。妊娠→無事に産出とつながる技術・研究がもっと早く進めば良いと思う。(30歳、不妊治療歴4年)

○治療費の軽減。低収入で病院に通えず子供をあきらめている人を何組も見ます。もう少し考えてみてほしい。加齢(卵子、卵巣因子)に対する研究をもっと進めてほしい。体外受精を繰り返して子宮に戻して、あとは自然まかせは精神的に相当辛い。(43歳、不妊治療歴7年)

○AIDは中止せず、これからも実施してほしい。もっと妊娠率を上げるように頑張してほしい。(36歳、不妊治療歴2年)

○今すぐには無理でしょうが、人気の病院の待ち時間はすごいです。高い技術(培養含む)の病院が多くなり、費用も軽くなることを望みます。不妊治療の未来が明るくなるよう、よろしく願い致します。(44歳、不妊治療歴3年10ヶ月)

○着床前診断をできるようにしてほしい。不妊治療費の助成を充実させてほしい。(44歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

○不妊治療をもっと安くしてほしい。独身の女性が将来のために卵子を保存できる技術があればいいなと思う(年齢がいったって、彼氏がいない友達のために)。助成金が出る回数や金額をもっと増やしてほしい。低金利の不妊治療用ローンがあってもいいと思う。(35歳、不妊治療歴2年)

○2ヶ所の病院へ行ったが、内容(血液検査でのホルモンチェックもせず、卵の大きさ、排卵した・しないでETしたり)に差がある。レベルアップしてほしいし、治療費をもっと安くしてほしい。(41歳、不妊治療歴3年)

○不妊治療を受ける中で、成功率が上がるような技術、医療体制を望みます。採卵は治療代も高く、年に何回も費用面でできないので、治療代を安くしてほしい。(35歳、不妊治療歴1年)

- 不妊に悩む夫婦は増えているので、金銭的援助または企業に対して治療のために休むことや遅刻することへの理解を深めるよう進言してほしい。医師に対しては、体外受精をしている人はある意味人生をかけているところもあるので、誠実に確実な治療・手術をしていただきたい。(44歳、不妊治療歴1年3ヶ月)
- 健康保険の適用、助成金限度額の up、不妊治療医の育成と施設の増加、不妊治療そのものの奨励、治療レベルの国内での均一化や全ての医療機関での情報交換。研究技術(先端医療)の推進。不妊治療についてもっと社会的にPRしてほしい。(46歳、不妊治療歴2年5ヶ月)
- 不妊治療だけに当てはまることではありませんが、居住地域によって受けられる治療のレベルが違おうと思います。不妊に悩む人々が地域差なく、一定水準以上の治療が受けられるようになればよいと思います。(42歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 医師・病院には、常に最新の知見を持って治療にあたってほしい。新しい技術があれば、どんどん患者に提案してほしい。政府には、子ども手当にまわす金の一部でも不妊治療補助に充てるようにしてほしい。(不妊治療の補助を手厚くしてほしい)(47歳、不妊治療歴3年2ヶ月)
- 女性の社会での活躍が増えつつ、少子化が問題視されているが、実際の治療費は職の有無にかかわらず負担が大きい。より、子供のいる世帯への援助も必要だが、子作りしようとする世帯へのバックアップももう少し手厚くしてほしい。あと、病院による治療費の格差が大きい。良い治療を大学・総合病院等と同じ水準で受けれるとうれしい。(34歳、不妊治療歴11ヶ月)
- 日本は少子化が進んでいて、このままでは国の存亡が危機となる。国内での技術革新を進めてほしいし、そのために政府は支援すべき。女性が妊娠・出産しやすい制度・環境を整えてほしい。不妊治療や出産も保険(国民健康保険等)でカバーしてほしい。(41歳、不妊治療歴4年)
- 最新技術で卵子の若返りができるようにしてほしい。金銭バックアップ。(45歳、不妊治療歴1年)
- 医療技術の進歩→妊娠率の向上。医療費の補助。(40歳、不妊治療歴13年)
- まずは、自己負担から保険適用を認めてほしい。負担が大きすぎる。精神的負担が大きいので、治療に関しての痛みなどの負担を最小限に。確実な技術、卵子の改善への取り組みなど…。(40歳、不妊治療歴2年)
- 診察の待ち時間が長く、近くに良い病院がないと遠距離の通院になるので大変。待ち時間の短縮、各病院での技術力をレベルアップしてほしい。経済的負担が大きく苦しいので、保険適用などもっと安くしてほしい。出産費用・検診費用なども安くしてほしい。(45歳、不妊治療歴3年)
- 高度な技術力と知識を持っていること。患者を(精神的に)傷つけるような言動をしないこと。政府は、現場の声をたくさん聞いて、肌で感じて、それから対策を考えてほしい。アンケートや論文だけで考えてほしくない。(33歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 不妊治療費の保険適用化。不妊治療に関する法整備。社会的認知度の向上(働きながら治療するのが厳しいので、社内環境改善されるのが望ましい)。不妊治療の技術向上。(43歳、不妊治療歴3年6ヶ月)
- 政府には、金銭的援助を望む(保険など)。医師・病医院には、不妊治療の技術を高めてほしい。(47歳、不妊治療歴12年)
- 政府には、不妊治療の助成制度の確立、保険の適用を強く望みます。それだけ高額なのです。医療機関や医師には、優しさや真摯な態度、希望を求めていく患者に対してのきちんとした対応、さらなる技術向上を願います。(43歳、不妊治療歴5年)
- 更なる高度な医療の発展を望みます。(国内)(40歳、不妊治療歴2年6ヶ月)
- 治療を始めて、お医者様に言われて初めて「卵子は老化してゆく」ものだと知りました。もっと早く私ができることに気付いていたら、といつも思います。小学生のとき初潮についての授業がありましたが、その時にでも一言その事実について教えてもらえたら、大人になっても覚えていることができる人も多いと思うので、もっと啓蒙していただきたいです。医師・病院・政府にも。病医院には、より一層の技術の向上、政府には、保険適用の審議を望みます。(40歳、不妊治療歴10ヶ月)
- 国内で高い技術の医療が受けられ、一人でも多く妊娠を望む夫婦の希望となってほしい。(32歳、不妊治療歴2年2ヶ月)
- 治療費の値下げ。保険適用の検討。治療の進歩・研究。(34歳、不妊治療歴4年)

○病院間のレベルの統一。(41歳、不妊治療歴1年)

○技術の進歩。時間、お金、心身の負担をかけて挑むのだから、着床・妊娠率が上がるよう100%は無理にしても確実に妊娠する医療技術を研究して欲しい。保険適用や補助制度の充実。(39歳、不妊治療歴8年1ヶ月)

【メンタルケアの充実】

○とにかく、助成金をもっと出して欲しい。お金さえあれば授かれるまで何回でも体外受精を受けたいが、現実は無理です。子どもを諦めざるを得ないです。本当に本当に本当に子どもが欲しいです。でも金銭的に難しく、いつかは諦めないといけない日がくるかもしれない。助けて欲しいです。あと、医師に望むことは、もっと心のケアもして欲しい。事務的で冷たい人もいます。とにかくお金の援助が必要です！(38歳、不妊治療歴2年)

○政府には、1. 医療費3割負担の適用、2. 多数回、体外受精を繰り返している人に対する助成金制度、を望みます。病院・医師には、長期間、治療を続ける人に対する心のケアを充実させて欲しい。(41歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○高度治療にも保険を適用して欲しい。所得に関係なく不妊治療の補助をしてもらいたい。患者が多いのはわかるが、もっと十分な説明を受けたい。精神的なケアを受ける機関をもっと身近に作って欲しい。(35歳、不妊治療歴2年)

○金銭的補助、通院時間の短縮(仕事との両立は無理)、精神的フォローの存在をおいてほしい。(30歳、不妊治療歴3年4ヶ月)

○すべての治療代、自費が多いし高い(経済的に断念する人も多い)。少子化というなら補助すべき。精神的に辛いのでカウンセラーなどに話を聞いてほしい。(35歳、不妊治療歴3年)

○保険適用外は有り得ない。精神面を気遣ってくれる病院があればとても嬉しい。やはり聞きたいことが聞けなかったりするの…。外でもそんなに話せないし、先生しか頼れなかったりするのが現状。(28歳、不妊治療歴6ヶ月)

○より良いカウンセリング。政府には子育ての様々な援助もだが、不妊への助成ももっと多くしてほしい。(37歳、不妊治療歴8ヶ月)

○不妊治療は先が見えない不安があります。ただ治療するのではなく、心のケアも一緒に行うべきだと思います。不妊治療は高度の医療になると治療費が高くなります。国で援助していただけるか、保険が使えるなど金銭的な面で政府に考えていただきたいです。不妊治療をもっと男女問わず、国民全員に知ってもらいたいです。(31歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○忙しいとは思いますが、話をじっくり聞いてもらえればなと思うことがあります。(29歳、不妊治療歴4年)

○いつまで続くかわからない治療に、精神的にも、費用的にも負担が大きくなってきます。医師・病医院には、メンタルケアの充実を、政府には、保険適用など費用の補助を望みます。(38歳、不妊治療歴4ヶ月)

○もっと治療費の援助額を上げて欲しい。メンタル面でのサポートを充実させてほしい。(38歳、不妊治療歴2年)

○1人目を妊娠する際も薬を服用する不妊治療をしていました。1人目は障害を持って生まれてきました。強く自身を責め苦しんだ時期もあり、2人目も踏み切れずにいました。やはり、不妊治療ではリスクを伴うと思っています。その点には目をそらしているような…良いところだけ情報が表になっているような…。高齢出産が増えてきている今、生まれてくるすべての子供たちが同じ1人の人として生活ができる、生きていける社会であってほしいと思います。また妊娠中、障害の有無もだいぶわかってきている今、母体のケア・精神面のケアも必要だと思います。1人でも多くの子供の命を守るために…。(話がそれってしまったかもしれませんがすみません)(35歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○精神的に辛くなることが多いので、そのケア体制の充実。不妊外来病院に子供を連れてこなくて済むように、併設する預ける場所の提供。(32歳、不妊治療歴3年)

○356日対応してくださり感謝しています。まだ妊娠ができず不安ばかりなので、精神的ケアもしていただけるとありがたいです。(37歳、不妊治療歴1年2ヶ月)

○今、私の周りでも不妊に悩んでいる方が本当にたくさんいます。しかし、高度治療は仕事をし

ていると時間の自由が利かず、仕事を辞めると高額な治療費を払えなくなるという現実があります。政府には、完全に保険適用ではなくても良いので、せめて今の半分位の金額で治療できるように保険診療の範囲を広げていただきたいです。医師に関しては、本当に不妊患者を妊娠させてあげたいと思っているのか、よくわからない医師が多いように思います。技術はもちろんですが、精神的に苦しい思いをしている不妊患者が、私は妊娠できるという気持ちになれるように心のケアにも気を遣ってほしいと思います。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○精神的にフォローしてほしい。(37歳、不妊治療歴2年)

○補助金など不妊治療にあたたかい支援を期待します。子ども手当や妊婦健診など子供がいる方にはやさしいですが、不妊治療者にもよろしく願います。また医師の方へは、声かけや会話の中でのメンタルケアも希望します。先生方の一言ですごく救われます。(38歳、不妊治療歴3年)

○40代での治療は卵巣のレベルにもよるが、毎月自然排卵するケースも考えられ連続で卵子を採れる可能性も秘めている。だから、所得だけで補助していただけるお金を決めないでほしいと思います。精神的なものは40代では、治療を終える時期、次のステップに進むのか、スピードに決断を迫られるので、スムーズに心のケアや相談窓口も増やしてほしいです。そして、限界と感じた時の気持ちを徐々に冷ましたり違う角度から見られるように、もっとそういう場やプログラムを普及させてほしいと思います。よろしく願います。(41歳、不妊治療歴2年5ヶ月)

○今、とても親切に対応してくださっていて気持ちがとても楽になります。一度病院を変えました。他の患者さんとの話声が丸聞こえで苦痛でした。技術の進歩も大切ですが、ソフト面に十分配慮してもらえるとうれしい。(37歳、不妊治療歴4年)

○金銭的に苦しい。メンタル面。もっと不妊専門医(病院)を増やしてほしい。(35歳、不妊治療歴6年)

○技術だけでなく、精神的なフォローもしていただけると助かります。(35歳、不妊治療歴4年)

○金銭面、精神面。(35歳、不妊治療歴1年)

○不安な気持ちをたくさん抱えているので、丁寧にお話を聞いてくださるとうれしいです。(33歳)

○健康保険の適用か、助成金の適用範囲の拡充(所得額要件の撤廃)。医師・病院に対して、メンタルケアを治療の一環として行っていただきたい。(45歳、不妊治療歴1年)

○政府に対して→どうしても費用が多いため、助成金制度の充実を求めてもらいたい。(年に2回では少ないと思う：東京都) 病院に対して→メンタル的なケア。精神的に辛くなることも多いので、カウンセリング施設なども併設されていると良い。(39歳、不妊治療歴4年)

○医師には、メンタルな部分もサポートしてもらいたいです。政府には、いろいろな高額の治療に対してサポートしてもらいたいです(もう少し安くなるように)。(33歳、不妊治療歴2年)

○ストレスの多い今の世の中、昔よりは暮らしにくくなっています。とてもデリケートな問題です。心のケアなども取り入れていただけたらと思います。今後の発展を期待しています。(39歳、不妊治療歴6ヶ月)

○お医者さんについては、もう少し精神面のフォローがあると治療も辛くないのかな、と思います。政府に対しては、治療がせめて保険の効くものになってくれれば、と思います。(40歳、不妊治療歴9年6ヶ月)

○夫婦間の治療に関して、もっと治療費の援助を望みます。そして、心のケアや相談が受けやすい環境作りが改善されたいです。(41歳、不妊治療歴6年)

○治療成績を重視して病院を選んだが、やはり思うような結果が出ないときに不妊治療を理解してくれるカウンセラーと話ができれば、少しはやり場のない辛さを和らげることができるのと思う。川崎市の健康セミナー「不妊を生きる」に出席予定だが、このような不妊治療に悩む人への心のサポートとなるような会を自治体だけでなく、国も推進してほしい。40歳以下など年齢制限を付けてもいいので、不妊治療費をわずかでも保険で負担してもらえればと思う。(37歳、不妊治療歴7ヶ月)

○精神的な面でのフォローがない(あるいは、医師により個人差が激しい)。加齢により不妊が増加することがあまりにも知られていない。自分も含め、ほとんどの友人が40半ばでも妊娠可能

と想っていた。もっと医師会も今以上に熱心に広報活動を行ってください。(45歳、不妊治療歴1年4ヶ月)

○保険診療を認めてほしい。心理的サポートの充実も今後必要性が高くなると思います。(43歳、不妊治療歴3年)

○政府には、助成金の援助を15万円ではなく、もっと多くしていただきたいです。保険の適用も義務化すべきです。少子化問題を考えるなら、不妊治療を誰でも受けられる体制にしてほしいです。病院には、医師の笑顔と患者への励ましを期待したいです。メンタルな部分が重要になってくると思います。(37歳、不妊治療歴9ヶ月)

○不妊治療に対する全ての医療行為に対して保険が適用される法整備。心のケア。患者とのコミュニケーション。(40歳、不妊治療歴5ヶ月)

○体外受精も保険が使えるようにしてほしい。1回30万～、年収が高くない人は何回もできない。お金がないで、妊娠出産ができるできないの差は悲しい。年金問題・少子化・日本の発達等、大きく連動しているはず。子供が欲しいと願う人達にもっと医療を身近に感じさせてほしい。医師のメンタルケアをはじめ、セミナーや医師同士の交流会を増やしてほしい。→不妊治療専門の医師とは思えない言動に腹立たしい時がある。この意識調査の結果とても楽しみにしています。頑張ってください。不妊治療に対しての大きな一歩だと思います。(28歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○自分の子供を持つことは、誰もが望むことだと思います(望まない方もいらっしゃるかもしれませんが)。現に私も不妊治療に足を踏み入れました。今後のメンタル面・経済面がやはり不安です。もしかしたら子供を持つことができるかもしれないし、諦めないといけないう時期も来るかもしれません。今できる治療、そして可能性を最大限引き出せるようサポートしていただきたいです。(30歳、不妊治療歴4ヶ月)

○助成金とメンタルサポートの充実。(32歳、不妊治療歴4年6ヶ月)

【病院に対しその他】

○治療費の負担を、収入に関係なく適用して欲しい。不妊に関しての関心が少なく、もっと早い段階で気づいていればと思ったので、早めの指導が必要と思う。病院側は大変な混雑で、時には4時間～5時間かかる。仕事との両立は難しい。医師との面談は3秒で終わる。虚しさを感じます。(47歳、不妊治療歴4年3ヶ月)

○将来、子どもを持つ可能性のある若い世代へ、不妊治療に関する教育をすべき。年をとると産めないというぼんやりしたことではなく、高い治療費にもっと援助すべき。各病院のレベルや対応のバラツキをなくす。(41歳、不妊治療歴3年)

○正しい情報・知識の提供。教育の必要性あり。加齢による不妊リスクを正確に捉えていない人が多すぎる。私自身も親世代から教えられたこともなかった。不妊治療を行う病院間の技術・情報の格差解消。漢方など民間療法に頼る病院も多い。養子縁組に対する偏見をなくしていく教育。(26歳、不妊治療歴2年)

○先生方には、技術的なことはもちろんですが、誠実さを大事に患者と向き合ってもらいたいです。事務的に終わらせないで欲しいです。不妊治療に関するすべての治療に保険を適用して欲しいです。(30歳、不妊治療歴2年6ヶ月)

○金銭面、体力面、精神面とさまざま抱えている中、治療をしているので、病院に行ったとき、ほっとできるような笑顔で迎えてもらいたい。大きい病院はカーテンひとつの仕切りで、待合室にいる人にも全て聞こえてしまい本当に心苦しい治療でした。”チーム医療”とうたっているところほど、どのDrもカルテを見るだけで内診せずに注射して卵巣がばんばんに嘖れてしまったことがありました。(42歳、不妊治療歴18年)

○不妊治療を医療費控除対象としてほしい。病院に子供を連れてきてほしくない。一人目不妊と二人目不妊を分けてほしい。また、少子化対策担当大臣は不妊経験者を望む。苦勞なく子供を授かった人からは子供を持つてからの政策しかでてこないため。(37歳、不妊治療歴4年)

○慎重な対応を望みます。(39歳、不妊治療歴3年6ヶ月)

○保険が適用されると大変助かります。毎月、結構お金がかかりますし、精神的にも肉体的にも負担を感じます。保険が適用されれば、もっとたくさんの子供を欲しいと願っている女性がチ

チャレンジする機会が増えるのではないかと思います。あとは、私は二人目が欲しくて治療していますが、一人目がいて病院に通うことの大変さがあります。そういうことに対して病院の方で理解を示して欲しいです。(33歳、不妊治療歴2年)

○現状で満足です。(31歳、不妊治療歴1年)

○金銭面で、援助が進んできてはいるが、現実にはまだまだ厳しいのが現状。子供が欲しい方でも、そこでの諦めもあるのではないかと思います。支援が欲しいです。医師、病医院には、ソフト面、ハード面共に、良い最適な環境づくりをしてほしい。情報提供を求めます。(38歳、不妊治療歴2年9ヶ月)

○患者のことを考えた治療をして欲しいです。私は途中で転院して良い病院に変わって妊娠できたし、できなかったとしても後悔しない治療・説明をしていただきましたが、単純な同じ事を何回も何回も…ただ「ダメでした。次またしましょう。」という繰り返しの医師を最初は信じていましたが、転院して初めて、前の病院の誠意のなさ、治療の雑さに気づきました。その間のお金と時間を返して欲しい。もちろん良い先生、誠意ある先生、病院がほとんどなのでしょうが…自分の所で無理でもっと高度な治療が他で出来るんだったら転院をすすめるとか。低度な治療を何年も何年も続けられている人もいますので、お金儲けだけに思えました。あきらめることを(理由も説明して)話して下さることも誠意の一つかと。(42歳、不妊治療歴4年)

○もっと患者の立場になって考えてくれる病院、政府だったら患者の心や家計等にかかる苦しさが少ないだろうと思う。(44歳、不妊治療歴10年)

○現在は特にありません。(29歳、不妊治療歴1年1ヶ月)

○今のところ満足しています。(34歳)

○情報流出しなよう、セキュリティに力を注いでもらいたい。(39歳)

○私が通っている病院では、毎日毎日100人を超える患者さんがいらっしやり、国内に何人の不妊治療を行っている方がいるのでしょうか。ものすごい人数なのに、なぜ不妊治療は保険が効かず助成金に上限があり、回数もあり…結婚して治療に通い貯金も無くなり仕事もできず、このような方がたくさんいる中で国に求めるのはお金です。医師に求めるのは、機械的にこなすはやめていただきたい。子供を授かるのに必死なんだ。政府、議員を減らして治療費にまわしてほしい。このようなアンケートを受けるのは初めてです。日本のため、不妊治療に渡航治療、良い方向に進むといいですね。××様、××様、××様、××様、これからも頑張ってください。そして、ありがとうございます。(38歳、不妊治療歴2年10ヶ月)

○望む人のうち1人でも多くが子供を授かるように、いろいろな選択をできるように(国内で)してほしいです。(40歳、不妊治療歴3年)

○夫婦2人で協力して何とかして子供を授かりたいという気持ちを考えると、国内でできるだけのことをしてほしいと思う。海外まではとても難しく感じ、遠い存在である。(35歳、不妊治療歴1年9ヶ月)

○体外・顕微授精は費用がかかるので、助成金を充実させてもらいたい(現在の国の助成金では回数が制限される)。通院が必要な注射などを(薬を指定したうえで)家の近くの医院でできると良いと思う。(39歳、不妊治療歴4年)

○信頼できる不妊治療に関してのみ、保険適用すべき。自由診療と保険部分をいい加減に組み合わせている悪質な病院(特に開業医)が多すぎる。(33歳、不妊治療歴6ヶ月)

○不妊治療にかかる費用のうち、自己負担分を保険でカバーできるようにしてほしい。排卵日検査薬を第2類から元に戻してほしい。対面カルテを作られる(薬局によっては)住所・名前を記入しなければいけない、インターネットで買えないなど不便なので、不妊治療をしている女性の気持ちをくみ取ってほしい。加えて、排卵日・妊娠検査薬が高い(海外製はもっと安い、検査薬の原価はもっと安いはず)。厚生労働省は少子化問題の一つとして、不妊治療をしている(これからしようと考えている)女性が、金銭的に負担が少なくなるようにもっと力を入れてほしい。(34歳、不妊治療歴2ヶ月)

○助成金を増やしてほしい。病院内の託児所をつけてほしい。(29歳、不妊治療歴1年)

○①情報の開示(卵子提供 etc)、その施設との提携 ②経済的援助(現状よりもより良い改善を望む)(37歳、不妊治療歴1年5ヶ月)

○不妊の原因を突き止めてほしいです。(35歳、不妊治療歴8ヶ月)

- 国に対しては不妊治療費は全て負担してほしい。保険でまかなえるようにしてほしい。正社員をしながら不妊治療するには、高齢になるほど責任などがあり難しく会社を辞めなくてはならなくなり、アルバイトでは費用が高すぎて短期間で結果が出ないと家計がマイナスになるばかりで治療は大変です。お金の面だけでも負担を軽くしてほしい。医師に対しては、短期間で効果的な治療をわかりやすく早く行ってほしい。時間がかかりすぎるわりに、説明が少なく高額である。(39歳、不妊治療歴13年)
- 不妊治療のクリニックの医師・スタッフは、本当に悪条件下でよくやっておられると思います。助成金を出す(クリニックに対しても)や保険適用の治療にするなど考えていただきたいです。(34歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 卵子の核移植の実用化。(50歳、不妊治療歴3年)
- 不妊原因の特定は難しいと言われるが、ある程度タイミング・人工で成功しない場合は、卵管因子に目を向け体外に進ませてほしい。体外受精は少子化対策の一環として、もっと支援(経済的)がほしい。(32歳、不妊治療歴5年)
- その人に必要な治療ができれば良いと思います。(38歳、不妊治療歴5年)
- 自分が病院に通い始めて思ったのだが、体外受精はとにかく全面保険適用にすべき。少子化と言われても、治療費にためらっている夫婦は多く、一歩前に踏み出すことができない。医師に関しては、担当制(基本)が患者の不安感を少しでも拭うことにつながるような気がしている。(36歳、不妊治療歴1年)
- 保険治療。やさしさ、思いやり。(36歳、不妊治療歴7年)
- 医師…患者個人のことを親身になって、「とりあえずやってみよう」というのではなく、エビデンスに基づいた治療をするべき。他人事と思わないでほしい。政府…金銭面での助成をもっとしてほしい。(34歳、不妊治療歴2年4ヶ月)
- 助成金は大変ありがたいと思います。年に2回の助成金ですが、4回くらい申請できたら、低所得世帯はもっと助かると思います。体外受精専門医院は、妊娠させようという気持ちが診察で伝わってきます。タイミングや人工授精の医院は、熱意が薄いように思います。病院の受付の方の対応は最も重要だと思います。感じ悪いと病院全体が悪く見えます。(37歳、不妊治療歴3年3ヶ月)
- 今の病院の対応に満足していますが、患者数が多いので、体外受精の回数が少ないことがとても残念です。政府には保険適用範囲を拡充してほしいです。今の助成金では経済的に苦しいです。(34歳、不妊治療歴3年)
- 治療費があまりにも高額で、続けていくのが難しい。政府に対しては、子ども手当や高校無償化など不平等なことをせず、国民みんなが、特に子供ができないとわかっている人に税金を使ってほしい。あと、不妊の体ではないのに、手取り早くと考えて治療する人をなくしてほしい。(48歳、不妊治療歴2年3ヶ月)
- 保険適用にしてほしい。(排卵誘発の注射など痛みを軽減して)ストレスのない治療をしてほしい。(39歳、不妊治療歴3年)
- 様々な治療法があり、治療の仕方も統一してほしいです。また、国の補助は、もう少し援助してくれても良いと思います。とても金額が負担です。(40歳、不妊治療歴1年2ヶ月)
- 医師へ…技術・機械・病院数において地域格差がないこと。一人の医師が、一日に百数十人を診ているクリニックに(神奈川県)通っていたことがある。流れ作業のような診療で、ルーティーンの内診と注射と投薬、私は自力で生理が来ないようになってしまった。一人一人の体の状態をきちんと把握し、それに見合った診療が施されるとは到底思えない患者数を受け入れていた。一人一人は切実この上ない。一人一人にきちんとした診療をしてもらいたい。政府へ…労働者(主に夫・父親)をあまりに長時間働かせない(サービス残業などもっと真剣に取り締まる)。→不妊、少子化、子供の健全な成長の阻害(健全な家庭の激減)全ての原因。(44歳、不妊治療歴6年)
- 医師・病院…たくさんの患者を抱えていることはわかるが、流れ作業的ではない温かみのある対応。政府…補助(金銭面)(34歳、不妊治療歴2年)
- 現在治療しているクリニックは専門医院なので、通いやすく満足しています。スタッフの対応ひとつでストレスを感じるので、産科と一緒だとそれなりの配慮がほしいです。高度治療は、自己負担なのでお金がかかり、フルタイムの仕事をしながらではムリでした。出産・育児後も同じ

ですが、仕事を辞めても再就職しやすい社会であってほしいです。(40歳、不妊治療歴2年10ヶ月)

○良くしていただいています。私が内診している間、子供(6才)の相手をして下さる方(看護師さん?)もいて助かります。不妊治療して言うことではないですが、子供がいなくても、一人だけでも幸せな家族が築ける世の中であってほしいです。子供が一人いても「次は?」「なんで一人だけ?」と何気ない言葉がプレッシャーで、皆が子供がいないとダメな夫婦、一人だけでもダメだと思わないようになればいいのと思います。もちろん家族が多い、兄弟が多いのは良いことなのですが。(36歳、不妊治療歴2年)

○今周期の治療をスタートするときに診察して下さった先生は、たまたま御身内の方が私の住んでいる町の近隣で、その地域の不妊治療の実態もご自分で調べられていて、とても驚きました。また、友人が妊娠して…という話をすると「あなたもあやからないと」と力強く、優しく励ましてくださいました。どれだけ私の力になったでしょう。また、妊娠をサポートして下さった先生の優しくも自信を持った言葉。私が質問すると「うん、うん」と言いながら、私の目を見て聞いてくださり、はっきりとした言葉で答えてくださる。”忙しい”を態度に出さず、私が納得できるように話してくださる、そんな姿に勇気ももらいました。私は、そのクリニックを信じてことができました。そしてもうひとつ、信じなければならないもの…それは自分自身。今回そのことを実感いたしました。その病院(クリニック)が高度医療を提供できるという前提でのお話になると思いますが(中には雑誌などで有名だが、お粗末なところもあります)、不妊治療に必要なものは、医師の”情熱”だと思うのです。精神論を出すと思われそうですが、一人一人の患者は背負っているものや立場が違います。知識も考えも違います。例えば、「不妊治療を受ける患者なら、こんなこと知っていて当たり前だろう…」という前提で話が進むと、質問するタイミングも自信も失います。例えば、遠方より飛行機で通う患者に対しても、そのことに何も触れない…、自分のことちゃんと見てくれているのかな…、不安になります。一人一人の違いをちゃんと見てほしいのです。前回口にした不安について、「大丈夫でしたか」と声を掛けてくれる、「遠方から大変でしたね…」、「何かわからないことはないですか」、そんな一言に私たちはどれだけ救われるでしょう。きっと先生方の想像以上なのです。(37歳、不妊治療歴3年3ヶ月)

○もっと協力的になってほしい。(不妊治療歴10年)

○高齢の夫婦だから諦めるべきだとは思わないでほしい。不妊症で苦労したことのない方にはわからないと思うので、運よく当事者にならなかった方は、子、孫のケースで考えてほしい。若いころから子供を持つことを希望していても、運悪く結婚できなかった(病気、環境、タイミング…)場合もあれば、配偶者が不妊症だったケースもある。本人が不妊症でもなりたくてなったわけではなく(病気と同じ)、まじめに働きすぎただけかもしれない。他の医療と同じく、心身ともに健康で最低限普通の家庭を持つために、生殖医療を発達させてほしい。経済的にも必要な人には受けられる医療にしてほしい。不妊治療は女性の体に負担がかかります(手術の危険、薬によるガンの可能性、メンタル面)。男性不妊に付き合っているうちに老化した女性もいます。男女平等公平に対応してほしい(離婚を増やさないためにも)。また、一般になぜか不妊治療は患者の立場が弱く、病院によっては医者側の恣意に従う風潮さえあります。他の医療同様、もう少し開かれた自由なものになるといいです。ダウン症の着床前診断禁止の規制については、必要なら見直した方がいいと思う。医療は進歩しているのだから、「現在のダウン症児がかわいそうだからやらない」は、理由にならないと感じる。現在の方を保護し、将来は増やさないようにする方が健全かと思う。

○否定的な意見をいろいろ言われ、辛い思いをしています。特に望んでいることはありません。(45歳、不妊治療歴2年)

○子ども手当のような子供のいる世帯のことばかりではなく、それ以前の不妊治療を多くの人に知ってもらいたいので、それに対し助成金を出してほしい。世帯収入などの制限をやめてほしい。医師に望むことは個人に合った治療をしてほしい。(42歳、不妊治療歴4年5ヶ月)

○不妊治療は金銭的なものが大きいと思います。収入によって子供を諦めることはしたくないので、もう少し少ない金額になってくれると良いと思います(補助も含めて)。また、不妊治療をしている方は大なり小なり問題を抱えていることが多いのですが、不妊治療を大々的に診療内容にしている病院の先生の「心無い言葉」が多く聞こえた(言われた)ので、そういう先生には診

察内容に不妊治療と書かないでほしいです。(37歳、不妊治療歴7年)

○高度治療は費用が高額。助成金を増やしてほしい。保険適用にしてほしい。早期治療を望むが、金銭面がついていかない。お金を貯めるため、治療を待っている現状。病院が遠方のため注射や処方のみの際は、近くの病院でも大丈夫なように紹介してもらえたら嬉しい。(32歳、不妊治療歴6年)

○少子化少子化と言ったりするなら、治療する人間を大事にし保険適用にすべき。欲しくても金銭面で諦める方もいるはず。デリケートな治療なので、もう少しやさしくしてほしい。(35歳、不妊治療歴5年)

○医師…親身になって話を聞いてほしい。政府…助成金の充実、保険適用の範囲を広げてほしい。(31歳、不妊治療歴1年6ヶ月)

○政府には、もう少し保険適用の範囲を広げてほしいと思っています。医師・病院には、とにかく説明をきっちりということです。本人たちが考え、判断できるように。(35歳、不妊治療歴6年)

○ゆっくり話を聞いてくれる環境の整備を求めます。(忙しそうで疑問点を納得できるまで聞きづらいので…) (37歳、不妊治療歴5年)

○医師：知識と技術の高いことはもちろんですが、患者への説明や対応が良いことを望みます。病院：不妊治療専門病院は、子連れの患者となるべく会わないですむ工夫がされることを望みます。また、心理的にも良い状態ではない患者が多いと思うので、スタッフの対応が良いことも望みます。政府：不妊治療は高額で金銭的に継続が難しいと思うので、少子化対策としても保険適用にしてもらいたいです。(38歳、不妊治療歴6年)

○独身のうちに良い卵子を保存して、やがて結婚した時、法律上夫妻になった時に凍結していた卵子に受精できるよう願いたい。結婚は個人の考えで晩婚の方もいるので、卵子があれば安心するのですが。(48歳、不妊治療歴6ヶ月)

○治療費の軽減。病院によっての治療の仕方・考え方の大きな違い。産婦人科の不妊治療に為しての知識の少なさ・浅さなど。(34歳、不妊治療歴1年)

○今、初めての体外受精で運良くも妊娠できたので満足しています。(34歳、不妊治療歴2ヶ月)

○××クリニックで治療しています。素晴らしい技術とシステムで安心しておまかせしています。自分の目で見ながら、採卵・移植出来ることがとてもいいです。(39歳、不妊治療歴1年)

おわりに

本報告書では、(1)「海外渡航治療と第三者が関わる生殖技術に対する不妊当事者の意識と実態」(調査実施責任者 白井千晶)、(2)「海外渡航治療と第三者が関わる生殖技術に対する不妊治療患者の調査と実態」(調査実施者 日比野由利・島菌洋介・白井千晶)の結果を報告した。

(1)については、より詳しい分析を行った論文が公にされている。(2)の結果についても、今後、さらなるデータの分析を進め、その結果を学会発表や論文で報告していく予定である。

日本人の不妊当事者による渡航不妊治療の実態については未だ不明な点も多い。タイやインドで現在実施中の調査を継続することによって行うことによって、渡航不妊治療の実態の解明を進め、生殖ツーリズムにまつわる法的・倫理的・社会的問題に関する検討をすすめていきたい。また、上記の二つの調査の結果から、生殖医療の「出口」としての養子縁組や里親制度の位置づけなどに関する新たな研究課題も浮かび上がってきた。これらの点について、さらなるインタビュー調査やアンケート調査を行っていく予定である。

最後にアンケート票作成、データ入力、報告書作成にあたってご協力いただいた田形亜希(金沢大学研究補助)、本麻紀(金沢大学技術補佐員)、牧由佳(金沢大学研究員)、今井竜也(金沢大学客員研究員)らの諸氏に深くお礼を申し上げたい。

2012年6月30日

島菌洋介